

年度	2025
講義名称	キャリア形成[総キ]
講義開講時期	春学期第1Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71211
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋原 智恵	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	生き方・働き方が多様な現代社会において、急速に変化する生活環境やビジネス社会を理解し生きていくために、これからの学生生活をどのように過ごすことが大切かを考え、その学修計画を立てることが目的です。また自己理解を深め、多くの人・コトに興味・関心を持つことの必要性を理解することを目指します。
到達目標	①自己の能力課題を把握し、改善のための計画を立てて実行できる ②自分自身の職業観を理解し、長期的な視点で前向きなキャリアを描くことができる ③現代の働く環境を理解する
授業の進め方	この授業では、グループワーク、プレゼンテーション、実践的な課題を中心に、社会人に必要なスキル習得と就職活動に向けた準備を目指せるよう勧めていきます。 グループワークでは、チームでの課題解決能力や協調性を養い、プレゼンテーションでは、自分の考えをまとめ言語化する力を養います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート返却時およびメール
----------------------------	---------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション（講義内容、評価方法の説明、働くとは？） ②学生生活とキャリア（時間とお金、学生生活の満足度とキャリア意識）	対面
第2回	ソーシャルスキル（円滑なコミュニケーションをとるための対人対応力）	対面
第3回	クリティカルシンキング1（課題発見、意見か事実か） クリティカルシンキング2（根拠の必要性）	対面
第4回	クリエイティブシンキング（企業のコンセプトワーク）	対面
第5回	ロジカルシンキング（課題解決ワーク）	対面
第6回	①「はたらく」を考える1（ワークルール） ②「はたらく」を考える2（コンプライアンス・ハラスメント）	対面
第7回	「はたらく」を考える3（正社員と非正規社員、総合職と一般職、転職・再就職）	対面
第8回	「はたらく」を考える4（職種、多様な働き方→通勤・在宅・起業・副業）	対面
第9回	「はたらく」を考える5（清田区役所訪問）	対面
第10回	清田区役所訪問の学び報告会	対面
第11回	「はたらく」を考える6（福利厚生、少子高齢化の課題→育休・産休制度）	対面
第12回	キャリアデザインとは？ 自己分析とキャリアプランニング 多様な働き方とキャリアパス	対面

第13回	<p>まとめ</p> <p>「はたらく」を再定義する：未来社会とキャリアの展望</p> <p>①AI技術の発展、グローバル化、働き方改革など、社会の変化を踏まえ、「はたらく」の未来像を議論する。</p> <p>②自身のキャリア観を再考し、変化に対応できる柔軟な思考力を養う。</p> <p>③多様な働き方事例を共有し、新たなキャリアの可能性を探る。</p>	対面
------	--	----

事前・事後学修	<p>新聞やニュースは、政治、経済、社会、文化など、多岐にわたる分野の最新情報を伝えます。これらに触れることで、社会の動向や課題を把握し、広い視野を持つことができます。</p> <p>社会で起こっている出来事を知ることは、社会とのつながりを意識することにつながります。これにより、社会の一員としての自覚や責任感を養うことができます。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>毎時の小レポート（60%）：各授業回において、社会で求められるスキルに関する理解度を小レポートとして提出していただきます。これにより、授業内容の定着度を評価します。</p> <p>プレゼンテーション（20%）：授業内で行うプレゼンテーションの内容、構成、発表態度などを評価します。これにより、情報伝達能力やプレゼンテーションスキルを評価します。</p> <p>最終レポート（20%）：授業で説明した内容を基に、自身の学びを文章化した最終レポートを提出していただきます。これにより、授業全体の理解度と考察力を評価します。</p>
-----------	--

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>担当教員は、新規学卒者への就職支援や転職者向け支援に長年携わり、個別の相談対応からキャリアプランの提案まで、多岐にわたる実務経験を有しています。これらの経験を基に、キャリア形成の実践的な知識とスキルを学べる講義を展開します。</p>
備考	<p>授業の進捗状況により、各回の内容を適宜調整する場合があります。</p>

年度	2025
講義名称	キャリア基礎演習[総キ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71212
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋原 智恵	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「働く」ことについて、個人の視点と企業や社会の視点の双方から理解し、キャリアプランを設計します。そのため、社会の動向と産業・職業・労働について幅広く理解し、働く意義を踏まえながら就活への準備を整えます。
到達目標	①社会の出来事に潜む問題点を見つけることができる。 ②他者の考えを受け入れ、自分の考えを伝えることができる。 ③社会に出る準備課題をこなすことができる。
授業の進め方	本授業は、講義・演習・実践的なワークを組み合わせ、学生が主体的にキャリア形成について学び、実践できるように進めます。特に、応募書類の作成および面接対策に重点を置き、理論と実践の両面から学修を深めていきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート返却時およびメール
----------------------------	---------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション（講義内容、評価方法の説明、働くとは？） ②自己理解1：自分の強みを考える	対面
第2回	自己理解2：客観分析による自分の強みを知る	対面
第3回	自己理解3：価値観棚卸し&職業選択の方法 働く人インタビュー（職業観を理解する）	対面
第4回	キャリアトーク：OGから学ぶ社会で求められること OGによるパネルディスカッション	対面
第5回	自己理解4：他己分析 働く人インタビュー発表	対面
第6回	自己理解5：「自己PR」&「学生時代に力を入れたこと」400字作成に向けた準備	対面
第7回	就職活動の現状を理解する 求人票の見方	対面
第8回	スーツの着こなしと身だしなみ	対面
第9回	グループディスカッションとは&実践	対面
第10回	履歴書の書き方&作成	対面
第11回	面接の基本&実践	対面
第12回	「自己PR」&「学生時代に力を入れたこと」400字の再校正	対面

第13回	<p>授業のまとめとして、社会問題発見ワークショップを実施。</p> <p>最近のニュース記事や社会現象を題材に、グループで問題点を抽出し、解決策を検討・発表します。</p> <p>ディスカッションで抽出されたテーマについて、建設的な議論を行います。</p> <p>キャリアデザイン発表会</p> <p>講義全体を通して学んだ自己理解、社会理解を統合し、これからのキャリアプランを発表します。</p>	対面
------	--	----

事前・事後学修	<p>新聞やニュースは、政治、経済、社会、文化など、多岐にわたる分野の最新情報を伝えます。これらに触れることで、社会の動向や課題を把握し、広い視野を持つことができます。</p> <p>社会で起こっている出来事を知ることは、社会とのつながりを意識することにつながります。これにより、社会の一員としての自覚や責任感を養うことができます。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>毎時の小レポート（60%）：各授業回において、社会で求められるスキルに関する理解度を小レポートとして提出していただきます。これにより、授業内容の定着度を評価します。</p> <p>プレゼンテーション（20%）：授業内で行うプレゼンテーションの内容、構成、発表態度などを評価します。これにより、情報伝達能力やプレゼンテーションスキルを評価します。</p> <p>最終プレゼン（20%）：授業で説明した内容を基に、自身の学びを発表していただきます。これにより、授業全体の理解度と考察力を評価します。</p>
テキスト	キャリアハンドブック

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>担当教員は、新規卒者への就職支援や転職者向け支援に長年携わり、個別の相談対応からキャリアプランの提案まで、多岐にわたる実務経験を有しています。これらの経験を基に、キャリア形成の実践的な知識とスキルを学べる講義を展開します。</p>
-------------------	--

年度	2025
講義名称	インターンシップⅠ[短大]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71311

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	インターンシップ4類型で言うところの、タイプ2キャリア教育型インターンシップとなる授業です。自らの職業観や就業観を深めることを目的として参加します。大学が独自に準備する派遣先や、企業がCSRとして実施しているプログラムを利用します。派遣前に事前指導、5日以上就業体験を終えたあとに振り返りと事後指導を通じて、イメージではなく実際の現場を見たとうえで、自信の持つきや特性を再認識し、就職するまでに身に着けるべき知識、伸ばすべきスキルを確認することが目的となります。
到達目標	① 社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。 ④ 仕事の場で社会人に必要とされるビジネスマナーや振る舞い、言葉遣いが実際に通用するか確認する。
授業の進め方	「事前指導」では講義を受け、ディスカッションなどを通じて理解を深め、ワークシートへの記入をもって理解度を表現します。 「派遣」に際し、ハウレンソウを大切に、必要書類を適切に準備し、日々の状況を日誌に記録しながら、現場で社員の一人として5日以上勤務します。 「事後研修」では、振り返りを行い、自己理解をさらに深め、次のステップに向け具体的な目標を見つけます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートはすべてコメントをつけて返却されます。提出物は授業時または授業後、適宜添削指導を行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	4/14 ガイダンス ・インターンシップ授業の意味・心構え ・前年度派遣学生の振り返りの共有 ・情報収集とアポのとり方について ・担当教員の紹介と派遣企業実績一覧に関する概略説明を聞き、自身の希望するインターンシップの在り方についてレポート提出 (11日収録分を視聴させ実施)
第2回	5/19 エントリーに向けて ・企業研究 ・企業研究シート書き方説明、記入 ・エントリーformsの入力方法詳細説明 ・教員と相談しながらエントリーform完成、派遣希望エントリー提出
第3回	5/30 派遣先選考、面接 ※派遣企業実績一覧掲載企業希望学生は必ず参加して面接を受ける ※第1希望にもれた学生は第2希望の面接を受けるか受講見送りを考える ※自己開拓の学生は学科教員と面接。

第4回	6/16 エントリーシートの作成 ・エントリーシートの記入方法について講義 ・授業中に記入 ・キャリア支援センターへ提出→添削→担当教員へデータ提出、センターに本体提出
第5回	7/14 派遣前指導 ・社会人基礎力、コンプライアンス⇒日誌事前記入欄の記入 ・職場に合わせた服装、持ち物に関する確認 ・日誌、誓約書、承諾書の書き方と提出方法 ・お礼メールの書き方、もしもの時のお詫びの方法について
第6回	直前個別事前指導 派遣担当と連絡を取り、日程の確認や派遣に関する準備を行う
第7回	派遣先で実習
第8回	派遣先で実習
第9回	派遣先で実習
第10回	派遣先で実習
第11回	派遣先で実習
第12回	事後指導 日誌、報告書、お礼状、事後指導用資料の完成
第13回	事後報告・情報共有 異なる派遣先で実習した者同士で情報交換を行い、比較やディスカッションを通して、知識を広げ、社会人として必要な知識、スキル、姿勢とは何かについて理解を深める。

事前・事後 学修	ビジネス実務、キャリア形成、キャリア基礎演習、言葉の力基礎・応用、業界知識などで扱う内容で、インターンシップ授業・研修で役立つ内容が多くあるでしょう。各授業を常に復習しておきましょう。また、日常の中でも、社会人としての基本的マナー守り、言葉遣いになれる努力をしましょう。派遣直前には予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。
-------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	すべての事前提出物、授業への参加、5日以上の実習、事後提出物、報告指導の参加、企業からの評価表を総合的に評価し、単位を認定します。研修継続に不都合が生じた場合や、本人都合による、派遣先日程決定後の途中離脱は「不可」となります。
テキスト	資料は授業中に適宜配布。ファイルなどを準備し、保管したり、データを整理して保存して置けるようにしましょう
参考文献	キャリア、ビジネス系科目のテキストなどが参考になります。その他、新聞やニュースなども利用できると思います

備考	交通費・食事等は原則自己負担となります。（支給がある職場もあります）実習費が必要な先もあります。履修しようと考えている学生はインターンシップ初回を必ず受講してください。
----	--

年度	2025
講義名称	インターンシップⅠ[短大]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71311

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	インターンシップ4類型で言うところの、タイプ2キャリア教育型インターンシップとなる授業です。自らの職業観や就業観を深めることを目的として参加します。大学が独自に準備する派遣先や、企業がCSRとして実施しているプログラムを利用します。派遣前に事前指導、5日以上就業体験を終えたあとに振り返りと事後指導を通じて、イメージではなく実際の現場を見たとうえで、自信の持つきや特性を再認識し、就職するまでに身に着けるべき知識、伸ばすべきスキルを確認することが目的となります。
到達目標	① 社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。 ④ 仕事の場で社会人に必要とされるビジネスマナーや振る舞い、言葉遣いが実際に通用するか確認する。
授業の進め方	「事前指導」では講義を受け、ディスカッションなどを通じて理解を深め、ワークシートへの記入をもって理解度を表現します。 「派遣」に際し、ハウレンソウを大切に、必要書類を適切に準備し、日々の状況を日誌に記録しながら、現場で社員の一人として5日以上勤務します。 「事後研修」では、振り返りを行い、自己理解をさらに深め、次のステップに向け具体的な目標を見つけます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートはすべてコメントをつけて返却されます。提出物は授業時または授業後、適宜添削指導を行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス ・インターンシップ授業の意味・心構え ・前年度派遣学生の振り返りの共有 ・情報収集とアポのとり方について ・担当教員の紹介と派遣企業実績一覧に関する概略説明を聞き、自身の希望するインターンシップの在り方についてレポート提出 (11日収録分を視聴させ実施)
第2回	エントリーに向けて ・企業研究 ・企業研究シート書き方説明、記入 ・エントリーformsの入力方法詳細説明 ・教員と相談しながらエントリーform完成、派遣希望エントリー提出
第3回	派遣先選考、面接 ※派遣企業実績一覧掲載企業希望学生は必ず参加して面接を受ける ※第1希望にもれた学生は第2希望の面接を受けるか受講見送りを考える ※自己開拓の学生は学科教員と面接。

第4回	<p>エントリーシートの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントリーシートの記入方法について講義 ・授業中に記入 ・キャリア支援センターへ提出→添削→担当教員へデータ提出、センターに本体提出
第5回	<p>派遣前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力、コンプライアンス⇒日誌事前記入欄の記入 ・職場に合わせた服装、持ち物に関する確認 ・日誌、誓約書、承諾書の書き方と提出方法 ・お礼メールの書き方、もしもの時のお詫びの方法について
第6回	<p>直前個別事前指導</p> <p>派遣担当と連絡を取り、日程の確認や派遣に関する準備を行う</p>
第7回	派遣先で実習
第8回	派遣先で実習
第9回	派遣先で実習
第10回	派遣先で実習
第11回	派遣先で実習
第12回	<p>事後指導</p> <p>日誌、報告書、お礼状、事後指導用資料の完成</p>
第13回	<p>事後報告・情報共有</p> <p>異なる派遣先で実習した者同士で情報交換を行い、比較やディスカッションを通して、知識を広げ、社会人として必要な知識、スキル、姿勢とは何かについて理解を深める。</p>

事前・事後学修	<p>ビジネス実務、キャリア形成、キャリア基礎演習、言葉の力基礎・応用、業界知識などで扱う内容で、インターンシップ授業・研修で役立つ内容が多くあるでしょう。各授業を常に復習しておきましょう。また、日常の中でも、社会人としての基本的マナー守り、言葉遣いになれる努力をしましょう。派遣直前には予習復習をしましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>すべての事前提出物、授業への参加、5日以上の実習、事後提出物、報告指導の参加、企業からの評価表を総合的に評価し、単位を認定します。研修継続に不都合が生じた場合や、本人都合による、派遣先日程決定後の途中離脱は「不可」となります。</p>
テキスト	<p>資料は授業中に適宜配布。ファイルなどを準備し、保管したり、データを整理して保存して置けるようにしましょう</p>
参考文献	<p>キャリア、ビジネス系科目のテキストなどが参考になります。その他、新聞やニュースなども利用できると思います</p>

備考	<p>交通費・食事等は原則自己負担となります。（支給がある職場もあります）実習費が必要な先もあります。履修しようと考えている学生はインターンシップ初回を必ず受講してください。</p>
----	---

年度	2025
講義名称	インターンシップⅡ[短大]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71312

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	インターンシップ4類型で言うところの、タイプ2キャリア教育型インターンシップとなる授業です。自らの職業観や就業観を深めることを目的として参加します。大学が独自に準備する派遣先や、企業がCSRとして実施しているプログラムを利用します。派遣前に事前指導、5日以上就業体験を終えたあとに振り返りと事後指導を通じて、イメージではなく実際の現場を見たうえで、自信の持つ力や特性を再認識し、就職するまでに身に着けるべき知識、伸ばすべきスキルを確認することが目的となります。
到達目標	① 社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。 ④ 仕事の場で社会人に必要とされるビジネスマナーや振る舞い、言葉遣いが実際に通用するか確認する。
授業の進め方	「事前指導」では講義を受け、ディスカッションなどを通じて理解を深め、ワークシートへの記入をもって理解度を表現します。 「派遣」に際し、ハウレンソウを大切に、必要書類を適切に準備し、日々の状況を日誌に記録しながら、現場で社員の一人として5日以上勤務します。 「事後研修」では、振り返りを行い、自己理解をさらに深め、次のステップに向け具体的な目標を見つけます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートはすべてコメントをつけて返却されます。提出物は授業時または授業後、適宜添削指導を行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス ・担当教員の紹介と派遣企業実績一覧に関する概略説明を聞き、自身の希望するインターンシップの在り方についてレポート提出 ・企業研究、企業研究シート記入 ・教員と相談しながらエントリーform完成、派遣希望エントリー提出 派遣先選考、面接 ※派遣企業実績一覧掲載企業希望学生は必ず参加して面接を受ける ※第1希望にもれた学生は第2希望の面接を受けるか受講見送りを考える ※自己開拓の学生は学科教員と面接。
第2回	エントリーシートの作成 ・キャリア支援センターへ提出→添削→担当教員へデータ提出、センターに本体提出 直前個別事前指導 派遣担当と連絡を取り、日程の確認や派遣に関する準備を行う
第3回	派遣先で実習
第4回	派遣先で実習
第5回	派遣先で実習

第6回	派遣先で実習
第7回	派遣先で実習
第8回	事後指導 日誌、報告書、お礼状、事後指導用資料の完成
第9回	事後報告・情報共有 異なる派遣先で実習した者同士で情報交換を行い、比較やディスカッションを通して、知識を広げ、社会人として必要な知識、スキル、姿勢とは何かについて理解を深める。

事前・事後学修	ビジネス実務、キャリア形成、キャリア基礎演習、言葉の力基礎・応用、業界知識などで扱う内容で、インターンシップ授業・研修で役立つ内容が多くあるでしょう。各授業を常に復習しておきましょう。また、日常の中でも、社会人としての基本的マナー守り、言葉遣いになれる努力をしましょう。派遣直前には予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	すべての事前提出物、必須授業回への参加、5日以上の実習、事後提出物、報告指導の参加、企業からの評価表を総合的に評価し、単位を認定します。 研修継続に不都合が生じた場合や、本人都合による、派遣先日程決定後の途中離脱は「不可」となります。
テキスト	資料は授業中に適宜配布。ファイルなどを準備し、保管したり、データを整理して保存して置けるようにしましょう
参考文献	キャリア、ビジネス系科目のテキストなどが参考になります。その他、新聞やニュースなども利用できると思います

備考	交通費・食事等は原則自己負担となります。（支給がある職場もあります）実習費が必要な先もあります。 インターンシップIIは、原則、2社目以降の参加の学生が対象です。
-----------	--

年度	2025
講義名称	インターンシップⅡ[短大]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71312

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	インターンシップ4類型で言うところの、タイプ2キャリア教育型インターンシップとなる授業です。自らの職業観や就業観を深めることを目的として参加します。大学が独自に準備する派遣先や、企業がCSRとして実施しているプログラムを利用します。派遣前に事前指導、5日以上就業体験を終えたあとに振り返りと事後指導を通じて、イメージではなく実際の現場を見たとうえで、自信の持つ力や特性を再認識し、就職するまでに身に着けるべき知識、伸ばすべきスキルを確認することが目的となります。
到達目標	① 社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。 ④ 仕事の場で社会人に必要とされるビジネスマナーや振る舞い、言葉遣いが実際に通用するか確認する。
授業の進め方	「事前指導」では講義を受け、ディスカッションなどを通じて理解を深め、ワークシートへの記入をもって理解度を表現します。 「派遣」に際し、ハウレンソウを大切に、必要書類を適切に準備し、日々の状況を日誌に記録しながら、現場で社員の一人として5日以上勤務します。 「事後研修」では、振り返りを行い、自己理解をさらに深め、次のステップに向け具体的な目標を見つけます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートはすべてコメントをつけて返却されます。提出物は授業時または授業後、適宜添削指導を行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス ・担当教員の紹介と派遣企業実績一覧に関する概略説明を聞き、自身の希望するインターンシップの在り方についてレポート提出 ・企業研究、企業研究シート記入 ・教員と相談しながらエントリーform完成、派遣希望エントリー提出 派遣先選考、面接 ※派遣企業実績一覧掲載企業希望学生は必ず参加して面接を受ける ※第1希望にもれた学生は第2希望の面接を受けるか受講見送りを考える ※自己開拓の学生は学科教員と面接。
第2回	エントリーシートの作成 ・キャリア支援センターへ提出→添削→担当教員へデータ提出、センターに本体提出 直前個別事前指導 派遣担当と連絡を取り、日程の確認や派遣に関する準備を行う
第3回	派遣先で実習
第4回	派遣先で実習
第5回	派遣先で実習

第6回	派遣先で実習
第7回	派遣先で実習
第8回	事後指導 日誌、報告書、お礼状、事後指導用資料の完成
第9回	事後報告・情報共有 異なる派遣先で実習した者同士で情報交換を行い、比較やディスカッションを通して、知識を広げ、社会人として必要な知識、スキル、姿勢とは何かについて理解を深める。

事前・事後学修	<p>ビジネス実務、キャリア形成、キャリア基礎演習、言葉の力基礎・応用、業界知識などで扱う内容で、インターンシップ授業・研修で役立つ内容が多くあるでしょう。各授業を常に復習しておきましょう。また、日常の中でも、社会人としての基本的マナー守り、言葉遣いになれる努力をしましょう。派遣直前には予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>すべての事前提出物、必須授業回への参加、5日以上の実習、事後提出物、報告指導の参加、企業からの評価表を総合的に評価し、単位を認定します。 研修継続に不都合が生じた場合や、本人都合による、派遣先日程決定後の途中離脱は「不可」となります。</p>
テキスト	資料は授業中に適宜配布。ファイルなどを準備し、保管したり、データを整理して保存して置けるようにしましょう
参考文献	キャリア、ビジネス系科目のテキストなどが参考になります。その他、新聞やニュースなども利用できると思います

備考	<p>交通費・食事等は原則自己負担となります。（支給がある職場もあります）実習費が必要な先もあります。 インターンシップIIは、原則、2社目以降の参加の学生が対象です。</p>
----	--

年度	2025
講義名称	[冬集]国内フィールドワーク
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71321
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	訪問する地域の歴史や文化、食や観光などを幅広く体験する事で、感性を磨き知見を広げることを目的としています。 地域の魅力を発見し、地域の人々とのふれあいを大切にしながら仲間で協力しながら体験します。 大学で学んだマナーやコミュニケーション能力を応用し、よく考え、話し合い、情報を発信する実務能力を身につけます。 なお、今回は国内観光地としてトップクラスの人気を誇る、京都でのフィールドワークを予定しています。
到達目標	①地域の歴史や文化、食や観光を理解できる。 ②現地では大学で学んだマナーやコミュニケーション能力を十分に発揮できる。 ③資料を作成し、解りやすく説明できる。
授業の進め方	事前学習では訪問する地域の歴史や文化、自然や食、観光、北海道との繋がりなどについて事前に調査を行い、現地での行動目的を明確にします。 また、それらの内容についてプレゼンテーション資料を作成し、発表を行います。 現地研修では、大学で学んだマナーやコミュニケーション能力を発揮して、地元の方々と積極的に交流し、調査・研究を行います。 事後学習では、この授業で得られた経験や発見をレポートにまとめ、パワーポイントを作成し発表を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	その都度、質問に対する回答を行います。 履修者同士で助け合いながら情報共有を行い、協調性を高めます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・事前調査1 歴史・文化
第2回	・事前調査2 自然・食
第3回	・事前調査3 観光
第4回	・事前調査4 北海道との繋がり
第5回	・フィールドワーク
第6回	・フィールドワーク
第7回	・フィールドワーク
第8回	・フィールドワーク
第9回	・フィールドワーク
第10回	・フィールドワーク
第11回	・ふりかえりとディスカッション
第12回	・発表用資料作成

第13回	・発表会 ・まとめ
------	--------------

事前・事後学修	訪問する地域について、新聞やニュース、書籍およびテレビ番組などを通して、日頃から関心を持つこと。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	事前調査30% フィールドワークでの取り組み20% レポート・発表50%
テキスト	適宜、プリントを配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、ブライダルプロデュース業として婚礼衣装の仕入れや、婚礼料理メニュー開発のため、通算50回以上にわたり京都を訪問経験のある教員が担当します。 京都の歴史や文化などの魅力を伝え、その中から履修学生の希望を一部取り入れ、現地での訪問場所を決めたいと考えています。
備考	10月初旬に説明会を開催予定です。

年度	2025
講義名称	【閉講】[夏集]国際フィールドワーク
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71322

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	これまで学習してきた英語を実際に使って、海外の生活文化や社会について体験を通して学ぶ研修です。普段暮らし慣れた日本の生活環境から離れ、様々なことに挑戦し、視野を広げ精神を鍛えます。外側から日本を見直し、自分たちの今生きている社会や生活環境について客観的に考えてみましょう。
到達目標	実際の生活の中で英語を運用するコミュニケーション能力を伸ばし、異文化を積極的に受け入れ、関わろうとする姿勢を身につけ、自分で立てた目標を達成する。多文化が共生している様子を肌で感じ、考える。自国の文化や社会について、比較から評価する。
授業の進め方	事前研修として、6コマ程度の演習・オリエンテーションを行う。適宜必要な英語の学習、グループワークやディスカッションを行い、大学の定めるプログラムを利用して渡航（個別研修時の教員の引率、ガイドは無）。 渡航中はLINEなどによる教員サポートを行い、報告日誌の提出を行ってまいります。事後研修として3コマ程度の演習授業があり、成果報告の準備をします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題には、フィードバックとアドバイスを記載し返却、渡航前の学習分はしおりの形にし、渡航中の日誌には翌朝までにコメントを行う。事後の報告については、学期末に発表を行えるようにフィードバックを行い完成させておく。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	全学オリエンテーションへの参加と質疑応答 渡航に関連する保険や全体行動を行う日程等について、参加者全員で行うオリエンテーションに参加し、準備を行う。
第2回	研修先について学ぶ：シンガポールという国の概要、暮らしや社会の特徴について知る。そこから個人テーマを考える。
第3回	日本との違いについて、注目すべき点を解説し、取材してくるもの、体験すべきことを整理する
第4回	個人テーマを確定させ、スケジュールを調整する 単独行動不可であるため、参加者が十分な体験取材ができるように調整を行う
第5回	報告の様式の確認と準備 研修内容に即したコミュニケーションツールの準備
第6回	渡航直前全体研修への参加とコミュニケーションツールの確認
第7回	研修①
第8回	研修②
第9回	研修③
第10回	研修④
第11回	事後研修① テーマの達成について
第12回	事後研修② 報告の準備
第13回	報告の実施準備の完了 * 秋学期オリエンテーションでの渡航報告を予定

**事前・事後
学修**

授業で配布された資料を読み、理解すること。渡航に必要なものを準備すること。現地で使うコミュニケーションツールに慣れておくことのために、復習を中心に、事前事後合わせて1時間程度の時間が必要。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	事前学習の提出物 30% 研修中の日誌 30% 成果報告 40%
参考文献	各種旅行ガイド、シンガポールについての書籍などを授業中に指示

備考	Q1終了までにパスポートを取っておくこと
----	----------------------

年度	2025
講義名称	課題解決演習Ⅰ[石田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71331

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。
到達目標	扱うテーマと、実際の社会の問題との関連性を意識して活動できる チームでの自分の役割を意識し貢献できる プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる。
授業の進め方	グループワークが中心 情報収集、ディスカッションをする 活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。 毎回の活動報告、振り返りシートに対し、オンラインでチーム全体へ、または個別にフィードバックを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション これまでの学びと卒業に向けて 課題解決演習で目指すもの チームワークで重要なこと
第2回	チームワークで重要なこと 各プロジェクトの狙い、ビジョンと、学科の学びとのつながり 仮エントリー、本エントリーについて注意すること
第3回	本エントリーを行う シート完成者から面談を行う。記載にあいまいな部分がある場合は、書き直しの指示もある。
第4回	結果発表とチームのキックスタート
第5回	チームごとの活動①
第6回	チームごとの活動②
第7回	チームごとの活動③
第8回	チームごとの活動④
第9回	チームごとの活動⑤
第10回	チームごとの活動⑥
第11回	チームごとの活動⑦

第12回	チームごとの活動⑧ 次回中間報告に向けた発表準備
第13回	中間発表とピア評価

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうこととなります。 事前事後、最低でも1時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、個人レポート他） 50% グループ提出物（中間報告、提出物、ピア評価他） 50%
参考文献	プロジェクトごとに指示があります

年度	2025
講義名称	課題解決演習Ⅰ[和久田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71331

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。
到達目標	扱うテーマと、実際の社会の問題との関連性を意識して活動できる チームでの自分の役割を意識し貢献できる プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる
授業の進め方	グループワークが中心 情報収集、ディスカッションをする 活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員を上司に見立て、チームの活動=仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション これまでの学びと卒業に向けて 課題解決演習で目指すもの チームワークで重要なこと
第2回	チームワークで重要なこと 各プロジェクトの狙い、ビジョンと、学科の学びとのつながり 仮エントリー、本エントリーについて注意すること
第3回	本エントリーを行う シート完成者から面談を行う。記載にあいまいな部分がある場合は、書き直しの指示もある
第4回	結果発表とチームのキックスタート
第5回	チームごとの活動①
第6回	チームごとの活動②
第7回	チームごとの活動③
第8回	チームごとの活動④
第9回	チームごとの活動⑤
第10回	チームごとの活動⑥

第11回	チームごとの活動⑦
第12回	チームごとの活動⑧ 次回中間報告に向けた発表準備
第13回	ピア評価・中間発表

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。事前事後、最低でも1時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、個人レポート他）	50%
	グループ提出物（中間報告、提出物、ピア評価他）	50%
参考文献	プロジェクトごとに指示があります	

年度	2025
講義名称	課題解決演習Ⅰ[小林(純)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71331

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。
到達目標	扱うテーマと、実際の社会の問題との関連性を意識して活動できる チームでの自分の役割を意識し貢献できる プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる
授業の進め方	グループワークが中心。情報収集、ディスカッションをする。 活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。 毎回の活動報告、振り返りシートに対し、オンラインでチーム全体へ、または個別にフィードバックを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション これまでの学びと卒業に向けて 課題解決演習で目指すもの チームワークで重要なこと
第2回	チームワークで重要なこと 各プロジェクトの狙い、ビジョンと、学科の学びとのつながり 仮エントリー、本エントリーについて注意すること
第3回	本エントリーを行う シート完成者から面談を行う。記載にあいまいな部分がある場合は、書き直しの指示もある。
第4回	結果発表とチームのキックスタート
第5回	チームごとの活動①
第6回	チームごとの活動②
第7回	チームごとの活動③
第8回	チームごとの活動④
第9回	チームごとの活動⑤

第10回	チームごとの活動⑥
第11回	チームごとの活動⑦
第12回	チームごとの活動⑧ 次回中間報告に向けた発表準備
第13回	中間発表とピア評価

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうこととなります。 事前事後、最低でも1時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、個人レポート他） 50% グループ提出物（中間報告、提出物、ピア評価他） 50%
参考文献	プロジェクトごとに指示があります。

年度	2025
講義名称	ビジネス実務総論[総キ]【遠隔B】
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71411

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本講義の目的は「ヒトとつながり」「モノを活かして価値をつけて」「コトを起こす」ビジネスに必要かつ大切なことを理解し、組織や個人による社会の動きを理解することです。 就職により社会人になると、多くのヒト・モノ・コトと関わることになります。社会の動きを理解することにより、より実践的なビジネス実務能力の必要性を考えていきます。
到達目標	① 企業組織や企業の状況および、業務の流れや進捗を理解することができる。 ② ビジネス実務を取り巻く社会・経済的環境の変化を理解することができる。 ③ 企業の仕組みや業務の進め方について第三者に説明することができる。
授業の進め方	授業はオンデマンド授業となるため、動画による学修となります。動画内では小テストも実施しますので、確実に回答するようにしましょう。 また、質問は随時メールやWebClassなどで受け付けますが、授業内でも紹介することがあります。 授業時間外でも研究室などで随時質問は受け付けています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出題された小テストについては、次回の動画内やWebClassなどで、考え方や回答を公開します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	「ガイダンス」「ビジネスとは何か」 ビジネスという言葉のイメージとともに、本講で扱うビジネスの考え方を解説します。 また、ビジネスと関わり深い基本的な「要素」について検討します。	オンデマンド
第2回	「ビジネスと社会の関わり」 ビジネスを行う企業や団体が、地域・社会とどのように関わるのか、わたしたちの生活という視点から検討します。	オンデマンド
第3回	「企業の社会的責任とコンプライアンス」 企業が社会に対して果たすべき役割とその責任について、コンプライアンスを例として検討します。	オンデマンド
第4回	「企業とはなにか」 今日の日本における企業の分類をさまざまな視点から捉えます。 特に重要な出資者別の分類を中心に学びます。	オンデマンド
第5回	「会社とはなにか」 会社や法人の責任、特に株式会社における「資本と経営の分離」について学びます。	オンデマンド
第6回	「株式会社の組織と株主」 一般的な会社組織における組織構造について学びます。 また、株式に関する知識についても補足し、株主と会社の関係を解説します。	オンデマンド
第7回	「組織とはなにか」 人と人が集まってできる組織というものについて、企業での役割を中心に検討します。 集団と個の違いを皆さんと考えてみましょう。	オンデマンド
第8回	「組織形態」 企業やグループなどで用いられる組織形態について、日本型企业でよく用いられるピラミッド型組織を中心に解説します。	オンデマンド
第9回	「労働者に関わるルール」 労働者が知っておくべき就業に関するルール（法律や会社規則など）について検討します。	オンデマンド

第10回	「労働者を取りまくお金のルール」 就業後に関わるにお金について、支払われるべき税とともに学びます。 実際に得られる給与の仕組みや、所得税などの計算方法を共有します。	オンデマンド
第11回	「ブラック企業とホワイト企業」 なぜブラック企業は存在するのか、またホワイト企業とはどのような企業なのか。 一般的なイメージや、各種の調査結果などをもとに、望ましい企業はどのようなものかを検討します。	オンデマンド
第12回	「現代における働き方…働き方改革」 働き方改革は2018年に政府から提唱されている、現代の労働時間・スタイルの見直しに関する変化です。 なぜ働き方を変えなければならないのか、を検討します。	オンデマンド
第13回	「授業のまとめと振り返り」 ビジネスとは何かを再度検討し、社会人として世に出たときに、更に知っておくべきことなどを情報共有します。	オンデマンド

事前・事後学修	<p>授業で扱われる内容に関し、新聞記事およびニュースなどに積極的に触れながら予備知識をつけ、問題意識を持って授業に臨むこと。 授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。</p> <p>予習・復習に1～2時間程度の時間を目安としてください。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内で提示される課題 60% 小レポート 40%
テキスト	適宜プリントや資料を提示します。一部資料はWebClassにて共有します。
参考文献	「ビジネス実務総論－企業と働き方－」水原道子 編著 樹村房 「ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務論 改訂版」全国大学実務教育協会 紀伊國屋書店

年度	2025
講義名称	オフィス総論【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71412

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本講義は、ビジネス実務で学ぶ、業務上のオフィス活動やビジネス能力・スキルとともに、ビジネス社会で求められる知識や役割を学ぶ授業です。主にビジネス実務のもととなった「秘書学」をベースに、組織における「人と情報のコーディネート」業務について学びます。基本的には秘書としての業務や目的を学ぶこととなりますが、この知識は秘書だけでなく、組織で働くすべてのワーカーに求められるものです。オフィスワーカーとして働くために必要な知識として、考えていきます。
到達目標	① オフィスで働くワーカーとしての基礎知識を把握し、ペアワークで成果を上げるための力を身につける。 ② 組織の一員として自分の役割を自覚し、確実に仕事を進めるための知識を身につける。 ③ 自分自身のキャリアを検討することができるようになる。
授業の進め方	授業はオンデマンド授業となるため、動画による学修となります。動画内では小テストも実施しますので、確実に回答するようにしましょう。また、質問は随時メールやWebClassなどで受け付けますが、授業内でも紹介することがあります。授業時間外でも研究室などで随時質問は受け付けています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出題された小テストについては、次回の動画内やWebClassなどで、考え方や回答を公開します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、オフィスワーカーに必要な能力とはなにか	オンデマンド
第2回	秘書教育とキャリアデザイン	オンデマンド
第3回	秘書の役割と業務①	オンデマンド
第4回	秘書の役割と業務②	オンデマンド
第5回	パーソナリティ、職業人としての心構え	オンデマンド
第6回	高度情報化社会と業務	オンデマンド
第7回	情報ネットワークの形成	オンデマンド
第8回	職場の人間関係	オンデマンド
第9回	人的ネットワークの形成	オンデマンド
第10回	秘書とプレゼンテーション	オンデマンド
第11回	マーケティングと秘書	オンデマンド
第12回	秘書の国際化、秘書の専門分化	オンデマンド
第13回	これからのビジネス社会	オンデマンド

事前・事後学修	授業で扱われる内容に関し、新聞記事およびニュースなどに積極的に触れながら予備知識をつけ、問題意識を持って授業に臨むこと。授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。 予習・復習に1～2時間程度の時間を目安としてください。
---------	---

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内で提示される課題 60% 小レポート 40%
テキスト	適宜プリントや資料を提示します。一部資料はWebClassにて共有します。
参考文献	「新しい時代の秘書ビジネス論」全国大学実務教育協会編 紀伊國屋書店

年度	2025
講義名称	社会保障
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71421

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では社会保障の法制度が私たちの生活とどのようにかかわっているか理解することを目的とする。また、現代社会における社会問題といわれるトピックについても取り上げて、社会保障とどのようなかかわりがあるかも考えられるようになることも本講義の目的となる。
到達目標	社会保障にかかわる問題が自分の身の回りで起きていることと関連していると気づくようになることを目指します。
授業の進め方	対面で講義形式の授業を実施しつつ、視聴覚資料による学習や必要に応じてPCを使用した調べ学習、グループによる演習を取り入れる予定である。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の終了前に質問を受け付け、次回講義の冒頭で回答する予定である
----------------------------	----------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生活の中にある社会保障
第3回	社会保障の役割（社会保険を中心に）
第4回	年金制度の現状と課題
第5回	社会保障としての子育て支援制度と保育施策
第6回	社会的養護とはなにか？
第7回	障害とはなにか？
第8回	相模原障害者殺傷事件が問いかけたもの
第9回	障害者の存在は社会の迷惑か？
第10回	女性への支援と福祉
第11回	ホームレス問題と社会
第12回	低所得者福祉
第13回	高齢者の生活保障

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、提示された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。</p> <p>【必要な時間】</p> <p>それぞれ2～3時間ずつが目安となる。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	小レポート30% 調べ学習の取り組み30% 最終レポート40%
テキスト	特になし。
参考文献	講義中に適宜提示する。

年度	2025
講義名称	ボランティア【遠隔B】
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71422

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	社会的弱者、障がい者、被災者などボランティア活動を必要としている人々が沢山います。また、北海道を訪れ、滞在する外国人の方々も、異なる言語文化圏で手助けを必要としています。また、皆さんが生活する学内においても、ボランティアを必要とする場面があります。寄付活動、その広報活動など、時間とお金を大きく使わずに行える取り組みも多くあります。本講義では、こうした取り組みの実態をケーススタディなどから学び、理解を深め、実際に1年間にわたり活動してみること、助け合うということ、他者のために何かするということについて理解し、この先の長い人生において、何かの形でかかわっていけるようにすることを目指します。
到達目標	ボランティアの様々な事例を通じて社会の現状や課題を理解し、その内容をまとめ、自身の意見も含めて分かり易く説明することができる。ボランティアをテーマに、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身につけ、グループワークに積極的に取り組むことができる。生涯にわたってボランティア活動に参加するための基礎知識を得る。
授業の進め方	主にオンデマンドで概要について理解し、実際の活動を行って、報告を行うことを重ねていきます。報告を共有し、コメントしあうことで理解をさらに深めます。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題は、教員がすべて読み、授業内およびLMSを通じて行う。
----------------------------	------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 共同体の中で生き行くことや、日本人の「やさしさ」について、助け合うことでWellbeingに近づける可能性について解説をきき、活動の探し方や授業の提出物の管理の仕方について理解します。年間のボランティアスケジュールを作成します。	オンデマンド
第2回	ボランティア活動計画を立て、事前調査を行う 個別の活動計画について、提出物をもとに、クラスメンバーとのディスカッション、教員との最初の面談を行います。	同時双方向
第3回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第4回	活動報告と問題共有 活動報告を共有し、互いに理解を深めます	同時双方向
第5回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう フィードバックをもとにまた活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第6回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。（ここまでが春学期の予定）	オンデマンド

第7回	ここまでの活動と次への目標 春と夏の活動記録を整理し、振り返りとディスカッションを行い、秋冬の計画を立てます	同時双方向
第8回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第9回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第10回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第11回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第12回	社会の困りごとについて考える 活動報告の振り返りと共有を行い、それぞれの取り組みから、社会の困りごとの解決について考えます。	同時双方向
第13回	これからの私とボランティア 前回のディスカッションをうけ、まとめの動画を視聴した後、これからの自分とボランティアとのかかわり方についてレポートを作成します。	オンデマンド

事前・事後 学修	予習・復習としては、授業内容、自分の活動に関連する文献資料を自分で調べて報告する準備作業と、講義、実習内容を振り返りまとめる作業に取り組んでもらいます。1-2時間かかるでしょう。
-------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人活動レポート 45% ディスカッション、授業ワークシート 25% 最終レポート 30%
-----------	---

備考	対面また同時双方向で行う必要がある内容について2回程度設定予定
----	---------------------------------

年度	2025
講義名称	現代生活と経済【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71423

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	現代の生活では、さまざまな経済活動が関わっています。日常生活には関連がないような経済指標も、実際には生活に大きく関わるものが多いのです。経済のしくみが理解できれば、政府の政策や市場の動きが見えてきます。社会人として知っておくべき経済の基礎知識を、かみ砕いて解説していきます。
到達目標	① 報道や経済情報などの内容を理解し、経済が生活にどのような影響を与えているかを考えられる。 ② 経済分野の幅広い情報に興味・関心を持つ。
授業の進め方	授業はオンデマンド授業となるため、動画による学修となります。動画内では小テストも実施しますので、確実に回答するようにしましょう。また、質問は随時メールやWebClassなどで受け付けますが、授業内でも紹介することがあります。授業時間外でも研究室などで随時質問は受け付けています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出題された小テストについては、次回の動画内やWebClassなどで、考え方や回答を公開します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	「ガイダンス」「経済とはなにか」 経済のなりたちと社会の関係を考えます。	オンデマンド
第2回	「貨幣と所得」 経済に欠かすことができない貨幣とはどのようなものかを検討します。 またその貨幣がもたらす所得について考えます。	オンデマンド
第3回	「消費者と生産者」 それぞれの立場から起こされる経済行動について検討します。	オンデマンド
第4回	「価格の決定」 消費者と生産者の経済行動から決定される価格、また市場メカニズムについて学びます。	オンデマンド
第5回	「市場の失敗①」 市場における政府の役割に注目し、市場原理だけでは解決できない問題を考えます。	オンデマンド
第6回	「市場の失敗②」 市場における政府の役割に注目し、市場原理だけでは解決できない問題を考えます。	オンデマンド
第7回	「GDPと付加価値」 国家経済の規模を示すGDPと、そのもととなる付加価値とはなにかを学びます。	オンデマンド
第8回	「GDPと私達の生活」 GDPの増減が私達の生活にどのように影響するのかを学びます。	オンデマンド
第9回	「景気と物価」 景気の変化、またそれによって起こる物価の変化について学びます。	オンデマンド
第10回	「外国為替」 通貨レートの変化と海外貿易の関係、インフレとデフレによる為替の変化などについて学びます。	オンデマンド
第11回	「世界経済の動き」 世界の国々の経済力や経済指標をもとに、世界経済の現状を検討します。	オンデマンド

第12回	「政府の経済政策」 政府が行う経済政策・金融政策について学びます。	オンデマンド
第13回	「日本の借金」 現在の日本が抱える借金について学ぶとともに、日本経済の課題を検討します。	オンデマンド

事前・事後学修	<p>授業で扱われる内容に関し、新聞記事およびニュースなどに積極的に触れながら予備知識をつけ、問題意識を持って授業に臨むこと。 授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。</p> <p>予習・復習に1～2時間程度の時間を目安としてください。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>授業内で提示される課題 60%</p> <p>小レポート 40%</p>
テキスト	適宜プリントや資料を提示します。一部資料はWebClassにて共有します。

年度	2025
講義名称	現代生活と多様性【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71431

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	グローバル化や社会の変化に伴い、多様性が現代生活にどのような影響を与えているかを理解することを目的とします。文化的、社会的、経済的な観点から多様性を考察し、共生社会の実現に向けた課題や可能性を探ります。また、異なる価値観や背景を持つ人々と協働する力を養い、多様性を尊重する態度を育成します。
到達目標	様々な人々が暮らす現代の社会について知り、どうすれば共生社会を構築できるかについて、視点を深め、自分なりの考えをもつことを目指します。
授業の進め方	歴史的背景や現代社会の動向について、複数の観点からテーマを取り上げ、講義、ディスカッション、ケーススタディを通じて理解を深めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	オンデマンド授業については必ずノートとコメントレポートを提出、それに対しては授業やLMSでフィードバックを行う。対面回については、授業中に意見を聞く場面ではその場でフィードバック、授業後のまとめレポートについては、LMSへ提出後、次回授業内または個別でフィードバックを行います
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	多様性とは① 同じ人はいない、当たり前は人の数だけある、ということについて、いろいろな側面から考えてみます。ディスカッションやグループワークを通して、実感を持ちながら、多様性と、少数派多数派のものの方、他者を尊重するということはどういうことかを考えましょう	
第2回	多様性とは② ディスカッションやグループワークを通して、実感を持ちながら、多様性と、少数派多数派のものの方、他者を尊重するということはどういうことかを考えたことから、疑問に思ったことや知りたいと思ったことを整理しよう	オンデマンド
第3回	多様な性、いろいろなあり方（ゲスト）	
第4回	多様な性に関する学習を深めよう	オンデマンド
第5回	共生社会のために取り組む人たち①	
第6回	共生社会を目指すうえで重要な視点について考えよう	オンデマンド
第7回	理解すること、ともに進むということ ダイバーシティ&インクルージョン	
第8回	誰も取り残されない、とはどういうことか ダイバーシティ&インクルージョン	オンデマンド
第9回	私たちを取り巻く問題 ディスカッション、グループワーク	
第10回	個人テーマを立て考えよう	オンデマンド 2025/04/01

第11回	テーマの確定とまとめ、意見交換	
第12回	発表の作成と提出に向けて	オンデマンド
第13回	発表と最終レポートの作成	

事前・事後学習	主に事後学習のほうに重点を置いてください。授業までにやっておくべき課題をこなす事前学習、授業後に提出するコメントの作成には、それぞれ1時間以上の学習が必要です。
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業後コメントレポート	40%
	オンデマンド回ノート	20%
	授業内アクティビティ（ディスカッションなど）	20%
	最終レポート	20%
テキスト	主にプリントを配布します	
参考文献	指定はありません。図書館の書籍や、新聞、ニュースの記事などが参考になります	

備考	授業では、実際の事例やゲストスピーカーの講演を取り入れ、理論だけでなく実践的な視点からも多様性について考察します。
-----------	---

年度	2025
講義名称	異文化と生活【遠隔A】
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(A)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71432

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本講義では、主に海外の生活文化を知ることを通して、自分がよく知っている日本休み慣れた地域と異なることに関して理解を深めながら、他文化を理解し、自国の文化を客観的に見直すことも目指します。異文化について学び、視野を広げることのほかに、自身が生まれ育った文化で伝統として守られている価値観に気づくことも目的とします。
到達目標	①異文化の生活に現れる考え方を学ぶ ②過去と現在を結ぶ文化的要素に気づく ③考える力とコミュニケーションスキルを伸ばす ④「異なるもの」を受け入れる際に重要な姿勢を身に着ける
授業の進め方	主に講義スタイル、だが、Zoomの諸機能を用い、オンラインで演習形式も取り入れるほか、適宜オンデマンドの授業回も設定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行うアンケート、意見聴取についてはできる限り授業内でコメントを行う。 また、事前または事後に提出する課題については、次回授業内またはLMSを用いて個別にコメントを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	10/9 ガイダンス 異文化と自文化 あなたと異文化 暮らしの中の異文化 これまでの自分、今の自分の文化と、それと異なると思われる文化について意見交換などをしながら考えます	同時双方向
第2回	10/16 タイムな文化 ルーズな文化 日本文化の特徴と言われているものについて学び、世界の文化の傾向について知ったうえで、自分と相性のいい文化について考えます	同時双方向
第3回	10/23 異文化と宗教、神話① 文化の中でも大きく人々の考えに影響を与えていると思われる宗教について概観し考えます。 死生観やジェンダー観等についても触れます。	オンデマンド
第4回	10/30 異文化と宗教、神話② 文化の中でも大きく人々の考えに影響を与えていると思われる宗教について概観し考えます。 死生観やジェンダー観等についても触れます。 第3回の授業内容を学習している前提で、演習中心となります。	同時双方向
第5回	11/6 異文化と結婚、子育て、教育 他の文化の不思議、良さ、取り入れるとする場合のハードル等について考えます。	同時双方向

第6回	11/13 異文化の受容と衝突 コミュニケーションやトラブルとその原因について考えていきます。	同時双方向
第7回	11/20 異文化と食文化 講義後、個別にテーマを決め、異文化の特徴の現れていると思われる「食、食習慣」について調べまとめます。	同時双方向
第8回	12/4 異文化と食文化 それぞれの調べた内容について情報交換し交流します。	同時双方向
第9回	12/11 図書館で探そう異文化の本 動画視聴後、それに従って個人テーマの候補を決め、図書館で書籍を探し、入手します。	オンデマンド
第10回	12/18 テーマを決定しよう 借りた本を基に、テーマを絞り込んで追加調査をしましょう。	同時双方向
第11回	12/25 個人テーマ発表に向けた準備学習 動画を参考に、発表の準備を各自行ってください。	オンデマンド
第12回	1/15 発表の視聴とコメント	オンデマンド
第13回	1/22 まとめ	同時双方向

事前・事後 学修	次回扱うテーマについて簡単に調べ、自分の意見を形成しておくことや、授業後のコメント課題等を行うため、または授業中に終わらなかったグループワーク等のために前後1-2時間の学習が必要
-------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回のコメント 50% グループワーク課題、個別課題 30% 小テスト 20%
テキスト	LMSなどを用いて資料、プリントを配布します
参考文献	授業中に適宜指示します。

備考	信憑性の高い資料を読むこと。データならソースをはっきりわけて、他と比較できるもの。ニュースや教育番組の観賞。雑誌やガイドブックの一部を使うことができるので、関心の高いものにたいしては日常的に目を通しておく。
----	---

年度	2025
講義名称	現代生活と福祉
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71433

担当教員

氏名	所属
◎ 鈴木 道代	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	わが国の社会福祉の制度や政策はめまぐるしく変化しています。それに伴って、子ども、高齢者、障がいのある方、暴力被害や貧困生活に悩む方等、社会福祉の対象者も広がっており、社会福祉は社会やその社会で生活する人々のライフスタイルの変化に伴う社会問題や生活課題に働きかけ、その解決・解消を目指します。 本科目では、講義形式を中心に展開しながら学生がこのような社会福祉の制度・政策の変化、それに伴う社会福祉を必要とする人々の生活の現状を理解することを目的とします。
到達目標	本講義は①現代生活における社会福祉の役割を理解する、②社会福祉の制度・サービスを必要とする生活の現状を理解する、③社会福祉の考え方、様々な社会福祉に関連する法律、サービス体系を理解する、以上の理解を通して、受講生の生活における社会福祉の考え方、その必要性等について自身の考えを持つことを目指します。
授業の進め方	講義形式（PowerPoint）で展開（撮影禁止）し、学生はノートに代わるレジュメに必要なキーワード等を書き込みます。その他、DVD視聴、学生に可能な範囲で意見を求めるディスカッション形式で実施します。なお、レジュメは教員が用意するため、学生がPCを準備する必要はありません。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義開始時に、学生が取り組んだ事前・事後学習の内容やアクションペーパーに対してコメントをし、学生と意見を共有します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス、社会福祉のイメージと定義
第2回	生活と社会福祉
第3回	社会福祉の専門職と援助方法
第4回	現代社会の特徴と変化
第5回	児童家庭福祉①—児童福祉の概要、児童の権利条約、児童虐待防止法
第6回	児童家庭福祉②—社会的養護、ひとり親家庭への支援
第7回	第1回～第6回のまとめ・中間テスト
第8回	低所得者福祉①—貧困の概念、貧困の連鎖、子どもの貧困
第9回	低所得者福祉②—生活困窮者自立支援制度、生活保護制度
第10回	障害児・者福祉—障害概念、ノーマライゼーション、合理的配慮
第11回	高齢者福祉①—高齢者の定義、高齢者の特性、認知症の理解
第12回	高齢者福祉②—介護保険制度
第13回	第8回～第12回のまとめ・試験

事前・事後学習	事前学習：毎週講義終了後に提示する内容（キーワード、制度の概要等）を調べ、理解する。 事後学習：課題を兼ねたアクションペーパーに取り組むこと。事前学習で調べた内容と講義内容、日常的に見聞する社会福祉の事象とを関連づけられることが望ましい。 ※事前事後学習時間：105分程度
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>①事前・事後学修等の提出状況、講義への取り組み方（20%） ※講義への取り組み方：講義内における私語で注意された場合、氏名の確認の上マイナス1点とする。 ※合理的配慮（修学支援）の申請がない学生によるスクリーンの撮影等：学籍番号・氏名、理由を確認の上、合理的配慮に該当しない場合はマイナス10点とする。 ※教室にいない状況における「出席」：後日理由を確認し、学内教員に相談したうえで当該出席が不正によるものと判断した場合はマイナス20点とする。</p> <p>②中間テスト（30%） ③講義内期末試験（50%）</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし ・毎回、レジュメ（ノート代わり）を教員が用意し配布します
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山縣文治ら編（2013）『社会福祉用語辞典第9版』ミネルヴァ書房 ・大澤 史伸（2024）『楽しく学ぼう社会福祉の道しるべ』学文社

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教員との連絡方法：WebClassのメッセージを活用して連絡してください ・講義内で意見を求められた場合には、積極的に発言してください ・私語等講義妨害とみなす行為をした学生には、退出してもらいます ・出欠確認の方法：①講義開始時の呼名による確認、②講義終了後のリアクションペーパー提出（①②の両方の状況を確認できた場合に「出席」とします） （片方の場合には、理由を確認し「欠席」とする場合があります）（変更する場合あり） ・事前学修の提出方法は講義内で説明します ・「欠席」した場合の資料：WebClassより学生自身で確認してください（書き込み内容については学生間での確認を前提に、質問等あれば講義前後で教員に確認してください）
----	---

年度	2025
講義名称	北海道論[幼教・総キ]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71441 幼児教育保育学科：70612

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 英寿	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	我々の住む北海道の気候風土や特徴を元に、現状と将来に向けた取り組みや実現への課題を考える。ディスカッションを通じて、地域の発展の方策を考え発表する力を身につける。
到達目標	北海道についての基礎知識を知り、地域ごとの課題や特色を生かした発展について考え、まとめて話せる能力を身につける。
授業の進め方	配布するプリントや提示する動画を見ながら各自の考えをまとめる。その考えを少人数グループ内で質疑、ディスカッションを通じ、見方を深める。 授業内プレゼンテーションも。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションに対する相互評価や、講師からの図表を使った説明、解説。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【オリエンテーリング・基本統計と北海道の強み】 各自のパソコンやスマホで、北海道の基本統計サイトをチェック、北海道の特色や強みを探る	対面
第2回	【北海道の地域の特色（道央）】 札幌集中のメリット・デメリット、今後	対面
第3回	【北海道の地域の特色（道北とオホーツク圏）】 漁業・林業などの歴史と今後、旭川家具	対面
第4回	【北海道の地域の特色（道南圏）】 観光や歴史と今後を考える	対面
第5回	【北海道の地域の特色（道東圏）】 漁業基地の役割と今後	対面
第6回	【北海道の地域の特色（十勝圏）】 畑作や酪農の歴史と今後	対面
第7回	【地球温暖化が北海道に及ぼす影響】 夏の猛暑と冬のドカ雪、今後	対面
第8回	【北海道にとっての物流2024年問題】 遠距離輸送と人手不足、今後	対面
第9回	【北海道観光の特徴、課題、可能性】 恩恵とオーバーツーリズム、今後 北海道ロケの映画	対面
第10回	【北海道の新産業（半導体）】 千歳に進出するラピダスの影響は	対面

第11回	【北海道の電力】 北海道の電力需要と発電の新形態	対面
第12回	【まとめと振り返り】 グループディスカッションと発表	対面
第13回	【まとめと振り返り】 授業内小テスト	対面

事前・事後学修	日頃のニュースから北海道に関連した内容に興味を持ち、ノートやメモに書き留めるなどし不明な点は調べる。それに対し考える習慣をつける。 1回30分程度ニュースや新聞をチェックし、授業内の発表用に概要や感想をメモする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義の中で、それぞれのテーマに対する考えをまとめ、口頭発表（30%） グループワーク・その発表（40%） 授業内振り返り試験（40%）
テキスト	適宜プリントや資料、関連URL、を提示
参考文献	北海道新聞ほか（オンラインニュースも可）

年度	2025
講義名称	世界の中の日本
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71442

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、世界の国々との比較の中で日本についての理解を深めることにある。つまり、我が国の特徴や特異性を理解することである。本授業では、地図やデータを利用し、我が国を俯瞰的に見つめるようにする予定である。そこから日本の良さや課題を知る機会とする。
到達目標	①諸地域または世界全体と比較する中で日本の特徴や特異性を理解することができる。 ②地図や統計資料などから日本を分析することができる。
授業の進め方	基本的にはテキストや配布資料を用いた講義形式で行う。毎時、課題を実施する。それによって、理解度を確認する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時の課題において、授業時に解説し、フィードバックとする。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	世界の中の日本の領土と人々
第3回	世界の中の日本の自然と宗教
第4回	世界の中の日本の文化
第5回	世界の中の日本の世界遺産と観光
第6回	世界の中の日本の情報・メディア
第7回	世界の中の日本の経済と国際化
第8回	世界の中の日本の教育
第9回	世界の中の日本の政治
第10回	世界の中の日本の法・制度
第11回	世界の中の日本の歴史
第12回	世界の中の日本の幸福水準と課題
第13回	まとめ・最終テスト

事前・事後学修	日頃からニュースをみて、世界や日本の動向をチェックする必要がある。
---------	-----------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	1, 毎時の課題: 50% (毎時の平均点) ①日本の特徴や特異性の理解 ②資料などから日本を分析 2, 最終テスト: 50% ①日本の特徴や特異性の理解 ②資料などから日本を分析
テキスト	特になし (毎時のレジュメ)
参考文献	昭文社出版編集部『なるほど知図帳 世界 ニュースがわかる世界地図2025』昭文社

備考	欠席するとテストに影響することがある。 中学や高校で使用した地図があれば持参の方がよい。 (グーグルマップで対応できるのであれば、それでも構わない)
----	--

年度	2025
講義名称	学びの技法[総キ]
講義開講時期	春学期第1Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71511

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	短大で主体的に学ぶための基本的技能の習得を目指す。高校までとの学びの違いを理解し、短大での学びに必要なスタディスキルの習得をめざす。個人の幸福の追求だけではなく、社会の課題に目を向け、主体的に課題に取り組み、効果的に成果をアウトプットするための技法を学ぶ。
到達目標	① ものごとを広い視野で分析するための基礎的技法を身につける。 ② 大学生として必要な基礎的スタディスキルを身につけ、発揮できる。 ③ 個々の能力や個性を認識し、それらを活かして、主体的に学ぶ生活を送れるようになる。
授業の進め方	授業は小人数グループによる演習形式と、全員で受ける講義形式を適宜併用する。 意見交換や発表の機会があるので、主体的に意欲的に取り組むことが求め

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出課題は、担当教員から授業内、メールなどを通して個別にチェックとアドバイスがある。 作成中の課題に対しては、途中の段階でもチェックを受けることができる。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	2年間を通しての学びの計画 履修計画と学びの方向性について確認。卒業年次必修科目に向けて、それまでの科目で何をどう学ぶか考えます。 PCを持参し、シラバスを見ながら、チャレンジノートにCan Do チェックと計画を作成し提出します。
第2回	スケジュール管理、ファイリング スケジュール管理や、資料の管理方法について考えます。 記録の残し方、授業で学んだ内容を整理するタイミング等、振り返りを行う時期やポイントについて考えます。
第3回	知識をつける：図書館の利用 図書館での資料の検索方法について学び、実際に資料を探し借りてみる。 次回のグループ/ペアワークに向けて、次回までに資料を読み、ワークシートを完成する
第4回	グループワーク、ペアワーク 図書館で借りた資料を基に、ペアワーク、グループワークを行う。 グループでの話し合いや作業の進め方について学ぶ。
第5回	ディスカッションの進め方：防災をテーマに 誰の身にも等しく起こる可能性のある、命と暮らしの危機への対処をテーマに、視野を広げて考える。 ワークを行い、講演を聞き、それを基にグループディスカッションの練習をする。
第6回	ディスカッションの進め方：防災をテーマに 誰の身にも等しく起こる可能性のある、命と暮らしの危機への対処をテーマに、視野を広げて考える。 ワークを行い、講演を聞き、それを基にグループディスカッションの練習をし、まとめ方を学ぶ

第7回	まとめと振り返り、この後の学びに向けて 基礎的スキルの振り返り、Q1の学びの振り返り、Can Do の2度目の確認を行う (最終確認は、現代生活論の最終回でも行う)
-----	--

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>毎回の授業の資料を復習すること。次回までに課せられた予習課題をクリアしておくこと。 日常的にニュースをチェックする習慣を身につけ、家庭生活や社会生活に関する関心を広げること。 グループで取り組む課題も多いので、一員として迷惑が掛からないように授業外学習をしておくこと。 1授業につき1時間を目安としてください。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各種提出物（ワークシート他） 60% 最終課題 40%（チャレンジノート）
テキスト	ファイル教材を配布します。購入するテキストはありません。
参考文献	授業中適宜指示します

備考	<p>【関連受講科目】</p> <p>伝わりやすい日本語、正しい漢字、表記：言葉の力基礎 情報機器の扱い：コンピュータリテラシー 発信、発表の技術：プレゼンテーション基礎 視野の拡大、ニュースの理解：現代生活論、現代生活と社会</p>
----	---

年度	2025
講義名称	言葉の力基礎
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71521
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 東谷 一彦	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学での全ての学び、活動の基本であり、社会に出る上で最も重要な力である「日本語力」を高める授業である。語彙力をつけ、読み、聞き取り、理解する読解能力、わかりやすく伝える基礎的知識技術を身につけ、総合的に日本語力を高めることを目的とする。社会人にふさわしい日本語を正しく読み、書き、話し、聞けるように漢字や句読法についても学ぶ。
到達目標	様々な表現を理解し、それに対して自らの意見や感想をわかりやすく述べることができる。漢字力、語彙力を豊かにし、表現に生かすことができる。場面、目的に沿った表現を選べるようになる。日本語検定3級程度の日本語力を目指す。
授業の進め方	毎回、授業の最初に、語彙力を身に付けるための小テストを行う。テキストの項目ごとに例題による解説を行った上で、練習問題・応用問題に取り組む。練習問題・応用問題については、用意したワークシートを使用して解答する。練習問題・応用問題の解答・解説を行い、知識を定着させる。問題練習については、適宜グループワークなども取り入れる。テキストの項目ごとに「復習テスト」を行う。毎回、授業の最後には「リアクションペーパー」へ記述による振り返りを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出課題に対しては、授業内で総合的なフィードバックを行う。漢字、語彙などの小テストの解答・解説も授業内で行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・オリエンテーション ・日本語に関するアンケート ・第1回模擬試験（60分）	対面授業
第2回	・第1回小テスト ・第1回模擬試験の解答及び解説 ・テキスト第0回「はじめに」	対面授業
第3回	・第2回小テスト ・テキスト第12回「部首・音訓・熟語」 ・テキスト第12回「復習テスト」	対面授業
第4回	・第3回小テスト ・テキスト第13回「仮名遣い・送り仮名」 ・テキスト第13回「復習テスト」	対面授業
第5回	・小テスト第4回 ・テキスト第8回「類義語・対義語」 ・テキスト第8回「復習テスト」	対面授業
第6回	・小テスト第5回 ・テキスト第11回「コロケーション」 ・テキスト第11回「復習テスト」	対面授業

第7回	・小テスト第6回 ・テキスト第4回「品詞・活用の種類」 ・テキスト第4回「復習テスト」	対面授業
第8回	・小テスト第7回 ・テキスト第5回「ら抜き・レタス・さ入れ言葉」 ・テキスト第5回「復習テスト」	対面授業
第9回	・小テスト第8回 ・テキスト第6回「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」 ・テキスト第6回「復習テスト」	対面授業
第10回	・小テスト第9回 ・テキスト第7回「接続語・指示語と文章」 ・テキスト第7回「復習テスト」	対面授業
第11回	・小テスト第10回 ・テキスト第9回「動詞の自他・視点について」 ・テキスト第9回「復習テスト」	対面授業
第12回	・小テスト第11回 ・テキスト第10回「文体、話し言葉・書き言葉」 ・テキスト第10回「復習テスト」	対面授業
第13回	・小テスト第12回 ・授業評価 ・授業内試験（50分）	対面授業

事前・事後学修	小テストは必ず事前学習を行い、できなかったところは復習すること。テキストの予習や復習も毎回行うこと。予習・復習ともに1時間程度は必要である。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・提出物（ワークシート・復習テスト・リアクションペーパーなど）45% ・小テスト15% ・授業内試験40%
テキスト	『スキルアップ日本語力 大学生のための日本語練習帳』（東京書籍）
参考文献	特に指定はしないが、日頃から新聞や書籍を読むことが肝要である。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、道立高校にて国語科教員として実務経験を積み、生徒の語彙力や読解力、表現力の向上に取り組んできました。これらの経験を基に、国語教育を通じたコミュニケーション力や創造力を育む実践的な学びを提供する講義を展開します。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	プレゼンテーション基礎
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71531

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	人前で自らの意見を述べ、相手に伝える・説得する…プレゼンテーションは、現代社会では必要不可欠なスキルといえます。ビジネスの場だけでなく、授業内や日常生活においても、相手に「伝える」場面は多々あるものです。本科目では、人前で発表するという慣れのため、プレゼンテーションについて学び、実践します。また、他科目の授業でも技術が応用できるよう、意識して授業を進めます。
到達目標	① プレゼンテーションを理解し、必要な基礎的技術を身につける。 ② ストーリーを論理的に組み立て、相手を説得する補助資料を作成できる。
授業の進め方	理論的な講義解説と、演習（プレゼンテーション）を組み合わせ、プレゼンテーションに必要なスキルを身につけていきます。特に、この授業では人前で話すことに慣れてもらい、また資料を効果的に用いて表現することを学びます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	プレゼンテーションとは？ 一般的にプレゼンテーションと言われているものについて改めて考えてみます。 プレゼンテーションの目的を考えながら、最も必要な要素について学び、最初の実演に備えます。
第2回	プレゼンテーションをやってみよう① 1回目で学んだ内容をもとに、最初のプレゼンテーションにトライしてみます。 振り返りを行い、次回に向けて準備を始めます。
第3回	プレゼンテーションの準備をしよう 次回のプレゼンテーションの準備を行います。1回目とは異なる形式、目的、対象に向けてプレゼンテーションを考えます。 発表のための準備を完璧にできるよう計画を立て、実行します
第4回	プレゼンテーションをやってみよう② 1回目とは異なる形のプレゼンテーションを実演し、振り返りを行います。
第5回	プレゼンテーションの準備をしよう 次回のプレゼンテーションの準備を行います。1、2回目は異なる形式、目的、対象に向けてプレゼンテーションを考えます。 発表のための準備を完璧にできるよう計画を立て、実行します

第6回	<p>プレゼンテーションをやってみよう③</p> <p>1、2回目とは異なる形のプレゼンテーションを実演し、振り返りを行います。</p>
第7回	<p>プレゼンテーションを振り返る</p> <p>秋学期プレゼンテーション応用に向けて知識とスキルを整理しておきます。 秋学期にすぐに実演からスタートできるように準備を行います。」</p>

事前・事後学修	<p>プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）、プレゼンテーション後のコメント提出等、少なくとも2時間程度の事前事後学習が必要となると考えられます。隔週実施なので、十分な時間があると思います。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>発表の様子・技術 40%</p> <p>発表内容 40%（視覚資料・原稿など）</p> <p>授業内における提出物 20%</p>
テキスト	<p>必要に応じ、プリント等を配布します。</p> <p>自分自身で管理・保管を行って、作業や課題に活用してください。</p>
参考文献	<p>「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019」</p> <p>編：実教出版企画開発部 実教出版</p>

備考	<p>この授業は隔週開講です。次回までに、毎回の授業資料をまとめ復習し役立ててください。授業中の作業時間に終わらなかった活動は、次回授業までに必ず終わっておくようにしましょう。</p> <p>多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。図書館資料も活用してください</p>
----	--

年度	2025
講義名称	コンピュータリテラシー
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71541

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学の学修で必要となるOfficeソフトの使用について、基礎となる知識やスキルを学びます。 現在では就職後はもちろん、教育機関においてもコンピュータの操作スキルは必須のものとなっています。本学でもコンピュータを利用を前提としたカリキュラムが構成されています。 苦手だから、と避けるのではなく、自信を持って操作ができるように、この授業で学びましょう。 基本的にはOfficeソフトでもっとも普及している、Microsoft Officeを活用して授業を進めます。
到達目標	① コンピュータを利用して基本的なファイル操作、文書作成（レポート程度）ができるようになる。 ② 情報社会で必要となる情報セキュリティや情報モラルなどの基礎的な知識を理解する。
授業の進め方	毎回の課題の説明を行った後、実際に課題の作成を行ってもらい、提出します。 毎回コンピュータが必要ですので、忘れずに持参してください。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で出題された問題や質問は、WebClassを通じて回答します。 また授業の冒頭で、全体的な回答を行います。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 大学のコンピュータ環境や、大学での学修に必要なコンピュータスキルについて考えます。
第2回	文書作成「Word」 代表的なワードプロセッサである、Wordを用いてチラシを作成します。
第3回	文書作成「Word」 代表的なワードプロセッサである、Wordを用いてレポートを作成します。
第4回	表計算「Excel」① 代表的なスプレッドシートである、Excelを用いて表を作成します。
第5回	表計算「Excel」② 代表的なスプレッドシートである、Excelを用いて表計算を実施します。
第6回	プレゼンテーション「PowerPoint」 代表的なスライドである、PowerPointを用いてスライドを作成します。
第7回	情報セキュリティ 社会人として最低限理解しておくことが必要となる情報セキュリティについて学びます。

事前・事後学修	課題の提出の有無が評価を左右します。必ず完成させて提出するようにしましょう。 1時間程度の家庭学習時間が目安となります。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	2025/04/01

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の課題提出 80% まとめ問題 20%
テキスト	テキストは用いません。随時プリント資料を配布します。

年度	2025
講義名称	Basic English[①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71551
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 廣山 メアリー	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	今まで学習してきたであろう「試験・入試」を目的とした学び方ではなく、「実際に使う、何とか通じる」を目指して、今までと異なる方向性から英語をやり直すための授業です。ゲームやアクティビティを通して日常的な単語や表現を実際にどんどん使うことで、定着を図ります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な英文法、特に語順に慣れ、適切な場面で発話できる。 ・ポイントを押さえた正しい発音で、英語を声に出すことに抵抗感をなくす。 ・日常生活における身近な様々な表現を、英語でどういふのかを知り、できる限り覚えて運用できる。 ・海外に興味を持ち、英語を学んで外に出かけたいというモチベーションを持てる。
授業の進め方	説明、解説の時間も取りますが、基本的にはどんどん声を出し、使ってもらう活動、アクティビティがメインになります。授業冒頭、Readingのアクティビティもありますので、積極的に参加しましょう。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中での実技実演がメインとなるので、その場でのフィードバックが中心です。
----------------------------	---------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンスとウォーミングアップ メアリーのワールドトーク 英語でじゃんけんお金ゲーム
第2回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう① (分担とアイデアだし)
第3回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう① (分担とアイデアだし)
第4回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう② (分担とアイデアだし)
第5回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう② (作成と発音)
第6回	This is my room プレゼンテーション準備
第7回	This is my room プレゼンテーション実施 小テスト①
第8回	海外に行ってみよう 空港での会話 練習

第9回	海外に行ってみよう 空港での会話 実践収録 小テスト②
第10回	お店で買い物をしよう 準備と学習
第11回	お店で買い物をしよう 準備と学習
第12回	お店で買い物をしよう 実習テスト
第13回	総復習とパーティ（実習）

事前・事後学修	授業で知った単語や表現を、次回授業までに覚えて使えるようにしておきましょう。学習には1時間以上の時間が必要です
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実演 40 提出物 30 Reading Card 30
------------------	------------------------------------

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、清田区で英会話スクールを長年経営し、指導経験を積むとともに、小学校での英語学習のボランティア活動を通じて子どもの教育に貢献してきました。これらの経験を基に、実践的で応用力のある学びを提供する講義を展開します。
-------------------------------	--

年度	2025
講義名称	Basic English[②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71551

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

アクティブ・ラーニング

グループワーク

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンスとウォーミングアップ メアリーのワールドトーク 英語でじゃんけんお金ゲーム
第2回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう① (分担とアイデアだし)
第3回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう① (作成と発音)
第4回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう② (分担とアイデアだし)
第5回	日常の動作や物を、Visual Dictionaryにしよう② (作成と発音)
第6回	This is my room プレゼンテーション準備
第7回	This is my room プレゼンテーション実施 小テスト①
第8回	海外に行ってみよう 空港での会話 練習
第9回	海外に行ってみよう 空港での会話 実践収録 小テスト②
第10回	お店で買い物をしよう 準備と学習
第11回	お店で買い物をしよう 準備と学習
第12回	お店で買い物をしよう 実習テスト
第13回	総復習とパーティ (実習)

DP (学位授与の方針) との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力

2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

年度	2025
講義名称	ビジネス実務Ⅰ〔①/2〕
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>ビジネスの現場で必要とされる基本的ビジネスマナーと組織内コミュニケーションを習得することを目的とします。</p> <p>また、実習を通して実践能力を身につけます。</p> <p>様々な仕事の場面で臨機応変な対処ができるように、社会人としての基礎となる業務遂行能力を養います。</p>
到達目標	<p>どのような職種についてとしても、基本的なビジネスマナーの知識を理解している人材となる。</p> <p>その知識をもとに、社会人としての実践力を身につける。</p> <p>サービス検定準1級を取得する。</p>
授業の進め方	<p>社会人としての基礎となる部分はテキストやプリントを使用して、講義をしていきます。</p> <p>知識を理解した上で電話対応・来客対応・接客の場面对応など、実習を通して体験学習をしていきます。</p> <p>冠婚葬祭の社会人として求められるマナーはDVDを活用しながら説明していきます。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>課題があった場合には授業内でフィードバックしていきます。</p> <p>また実習では、随時、コメントをしてさらに繰り返していくので、実際に社会人になった後に恥ずかしい思いや失敗をしないようにできるはずです。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、検定の説明、社会人として求められる能力について 仕事の基本、敬語のつかい方 電話対応の基本 電話対応の実習 来客対応の基本 来客対応の実習 総括・検定対策・テスト 	対面授業

事前・事後学修	<p>授業後は学んだことの振り返りをしてください。説明された部分を見返したり、実習後は何ができなかったか、どうすればよいか振り返りましょう。</p> <p>また、準一級を受験する場合は過去問で苦手部分を見つけ出すことがまず大事ですので、その後、そこを重点的に自分で勉強すれば合格に繋がります。</p> <p>授業前に見直しすることで、授業の時に質問して、クリアにさせることを繰り返しましょう。</p> <p>事前事後の学習は2時間を目安にしましょう。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	筆記試験 70点 実技 30点
テキスト	「いちばんわかりやすいビジネスマナー」 岡田小夜子監修 成美堂出版
参考文献	「新しい時代の秘書ビジネス実務」 全国大学実務教育協会編 「サービス接客受験ガイド準一級」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	検定に関しては授業内で詳細を説明します。

年度	2025
講義名称	ビジネス実務Ⅰ [②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>ビジネスの現場で必要とされる基本的ビジネスマナーと組織内コミュニケーションを習得することを目的とします。</p> <p>また、実習を通して実践能力を身につけます。</p> <p>様々な仕事の場面で臨機応変な対処ができるように、社会人としての基礎となる業務遂行能力を養います。</p>
到達目標	<p>どのような職種についてとしても、基本的なビジネスマナーの知識を理解している人材となる。</p> <p>その知識をもとに、社会人としての実践力を身につける。</p> <p>サービス検定準1級を取得する。</p>
授業の進め方	<p>社会人としての基礎となる部分はテキストやプリントを使用して、講義をしていきます。</p> <p>知識を理解した上で電話対応・来客対応・接客の場面对応など、実習を通して体験学習をしていきます。</p> <p>冠婚葬祭の社会人として求められるマナーはDVDを活用しながら説明していきます。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>課題があった場合には授業内でフィードバックしていきます。</p> <p>また実習では、随時、コメントをしてさらに繰り返していくので、実際に社会人になった後に恥ずかしい思いや失敗をしないようにできるはずです。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、検定の説明、社会人として求められる能力について 仕事の基本、敬語のつかい方 電話対応の基本 電話対応の実習 来客対応の基本 来客対応の実習 総括・検定対策・テスト 	対面授業

事前・事後学修	<p>授業後は学んだことの振り返りをしてください。説明された部分を見返したり、実習後は何ができなかったか、どうすればよいか振り返りましょう。</p> <p>また、準一級を受験する場合は過去問で苦手部分を見つけ出すことがまず大事ですので、その後、そこを重点的に自分で勉強すれば合格に繋がります。</p> <p>授業前に見直しすることで、授業の時に質問して、クリアにさせることを繰り返しましょう。</p> <p>事前事後の学習は2時間を目安にしましょう。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	筆記試験 70点 実技 30点
テキスト	「いちばんわかりやすいビジネスマナー」 岡田小夜子監修 成美堂出版
参考文献	「新しい時代の秘書ビジネス実務」 全国大学実務教育協会編 「サービス接客受験ガイド準一級」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	検定に関しては授業内で詳細を説明します。

年度	2025
講義名称	コンピュータ統計【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71621

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>社会に出た後、グラフや表を読み取る力、作成する力は必須となります。そのもととなる数字に着目して、統計資料の読み方や活用方法を通して、北海道の姿を統計資料から概観します。</p> <p>私たちが生活する北海道のリアルな数字を読みこなし、社会に貢献するための基礎的な知識を得ることを目的とします。</p> <p>「数理・AI・データサイエンス」関連科目です。</p>
到達目標	<p>① Excelを使用した表やグラフを作成することができる。</p> <p>② 一般に公開されている統計資料を読み、事象を説明することができる。</p> <p>③ 統計資料をもとに、北海道・日本を比較して、発表することができる。</p>
授業の進め方	<p>教員からの講義・説明の後、課題にしたがって作業を行います。</p> <p>最終回では、統計を用いたプレゼンテーションを作成し、発表する準備を行います。</p>

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>課題の完成度等について、個別にWebClass等で評価・コメントを行います。</p> <p>また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします。</p>
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンスと基本統計量	オンデマンド
第2回	ヒストグラムを作る	オンデマンド
第3回	標準偏差から見るばらつき	オンデマンド
第4回	相関から見る関係性	オンデマンド
第5回	アンケートの作成と集計	オンデマンド
第6回	北海道に関する統計を利用して発表してみよう①	オンデマンド
第7回	北海道に関する統計を利用して発表してみよう②	オンデマンド

事前・事後学修	<p>コンピュータを使用して統計の操作を行うので、ブラウザの利用や表計算ソフトはある程度使える状態にしておいてください。</p> <p>毎回の課題をきちんとこなして提出することが重要です。未提出の課題は採点されませんので、授業後に必ず提出しましょう。</p> <p>授業の復習や宿題の作成のために1時間程度の学習が目安となります。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	

成績評価基準と方法	課題の提出・内容・宿題 50% まとめ課題 30% 発表 20%
テキスト	教科書は指定せず、プリントを配布します。

年度	2025
講義名称	現代生活と社会
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71631

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	将来の豊かな生活を作り上げるために、現代社会の現状と問題と向き合い、その解決方法についての必要な知識を身につける。特に、変化の激しい現代社会において、自立した生活に必要な知識（ライフサイクル、働き方とワークバランス、家計など）をもとに、自らの将来をデザインすることを目指す。加えて、多くの学科科目の学びで必要となる計算用具の使い方と計算スキルに関する知識も身につける。
到達目標	①人生設計にかかわる現代社会の特徴や要素について、基礎的な知識を身につける。 ②自己を取り巻く社会や環境との関連について、共生と自立を目指した心豊かな生活設計の礎を築く。
授業の進め方	演習形式で、説明→課題の実施→解答・振り返りを繰り返しながら進める。また、課題によってはグループで考える形式や、ディスカッションを用いる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個別に返却すると同時に、授業の冒頭において全体への説明を行う。
----------------------------	---------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション	対面講義
第2回	自立のためのファイナンス①：ファイナンスに必要な計算知識と電卓操作	対面講義
第3回	自立のためのファイナンス②：ライフイベントと家計管理	対面講義
第4回	自立のためのファイナンス③：資産形成の基本	対面講義
第5回	リスクとセーフティネット	対面講義
第6回	ライフデザインのための情報収集と調査	対面講義
第7回	ライフデザイン シミュレーションとレポート作成、振り返り	対面講義

事前・事後学修	調査したり、課題の完成のために1時間程度の学修が目安となる。
---------	--------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①レポート 30点 ②提出物 70点
-----------	-----------------------

テキスト	「大学生のための人生とお金の知恵」金融広報中央委員会
参考文献	「これであなたもひとり立ち」金融広報中央委員会 「10代から学ぶ パーソナル ファイナンス」日本FP協会

年度	2025
講義名称	ビジネス会計
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71641

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	ビジネスの世界では、日常的に数字を扱う場面が数多くあり、自社や自分自身が所属する部署の現状を把握するために会計数値をはじめとした数字の意味を理解することが大切です。この授業では小売業で販売されている各種商品の製造を行っている製造業、ならびに製品原価（各種商品の原価）に焦点をあてます。様々なビジネスシーンで求められる製品やサービスの収益と原価（コスト）の計算方法、各種差異の分析に関する基本的な考え方を修得します。製品やサービスの原価には、「コントロール（統制）」と「マネジメント（経営管理）」といった側面があり、ビジネスを遂行していく上で、コスト意識（コストカットとコストダウン）を持つ、常に費用対効果を考えて、工夫・改善しようとする意識を育てます。また、後半では、日商簿記検定3級の対策も行います。
到達目標	①製造業における製品の原価計算に関する基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し、業務活動に利活用するための基本的な知識とスキルを身につける。 ③日商簿記検定3級受験のための基本的な知識とスキルを身につける。 ②製品の製造方法に見合った製造原価の計算方法と原価管理の意味を理解し、基本的な差異の分析ができるようになる。
授業の進め方	原価計算に関する基本的な用語や仕組みを理解しやすくするために、授業は対面講義形式を基本とした内容解説を行い、その後、受講者に計算や作表・分析してもらう演習形式により実施します。また、講義の効果を考えて、講義内容の順番を入れ替えたり、ZOOMによる遠隔授業を行うこともあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	集めた課題は添削して返却することを基本とし、授業の中で補足解説をします。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：原価計算の仕組みと意義、原価計算初級検定と学修方法、日商簿記検定について	対面講義
第2回	原価計算の基礎：原価計算の用語と意味、製造原価の分類と計算方法 利益計画と統制：変動費と固定費、CVP分析、損益分岐点の売上高	対面講義
第3回	予算実績差異分析、製造原価の分類と集計①（原価計算の基本的な流れ、材料費・労務費・経費の分類と集計）	対面講義
第4回	製造原価の分類と集計②（製造直接費と製造間接費、完成品原価と月末仕掛品原価の計算）	対面講義
第5回	損益計算書の作成（売上総利益・営業利益の計算、損益計算書の作り方）、原価計算初級の仕訳	対面講義
第6回	原価計算初級検定総合演習①：用語問題・計算問題・仕訳問題のプリント演習	対面講義
第7回	原価計算初級検定総合演習②：用語問題・計算問題・仕訳問題のパソコン演習	対面講義
第8回	日商簿記検定3級の仕訳演習①	対面講義
第9回	日商簿記検定3級の仕訳演習②	対面講義
第10回	日商簿記検定3級の精算表の解き方	対面講義
第11回	日商簿記検定3級の貸借対照表と損益計算書の解き方	対面講義
第12回	伝票集計、費用の前払いと未払い、収益の前受けと未収に関する記帳処理	対面講義
第13回	減価償却、利益処分、適語補充に関する演習、授業内考査と振り返り	対面講義

事前・事後学修	○事前学習：次回の講義内容についての指示に沿って、テキストをよく読んで予習を行い、課題を明確にすることが大切です。 ○事後学習：講義で学んだ内容をしっかりと問題演習して、理解と定着を図ることが大切です。 ※ 前半の原価計算に関する予習と復習の時間は1時間程度を目安とします。日商原価初級検定の受験対策ならびに、日商簿記検定3級受験のための基本スキルの範囲の学修については個人差があります。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①定期試験 60% ②提出物・検定取得状況 40% ※ 検定試験結果をマイナスで評価することはありません。
テキスト	『スッキリわかる日商原価計算初級』滝澤 みなみ 著（TAC出版） 『2025年版 日商簿記検定 模擬試験問題集3級 模試8回』 ネットスクール出版 ※ 簿記入門で使用したテキストを継続使用します。
参考文献	『日商 原価計算初級テキスト』尾畑 裕・挽 文子【編著】（中央経済社） 『土日合格 日商原価計算初級』資格の大原 著（中央経済社）

備考	日本商工会議所 原価計算初級検定 受験料2,200円 5月中旬に学内CBT受験予定 日本商工会議所 日商簿記検定3級 受験料3,300円 学内CBT受験可能、受験日は要相談 ※ 学内受験の場合には、事務手続き費用（550円）不要。
----	---

年度	2025
講義名称	English I
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71711

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	文法指導以外はほぼ英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。 Except for the complicated grammar instruction, this class will be in English and focus on developing the student's conversational skills. During lessons, students will learn new vocabulary and use the new words in role plays, short descriptions of daily routines, and other conversational activities.
到達目標	1.新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする 2.意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる 1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities. 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.
授業の進め方	ロールプレイ、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけま。意欲的に参加することが求められる。 This course will require students to actively communicate with each other during group discussions and pair dialogues. They will also perform role plays of common daily events. In each lesson there will be specific vocabulary to learn and practice, and students are expected to actively participate in all aspects of the class.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。 Feedback: The instructor will provide constant (general and specific) feedback during lessons and all aspects of the developing activities.
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	Unit 1: Starting Conversations
第2回	Unit 2: Talking about Jobs
第3回	Unit 3: Daily Life / Speaking Test ①
第4回	Unit 4: Friends and Family
第5回	Unit 5: Hotel Rooms
第6回	Unit 6: Phone Calls / Speaking Test ②
第7回	Unit 7: Ordering in Restaurants

事前・事後学修	授業で指示、配布された練習を行うこと。語いを復習し、授業での会話やアクティビティで使えるようにしておくこと。 Students should review the activities and vocabulary learnt in class, do the exercises about the material given in class and use it to prepare for conversations and activities in class.
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Speaking Test ・スピーキングテスト（各2回 25%、合計50%） Class Activities (discussions, role-plays, etc) ・授業内実演（ディスカッション、ロールプレイなど）30% Homework ・課題宿題 20%
テキスト	Handouts and other materials will be provided in the lessons. 授業で配布するプリントや資料を配ります。
参考文献	English Conversation 1 Student Book Third Edition, A Textbook for Eikaiwa Lessons in Japan 著者: Tom Whitaker

年度	2025
講義名称	Customer Service English
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71731

担当教員

氏名	所属
◎ エレーナ フォルトゥナート	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>Foreign tourists visiting Japan are increasing rapidly. Many people have already had experience assisting foreign customers while working part-time. In this course, we will focus on using simple English to communicate effectively in face-to-face customer service situations. You will learn how to guide foreign customers, ask about their needs, and provide assistance.</p> <p>By imagining the workplace you are considering for future employment and using notes if necessary, the goal is to communicate actively and confidently with foreign customers.</p> <p>現在、海外から日本を訪れる外国人観光客はどんどん増えています。すでにアルバイトなどでも、外国人のお客様の対応をしたことがあるという人も少なくないでしょう。この授業では、主に、簡単な英語を使って、対面接客の場で、外国人のお客様をご案内する、ご要望を伺うなどのコミュニケーションがとれるよう学びます。自分が就職を考えている職場を想定し、メモを活用しながらでも、外国人のお客様と積極的にコミュニケーションがとれることを目指します。英語で</p>
到達目標	<p>When foreign customers visit, develop the confidence and attitude to engage with them without avoiding communication. 外国人のお客様がいらした場合、逃げずにコミュニケーションを取ろうとする姿勢と自信を身に着ける</p> <p>Imagine a customer service workplace where you would like to work, learn the necessary expressions, and use them effectively. 自分が働きたいと思う対面接客の職場を想定し、必要な表現を覚えて使える</p> <p>Learn about the different aspects of interacting with foreign customers compared to Japanese customers. 日本人のお客様と接する場合と異なる要素について知る</p>
授業の進め方	<p>Students will think of and memorize necessary expressions and vocabulary, then practice using them through multiple role-plays with a partner or the instructor. They will also create an original manual, organizing and recording essential expressions and words so they can quickly look them up when needed in their workplace.</p> <p>必要な表現や単語を学生自身が考えて覚え、ペアまたは教員とのロールプレイを複数行い、で使えるように練習します。自分の職場で必要な表現や言葉を、すぐに調べられるように整理して記入したオリジナルのマニュアルを作成します。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback and advice on assignments and submissions will primarily be given individually during class. 提出物、課題などに対しては、主に授業中に個別にフィードバック、アドバイスをを行う
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	<p>Course orientation. Who are foreign customers and how to listen to them.</p> <p>How to identify possible customer inquiries. Prepare answers for them (commonly used vocabulary and expressions to answer simple inquiries).</p> <p>Start preparation of the manual – vocabulary and expressions list to help you in the future.</p> <p>オリエンテーション。外国人客はどのような人たちで、どのように彼等の要望を聞けばよいかを学ぶ。簡単な英語表現で、シンプルな質問に答える方法を学ぶ。オリジナルのマニュアル作成（語彙、表現のリスト）を、将来に役立てるために作成する準備をする</p>

第2回	<p>Expressions and specific vocabulary used in the workplace</p> <p>1 food shops and restaurants, 2 café and bar, 3 shopping center information, 4 transportation (train, bus, airport)</p> <p>場面に必要な語彙や表現を学ぶ</p> <p>1. レストランなどの飲食店 2. カフェやバー 3. ショッピングセンター、インフォメーション 4. バス、電車、飛行機などの交通機関</p>
第3回	<p>Handling numbers (phone numbers, flight, train and bus numbers, product price)</p> <p>Vocabulary and expressions for payment methods</p> <p>電話番号、フライトナンバー、バスや電車の時刻、モノの値段等の数字に関する表現 会計に必要な語彙と表現</p> <p>Think of a situation. Prepare a story to be played in the class (instructions). This will be part of your final demonstration exam. シチュエーションを想定し、ロールプレイ用のストーリーの準備をする。これは、最後のレモンストレージョンテストの一部に含まれる。</p> <p>Start writing your story (use the vocabulary and expressions from weeks 1, 2, 3) レッスン1, 2, 3で学んだ語彙や表現を用い、ストーリーを書く。</p>
第4回	<p>Handling numbers (phone numbers, flight, train and bus numbers, product price)</p> <p>Vocabulary and expressions for payment methods</p> <p>Check your story – settings, correctly used expressions and vocabulary Do you need any special props?</p> <p>Check your manual</p> <ul style="list-style-type: none"> - make sure you included ALL materials given in the classes - did you divide the manual in sections for easier consultation? - check for spelling mistakes <p>数字についての学びを継続しながら、ロールプレイ用のストーリーの準備をする。そのために必要なサインなどの準備をする。 ロールプレイ時、テスト時に必要なマニュアルの完成度の確認と整理を行う。</p>
第5回	<p>Vocabulary and expressions to use in special situations (official flyer with warning images and symbols)</p> <p>1 earthquake 2 fire 3 storms, floods 4 personal accident</p> <p>Handling foreigners in dangerous situations (commanding)</p> <p>地震、家事、洪水や嵐、事故などの際に必要な表現を学ぶ。警告の掲示物について学ぶ。 危険な状況下にいる外国人を安全に誘導する方法を学ぶ</p>
第6回	<p>Quiz</p> <p>Finish writing your story – check / revise / read</p> <p>Make sure you have all the information and props you need to play your story</p> <p>Practice demonstration & Feedback</p> <p>小テスト（会計、数字、緊急時の表現）</p> <p>最終デモンストレーション試験のためのストーリーを完成させ、チェックを受け、読む練習をする。デモンストレーション時に必要な道具、素材がそろっているか確認する</p>
第7回	<p>Final demonstration of your story</p> <p>Final writing test</p> <p>Submission of the manual</p> <p>Feedback</p> <p>最終デモンストレーションテスト、最終筆記試験、マニュアルの提出、フィードバック</p>

**事前・事後
学修**

Reviewing the expressions and vocabulary learned in class, writing role-play scripts, and practicing pronunciation are necessary. Therefore, more than one hour of study outside of class is required.
授業で学んだ表現や単語を復習し、ロールプレイの原稿を書き、発音練習をするなどが必要で、1時間以上の授業外学習が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	Final writing test 30% Manual 40% Final demonstration 30%
-----------	---

年度	2025
講義名称	韓国語(初級)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71741

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	<p>授業の目的 本授業は、韓国および韓国語に関する基礎知識を確実にし、韓国語の入門レベルのスキルを習得することを目的とします。韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、正しく読み書きできるようになることを目指します。また、簡単な表現を用いた基礎的な日常会話や自己紹介ができるように学習を進めます。さらに、韓国の社会・文化に触れ、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解の姿勢を養います。</p> <p>授業の概要 本授業では、韓国語の入門レベルの文法や語彙を学び、ハングルの正しい発音と音読に重点を置いて学習します。テキストや音声教材を活用しながら、発音や基本的な会話表現を習得し、スムーズに自己紹介や簡単な日常会話ができることを目標とします。また、韓国の社会や文化についての講義を通じて、言語とともに韓国の背景を理解し、国際社会への関心を深めます。授業では、実践的な発話練習やリスニング練習を行い、ハングルの音読や自己紹介ができる能力を中心に評価します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">韓国語に対する関心を深め、基礎的な知識を身につける。ハングルの仕組みを理解し、正しい読み書きできるようになる。簡単な挨拶や自己紹介ができるようになり、日常会話の基礎を習得する。韓国の社会や文化についての理解を深め、国際的な視野を養う。
授業の進め方	授業は配布資料に沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。基本的な文法や表現を学んだ上で、発音練習や簡単な会話練習を取り入れながら、実践的な韓国語の運用能力を養います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	韓国・韓国語についての概略 母音①	対面
第2回	母音② 子音②	対面
第3回	有声音化 激音	対面
第4回	濃音	対面
第5回	パッチム①	対面
第6回	パッチム②	対面
第7回	二重パッチム	対面
第8回	連音化	対面

第9回	助詞「は」 「です・ですか」の硬い言い方	対面
第10回	「です・ですか」の柔らかい言い方	対面
第11回	助詞「が」 「ではありません」	対面
第12回	助詞「も」	対面
第13回	まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	<p>次回の授業範囲について、新しい単語の意味を調べるなど、しっかりと予習を行ってください。</p> <p>また、前回の授業内容を振り返り、学習した単語や文型を復習してください。</p> <p>予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としてください。</p>
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：30% 口頭発表：10% 授業への参加度：10%
テキスト	担当教員による配布
参考文献	なし

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行った上で授業に参加してください。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。 ・4大の「韓国語I」と同様なレベルの授業です。
-----------	---

年度	2025
講義名称	調理実習(基本)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71811
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得することを目的とします。
到達目標	調理時に大切な衛生管理を理解すること。調理器具の種類や取り扱い方について理解すること。料理構成や調理手法を学び、献立作成ができるようになることを目標とする。
授業の進め方	講義と実習形式

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内やLMSを通じて解説します。
----------------------------	-------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・アレルギー調査
第2回	調理実習室の使用方法について・食品衛生について（講義）
第3回	調理の基本①（講義） ※「食の検定」の内容を含む
第4回	調理の基本②（講義） ※「食の検定」の内容を含む
第5回	調理実習（和食）
第6回	振り返り・実習記録ノート作成
第7回	調理実習（お弁当）
第8回	振り返り・実習記録ノート作成
第9回	調理実習（韓国料理）
第10回	振り返り・実習記録ノート作成
第11回	調理実習（お弁当）
第12回	振り返り・実習記録ノート作成
第13回	まとめ

事前・事後学修	実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください（各2時間程度）。
---------	--

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習記録ノート：50% その他提出物：50%
テキスト	適宜プリント配付
参考文献	調理に関する書籍等。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、東海大学医学附属大磯病院の栄養科において2008～2015年の勤務経験があり、患者の栄養管理や食事指導に携わりました。その実務経験を基に、栄養学の実践的な視点を学べる講義を展開します。
-------------------	--

年度	2025
講義名称	健康とスポーツⅠ[総キ]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71821
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎金 誠	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。健康とスポーツⅠでは、特にネット型のスポーツを通じて、そのスポーツの種目特性やルールについて学びます。ゲームの中でルールを理解し、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じたコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身につけることができる。
授業の進め方	基本的には、実践形式で行います。健康とスポーツⅠでは、ネット型のスポーツを通じて、種目特性やルールについて学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えていきます。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身につけることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス(種目説明)
第2回	ネット型ゲームの特性
第3回	ネット型ゲームの基礎的技能の獲得
第4回	ネット型ゲームの基礎的技能の応用
第5回	ゲーム（ルールと基礎的技能）
第6回	ゲーム（基礎的技能の応用）
第7回	実技テスト

事前・事後学修	本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前にはストレッチを行うことを心がけて下さい。 【必要な時間】 継続的な学習活動を心がけ、1日40分(6日で4時間)を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	スポーツ(実施種目)の理解度と取り組み(マナー) 40% 種目に特化した基礎的な技能の到達度 20% 種目に特化したルールの理解度 20% 課題レポート 20%
テキスト	授業時に適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、スポーツ実践の指導歴を通じて、競技指導やトレーニング方法の開発に豊富な経験を積んでいます。この実務経験を基に、具体的な技術や指導方法を活かした実践的な学びを提供する講義を展開します。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	健康とスポーツⅡ[総キ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71822
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎金 誠	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。健康とスポーツⅠでは、特にゴール型のスポーツを通じて、そのスポーツの種目特性やルールについて学びます。ゲームの中でルールを理解し、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じたコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。
授業の進め方	基本的には、実践形式で行います。健康とスポーツⅡでは、ゴール型のスポーツを通じて、種目特性やルールについて学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えていきます。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身に付けることを目指します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス(種目説明)
第2回	ゴール型ゲームの特性
第3回	ゴール型ゲームの基礎的技能の獲得
第4回	ゴール型ゲームの基礎的技能の応用
第5回	ゲーム（ルールと基礎的技能）
第6回	ゲーム（基礎的技能の応用）
第7回	実技テスト

事前・事後学修	<p>本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前にはストレッチを行うことを心がけて下さい。</p> <p>【必要な時間】 継続的な学習活動を心がけ、1日40分(6日で4時間)を目安とします。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	スポーツ(実施種目)の理解度と取り組み(マナー) 40% 種目に特化した基礎的な技能の到達度 20% 種目に特化したルールの理解度 20% 課題レポート 20%
テキスト	授業時に適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、スポーツ実践の指導歴を通じて、競技指導やトレーニング方法の開発に豊富な経験を積んでいます。この実務経験を基に、具体的な技術や指導方法を活かした実践的な学びを提供する講義を展開します。
-----------------------	---

年度	2025
講義名称	生活文化
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72111

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	私たちの生活環境、社会環境はめまぐるしく変化しているが、長い歴史の中で培われてきた日本の伝統的な生活文化について知識を深めることはとても大切です。本科目では、社会生活を送る上で必要な生活文化に関する基礎知識と歴史的由来について学習し、自らが文化の作り手、担い手であることを意識できるようになることを目指します。
到達目標	より豊かな生活を送るために日本の生活文化に関する基本的な知識と特徴を理解すること、日常生活の中にある「生活文化」を知り、その在り方について、考察することを目標とする。生活文化について学び、今後の自分たちが新たな生活文化を作っていくという意識をもって生活できるようになる。
授業の進め方	授業は講義形式と演習形式を適宜組み合わせで行います。課題に基づいたグループワーク、ディスカッション等も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内やLMSを通じて解説します。
----------------------------	-------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・日本の食①
第2回	日本の食②
第3回	日本の衣①
第4回	日本の衣②
第5回	日本の住・ポスター作成の準備
第6回	ポスター作成
第7回	ポスター発表・まとめ

事前・事後学修	毎回の授業内容をまとめ、復習をしてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、自分の送りたい生活、日常の中の「文化」を意識して生活してみましょう（1時間程度）。 また、異文化生活の授業の学びを振り返っておくと良いでしょう。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	● 2025/04/01

成績評価基準と方法	提出物：60% ポスター発表：40%
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	日本の伝統文化、年中行事に関する書籍等

年度	2025
講義名称	食生活論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72121

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	日本人の食生活は、多種多様な食品を利用する機会が増大しているが、不適切な食物摂取に起因する疾病や栄養上の課題も多く、食品の安全性への不安も高まっています。本講義では人間生活の基礎である食について学ぶとともに、日本の食生活の現状と問題点を理解し、健康的な食生活のあり方について考察します。
到達目標	食品、栄養、健康に関する基礎的な知識を習得すること、日本の食生活の現状と動向、問題点が適切に把握できるようになること、食生活の意義と望ましいあり方について考察できるようになることを目標とします。
授業の進め方	提示したスライドを中心に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの解答、提出された課題等については授業内およびLMSを通じて解説します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・健康とは・健康と法律・食べる力=生きる力
第2回	日本の食・日本の食生活と和食
第3回	世界の食生活①
第4回	食の課題と未来①
第5回	食の課題と未来②
第6回	何をどれだけ食べるか
第7回	献立の基本
第8回	食品衛生・食品の保存と貯蔵
第9回	食べ物とアレルギー
第10回	食品の選択
第11回	食と地球の未来を考える（SDGs）
第12回	世界の食生活②
第13回	期末試験・まとめ

事前・事後学修	次回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてノート等にまとめてきてください。授業の冒頭で、前回の授業内容について小テストを行います。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>期末試験・小テスト：50%</p> <p>提出物：50%</p>
テキスト	<p>食の検定を受験する学生は「食の検定」のテキスト購入を推奨します。</p>

年度	2025
講義名称	[夏集]衣生活論
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72122
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 畑 育実	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	人が被服を着用する目的と効果を知り、フォーマルと普段着の違い、素材や特徴を学び、社会生活において衣装の役割や機能、心理的側面を理解しコミュニケーションを円滑にする方法を学ぶ。
到達目標	【到達目標】 衣生活の生理的側面、社会・心理的側面を理解し、人にとっての被服の関りかた、目的と効果を説明することができる。 素材の特性と特徴の習得により、衣生活における外面的アプローチができ、企画提案では自主性、情報収集力、積極性、分析力、発信力が我々のファッション生活の一部になることを実践を通して理解し、協調性をもって完成させることが出来るようになる。
授業の進め方	講義で習得した知識を応用し、企画や実践を個別に、又ははグループワークで提案する

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<小テスト> 授業後の質疑応答の時間に確認、及びアンケートを実施し内容の確認 <試験> 設定した内容の完成度の確認を当日に総評
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス～授業目的と今後の内容、自己紹介。衣生活について	対面
第2回	②テキスタイルブック作成、オシャレとは、衣服から見える印象、フォーマルウェアとデザインについて	対面
第3回	③フォーマルウェアと普段着の違いについて	対面
第4回	④フォーマルウェアのルール、プロトコールについて	対面
第5回	1～4講義の中間チェック	対面
第6回	和装について	対面
第7回	浴衣着付け	対面
第8回	アイテムの特性をいかしたデザイン提案1	対面
第9回	アイテムの特性をいかしたデザイン提案2	対面
第10回	2025年トレンドコレクションDVD視聴	対面
第11回	イメージに合わせたスタイル提案	対面
第12回	テーマに合わせた衣装のデザイン企画製作1	対面
第13回	テーマに合わせた衣装のデザイン企画製作2	対面

第14回	テーマに合わせた衣装のデザイン企画製作3	対面
第15回	テーマに合わせた衣装のデザイン企画製作の発表とフィードバック	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 1、2回目 素材帳(テキスタイルブック)を制作のため、ルーズリーフ、ファイル、ハサミ、ノリ、テープなど、用意持参
	【必要な時間】 予習・復習合わせて1時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内試験60%(14週目実技40%、15週目振り返り20%) 小テスト20%(振り返りアンケート)
テキスト	フォーマルウェアルールブック

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、有限会社DADDIKU fashionの代表取締役として、TVやタレントを対象にスタイリスト、ヘアメイク、ファッションデザイナーとして活躍するとともに、美の総合プロデュースを行うイメージカウンセラーとして幅広い教育活動を展開してきました。これらの実績を基に、基礎から応用までを実践的に学べる講義を展開します。
--------------------------	--

年度	2025
講義名称	住生活論
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72123
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 早川 陽子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	生活とは何か、ということを構造的に考察し、生活の原点である住まいを家族、歴史、住環境、インテリアとのかかわりから学習します。 北海道の住宅の歴史と特徴も学びます。 みなさんが近い将来、快適で豊かな住まいを創ってゆくために、賢い消費者として必要な知識を修得します。
到達目標	人間にとっての住まいの大切さや基礎知識を理解し、自分の住まいや暮らす地域に関心を持つことで将来の暮らし方を想像出来るようになります。 講義で習得した知識をもって「私らしい住まい」を設計します。 この作業は住まいへの関心を促し、より良い暮らし方の意欲につながります。 演習1は、現在の暮らしを把握し、問題点の改善、解決方法を考え、演習2につなげます。 演習2は、将来の暮らし方を想像し、技能や表現方法を講師とコミュニケーションを取りながら進め完成させます。 間取りを完成させ、暮らし方の視点から説明出来ることが目標です。
授業の進め方	一般の講義の形で配布するプリントを使いながら授業を進めます。 写真・図や実例などを用いて、具体的に説明してゆきます。 演習は2題あり、1題は「自分の育った家」を考察します。 もう1題は「私らしい住まいの設計」を暮らし方の視点から設計します。 授業内にテストを1回実施します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題1「私の育った家」自分にとって家とは家族とは何かを確認し、課題2へつなげます。 課題2「私らしい住まいの設計」は、近い将来の職業や暮らし方を想像し、それまでの講義内容と関連付けて間取りを完成させます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	住生活とは何か…住生活と衣・食・住の関係、生活と住空間の関係
第2回	住生活と住空間…あなたにとって「家」とは、家族と住生活の変化、暮らしと住まいの変化、暮らしと住まいのかたち、ライフステージ・ライフスタイルとは
第3回	【演習1】私の育った家（1）実技、私の住まい歴、間取り図と暮らし方を描く、住まい方の見直しと自分が望むことの考察
第4回	【演習1】私の育った家（2）発表、講評、提出
第5回	住まいと住まい方のルーツ…原始から現代まで、床の変化（土間、床、畳）と暮らし方の変化
第6回	住まいはどのように建てるのか…世界の伝統的な住まい、住まいの材料と構造 北海道のすまいづくり…歴史と暮らしかた（DVD） 授業内試験
第7回	授業内試験の回答 北海道のすまいづくりの解説 アイヌの住まいと暮らし 北海道の豊かな暮らしとすまいづくり（DVD）
第8回	住環境と私たちの生活（1）・・・健康的な住環境の為に、採光と換気、シックハウス
第9回	住まいの室礼（しつらい）とインテリアデザイン テーマ別インテリア、インテリアカラー、住まいの歳時記、ユニバーサルデザイン

第10回	住まいを選ぶ 一戸建てとマンションの比較 住まいを選ぶ…3つの住まいから
第11回	【演習2】私らしい住まいの設計 (1) 課題の説明、実技、ゾーニングと間取り
第12回	【演習2】私らしい住まいの設計 (2) 実技、間取りとインテリア
第13回	【演習2】私らしい住まいの設計 (3) 実技、まとめの発表、提出

事前・事後学修	予習 次回の講義プリントを読み、質問があれば用意。2時間30分 復習 講義で作成したプリントの内容を確認し、疑問は次回に質問。2時間30分
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内試験（1回） 基礎知識（住生活、住まいの歴史、工法）と北海道の住まいづくりの理解度を試験の評価基準とします。30% 演習（1）（実技2回）今の暮らしと住まいを分析し課題を見つけ解決することが出来ることを評価基準とします。提出物で評価します。30% 演習（2）（実技3回）授業で得た知識をもって理想とする暮らしと住まいの間取り図で表現し、発表します。提出物で評価します。40%
テキスト	講師作成のプリントを使います
参考文献	図説テキスト 住居学（岸本幸臣編・彰国社） 北海道の住宅事情と北方型住宅（一財 北海道建築指導センター） 子どもをはぐくむ住まいづくり（一社 北海道建築士会）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、1978年から建築設計監理業務に携わりながら、1983年に一級建築士資格を取得し、住宅や公共施設の設計をはじめ、長年にわたり豊富な実務経験を積んできました。北海道の住宅設計の現場で培った知識と技術を基に、住生活の基礎知識と設計演習を組み合わせ、実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	近い将来、あなたはどのような職業についていますか。 その時の暮らしの場として住まいはどうあってほしいでしょうか。 将来の生活に夢を持って授業に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	消費生活論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72124

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	多くの商品やサービスを消費する今日、様々な消費者問題や商品問題も発生しており、私たちは確かな知識をもち、自立した消費行動を行う必要があります。本講義では消費生活の変容とその背景に理解を深め、今日の消費生活の現状と諸問題、消費生活における商品やサービスに関連する事項について学習します。
到達目標	現代の消費生活の特質と問題点について理解を深め、自立的な消費生活の実現に向け、関連知識を習得することを目標とする。
授業の進め方	提示したスライドを中心に講義形式で行います。一部ディスカッション等を取り入れます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの解答、提出された課題等については授業内およびLMSを通じて解説します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・消費生活と環境①
第2回	消費生活と環境②
第3回	日本の農業①
第4回	日本の農業②
第5回	日本の農業③
第6回	日本の水産業
第7回	消費生活と防災①
第8回	消費生活と防災②
第9回	振り返り
第10回	ポスター作成の準備
第11回	ポスター作成
第12回	ポスター作成
第13回	ポスター発表

事前・事後学習	授業内容の理解度を高めるための復習、最終回の発表に向けて日頃から新聞記事やニュースなどに注目し、関連資料を収集し整理しておきましょう（各2時間程度）。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ポスター発表：40% 提出物（小レポート等）：60%
テキスト	食の検定を受験する学生は「食の検定」のテキスト購入を推奨します。

年度	2025
講義名称	[冬集]キャリア応用演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72211
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科
樋原 智恵	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「キャリア形成」や「キャリア基礎演習」で立案した学修と学生生活の計画が実行されているかを確認しながら授業を進めます。「働く」ことについて、個人の視点と企業や社会の視点の双方から理解し、キャリアプランを設計します。そのため、社会の動向と産業・職業・労働について幅広く理解し、働く意義を踏まえながら就活への準備を整えます。
到達目標	①自己の経験、他者からの評価を理解し、自分自身の強みを文書化できる。 ②他者の考えを受け入れ、自分の考えを伝えることができる。 ③社会に出る準備課題をこなすことができる。
授業の進め方	講義のポイントを踏まえて、演習を行う形式となります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜指示・配布します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション（講義内容、評価方法の説明、毎時の筆記試験対策について） 自己理解1. 自己分析（これまでの経験をふりかえる） 自己理解2. 客観分析（性格適正検査・価値観チェック） 自己理解3. 他己分析（他者からの評価）	対面講義
第2回	②履歴書作成1. 自己理解をふまえた履歴書右側部分（自己PRなど）の文書化（自己PR300字、趣味200字、学業200字） 履歴書作成2. 企業研究・志望動機の書き方	対面講義
第3回	③履歴書作成3. 添削結果をふまえて推敲、校正	対面講義
第4回	④面接対策1. 面接の概要、よくある質問の解答作成	対面講義
第5回	⑤面接対策2. 実践	対面講義
第6回	⑥エントリーシート対策（自己PR400字、ガクチカ400字）	対面講義
第7回	⑦履歴書、オープンES（自己PR400字、ガクチカ400字）最終確認	対面講義

事前・事後学修	○社会を知るため、新聞、ニュースには毎日触れアンテナを張ること。 ○宿題として出されたものは必ず取り組んで来ること。 課題の完成、疑問点の整理などのため、授業前後に、1-2時間の時間外学習が必要です。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業内課題 70% ②実技試験 20% ③その他提出物 10%
テキスト	毎回教材シートを配布します。
参考文献	キャリアハンドブック 女子学生のためのキャリアデザイン

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、新規学卒者向けの就職相談や転職相談を通じて、キャリア形成の支援に長年携わってきました。個々の希望や状況に寄り添う対応を行い、就職活動の計画から転職後の環境適応まで幅広くサポートしてきた実務経験を有しています。これらの経験を基に、キャリア教育における実践的な知識を提供する講義を展開します。
-------------------	--

年度	2025
講義名称	課題解決演習Ⅱ[石田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72331

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をととして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をととして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる ⑤ 行ってきた活動と社会の問題との関連性についてまとめ、提案ができる
授業の進め方	グループワーク、ディスカッション、発表を行う。 フィールドワークを行い記録を残す まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行うほか、LMSを使用して個別にも行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	チームでの活動①
第2回	チームでの活動②
第3回	チームでの活動③
第4回	チームでの活動④
第5回	チームでの活動⑤
第6回	チームでの活動⑥
第7回	チームでの活動⑦
第8回	チームでの活動⑧
第9回	チームでの活動⑨
第10回	チームでの活動⑩ まとめと成果発表に向けた準備開始
第11回	チームでの活動⑪ まとめと成果発表に関する活動

第12回	<p>チームでの活動② まとめと成果発表資料の完成提出</p> <p>全体での授業 2年間の学びの振り返り、まとめ</p>
第13回	<p>成果報告、発表、ピア評価 学科発表会で成果報告を行い、最後にピア評価を行う。</p>

事前・事後学修	<p>毎回の授業前に、授業時間以外でプロジェクトの情報収集や、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、授業外にその完成作業をしてもらうこととなります。授業時間では間に合いませんので、前後に最低でも1時間以上の準備時間は必要です。</p>
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>個人提出物（アクション記録、最終レポートなど） 50%</p> <p>グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など） 50%</p>
参考文献	<p>プロジェクトごとに指示があります</p>

年度	2025
講義名称	課題解決演習Ⅱ[和久田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72331

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をとおして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をとおして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。
到達目標	① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる ⑤ 行ってきた活動と社会の問題との関連性についてまとめ、提案ができる
授業の進め方	グループワーク、ディスカッション、発表を行う フィールドワークを行い記録を残す まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行うほか、LMSを使用して個別にも行う

授業計画表

回	授業内容
第1回	チームでの活動①
第2回	チームでの活動②
第3回	チームでの活動③
第4回	チームでの活動④
第5回	チームでの活動⑤
第6回	チームでの活動⑥
第7回	チームでの活動⑦
第8回	チームでの活動⑧
第9回	チームでの活動⑨
第10回	チームでの活動⑩ まとめと成果発表に向けた準備開始
第11回	チームでの活動⑪ まとめと成果発表に関する活動

第12回	<p>チームでの活動⑫</p> <p>まとめと成果発表資料の完成提出</p> <p>全体での授業</p> <p>2年間の学びの振り返り、まとめ</p>
第13回	<p>成果報告、発表、ピア評価</p> <p>学科発表会で成果報告を行い、最後にピア評価を行う</p>

事前・事後学修	<p>毎回の授業前に、授業時間以外でプロジェクトの情報収集や、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、授業外にその完成作業をしてもらうこととなります。授業時間では間に合いませんので、前後に最低でも1時間以上の準備時間は必要です。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>個人提出物（アクション記録、最終レポートなど） 50%</p> <p>グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など） 50%</p>
参考文献	プロジェクトごとに指示があります

年度	2025
講義名称	課題解決演習Ⅱ [小林(純)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72331

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。 企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。 チームでの活動をととして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。 活動をととして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。
到達目標	① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる ⑤ 行ってきた活動と社会の問題との関連性についてまとめ、提案ができる
授業の進め方	グループワーク、ディスカッション、発表を行う。 フィールドワークを行い記録を残す まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行うほか、LMSを使用して個別にも行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	チームでの活動①
第2回	チームでの活動②
第3回	チームでの活動③
第4回	チームでの活動④
第5回	チームでの活動⑤
第6回	チームでの活動⑥
第7回	チームでの活動⑦
第8回	チームでの活動⑧
第9回	チームでの活動⑨
第10回	チームでの活動⑩ まとめと成果発表に向けた準備開始
第11回	チームでの活動⑪ まとめと成果発表に向けた活動

第12回	<p>チームでの活動② まとめと成果発表資料の完成・提出</p> <p>全体での授業 2年間の学びの振り返り、まとめ</p>
第13回	<p>成果報告、発表、ピア氷塊 学科発表会で成果報告を行い、最後にピア評価を行う。</p>

事前・事後学修	<p>毎回の授業前に、授業時間以外でプロジェクトの情報収集や、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、授業外にその完成作業をしてもらうこととなります。</p> <p>授業時間では間に合いませんので、前後に最低でも1時間以上の準備時間は必要です。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>個人提出物（アクション記録、最終レポートなど）50%</p> <p>グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など）50%</p>
参考文献	プロジェクトごとに指示があります。

年度	2025
講義名称	基本演習[総キ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72511

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科
和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	家庭生活や社会生活に関わる課題の中から、これまで学んだことをもとに、問題点を発見し分析する能力をつける。プレゼンテーション基礎や学びの技法等の1年春学期科目で学んだことを活用し、学びをより深めながら、2年間の学びの中心となる方向性を確立し、2年次で行う学びの集大成としての卒業研究に向け知識のベースを作り準備を行う。今後の学習活動に活用できる力として、課題設定、テーマに即した資料収集ができるようになる。
到達目標	①生活を取り巻く諸課題に関する知識を得て、現状を考察することができる。 ②個別の関心ある学びのテーマ、課題を設定できる。 ③調査結果の報告を、他人にわかりやすく伝えることができる。
授業の進め方	授業は小人数による演習形式と、全員で受ける講義形式を適宜組み合わせて行う。 ディスカッション、グループワーク、発表の機会があるので、毎回の授業では主体的に意欲的に取り組むことが求められる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出課題は担当教員から添削とアドバイスを行う。 課題に取り組んでいる途中でも、チェックを求めることができる。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：科目の位置づけ、春学期の振り返り プロジェクト活動について
第2回	グループワーク：プロジェクト活動① 事前の学びと活動計画の作成
第3回	グループワーク：プロジェクト活動② チームに分かれて活動
第4回	グループワーク：プロジェクト活動③ チームに分かれて活動
第5回	グループワーク：プロジェクト活動④ 企画の実施
第6回	プロジェクト活動と振り返り① 活動を振り返り、自分の成長を確認する
第7回	プロジェクト活動と振り返り② 活動と社会の問題との関連性について考え、これからの人生でできることを考える
第8回	個人テーマを探そう これまでの学びや自分の将来の暮らし、仕事を想定し、卒業研究で取り組みたいテーマについて考える

第9回	資料の扱い方について① 卒業研究を行う上で必要となる資料の検索、適切な利用の方法について学ぶ
第10回	資料の扱い方について② ある程度十分な資料が集まるか見通しをたててみる
第11回	個人テーマの仮決定 資料検索を経て、個人テーマの候補を3点まで絞る。
第12回	1年次の振り返りとまとめ：課題解決演習と卒業研究に向けて 2年次の学習計画
第13回	学科発表会 1年の学習の成果を学科全員で共有する

事前・事後学修	毎回授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。事前事後合わせて1時間程度の学習を要する。日常的にニュースをチェックする習慣を身につけ、家庭生活や社会生活に関する興味関心を広げること。図書館資料の読解のみならず、館内の利用と、PCによる資料検索に慣れておくこと。完成度の高い卒業研究作成にむけて、日々関連資料を収集し、ファイリングしておくこと。効果的な発表とまとめのためのPCの基礎スキル、図表の処理スキルをつけておくこと。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各種活動と提出物 70% チャレンジノート 30%
テキスト	プリントなどを使用するため購入の必要はない
参考文献	授業中適宜指示を行う。

年度	2025
講義名称	言葉の力応用
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72521
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 東谷 一彦	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	春学期で修得した、短期大学での諸学習に必要なコミュニケーションに欠かせない日本語の基礎能力を、「深く考える力」「文字で表現する力」に発展させる。正しく理解し、分かりやすく表現する活動を繰り返し行い、社会人にふさわしい言葉づかいで、論理的に書く・話すことができるように学ぶ。
到達目標	大学生にふさわしい言葉で、論理的でわかりやすい文章を書くことができる。課題を解決に導くための考え方を学び、それを適切に表現することができる。日本語検定3級程度の語彙、言語運用能力、読解能力を目指す。
授業の進め方	春学期の「言葉の力・基礎」に引き続き、毎回、授業の最初に、語彙力を身に付けるための小テストを行う。テキストの項目ごとに例題による解説を行った上で、練習問題・応用問題に取り組む。練習問題・応用問題については、用意したワークシートを使用して解答する。練習問題・応用問題の解答・解説を行い、知識を定着させる。問題練習については、適宜、グループワークなども取り入れる。テキストの項目ごとに「復習テスト」を行う。毎回、授業の最後には「リアクションペーパー」へ記述による振り返りを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対しては授業で総合的なフィードバックを行うとともに、個別にフィードバックも行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・小テスト第1回 ・オリエンテーション ・「敬語」について〔「敬語の指針」より〕	対面授業
第2回	・小テスト第2回 ・テキスト第1回「敬語の種類と使い分け」 ・テキスト第1回「復習テスト」	対面授業
第3回	・小テスト第3回 ・テキスト第2回「注意すべき敬語」 ・テキスト第2回「復習テスト」	対面授業
第4回	・小テスト第4回 ・テキスト第3回「配慮を示す言葉」 ・テキスト第3回「復習テスト」	対面授業
第5回	・小テスト第5回 ・「敬語のまわりを整える」	対面授業
第6回	・小テスト第6回 ・テキスト第14回「総合問題」（1）	対面授業
第7回	・小テスト第7回 ・テキスト第14回「総合問題」（2）	対面授業

第8回	・小テスト第8回 ・模擬試験準備（練習問題）1	対面授業
第9回	・小テスト第9回 ・模擬試験準備（練習問題）2	対面授業
第10回	・小テスト第10回 ・日本語検定3級「特別試験」（60分）	対面授業
第11回	・小テスト第11回 ・日本語検定3級「特別試験」解答・解説	対面授業
第12回	・小テスト第12回 ・第2回模擬試験（60分）	対面授業
第13回	・小テスト第13回 ・第2回模擬試験の解答・解説 ・受業評価	対面授業

事前・事後学修

小テストは必ず事前学習し、できなかったところは復習すること。テキストの予習・復習も毎回行うこと。また、予習・復習ともに1時間程度は必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・提出物（ワークシート、復習テスト、リアクションペーパーなど）45% ・小テスト15% ・授業内試験（日本語検定「特別試験」）40%
テキスト	『スキルアップ日本語力 大学生のための日本語練習帳』（東京書籍）
参考文献	特に指定はしないが、日頃から新聞や書籍を読むことが肝要である。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容

担当教員は、道立高校にて国語科教員として実務経験を積み、生徒の語彙力や読解力、表現力の向上に取り組んできました。これらの経験を基に、国語教育を通じたコミュニケーション力や創造力を育む実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	プレゼンテーション応用
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72531

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	春学期に学んだプレゼンテーションに関する技術・知識を活用し、発表のクオリティを高め、「よりよい実践的プレゼンテーション」を重視して、コミュニケーション力をアップすることを目指します。 発表時の振る舞いや、環境・TPOに合わせたプレゼンテーションの実施、聞き手としてのスキルを鍛えることを目的に授業を進めます。
到達目標	① プレゼンテーションによる表現、伝達の効果、目的を学び、実践に活かすことができる。 ② 場面に応じたプレゼンテーションの効果的な方法を選択できると同時に、聞き手としても十分なスキルを持つ。
授業の進め方	講義説明+演習（プレゼンテーション）の組合せです。コンピュータによるスライドショーソフトウェアを利用して資料を作成することや、チームでのプレゼンテーションを行います。テーマや目的に応じた方式の選択や、他者のプレゼンテーションの聞き方、プレゼンテーションが届いたかどうかを確認し、振り返って、ブラッシュアップするための方法も同時に身に付くように演習を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	動画を使ったプレゼンテーション① 特徴や実例について学び、テーマに従って作成計画を立てる
第2回	動画を使ったプレゼンテーション② 実際に作成する。
第3回	作品提出と視聴コメントの作成、フィードバック
第4回	グループプレゼンテーションに向けて チームで行うPBLタイプのプレゼンを行う準備。テーマやスケジュールを考慮し、可能な限りで最も効果的な表現形式を考える。
第5回	チームプレゼンテーションの準備
第6回	チームプレゼンテーションの作成、練習
第7回	チームプレゼンテーションの実施と、総合的な振り返り

事前・事後学修	プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）には少なくとも1時間程度の準備が必要となるでしょう。プレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。また、プレゼンテーション後の提出物の作成は、1時間程度が目安となります。その他 毎回の授業の資料をまとめて復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題が授業中に終わらない場合は、次回までに達成しておくようにしてください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	発表の様子・技術 40% 発表内容 40%（視覚資料・原稿など） 授業内における提出物 20% 以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。"
テキスト	プリントを配布しますので、各自紛失しないようにファイルなどで保管しましょう。
参考文献	授業中適宜指示します

年度	2025
講義名称	ビジネス実務Ⅱ〔①/2〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>ビジネスの現場で必要とされる基本的ビジネスマナーと組織内コミュニケーションを習得することを目的とします。</p> <p>また、実習を通して実践能力を身につけます。</p> <p>様々な仕事の場面で臨機応変な対処ができるように、社会人としての基礎となる業務遂行能力を養います。</p> <p>ビジネス実務Ⅰで学んだことを応用して、実際の社会人としての業務の場面で臨機応変な対処ができるようになることを目的とします。</p>
到達目標	<p>どのような職種についてとしても、基本的なビジネスマナーの知識を理解している人材となる。</p> <p>その知識をもとに、社会人としての実践力と応用力を身につける。</p> <p>サービス検定準1級を取得する。</p>
授業の進め方	<p>社会人としての基礎となる部分は春学期に引き続き、テキストやプリントを使用して、講義をしていきます。</p> <p>電話対応・来客対応・接客の場面对応などさらに応用できるような実習を実施します。</p> <p>ビジネス文書・ビジネスメールもノートPCなど持参していただき、事例をもとに作成していただきます。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>課題があった場合には授業内でフィードバックしていきます。</p> <p>また実習では、随時、コメントをしてさらに繰り返していくので、実際に社会人になった後に恥ずかしい思いや失敗をしないようにできるはずです。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、好感をもたれる伝え方 電話対応の応用スキルと実習 来客対応の応用スキルと実習 ビジネスメールの知識と事例 ビジネス文書の知識と事例 観光葬祭のマナー 総括・検定対策・テスト 	対面授業

事前・事後学修	<p>授業後は学んだことの振り返りをしてください。説明された部分を見返したり、実習後は何ができなかったか、どうすればよいか振り返りましょう。</p> <p>また、準一級を受験する場合は過去問で苦手部分を見つけ出すことがまず大事ですので、その後、そこを重点的に自分で勉強すれば合格に繋がります。</p> <p>授業前に見直しすることで、授業の時に質問して、クリアにさせることを繰り返しましょう。</p> <p>事前事後の学習は2時間を目安にしましょう。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	筆記試験 70点 実技 30点
テキスト	「いちばんわかりやすいビジネスマナー」 岡田小夜子監修 成美堂出版 ※ビジネス実務Ⅰで使用したものと同じ物を使用します。
参考文献	「新しい時代の秘書ビジネス実務」 全国大学実務教育協会編 「サービス接客受験ガイド準一級」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	検定に関しては授業内で詳細を説明します。

年度	2025
講義名称	ビジネス実務Ⅱ〔②/2〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>ビジネスの現場で必要とされる基本的ビジネスマナーと組織内コミュニケーションを習得することを目的とします。</p> <p>また、実習を通して実践能力を身につけます。</p> <p>様々な仕事の場面で臨機応変な対処ができるように、社会人としての基礎となる業務遂行能力を養います。</p> <p>ビジネス実務Ⅰで学んだことを応用して、実際の社会人としての業務の場面で臨機応変な対処ができるようになることを目的とします。</p>
到達目標	<p>どのような職種についてとしても、基本的なビジネスマナーの知識を理解している人材となる。</p> <p>その知識をもとに、社会人としての実践力と応用力を身につける。</p> <p>サービス検定準1級を取得する。</p>
授業の進め方	<p>社会人としての基礎となる部分は春学期に引き続き、テキストやプリントを使用して、講義をしていきます。</p> <p>電話対応・来客対応・接客の場面对応などさらに応用できるような実習を実施します。</p> <p>ビジネス文書・ビジネスメールもノートPCなど持参していただいて、事例をもとに作成していただきます。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>課題があった場合には授業内でフィードバックしていきます。</p> <p>また実習では、随時、コメントをしてさらに繰り返していくので、実際に社会人になった後に恥ずかしい思いや失敗をしないようにできるはずです。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、好感をもたれる伝え方 電話対応の応用スキルと実習 来客対応の応用スキルと実習 ビジネスメールの知識と事例 ビジネス文書の知識と事例 観光葬祭のマナー 総括・検定対策・テスト 	対面授業

事前・事後学修	<p>授業後は学んだことの振り返りをしてください。説明された部分を見返したり、実習後は何ができなかったか、どうすればよいか振り返りましょう。</p> <p>また、準一級を受験する場合は過去問で苦手部分を見つけ出すことがまず大事ですので、その後、そこを重点的に自分で勉強すれば合格に繋がります。</p> <p>授業前に見直しすることで、授業の時に質問して、クリアにさせることを繰り返しましょう。</p> <p>事前事後の学習は2時間を目安にしましょう。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	筆記試験 70点 実技 30点
テキスト	「いちばんわかりやすいビジネスマナー」 岡田小夜子監修 成美堂出版 ※ビジネス実務Iで使用したものと同じ物を使用します。
参考文献	「新しい時代の秘書ビジネス実務」 全国大学実務教育協会編 「サービス接客受験ガイド準一級」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	検定に関しては授業内で詳細を説明します。

年度	2025
講義名称	English II
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72711

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	<p>文法指導以外はほぼ英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。</p> <p>Except for the complicated grammar instruction, this class will be in English and focus on developing the student's conversational skills. During lessons, students will learn new vocabulary and use the new words in role plays, short descriptions of daily routines, and other conversational activities.</p>
到達目標	<p>1.新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする 2.意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる</p> <p>1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities. 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.</p>
授業の進め方	<p>ロールプレイ、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけま。意欲的に参加することが求められる。</p> <p>This course will require students to actively communicate with each other during group discussions and pair dialogues. They will also perform role plays of common daily events. In each lesson there will be specific vocabulary to learn and practice, and students are expected to actively participate in all aspects of the class.</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。</p> <p>Feedback: The instructor will provide constant (general and specific) feedback during lessons and all aspects of the developing activities.</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	Unit 8: Ability, Requests and Rules
第2回	Unit 9: Movie Scenes
第3回	Unit 10: Talking About Cities / Speaking Test ①
第4回	Unit 11: Future Plans
第5回	Unit 12: Explaining Events
第6回	Unit 13: Cooking / Speaking Test ②
第7回	Unit 14: Preferences

事前・事後学修	<p>授業で指示、配布された練習を行うこと。語いを復習し、授業での会話やアクティビティで使えるようにしておくこと。</p> <p>Students should review the activities and vocabulary learnt in class, do the exercises about the material given in class and use it to prepare for conversations and activities in class.</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Speaking Test ・スピーキングテスト（各2回 25%、合計50%） Class Activities (discussions, role-plays, etc) ・授業内実演（ディスカッション、ロールプレイなど）30% Homework ・課題宿題 20%
テキスト	Handouts and other materials will be provided in the lessons. 授業で配布するプリントや資料を配ります。
参考文献	English Conversation 1 Student Book Third Edition, A Textbook for Eikaiwa Lessons in Japan 著者: Tom Whitaker

年度	2025
講義名称	Food & English
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72721
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 廣山 メアリー	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	誰もが生きていけば毎日必ず行う最も身近な行為の一つ「食べる」ということに特化し、食べ物や料理に関する英語を学習する。 実際に料理をし、食べ物を食べながら、食材、調理器具、食器、調理法、味などに関する英語を学習することで、他者と会話するうえで最も安全で身近な話題、「食」について英語で会話できるようになることを目指します。
到達目標	・英語で書かれたレシピを読む、また、英語で指示された調理方法について英語でメモを取りながら、調理ができる ・身近な食材や料理を英語で説明できる ・英語でたべものについて感想を言い合えるようになる
授業の進め方	毎回テーマを決め、関連する表現を実物を見て学びながら、定着させていきます。 また、学んだ表現を使って、週に1回以上、授業外で食べたもの、作ったものについて英語でレシピや感想を書いてもらいます。 授業中の指示は原則英語で行い、授業内では学生も、基本的に英語で話します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中での実技実演がメインとなるので、その場でのフィードバックが中心です。
----------------------------	---------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	・食べ物を表す表現を覚えよう ・調理器具、調理方法、味、食感の英語を覚えよう ・おにぎりAction
第2回	Break fast
第3回	Happy Halloween
第4回	Mexican Dish
第5回	Japanese Snack
第6回	Demonstration: Original Recipe
第7回	Christmas Menu

事前・事後学修	授業で作った、食べたものや、週の中で授業外で食べた、作ったものについてCooking Bookを整理し作成するため、また、授業で使った表現を確実に覚えるためには、授業外で2時間程度の学習が必要です
---------	--

成績評価基準と方法	Cooking Book 40% English Use in the Activities 30% Assignment 30%
テキスト	適宜プリントを配布

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容

担当教員は、清田区で英会話スクールを長年経営し、指導経験を積むとともに、小学校での英語学習のボランティア活動を通じて子どもの教育に貢献してきました。これらの経験を基に、実践的で応用力のある学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	Office English
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72731

担当教員

氏名	所属
◎ エレーナ フォルトゥナート	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>This course is designed to help students perform administrative tasks using English. Students will learn how to create business documents in English using Word, write and respond to emails with proper etiquette, and practice answering and making phone calls in English. They will also organize the vocabulary and expressions they learn and create a personalized manual that can be used even after graduation.</p> <p>英語を使って、事務作業を行うことができるように学ぶ授業です。ワードを使って英語のビジネス文書を作成することや、e-mailのつくり方、答え方のマナー、また、電話での受け答えについて練習を行います。学んだ単語や表現を整理し、卒業後も活用できるように、自分専用のマニュアルを作成します</p>
到達目標	<p>Using the manual as a reference, students will be able to create simple business documents in English using Word.</p> <p>To learn how to make, answer, and end phone calls in English, to handle basic conversations.</p> <p>To learn how to write English emails and respond appropriately.</p>
授業の進め方	<p>Take notes while understanding the content based on the distributed materials. Practice what you have learned through practical activities, sometimes interacting with classmates to enhance learning.</p> <p>ノートを取りながら、配布される資料を基に、内容を理解する。学んだ内容を実践的なアクティビティで練習し、時にクラスメートとやり取りしながら学ぶ。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback and advice on assignments and submissions will primarily be given individually during class. 提出物、課題などに対しては、主に授業中に個別にフィードバック、アドバイスをを行う
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	<p>Course introduction.</p> <p>Communicating through short writings まずは英文を書いてみる Short introduction to English words and expression specifics related to English documents 1. page format 2. margins 3. font and letter size 4. punctuation 5. common business terms and phrases 英文で書類を作成する上で望ましいフォーマット、余白、フォントサイズ、時制、よく使うビジネス用語やフレーズについて学ぶ。</p> <p>*How to use the automatic spell check in Word. *Start preparing your manual for Office English - instructions マイクロソフトオフィスのワードを使った際のスペルチェックの仕方についても学ぶ 事務系英語の自分用マニュアルを作る準備を始める</p>

第2回	<p>Composing a simple document in English using Word ワードで英語の簡単な書類を作ります</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. date and address 日付と連絡先 2. topic トピック (タイトル) 3. salutation (greeting) 挨拶 4. introduction of the topic 概略 5. body (support paragraphs) 内容詳細 6. conclusion まとめ 7. closing and signature 締めとサイン <p>Activity – write a short document (3 paragraphs, about 70-100 words) 3パラグラフからなる短い書類を、70–100語程度で作成します</p>
第3回	<p>Report to your supervisor (using an internal line) Handling phone calls in English 内線を使って上司に報告する。英語での電話の受け答えの練習</p> <p>Activity – Give the document you wrote last class to a classmate. You will communicate the contents of the received document to your supervisor over the internal phone line. The supervisor will take notes, and both of you will confirm the details to ensure accuracy.</p> <p>前回の授業で作成した書類をクラスメートに渡します。その内容を、内線電話で、上司に伝えてみましょう。上司役になった時は、メモを取り、あとで、情報交換をして、会っているか確認し合います。</p>
第4回	<p>Email writing and email etiquette Writing an effective and professional email. 英文メールの書き方とエチケット 仕事で使うのに効果的なe-mailの書き方を学びます</p> <p>Using CC in an email What to avoid when writing an email in English (emojis, nicknames, all caps, etc.) Ccの使い方 英文メールを書く際に避けるべきことなど</p> <p>Structure and format of email in English</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. the topic 2. greetings 3. introduction (if necessary) 4. message body 5. closing and signature <p>英語のメールのフォーマットと構造を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容 2. あいさつ 3. 概要 (必要に応じて) 4. 具体的内容 5. 締めとサイン <p>Activity – compose a short email and send it to a classmate (put the teacher in CC.)</p> <p>クラスメートに短いメールを書きます。フィードバックのため、先生をCcに入れて送ってください</p>
第5回	<p>Answering an email (attention to email etiquette) メール返信の仕方 (エチケットに配慮しながら)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. greetings 2. introduction – refer to the initial message 3. your answer 4. closing and signature <ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶 2. 導入 (元のメッセージの内容に言及) 3. 返答 4. 締めとサイン <p>Activity – answer the email you received from your classmate クラスメートから受け取ったメールに返事を書いてみる</p> <p>Prepare for a quiz next week 翌週のテストの準備</p>
第6回	<p>Quiz Revise and finish your Office English manual</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. sections 2. vocabulary and expressions <p>小テスト オフィス英語のマニュアルを整理し完成させる。 語彙と表現、場面をセクション分けして整理</p>

第7回	Submission of the manual Final Cumulative – email writing and answering, phone call) マニュアルの提出 最終のまとめ (メールの書き方答え方、電話応対、) Feedback
-----	--

事前・事後 学修	Reviewing the expressions and vocabulary learned in class, writing assignments, and practicing writing are necessary. Therefore, more than one hour of study outside of class is required. 授業で学んだ表現や単語を復習し、ライティング課題を復習し、練習をするなどが必要で、1時間以上の授業外学習が必要です
-------------	---

DP (学位授与の方針) との関連

(DP1) 専門知識・技能を活用する力	●
(DP2) コミュニケーション能力	●
(DP3) 課題を発見し、解決する力	
(DP4) 多様性の理解と協働する力	●
(DP5) 能動的に学び続ける力	●
(DP6) 社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Participation 準備学習 10% Writing assignments ライティング課題 30% Manual 自分用マニュアルの完成 30% Final cumulative 最終のまとめ 30%
-----------	---

備考	We will distribute small notebooks for creating the manual マニュアル作成のために小さいノートを配布します
----	---

年度	2025
講義名称	韓国語(中級)
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72741

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	<p>授業の目的 本授業は「韓国語I」の学習を発展させ、基礎文法を活用しながら作文や日常会話に応用できる力を養う初級レベルの科目です。 韓国語の文法体系を理解し、語彙を増やしながら短い文章を作る練習を行い、作文力と会話力の向上を目指します。 また、日常会話で頻繁に使用される表現を習得し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけることで、実践的な韓国語の運用能力を高めます。</p> <p>授業の概要 授業では、基礎的な文法や表現を学びながら、実際に使える韓国語を習得することを目標とします。 短文作文や会話練習を通じて、学習した知識を実践的に応用し、自分の考えを韓国語で表現する力を養います。 また、リスニングやリーディングのトレーニングを取り入れ、外国語学習者に求められる総合的な言語スキルを向上させます。 学習した文法や表現を実際の作文や会話に活かせるかを重視し、習得の進捗を評価します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・韓国語の基礎文法を理解し、正しく運用できるようになる。・学習した文法や語彙を活用し、日常会話で適切に表現できる。・短い文章を作成し、自分の考えを韓国語で使える力を養う。・「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく向上させ、実践的な韓国語の運用能力を身につける。
授業の進め方	<p>授業は配布資料に沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 また、学習した文法や表現を実践的に活用できるよう、「ディスカッション」や「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。 ペアワークやロールプレイを通じて、日常会話で自然に使える表現を身につけることを目指します。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたはWebClassを通じてフィードバックを行います。
----------------------------	---------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 韓国語（初級）の復習 助詞「に」	対面
第2回	「こ、そ、あ」 「あります・ありません」 本文・復習	対面
第3回	助詞「を」 ハムニダ体	対面
第4回	漢数詞 本文・復習	対面
第5回	助詞「で」 へよ体①	対面

第6回	固有数詞 本文・復習	対面
第7回	助詞「(人)に」 助詞「で」(手段・方法)	対面
第8回	へよ体② 本文・復習	対面
第9回	助詞「から～まで」 へよ体③	対面
第10回	否定表現 本文・復習	対面
第11回	助詞「から～まで」 過去形	対面
第12回	「～したいです」 本文・復習	対面
第13回	まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	<p>次回の授業範囲について、新しい単語の意味を調べるなど、しっかりと予習を行ってください。</p> <p>また、前回の授業内容を振り返り、学習した単語や文型を復習してください。</p> <p>予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としてください。</p>
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：40% 授業への参加度：10%
テキスト	担当教員による配布
参考文献	なし

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行った上で授業に参加してください。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。 ・4大の「韓国語II」と同様なレベルの授業です。
-----------	--

年度	2025
講義名称	調理実習(応用)【ブレA】
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	ブレンド(A)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72811
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得すること、応用可能な調理手法について実習を通して実践的に学ぶことを目的とします。
到達目標	各種食品を用いて、目的に応じた料理構成や調理手法を学び、食卓の演出等が的確に行える知識と技術について習得することを目標とする。
授業の進め方	講義と実習形式

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内やLMSを通じて解説します。
----------------------------	-------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・調理実習室の使用方法について・アレルギー調査	
第2回	調理実習（和食）	
第3回	調理実習（洋食）	
第4回	調理実習（中華）	
第5回	調理実習（和食）	
第6回	調理実習（洋食）	
第7回	調理実習（行事食）	
第8回	振り返り・実習記録ノート作成	オンライン
第9回	振り返り・実習記録ノート作成	オンライン
第10回	振り返り・実習記録ノート作成	オンライン
第11回	振り返り・実習記録ノート作成	オンライン
第12回	振り返り・実習記録ノート作成	オンライン
第13回	振り返り・実習記録ノート作成・まとめ	

事前・事後学修	実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください（各2時間程度）。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習記録ノート：50% その他提出物：50%
テキスト	適宜プリント配付
参考文献	調理に関する書籍等。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、東海大学医学附属大磯病院の栄養科において2008～2015年の勤務経験があり、患者の栄養管理や食事指導に携わりました。その実務経験を基に、栄養学の実践的な視点を学べる講義を展開します。
-------------------	--

年度	2025
講義名称	キャリア特別講義
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73211
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋原 智恵	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	少子高齢化やグローバル化、ジェンダーレスなど、日々私たちを取り巻く環境は、急速に変化しているため、多様な価値観や考え方を理解することが重要です。多様性を理解し長期的な視野を持ち、自分らしく生きるための対人対応力・発想力・考え方を学ぶことが目的です。また、これからの職業人生を前向きに描くことを目指します。
到達目標	①社会で働くために必要な情報や仕組みを理解する ②社会人として必要な能力を理解し、それを身に付ける ③自分らしい働き方を考え、自分自身の職業生活をデザインできる
授業の進め方	この授業では、グループワーク、プレゼンテーション、実践的な課題を中心に、社会人に必要なスキルの習得を目指せるよう勧めていきます。グループワークでは、チームでの課題解決能力や協調性を養い、プレゼンテーションでは、資料作成能力や発表能力を向上させます。また、実際のビジネスシーンを想定した課題を通して、問題解決能力を高められるようプレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で随時フィードバックを行う。またメールでの対応も実施。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション（講義内容、評価方法の説明） 個人プレゼンテーションの概要について テーマ：社会に目を向ける！気になるニュース、出来事、トピックス発表	対面
第2回	集団と個人Ⅰ（組織とは、組織の中の個人と個性、役割認識） 集団と個人Ⅱ（集団における葛藤と解決策）	対面
第3回	対人関係の形成と維持Ⅰ（印象形成、第一印象）	対面
第4回	対人関係の形成と維持Ⅱ（信頼形成、ストレス・メンタルヘルス）	対面
第5回	対人関係の形成と維持Ⅲ（関係の発展・維持・崩壊、失業と転職）	対面
第6回	ジェンダーと社会Ⅰ（ジェンダーギャップ指数、教育・雇用・収入における性差）	対面
第7回	ジェンダーと社会Ⅱ（仕事、子育て、社会における性差）	対面
第8回	ジェンダーと社会Ⅲ（LGBTQ、性的マイノリティの理解）	対面
第9回	キャリアトーク（卒業生とのパネルディスカッション）	対面
第10回	金融リテラシーⅠ（お金を貯める・増やす・借りる）	対面
第11回	金融リテラシーⅡ（若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺）	対面
第12回	ホスピタリティマインド（他者理解・共感・ニーズの把握）	対面

第13回	最終回は、講義全体を統合し、自分らしいキャリアを築くための目標を考えます。 自己分析に基づいたキャリアプランを作成し、多様性を理解し社会に貢献する方法についても考え、アクションプランをまとめます。	対面
------	---	----

事前・事後学修	日頃から新聞を読み文章力を身に付けてください。また、世の中の出来事・ニュースに関心を示してください。必要に応じてテーマに関する理解を深めるために、次回のテーマに関して示唆を与えます。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>毎時の小レポート（60%）： 各授業回において、社会で求められるスキルに関する理解度を小レポートとして提出していただきます。 これにより、授業内容の定着度を評価します。</p> <p>プレゼンテーション（20%）： 授業内で行うプレゼンテーションの内容、構成、発表態度などを評価します。 これにより、情報伝達能力やプレゼンテーションスキルを評価します。</p> <p>最終レポート（20%）： 授業で説明した内容を基に、自身の学びを文章化した最終レポートを提出していただきます。 これにより、授業全体の理解度と考察力を評価します。</p>
-----------	--

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、新規学卒者への就職支援や転職者向け支援に長年携わり、個別の相談対応からキャリアプランの提案まで、多岐にわたる実務経験を有しています。これらの経験を基に、キャリア形成の実践的な知識とスキルを学べる講義を展開します。
-------------------	--

年度	2025
講義名称	卒業研究[総キ][石田]【ブレB】
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73511

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	学びを自分で計画・実施しその学びを通して、キャリア=人生、自分の将来を考えるベースを作ります。授業での学びを振り返り、自分自身の人生を考えたとき、授業だけでは不十分な要素を、自分で考えて補充します。自己設定した目標を達成することで、予測困難な時代を生きるうえで求められる、課題をみつけ立ち向かう力、粘り強く取り組む力、様々な形のコミュニケーションの力、生涯学び続ける姿勢を身に着けます。
到達目標	① 自分の計画進行上の課題を発見し、対策をたて、計画した知識・技能を身に着けること ② 自分の学びの記録をつけ、努力や成果を伝える発信力をつけること ③ 困難を感じたときに逃げずに挑戦し続ける力をつけること ④ 主体性をもって課題に取り組み、自分の成果に自信を持つこと
授業の進め方	演習形式を中心に行います。基本的には進捗状況を確認しながらアドバイスを受け、期限内に目標を達成できるように、教員の補助・支援を受けながら進めます。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	LMS等を活用し、『報告・相談・フィードバック・実践』のサイクルを繰り返していきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業の流れ、形式、注意点 発表形式等基本的な共通ルール、スケジュールについて知る。 前年度考えた仮テーマをベースに、自分の中にある「疑問」を整理し、答える準備をする。	対面
第2回	テーマ決定への調査① 自分の中の「疑問」について、答えを見つけるための調査を行う。 想定しているすべてのテーマについて、十分な資料があるかを確認する。 資料はリスト化し、提出する。	対面
第3回	テーマ決定への調査② 絞り込みをかけながら、使用する資料について教員と相談しつつ、実現可能なテーマを探る。 資料をリスト化し、提出する。	対面
第4回	テーマ決定 テーマを決定し、序章、構成について整理し、序章部分と構成案を提出する。	対面
第5回	研究スケジュールを立てる 年間の研究スケジュール、およびプランBを考えて提出する。	対面
第6回	進捗状況と報告 スケジュールに照らして、現時点での進捗具合を確認し、長期休暇の使い方について計画を立て、計画書を作成する	オンデマンド
第7回	今後の活動の計画と修正 長期休暇中の進捗を振り返り、スケジュールの修正を行う。 作成途中の資料、修正計画を提出する。	対面

第8回	完成に向けたスケジュール提出 フィードバックを受け、不測の事態が起きない限りこれ以上修正しない予定のスケジュールを確定し提出する。 発表日程について相談し、資料提出の締め切り、個別指導の時期なども決定する	対面
第9回	進捗と報告② 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	オンデマンド
第10回	進捗と報告③ 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	オンデマンド
第11回	発表資料仮提出 原稿、資料を仮完成させて提出。	オンデマンド
第12回	発表資料作成・提出、口頭試問準備 フィードバックを反映した完成版資料を提出し、口頭試問の模擬演習を行い、質疑応答に対応できるようにする	対面
第13回	発表 決められた発表日に発表を行い、質疑応答まで完了する。	対面

事前・事後学修	指摘された課題への対処方向の考案と実行（1時間程度）
---------	----------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	記録の作成と提出 25% 成果のまとめの作成 25% 発表 30% 質疑応答への対処 20%
テキスト	指定は特にありません。授業内で指示があります。
参考文献	個人によって異なります。教員からアドバイスを受けてください。

備考	最終発表は、内容が不十分である、理解が不十分である（質疑に答えられない）などの場合、1度で通過できない場合があります。修正を行い、再トライとなることがあることを念頭に置き、十分な準備をしてください。
----	---

年度	2025
講義名称	卒業研究[総キ][小林(純)]【ブレB】
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73511

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	学びを自分で計画・実施しその学びを通して、キャリア=人生、自分の将来を考えるベースを作ります。授業での学びを振り返り、自分自身の人生を考えたとき、授業だけでは不十分な要素を、自分で考えて補充します。自己設定した目標を達成することで、予測困難な時代を生きるうえで求められる、課題をみつけ立ち向かう力、粘り強く取り組む力、様々な形のコミュニケーションの力、生涯学び続ける姿勢を身に着けます。
到達目標	① 自分の計画進行上の課題を発見し、対策をたて、計画した知識・技能を身に着けること ② 自分の学びの記録をつけ、努力や成果を伝える発信力をつけること ③ 困難を感じたときに逃げずに挑戦し続ける力をつけること ④ 主体性をもって課題に取り組み、自分の成果に自信を持つこと
授業の進め方	演習形式を中心に行います。基本的には進捗状況を確認しながらアドバイスを受け、期限内に目標を達成できるように、教員の補助・支援を受けながら進めます。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	LMS等を活用し、『報告・相談・フィードバック・実践』のサイクルを繰り返していきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業の流れ、形式、注意点 発表形式等基本的な共通ルール、スケジュールについて知る。 前年度考えた仮テーマをベースに、自分の中にある「疑問」を整理し、答える準備をする。	対面
第2回	テーマ決定への調査① 自分の中の「疑問」について、答えを見つけるための調査を行う。 想定しているすべてのテーマについて、十分な資料があるかを確認する。 資料はリスト化し、提出する。	対面
第3回	テーマ決定への調査② 絞り込みをかけながら、使用する資料について教員と相談しつつ、実現可能なテーマを探る。 資料をリスト化し、提出する。	対面
第4回	テーマ決定 テーマを決定し、序章、構成について整理し、序章部分と構成案を提出する。	対面
第5回	研究スケジュールを立てる 年間の研究スケジュール、およびプランBを考えて提出する。	対面
第6回	進捗状況と報告 スケジュールに照らして、現時点での進捗具合を確認し、長期休暇の使い方について計画を立て、計画書を作成する	オンデマンド
第7回	今後の活動の計画と修正 長期休暇中の進捗を振り返り、スケジュールの修正を行う。 作成途中の資料、修正計画を提出する。	対面

第8回	完成に向けたスケジュール提出 フィードバックを受け、不測の事態が起きない限りこれ以上修正しない予定のスケジュールを確定し提出する。 発表日程について相談し、資料提出の締め切り、個別指導の時期なども決定する	対面
第9回	進捗と報告② 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	オンデマンド
第10回	進捗と報告③ 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	オンデマンド
第11回	発表資料仮提出 原稿、資料を仮完成させて提出。	オンデマンド
第12回	発表資料作成・提出、口頭試問準備 フィードバックを反映した完成版資料を提出し、口頭試問の模擬演習を行い、質疑応答に対応できるようにする	対面
第13回	発表 決められた発表日に発表を行い、質疑応答まで完了する。	対面

事前・事後学修	指摘された課題への対処方向の考案と実行（1時間程度）
---------	----------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	記録の作成と提出 25% 成果のまとめの作成 25% 発表 30% 質疑応答への対処 20%
テキスト	指定は特にありません。授業内で指示があります。
参考文献	個人によって異なります。教員からアドバイスを受けてください。

備考	最終発表は、内容が不十分である、理解が不十分である（質疑に答えられない）などの場合、1度で通過できない場合があります。修正を行い、再トライとなることがあることを念頭に置き、十分な準備をしてください。
----	---

年度	2025
講義名称	卒業研究[総キ][和久田]【ブレB】
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73511

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	学びを自分で計画・実施しその学びを通して、キャリア=人生、自分の将来を考えるベースを作ります。授業での学びを振り返り、自分自身の人生を考えたとき、授業だけでは不十分な要素を、自分で考えて補充します。自己設定した目標を達成することで、予測困難な時代を生きるうえで求められる、課題をみつけ立ち向かう力、粘り強く取り組む力、様々な形のコミュニケーションの力、生涯学び続ける姿勢を身に着けます。
到達目標	① 自分の計画進行上の課題を発見し、対策をたて、計画した知識・技能を身に着けること ② 自分の学びの記録をつけ、努力や成果を伝える発信力をつけること ③ 困難を感じたときに逃げずに挑戦し続ける力をつけること ④ 主体性をもって課題に取り組み、自分の成果に自信を持つこと
授業の進め方	演習形式を中心に行います。基本的には進捗状況を確認しながらアドバイスを受け、期限内に目標を達成できるように、教員の補助・支援を受けながら進めます。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	LMS等を活用し、『報告・相談・フィードバック・実践』のサイクルを繰り返していきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業の流れ、形式、注意点 発表形式等基本的な共通ルール、スケジュールについて知る。 前年度考えた仮テーマをベースに、自分の中にある「疑問」を整理し、答える準備をする。	対面
第2回	テーマ決定への調査① 自分の中の「疑問」について、答えを見つけるための調査を行う。 想定しているすべてのテーマについて、十分な資料があるかを確認する。 資料はリスト化し、提出する。	対面
第3回	テーマ決定への調査② 絞り込みをかけながら、使用する資料について教員と相談しつつ、実現可能なテーマを探る。 資料をリスト化し、提出する。	対面
第4回	テーマ決定 テーマを決定し、序章、構成について整理し、序章部分と構成案を提出する。	対面
第5回	研究スケジュールを立てる 年間の研究スケジュール、およびプランBを考えて提出する。	対面
第6回	進捗状況と報告 スケジュールに照らして、現時点での進捗具合を確認し、長期休暇の使い方について計画を立て、計画書を作成する	オンデマンド
第7回	今後の活動の計画と修正 長期休暇中の進捗を振り返り、スケジュールの修正を行う。 作成途中の資料、修正計画を提出する。	対面

第8回	完成に向けたスケジュール提出 フィードバックを受け、不測の事態が起きない限りこれ以上修正しない予定のスケジュールを確定し提出する。 発表日程について相談し、資料提出の締め切り、個別指導の時期なども決定する	対面
第9回	進捗と報告② 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	オンデマンド
第10回	進捗と報告③ 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	オンデマンド
第11回	発表資料仮提出 原稿、資料を仮完成させて提出。	オンデマンド
第12回	発表資料作成・提出、口頭試問準備 フィードバックを反映した完成版資料を提出し、口頭試問の模擬演習を行い、質疑応答に対応できるようにする	対面
第13回	発表 決められた発表日に発表を行い、質疑応答まで完了する。	対面

事前・事後学修	指摘された課題への対処方向の考案と実行（1時間程度）
---------	----------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	記録の作成と提出 25% 成果のまとめの作成 25% 発表 30% 質疑応答への対処 20%
テキスト	指定は特にありません。授業内で指示があります。
参考文献	個人によって異なります。教員からアドバイスを受けてください。

備考	最終発表は、内容が不十分である、理解が不十分である（質疑に答えられない）などの場合、1度で通過できない場合があります。修正を行い、再トライとなることがあることを念頭に置き、十分な準備をしてください。
----	---

年度	2025
講義名称	サービス接遇
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	サービススタッフとしての所作・言葉遣い・クレーム対応など、接客の基本的な知識と技能を身につけます。 サービス接遇検定2級を目指し、そのためのポイントを理解できるようになります。
到達目標	接客の業務についた時、お客様対応の実践力があり、顧客満足を提供できる人材となる。 接遇検定2級に合格する。
授業の進め方	サービス接遇の公式テキストを使って、検定合格に必要なポイントを説明します。 知識を理解した後は検定対策の過去問を体験したり、実習を通して体験的に理解を深化していただきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題があった場合には授業内でフィードバックしていきます。 授業内で模擬試験など検定対策のプリントを実施した場合はその場で、できなかった部分などの説明をしていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	1. ガイダンス、検定についての説明と対策 2. 接遇のポイント、接客のマインドとスキル 3. 接遇スタッフの資質の理解 4. 接遇の専門知識・用語 5. 一般知識 6. 接客で求められる敬語 7. 接客におけるコミュニケーション（聴き方・伝え方） 8. クレーム対応 9. 事例検討 10. 接客業務で求められる一般常識 11. 合格の対策（求められる現場での判断力と対応力） 12. 模擬試験と検定対策 13. 総括とテスト	対面授業

事前・事後学修	授業後は学んだことの振り返りをしてください。 検定受験では過去問で苦手部分を見つけ出すことがまず大事です。 授業前に見直すことで、授業の時に質問して、クリアにさせることを繰り返しましょう。 事前事後の学習は2時間を目安にしましょう。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	テスト 80点 レポート 20点
テキスト	「サービス接客検定2級公式テキスト」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
参考文献	「サービス接客1・2級実問題集」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	検定に関しては授業内で詳細を説明します。

年度	2025
講義名称	オフィス演習
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73612
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	職場で求められる対人処理および事務処理能力をより高めるため、ビジネスの場で実際に発生する仕事を体験して能力開発をします。限られた時間内にいくつもの案件を、優先順位を付けて処理をする訓練により、段取り力や、早く、正確に業務を処理する力を身に付けます。
到達目標	社会人になってすぐに直面する課題に対応できるよう、仕事力を育成します。ビジネス系授業の集大成として、事務処理能力、対人能力を磨きます。 ①業務の優先順位を決め処理することができる ②早く、確実な仕事ができるようになる
授業の進め方	基本的に講義形式で実施しますが、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。実務経験のある教員が、オフィスのしくみや人間関係についてビジネスワーカーの視点から理解できる講義です。 演習は以下のとおり進めます。 ①仕事の基礎となる細かな作業を、時間を測り訓練をします ②インバスケット手法を用い、複数の仕事を処理します

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。 学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、仕事のできる人とは	対面
第2回	仕事のスピードと確実性	対面
第3回	電話対応の質向上①安定感のある電話	対面
第4回	電話対応の質向上②ポイントを押さえた電話	対面
第5回	電話対応の質向上③クレーム電話	対面
第6回	会議のコーディネート	対面
第7回	講演会のコーディネート	対面
第8回	宴会のコーディネート	対面
第9回	中間演習・振り返り	対面
第10回	インバスケット①	対面
第11回	インバスケット②	対面
第12回	インバスケット③	対面
第13回	オフィス業務実践演習	対面

事前・事後学修

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします

仕事処理の基本である読み取る、聞き取る、数える、書く、まとめるなど、時間計測をしながらトレーニングすることを入れますので、各自、基準を満たす努力が必要です

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①参加姿勢 10% ②提出物 40% ③インバケット演習 50%
テキスト	教員が準備した教材を配布します
参考文献	講義内で適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容

担当教員は、銀行業務およびIT会社の管理部門において40年間の勤務経験を持ち、金融サービスとITシステム運営の実務スキルを磨いてきました。これらの経験を基に、業界の知識と実践的な視点を融合した学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	EnglishIII
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73711

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	<p>文法指導以外はほぼ英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。</p> <p>Except for the complicated grammar instruction, this class will be in English and focus on developing the student's conversational skills. During lessons, students will learn new vocabulary and use the new words in role plays, short descriptions of daily routines, and other conversational activities.</p>
到達目標	<p>1.新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする 2.意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる</p> <p>1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities. 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.</p>
授業の進め方	<p>ロールプレイ、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけま。意欲的に参加することが求められる。</p> <p>This course will require students to actively communicate with each other during group discussions and pair dialogues. They will also perform role plays of common daily events. In each lesson there will be specific vocabulary to learn and practice, and students are expected to actively participate in all aspects of the class.</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。</p> <p>Feedback: The instructor will provide constant (general and specific) feedback during lessons and all aspects of the developing activities.</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	Unit 16: Romantic Gossip
第2回	Unit 18: Job Swap Day
第3回	Unit 19: Sports / Speaking Test ①
第4回	Unit 20: Inviting Out
第5回	Unit 21: Amazing Trips
第6回	Unit 23: Funny Videos / Speaking Test ②
第7回	Unit 24: Getting Ready
第8回	Unit 25: Shopping for a Present
第9回	Unit 26: Globetrotting / Speaking Test ③
第10回	Unit 27: A Busy Day
第11回	Unit 28: The Magic Life Change Machine
第12回	Unit 29: A VIP Tour / Speaking Test ④

事前・事後 学修	<p>授業で指示、配布された練習を行うこと。語いを復習し、授業での会話やアクティビティで使えるようにしておくこと。</p> <p>Students should review the activities and vocabulary learnt in class, do the exercises about the material given in class and use it to prepare for conversations and activities in class.</p>
-------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>Speaking Test ・スピーキングテスト（各4回 15%、合計60%）</p> <p>Class Activities (discussions, role-plays, etc) ・授業内実演（ディスカッション、ロールプレイなど）20%</p> <p>Homework ・課題宿題 20%</p>
テキスト	<p>Handouts and other materials will be provided in the lessons.</p> <p>授業で配布するプリントや資料を配ります。</p>
参考文献	<p>English Conversation 1 Student Book Third Edition, A Textbook for Eikaiwa Lessons in Japan</p> <p>著者: Tom Whitaker</p>

年度	2025
講義名称	[夏集]English Activities
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73721

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	英語を使って、様々な活動を行うことを通じて、声に出すことの抵抗を減らし、自分で表現したいことを英語で表現できるように練習するための、学科の英語の学びの仕上げとなる授業です。 活動の内容は、英語で何ができるようになりたいかを考え、自分たちで計画します。
到達目標	いろいろな場面で、自分の言いたいことを英語で言えるようにする。 英語を声に出すことに対する抵抗感をなくす。
授業の進め方	グループワークを中心に、体験を通じて、自主的に英語を使ってもらおうようにします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ワークのための準備として、単語の準備学習や、成果のまとめの作成などに、1時間程度の学習が必要です

授業計画表

回	授業内容
第1回	Let's plan どのような目的で、どのようなActivityを行うかを考え、計画を立てる
第2回	A c t ① 準備 立てた計画をもとに、活動の準備をする
第3回	A c t 1 実行 アクティビティを実際に行い、成果をまとめる
第4回	A c t ② 準備 立てた計画をもとに、活動の準備をする
第5回	A c t ② 実行 アクティビティを実際に行い、成果をまとめる
第6回	A c t ② 実行 アクティビティを実際に行い、成果をまとめる
第7回	まとめと振り返り

事前・事後学修 それぞれの活動の準備と振り返り、成果の作成は、授業中だけでは終わらないため、1時間程度の学習が必要です

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	活動計画、準備提出	30%
	実動中の英語使用	30%
	成果のまとめ	40%

備考	活動にかかる交通費、入場料や資材については、原則受益者負担となります。
----	-------------------------------------

年度	2025
講義名称	業界知識
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81111

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>将来の就業に備えて社会には様々な業界、会社があることを理解し、その役割、規模別・運営形態別の仕組みや特徴を学びます。</p> <p>その上で、情報収集の仕方、志望する業界・会社で求められているスキルについてもわかりやすく解説し、社会人になるために準備すべき企業の知識（2年次「ビジネス実務総論」にて学修）を理解できるようにします。</p> <p>就職活動のヒントとすることはもちろん、業界間の連携により社会が構成されていることを実感してください。</p>
到達目標	<p>① 業界分析のための情報を収集し、その情報をまとめることができる。</p> <p>② 自ら調べ、まとめたものをわかりやすく伝えることができる。</p>
授業の進め方	<p>授業は対面での講義方式ですが、単元ごとの理解度テストや、受講者からの意見交換などを行うことがあります。</p>

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>課題については授業内で解説するとともに、フィードバックについても授業内で直接行います。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス、業種と職種
第2回	会社のことを知ろう…会社とは、法人とは
第3回	職種研究…自分はどのような仕事がしたい？
第4回	業界研究…流通業（小売・卸売）
第5回	業界研究…サービス業（ブライダル・フェューネラル等）
第6回	業界研究…製造業
第7回	業界研究…金融業
第8回	講話…人事担当者による業界の説明①
第9回	業界研究…観光業
第10回	業界研究…アパレル
第11回	講話…人事担当者による業界の説明②
第12回	自分が目指す業界についての情報収集
第13回	最終レポートを作成しよう…自分が目指す業界について

事前・事後学修	<p>授業時に取り上げた業界については、復習として新聞・インターネットなどで情報を取得しておきましょう。</p> <p>就職活動などで役立てることができます。</p> <p>おおよそ、1~2時間程度の予習・復習が目安となります。</p>
---------	--

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末レポート 30% 授業内提出物 80%
テキスト	ガイドブックなど適宜関連資料は配布します。
参考文献	『北海道の業界地図』北海道新聞社

年度	2025
講義名称	情報処理【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81211

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	オフィスソフトウェアであるMicrosoft Officeのうち、文書作成（Word）、表計算（Excel）を使用して、ビジネスにおけるさまざまなコンピュータの利活用の手法を身につけることを目的としています。 また日商PC検定にチャレンジできる程度のスキルを身につけます。
到達目標	① オフィスソフトを使い、文書作成・データの活用ができる知識と技術を身につける。 ② 場面に応じた文書作成のスキルや、データからの推察力を身につける。 ③ PC検定（実技）に対応できる知識と技術を身につける。
授業の進め方	毎回の課題の説明を行った後、実際に課題の作成を行ってもらい、提出します。 なお、本講はオンデマンド授業ですので、質問などはWebClassや授業外時間にて対応します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の完成度等について、個別にWebClass等を通じて評価・コメントを行います。 また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	「ガイダンス」とビジネス文書の作成	オンデマンド
第2回	Wordで「差し込み印刷」を行う	オンデマンド
第3回	Wordの「表」を使いこなす	オンデマンド
第4回	Excelの「表示方法」と「関数」を使う	オンデマンド
第5回	Excelで覚えておきたい「新しい関数」	オンデマンド
第6回	Excelの「集計」機能	オンデマンド
第7回	最終まとめ	オンデマンド

事前・事後学修	課題の提出の有無が評価を左右します。必ず完成させて提出するようにしましょう。 1時間程度の家庭学習時間が目安となります。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題の提出と完成度 80% まとめ問題 20%
テキスト	テキストは用いません。随時プリント資料を配布します。
参考文献	よくわかるMicrosoft Word 2019&Microsoft Excel 2019スキルアップ問題集 ビジネス実践編 F O M出版

年度	2025
講義名称	[夏集]英語検定Ⅰ【遠隔A】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(A)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81221

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	主に実用英語技能検定などの資格取得を目指す。同時に、英語の語彙、リスニング、英作文などの総合的な運用能力の伸長を目指す。
到達目標	実用英語技能検定試験 10月の受験に向けて、現在の實力、取得級よりも一つ上位級を取得する力を身に付ける。主に1次試験の突破を目指す。 *希望者はTOEIC BridgeやTOEICに挑戦する場合は自身で立てた目標スコアのクリアをめざす。
授業の進め方	中学～高校までの英語で学習した内容を復習しながら、実際の検定試験で問われる形式の中で、文法、リーディング、リスニング、英作文を総合的に演習形式で学ぶ。特に英作文については、重点的に学習する。適宜、目指す級の過去問などでの演習も行う。

アクティブ・ラーニング

反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	単語課題は授業外で個別練習したものの記録を画像提出、状況確認したうえでコメントを行う。作文課題は提出され次第フィードバックを記入して返却する。その他の問題等については、事前学習したものに対し、オンライン授業でフィードバックを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 実力診断 ・目標級の確認と現時点までの学習方法、進捗状況を確認 ・アプリの準備、学習計画の提出	同時双方向
第2回	作文のコツ ・初回課題から補足説明の必要な部分について学習 ・各級で課される作文課題について、標準目標時間内にポイントを押さえて作文できるように学習	
第3回	リスニングのコツ ・初回課題から補足説明の必要な部分について学習 ・リスニングの得点方法についてコツ、それぞれに合った練習方法を見つける	同時双方向
第4回	長文のコツ ・初回課題から補足説明の必要な部分について学習 ・長文の解き方について、コツをつかむ	同時双方向
第5回	苦手な部分をなくす、または得意な部分を極める① これまでの学習から必要だと判明した部分についての攻略法を考えます	同時双方向
第6回	苦手な部分をなくす、または得意な部分を極める② これまでの学習から必要だと判明した部分についての攻略法を考えます	同時送信
第7回	直前指導 最も苦手なパートを中心に学習	同時双方向

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業前課題 30% 授業中課題 20% 単語学習課題 30% 模擬試験または本試験受験結果 20%
テキスト	準1級までを目指す方には、旺文社の公式英検アプリ「英検カコモン」（1か月1800円）を、9月の1か月分指示します。 ＊長期にわたり学習を継続したい方には、12か月プラン年払い18000円もあります。 プリントをLMSを利用して配布します。（印刷物でほしい場合は申し出ること）
参考文献	直前対策とし英検公式HPの3回分の過去問（準2プラスをのぞく） 長期にわたり自主学習、事前準備を行いたい方には「英語漬けアプリ」で学習を進めておくといいかもかもしれません。

備考	<p>英語検定Ⅰは主に、2025年10月5日（日曜） 本会場実施の検定に合わせて学習します。（2次試験は10月9日） 2次試験対策を希望する場合は、授業外で対応しますので申し出て下さい。</p> <p>学内団体申し込みは7月5日～9月5日までです。ポータルサイトに掲載される方法で申し込んでください。</p> <p>* 2025年度は6月1日（2次7月6日） 申し込み5月2日までと、2026年1月25日（2次3月1日） 申し込み12月15日まで の3回の実施があります。</p> <p>* 2025年6月受験希望者で対策を希望する場合は、個別にご相談下さい。</p>
----	--

年度	2025
講義名称	秘書演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81231
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	秘書業務を学ぶことは事務業務でも接客業務でも有益な知識とスキルを学ぶことに繋がります。 ですので、どのような職種についても即戦力となるような社会人として必要な基本知識とスキルを習得することを目的とします。 社内・社外の方との関わり合い、お客様との関わり合いで求められるコミュニケーション能力を学び、良好な関係性を築けるようにします。
到達目標	社会人として必要なビジネス知識とスキルを理解し実践できるようになる。 組織の成り立ちについて、また基礎的な用語を理解できるようになる。 基本的な言葉遣いを理解し、よりよいコミュニケーションがとれるようになる。 秘書検定3級を取得する。
授業の進め方	秘書検定3級取得を目指すので、受検ガイドをテキストとして、合格のための講義をします。 その中で、基本的な社会人としての知識とスキルを学べるようにプリントやDVDも活用しながら理解を深めます。 コミュニケーションのワークや実習などを通して実践的に学びます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題があった場合には授業内でフィードバックしていきます。 授業内で模擬試験など検定対策のプリントを実施した場合はその場で、できなかった部分などの説明をしていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、検定についての説明と対策 求められる秘書としての資質、業務知識 敬語の遣い方 電話対応 来客対応の流れとポイント 冠婚葬祭や交際業務 ビジネスメール ビジネス文書・お礼状 ファイリング・スケジュール管理 出張管理 これまでの総括と苦手部分の見直し 模擬試験と検定対策 全体の総括とテスト 	対面授業

事前・事後学修	授業後は学んだことの振り返りをしてください。 検定受験では過去問で苦手部分を見つけ出すことがまず大事です。 授業前に見直しすることで、授業の時に質問して、クリアにさせることを繰り返しましょう。 事前事後の学習は2時間を目安にしましょう。
---------	---

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	テスト 80点 小レポート 20点
テキスト	「秘書検定受検ガイド3級」実務技能検定協会編 早稲田教育出版
参考文献	「秘書検定3級クリアテスト」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版 「秘書検定実問題集2024年度版」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	秘書検定についての詳細は授業内で説明します。

年度	2025
講義名称	簿記入門[①/2]【ブレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81241

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本授業では、秋学期の簿記演習と連動して、全国経理教育協会が実施する「全経簿記検定3級」取得レベルの簿記会計に関する基本的な知識の習得と全経簿記3級に合格することを目標とします。企業の活動や様々なビジネスシーンでの取引活動の知識を深めるとともに、業界や職種を問わず役に立つ簿記や会計に関する基本的な知識を身につけることを目標とします。また、資格の取得により企業経理や会計はもとより実社会で活躍するための素地と実力を身につけます。
到達目標	①簿記の意義や役割を理解し、適正な会計処理を行うための基本的な知識と技術を習得する。 ②複式簿記の特徴である「貸借平均の原理」に基づいて、さまざまな取引を記帳できるようにする。
授業の進め方	簿記のしくみやビジネスシーンでの取引と関連する用語について、テキストを用いて解説します。それらを理解した上で、問題集による記帳演習を行って、簿記の記帳技術をスキルアップさせます。また、単元によってはグループワークを行うこともありますが、基本的には個々人の記帳演習が学修活動のメインとなります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	集めた課題は添削して返却することを基本とし、授業の中で補足解説をします。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：簿記の基礎、簿記の目的、簿記の基本用語、テキスト等の購入について	対面講義
第2回	簿記の記帳手続きと全体像①：仕訳と転記について	対面講義
第3回	簿記の記帳手続きと全体像②：仕訳帳と総勘定元帳、試算表、貸借対照表、損益計算書の作成（簿記一巡）について	対面講義
第4回	簿記の記帳手続きと全体像③：簿記一巡の確認（簿記の記帳手続きの流れを復習）	オンデマンド講義
第5回	現金と預金：現金と預金、当座預金、小口現金について	対面講義
第6回	商品売買①：三分法、掛取引、返品、商品売買に係わる帳簿（仕入帳・売上帳、買掛金元帳・売掛金元帳）について	対面講義
第7回	商品売買②：商品売買に係わる帳簿（商品有高帳）、売上原価対立法について	対面講義
第8回	その他の収益と費用、その他の債権債務（貸付金と借入金、未収金と未払金、前払金と前受金）について	対面講義
第9回	一時的な処理（仮払金と仮受金、消費税の処理、立替金・預り金と給料の支払い、現金過不足）について	対面講義
第10回	一時的な処理（仮払金と仮受金、消費税の処理、立替金・預り金と給料の支払い、現金過不足）について	対面講義
第11回	決算の手続きと決算整理仕訳について	対面講義
第12回	精算表の作成について	対面講義
第13回	授業内考査、解答解説と振り返り	対面講義

事前・事後学修	<p>○事前学習：ビジネス社会全体の動きに興味関心を持ち、テキストをよく読み、簿記に関する取引や用語でわからないことをハッキリさせて、講義で質問できるようにしておきましょう。</p> <p>○事後学習：テキスト及び授業で配布された資料等をよく読み返し、必ず問題集や配布プリントを活用して復習（問題演習）を行って講義ごとの学習事項の定着を図りましょう。</p> <p>※ 個人差がありますが、自分自身の理解度に応じて、事前学習、事後学習にそれぞれ1～2時間を目安とします。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 定期試験 60% ② 提出物 40% (記帳技術向上のためのプリントなど)
テキスト	『全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記』 ネットスクール出版 1,540円 『全経簿記能力検定試験公式問題集3級商業簿記』 ネットスクール出版 1,540円 ※ 上記のテキストと問題集については、初回の講義で購入の案内をします。
参考文献	全経令和6年度版 簿記能力検定試験過去問題集3級商業簿記 全国経理教育協会

備考	簿記の習熟状況や履修計画によって、授業日の振り分けをすることがあります。また、テキストと問題集の他に、計算用の電卓(12桁)が必要となります。このことについては、最初の講義で説明をします。
----	--

年度	2025
講義名称	簿記入門[②/2]【ブレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81241

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本授業では、秋学期の簿記演習と連動して、全国経理教育協会が実施する「全経簿記検定3級」取得レベルの簿記会計に関する基本的な知識の習得と全経簿記3級に合格することを目標とします。企業の活動や様々なビジネスシーンでの取引活動の知識を深めるとともに、業界や職種を問わず役に立つ簿記や会計に関する基本的な知識を身につけることを目標とします。また、資格の取得により企業経理や会計はもとより実社会で活躍するための素地と実力を身につけます。
到達目標	①簿記の意義や役割を理解し、適正な会計処理を行うための基本的な知識と技術を習得する。 ②複式簿記の特徴である「貸借平均の原理」に基づいて、さまざまな取引を記帳できるようにする。
授業の進め方	簿記のしくみやビジネスシーンでの取引と関連する用語について、テキストを用いて解説します。それらを理解した上で、問題集による記帳演習を行って、簿記の記帳技術をスキルアップさせます。また、単元によってはグループワークを行うこともありますが、基本的には個々人の記帳演習が学修活動のメインとなります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	集めた課題は添削して返却することを基本とし、授業の中で補足解説をします。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：簿記の基礎、簿記の目的、簿記の基本用語、テキスト等の購入について	対面講義
第2回	簿記の記帳手続きと全体像①：仕訳と転記について	対面講義
第3回	簿記の記帳手続きと全体像②：仕訳帳と総勘定元帳、試算表、貸借対照表、損益計算書の作成（簿記一巡）について	対面講義
第4回	簿記の記帳手続きと全体像③：簿記一巡の確認（簿記の記帳手続きの流れを復習）	オンデマンド講義
第5回	現金と預金：現金と預金、当座預金、小口現金について	対面講義
第6回	商品売買①：三分法、掛取引、返品、商品売買に係わる帳簿（仕入帳・売上帳、買掛金元帳・売掛金元帳）について	対面講義
第7回	商品売買②：商品売買に係わる帳簿（商品有高帳）、売上原価対立法について	対面講義
第8回	その他の収益と費用、その他の債権債務（貸付金と借入金、未収金と未払金、前払金と前受金）について	対面講義
第9回	一時的な処理（仮払金と仮受金、消費税の処理、立替金・預り金と給料の支払い、現金過不足）について	対面講義
第10回	一時的な処理（仮払金と仮受金、消費税の処理、立替金・預り金と給料の支払い、現金過不足）について	対面講義
第11回	決算の手続きと決算整理仕訳について	対面講義
第12回	精算表の作成について	対面講義
第13回	授業内考査、解答解説と振り返り	対面講義

事前・事後学修	○事前学習：ビジネス社会全体の動きに興味関心を持ち、テキストをよく読み、簿記に関する取引や用語でわからないことをハッキリさせて、講義で質問できるようにしておきましょう。 ○事後学習：テキスト及び授業で配布された資料等をよく読み返し、必ず問題集や配布プリントを活用して復習（問題演習）を行って講義ごとの学習事項の定着を図りましょう。 ※ 個人差がありますが、自分自身の理解度に応じて、事前学習、事後学習にそれぞれ1～2時間を目安とします。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 定期試験 60% ② 提出物 40% (記帳技術向上のためのプリントなど)
テキスト	『全経簿記能力検定試験公式テキスト3級商業簿記』 ネットスクール出版 1,540円 『全経簿記能力検定試験公式問題集3級商業簿記』 ネットスクール出版 1,540円 ※ 上記のテキストと問題集については、初回の講義で購入の案内をします。
参考文献	全経令和6年度版 簿記能力検定試験過去問題集3級商業簿記 全国経理教育協会

備考	簿記の習熟状況や履修計画によって、授業日の振り分けをすることがあります。また、テキストと問題集の他に、計算用の電卓(12桁)が必要となります。このことについては、最初の講義で説明をします。
----	--

年度	2025
講義名称	食品と栄養
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81251
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	私たちは食物を摂取することにより、生命・健康を維持し、活力を生み出し、嗜好を充足させています。本講義では、健康的な食生活の実現に向けて、栄養素の働きと特徴を正しく理解し、各種食品の特性や食の嗜好性など、食品と栄養に関する基礎的な知識の習得を目的とします。
到達目標	健康に留意した食生活を実現するための基本知識として食品と栄養に関する知識を習得すること、健康の保持増進に必要な栄養素の働きについて理解することを目標とする。
授業の進め方	提示したスライドを中心に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの解答、提出された課題等については授業内およびLMSを通じて解説します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・人のからだの構成成分
第2回	栄養素の役割①
第3回	栄養素の役割②
第4回	消化と吸収①
第5回	消化と吸収②
第6回	中間試験・振り返り
第7回	食物の分類と食品加工
第8回	植物性食品
第9回	動物性食品
第10回	調味料
第11回	運動と休養
第12回	食べものの違い
第13回	まとめ・期末試験

事前・事後学修	次回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてノート等にまとめてきてください。授業の冒頭で、前回の授業内容について小テストを行います。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください（各2時間程度）。
---------	---

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	中間・期末試験：50% 小テスト：15% 提出物（小レポート等）：35%
テキスト	食の検定を受験する学生は「食の検定」のテキスト購入を推奨します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、東海大学医学附属大磯病院の栄養科において2008～2015年の勤務経験があり、患者の栄養管理や食事指導に携わりました。その実務経験を基に、栄養学の実践的な視点を学べる講義を展開します。
-------------------	--

年度	2025
講義名称	カラーデザイン
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81261

担当教員

氏名	所属
◎ 恩村 比呂子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	公式テキストを使って講義を行い、文部科学省後援「色彩検定UC級」合格を目指します。 色覚の多様性について正しく理解し、誰にとっても見やすい色彩設計についての知識を持ちます。 配色理論をもとに、伝わるイメージ表現を行える能力を身につけます。
到達目標	色彩検定UC級に合格する。 色覚の多様性を理解し、誰もが見やすいカラーデザインができるようになる。 伝えたいイメージを意識して配色ができるようになる。
授業の進め方	検定受験日までは色彩検定UC級テキストを使用し、講義形式で授業を進めます。 検定対策用の練習問題を繰り返し解き、色覚の多様性についての理解を深めます。 検定受験以降は、配色理論も取り入れたイメージの分類について学び、雑誌のグラビア写真を使ったコラージュでイメージを表現します。 自分の思い描くイメージを言葉と色の関係性で説明できるかどうかを常に考えながら作品を作成します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	練習問題の正解と講評はWebClassで公開するか、授業内で解説を行います。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 色彩検定について 色のユニバーサルデザインとは
第2回	色が見えるしくみ
第3回	色覚タイプによる色の見え方
第4回	色覚の遺伝 高齢者の見え方
第5回	色のユニバーサルデザインの進め方
第6回	カラーユニバーサルデザインのまとめ 色相環を作る 課題提出①
第7回	イメージのとらえ方 イメージの9分類「はなやか・愛」 課題提出②
第8回	イメージの9分類「はなやか・楽/華」 課題提出③
第9回	イメージの9分類「おだやか・素/趣」 課題提出④
第10回	イメージの9分類「さわやか・優/品」 課題提出⑤
第11回	イメージの9分類「おだやか・格」「さわやか・理」 課題提出⑥

第12回	テーマに基づいたコラージュ作品作成（期末試験） 課題提出⑦
第13回	作品の分析と講評 まとめ

事前・事後学修	<p>検定対策用のプリントは毎回授業の冒頭に配布しますが、授業の終わりに次回授業で進めるテキストの範囲を発表するので、事前学習としてその内容の要旨を「まとめレポート」として次回授業までに作成し提出してもらいます。</p> <p>検定対策用の練習問題は毎回配布します。授業内で解答しきれなかった部分は、事後学習として復習を兼ねて自宅で必ず解いてもらいます。事前学習、事後学習ともそれぞれ2時間程度必要です。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>授業前に提出する「まとめレポート」の仕上がり状況を評価基準①とします。</p> <p>提出課題の仕上がり状況を評価基準②とします。</p> <p>各評価のうち①を50%、②を50%の割合で合計し総合評価にします。</p>
テキスト	文部科学省後援 色彩検定公式テキストUC級 公益社団法人色彩検定協会発行 2310円税込み

備考	<p>2025年度の冬期色彩検定は11月9日（日）に大学内で実施します。</p> <p>10月初旬に検定料6000円（税込み）の支払いが必要になります。</p> <p>履修する学生は実費になりますから予め用意してください。</p> <p>授業開始から検定日までの日数がないので、第2回目授業からテキストを使って行います。</p> <p>テキストはできるだけ早く注文して授業に持参できるようにしてください。</p> <p>第6回から第12回までの授業では雑誌を使って切り貼りします。雑誌についてはガイダンスで詳しく説明しますが2～3冊程度必要になります。</p>
----	--

年度	2025
講義名称	マーケティング[総キ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81311

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	マーケティングの基礎的な考え方や理論の枠組みを理解し、それらの知識を活用できるようになることを目的とします。そのためには、企業と顧客の関係やマーケティング意志決定に関して、これまでの消費者目線だけではなく、企業側の立場に立って学びを深めています。マーケティングに関する基本的な用語、仕組みや活用方法については実例をもとにアイデアを構築するなど実践的に修得します。
到達目標	①マーケティングの発展および役割を理解し、実際の事例を理論的に説明・分析する基礎力を身につける。 ②顧客の視点に立ったマーケティング的発想、提案ができる素養を身につける。
授業の進め方	授業テーマに沿って、各企業の実態を調査したり、グループ討議を行ってまとめを行います。また、個人で素材を選んで、作品製作を行うこともあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション	対面講義
第2回	STP分析	対面講義
第3回	4P分析	対面講義
第4回	クロスSWOT分析	対面講義
第5回	価格戦略	対面講義
第6回	選ばれるネーミングとキャッチコピー	対面講義
第7回	パッケージデザイン	対面講義
第8回	POP広告作成①	対面講義
第9回	POP広告作成②	対面講義
第10回	POP広告作成③	対面講義
第11回	アイデア発想トレーニング①	対面講義
第12回	アイデア発想トレーニング②	対面講義
第13回	授業内考査、振り返り	対面講義

事前・事後学修	○事前学習：次回の講義内容の指示に沿って、資料を読んで学習テーマや課題を明確にすることが大切です。 ○事後学習：講義で学んだ内容（インプットした力）をもとに、毎時間の課題に取り組み、学習内容の理解の定着と広がりを持つことが大切です。 ※ 事前学習、事後学習をあわせて1時間程度が目安となります。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01
--------------------	--------------

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業内課題 40点 ②レポート 40点 ③作品提出 20点
テキスト	テキストは使用しませんが、適宜、資料を配付します。
参考文献	『1からのマーケティング』 石井 淳蔵 他（編著） 碩学舎 『実施する順に解説！マーケティング実践講座』 弓削 徹 日本実業出版社 『売る力が身につく最強マーケティング図鑑』 草地 真 株式会社パル出版

年度	2025
講義名称	北海道のフードビジネス
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81321
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	フードビジネスの世界は日々、専門性や高度化を増し、競争が激化している。 本講義の目的は、フードビジネスの意義や歴史・環境変化などを学び、豊かな大地で育まれる北海道食材や、フードビジネスに関する基本知識を学習し、理解を深める事にある。
到達目標	1.北海道の食材や加工品について、基本的な内容を理解し、説明する事ができる。 2.多様化する消費者の食に対するニーズやウオントを理解し、説明する事ができる。 3.専門化・高度化するフードビジネスの現状を理解し、説明する事ができる。 4.今後の課題や可能性について考察し、自分の考えを第三者に伝える事ができる。
授業の進め方	1.プリントや関連資料を中心に授業を行う。 2.学習内容の理解や問題意識を高めるために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。 3.フードビジネス業界で成功を収めている企業の社長をゲストスピーカーとして招き、特別講義を行う。 4.北海道のフードビジネスで人気の高い企業の食品を取り寄せ、実食を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布する。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・フードビジネスの意義
第2回	・フードビジネスの分類 ・フードビジネスの現状と課題
第3回	・フードビジネスの歴史
第4回	・北海道の魅力ある食材研究1（グループワークによるディスカッション・調査）
第5回	・北海道の魅力ある食材研究2（プレゼンテーション）
第6回	・北海道が育む食文化
第7回	・北海道の魅力あるフードビジネス企業の社長に聞く①
第8回	・小テスト ・食による地域振興
第9回	・北海道の魅力あるフードビジネス企業の社長に聞く②
第10回	・フードビジネスのマネジメント（料飲コスト、FLコスト） ・北海道の魅力ある商品の研究（グループワークによるディスカッション）

第11回	・北海道の魅力ある商品の研究（グループワークによる調査）
第12回	・北海道の魅力ある商品の研究（プレゼンテーション）
第13回	・期末テスト ・振り返りとまとめ

事前・事後学修	<p><予習>授業で取り扱う内容に関し、毎回、事前に新聞やニュースなどを利用し、自ら積極的に触れておくこと。</p> <p><復習>各回の授業で取り扱った内容に関し、講義内容をしっかりと復習するとともに、SNS等を活用して深く調べ、その内容をまとめておくこと。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	期末試験50% 小テスト、レポート25% 授業内プレゼンテーション25%
テキスト	適宜、資料を提示・配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>本講義は、永年、ホテル業界やブライダル業界において、営業や人材育成、メニュー開発などの実務経験がある教員が担当します。</p> <p>日本一の食料基地である北海道の豊富な食材や加工食品について、わかりやすく解説します。</p> <p>また、観光産業の中のフードビジネス業界の役割や可能性などについても解説します。</p>
-------------------	---

年度	2025
講義名称	[夏集]レシピ研究と実践
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81322
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 和久田 紗恵子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	様々な料理レシピ情報が簡単に手に入る現代社会の中で、レシピについて正しく理解し、実践できる力は健康的な食生活を形成する上でとても大切です。本科目では調理実習を通して、食材が調理を経て料理になるまでの手順を理解しながら、テーマに沿ったレシピを考え、オリジナルレシピを作成します。調理実習を行いながら、より良いレシピ作成のためにレシピを活用する人の立場になり考え研究するとともに、レシピ通りに調理する実践力を育む科目です。
到達目標	食材が料理になるまでの手順を理解することができる。レシピを活用し、正しく料理できるようになる。
授業の進め方	講義と実習形式

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内およびLMSを通じて解説します。
----------------------------	-----------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・レシピの成り立ち・テーマについて
第2回	メニュー考案・レシピ案作成・盛り付け図・データ化
第3回	試作準備・食材の調達
第4回	試作①
第5回	試作②
第6回	試作③
第7回	試作④
第8回	レシピ案修正・栄養価計算・試食会準備
第9回	試食会準備
第10回	試食会準備・レシピ用写真撮影
第11回	試食会と評価・レシピ修正
第12回	レシピ仕上げ・完成・発表準備
第13回	発表

事前・事後学修	レシピ研究の過程をまとめ、復習してきてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、「こんなレシピがあったら良いな」とレシピに興味を持ち、料理を見て調理過程を想像して生活してみましょう（各1時間程度）。	2025/04/01
---------	---	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート：20% レシビ：60% 発表：20%
テキスト	適宜プリント配付
参考文献	レシビや食材、調味料に関する書籍等

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、東海大学医学附属大磯病院の栄養科において2008～2015年の勤務経験があり、患者の栄養管理や食事指導に携わりました。その実務経験を基に、栄養学の実践的な視点を学べる講義を展開します。
--------------------------	--

年度	2025
講義名称	[冬集]ファッションビジネス
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81331
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 畑 育実	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	ファッション業界を知り、ファッションを学ぶことで、就職対策に大きな利点となる専門知識、技術を習得し情報発信側として、ブランド立案、コーディネート方法などの実践を通して理解し、消費者行動とファッション生活の側面の理解を深める
到達目標	ファッションビジネスは世界の様々な職種と役割及び機能を理解し、説明することが出来る。又コーディネート技法の習得によりセルフセルフプロデュース力を高め、グループワークでは自主性、積極性、分析力、発信力が我々のファッション生活の一部になることを実践を通して理解し、説得力のある提案が出来る様になる。
授業の進め方	講義で習得した知識を応用し、企画や実践を個別に、またはグループワークで提案していく

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p><小テスト> 授業後の質疑応答の時間で確認し、小テスト(アンケート)を使い、質問にフィードバック</p> <p><定期試験> コンテスト結果の発表と総評のフィードバック</p>
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～授業目的と今後の内容、自己紹介。ファッション業界について	対面
第2回	TPO、美点凝視、世界5大コレクション、ファッションチェック	対面
第3回	トレンドの流れ、今季のトレンドキーワード、世界5大コレクションのコレクションDVD視聴と解説、次週の準備について	対面
第4回	ファッションコーディネートの方法と提案(骨格、視覚効果について)、トータルスタイリングの4つの要素	対面
第5回	TPO、トレンド感性、体型カバーのコーディネートテクニックについて	対面
第6回	条件別ファッションコーディネート提案	対面
第7回	ファッションビジネスに求められる情報収集と企画立案	対面
第8回	SDGsにおける企業の取り組みと商品開発について、企画提案	対面
第9回	企業課題オリジナルブランド企画立案コンテストについて	対面
第10回	オリジナルブランド企画立案1	対面
第11回	オリジナルブランド企画立案2	対面
第12回	オリジナルブランド企画立案3	対面
第13回	オリジナルブランド企画立案4	対面

第14回	授業内試験 コンテスト発表	対面
第15回	コンテスト結果発表とフィードバック、振り返り	対面

事前・事後学修	当日の授業内容を確認し、資料ファイルを自主製作し、課題に取り組む事後学習を行う時間を1時間～2時間の目安とする
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内試験60%(14週目実技40%、15週目振り返り20%) 小テスト20%(振り返りアンケート)
------------------	---

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、有限会社DADDIKU fashionの代表取締役として、TVやタレントを対象にスタイリスト、ヘアメイク、ファッションデザイナーとして活躍するとともに、美の総合プロデュースを行うイメージカウンセラーとして幅広い教育活動を展開してきました。これらの実績を基に、基礎から応用まで実践的に学べる講義を展開します。
備考	JWCスタイリングサポーター資格試験を任意で実施(アンケートで希望の意思確認)

年度	2025
講義名称	サービスの心理学
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81411
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	サービスの付加価値を追求し、顧客満足を提供し続けることは企業にとって大きなテーマです。 また、組織で働く上で言語化されない顧客のニーズ・ウオンツを把握し、サービスの実践をすることは職業人として求められる能力です。 本講義ではサービスとは何か、顧客心理とはどのようなものかを具体的に学び、顧客とのよりよいコミュニケーション・クレーム対応など、現場で有益となるサービス創出のための実践的な学習と体験をし、将来に活用できることを目的とします。
到達目標	サービスについての知識を深め、様々な場面でのお客様の心理を察知し、理解できるようになる。 様々な状況で、より適切なサービス提供に必要な判断力・コミュニケーション能力が発揮できるようになる。 顧客のみならず、組織内の人間関係に有益となる他者への配慮ができ、スムーズな業務遂行やよりよい人間関係の構築ができるようになる。
授業の進め方	基本的な知識は講義形式で学びます。自分自身のコミュニケーションのパターンなど自己理解を深めるためにワークシートなどを活用したり、体験ワークを実施します。 また、学んだことを他者と共有化し、考察を深めるためのグループワークやディスカッションも体験していただきます。 最終的に社会人になった後も役立つようなテーマでプレゼンをしてアウトプットしていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバックしていきます。 レポートなどの課題があった場合には精査した後にフィードバックします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	1. ガイダンス、 サービスとは何か 2. サービスとホスピタリティ 3. ホスピタリティと共感的理解 4. サービスのマインドとスキル 5. サービスとコミュニケーション 6. サービスの品質管理 7. 顧客心理とその事例検討 8. 顧客心理に基づいたクレーム対応 9. ロイヤルカスタマー獲得のスキル 10. 顧客満足に繋がる具体的方策 11. 具体的方策の検討と提案 12. プレゼンテーション 13. 総括とテスト	対面授業

事前・事後学修	配布レジュメにメモをしたり、自分でノートを作成したりして、授業後に見直し・振り返りをしてください。 レポートではその授業で学んだことを自分の言葉でわかりやすくまとめましょう。 グループワークやディスカッションの前には事前にアナウンスしますので、各自で必要な情報を収集しておくようにしましょう。 事前・事後の学習は2時間程度を目安にしてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	テスト 70点 グループディスカッション・プレゼン 30点
テキスト	「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」 中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社パレード
参考文献	「コミュニケーション学」 末他清子・福田浩子著 株式会社松柏社 「対話でみがくことばの力」 宇都宮裕章 ナカニシヤ出版 「人間尊重の心理学」 カールロジャーズ著 創元社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	提出物の期限は厳守してください。

年度	2025
講義名称	ブライダル実務
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81431
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	ブライダルにまつわる基本的な知識を学習します。 婚約・挙式・披露宴/祝賀会等のしきたりやプロセス、意義、結婚式に関連する衣装やマナーについて学びます。 ブライダル業界・ホテル業界の研究と、それらの業界へ就職を目指す学生には基礎知識の習得にもなります。 授業の中で、教員からの説明や動画を視聴し基本を学ぶため、結婚式に参列経験がない学生でも、問題なく履修が出来ます。
到達目標	ブライダルに関するしきたり等の基礎知識および社会人としてウェディングシーンに立合う際のマナーの習得。 結婚および結婚式について、興味・関心の向上。
授業の進め方	1.プリントや関連資料の利用による説明と、必要に応じてディスカッションを行います。 2.実際の結婚式や披露宴の映像資料を視聴します。 3.学生が新郎新婦役となり、「模擬挙式」を行います。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説・説明を行う。
----------------------------	----------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・ブライダル業界の仕事
第2回	・ブライダル業界の現状と傾向 ・挙式の種類1（神前結婚式の解説と動画視聴）
第3回	・挙式の種類2（キリスト教結婚式、仏前結婚式、人前結婚式の解説と動画視聴）
第4回	・「六輝（ろっき）」、「熨斗（のし）」、「水引（みずひき）」とは
第5回	・「会費制祝賀会」と「招待制披露宴」 ・配席について
第6回	・第1回小テスト ・結婚式に関する衣装
第7回	・結納（ゆいのう）について
第8回	・結婚式の料理と飲物
第9回	・ゲストとしての心構えとマナー
第10回	・披露宴の演出とその意義 ・約款
第11回	・披露宴の動画視聴

第12回	・模擬結婚式の実施
第13回	・期末テスト ・まとめ

事前・事後学修	SNSやニュースなどで、ブライダルに関連する話題に興味・関心を持つ事。 予習・復習時間として、毎回、1時間程度の自宅学習を行う事。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	小テスト40% 期末テスト60%
テキスト	適宜教員より資料を配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ブライダル業界やホテル業界において、ウェディングプランナーや人材育成、ウェディングプロデュース等の実務経験のある教員が担当します。 ウェディングプランナーとして現場に必要な基礎的な知識や、結婚式を挙げる新郎新婦として必要な知識、結婚式の参列者として欠かせないマナー等をわかりやすく解説します。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	エアラインサービス演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81441
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中里 のぞみ	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本講義の目的はエアラインにおけるサービスについて学び、広義におけるホスピタリティマインドとスキルを習得して、様々な業種について後、それを活用できるようになることです。 変化の激しい社会にあっても、将来、社会人として様々な現場で多様な判断力と対応力を身につけるように目指します。 事例検討、グループワークなどを通し、協働のためのコミュニケーション能力も体験的に学びます。
到達目標	エアラインサービスを学ぶことでホスピタリティの理解を深め、現代社会に求められる顧客満足を提供できる人材となることを目標とします。 お客様対応や組織内での業務遂行に求められるコミュニケーションスキルを高め、傾聴力・発信力を発揮できるようにします。 様々な場面でのお客様への判断力と実行力を身につけます。
授業の進め方	資料・パワーポイント・エアラインに関連するDVDを活用しての講義を実施し、グループワークやディスカッションを通して、エアラインの時代的变化・求められるホスピタリティ・顧客満足について具体的に学んでいきます。 エアライン実務経験からの具体事例を盛り込み、より現場について理解を深められるように講義を進めます。 また、それらを様々な業務のお客様対応に応用できるように考察して頂きながら進めていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループワークやディスカッションについては、随時、授業内でフィードバックします。 提出物があった場合には精査した後にはフィードバックします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、エアラインにおける訓練 2. エアラインにおける様々な業務とその内容 3. CAの実務 4. CAの対応スキル 5. GSの実務 6. GSの対応スキル 7. イレギュラーとクレーム対応 8. サービス比較 9. エアラインにおける顧客満足 10. 新サービスの考察 11. 新サービスの提案 12. インバウンドとアウトバウンド（外部講師登壇）あるいは空港見学 13. LCとLCCのサービス、総括 	対面授業

事前・事後学習	事前学習として航空業界などのニュースなど意識して観るようにしましょう。 また、グループワークがある前には事前にテーマをお伝えするので、関連する情報を収集しておきましょう。 事後学習としては配布した資料や自分で作成したノートを見返しておくようにしましょう。 事前・事後学習にはそれぞれ2時間を目安にしてください。
---------	--

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	最終レポート 40点 小レポート 20点 ディスカッション・プレゼンテーション 40点
テキスト	最適なテキストがないので、その都度、関連する資料をコピーして配布します。
参考文献	「グランドスタッフ入門」廃版になってしまったため、授業内で説明します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	空港見学が可能であれば実施となり、その場合は石田先生が引率を担当します。

年度	2025
講義名称	生活と金融
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81451

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	より豊かで、安心した人生を送るために「金融」に関する知識を身につけることは重要です。貯めること、増やすこと、使うこと、守ることの4つのテーマを入口として、今とこれからのお金の在り方について、理解を深めていきます。
到達目標	①金融の基本的な機能、役割、仕組みを理解し、金融基礎力を修得する。 ②金融の知識を身に付けることによって、金融犯罪や多重債務から自分自身を守り、より豊かな人生設計ができる意識を醸成する。
授業の進め方	実例に基づく演習、講義の他、単元によって調査、ディスカッションを行って能動的に学修します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	適宜、授業内でフィードバックを行います。
----------------------------	----------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション（金融とは）	対面講義
第2回	お金の機能と価値	対面講義
第3回	生活支出の考え方	対面講義
第4回	ローンの知識①（基礎）	対面講義
第5回	ローンの知識②（クレジットカード）	対面講義
第6回	ローン知識③（住宅ローン）	対面講義
第7回	税金の基礎知識	対面講義
第8回	貯蓄のための基礎知識	対面講義
第9回	金融商品の概要①（預金、債券、株式）	対面講義
第10回	金融商品の概要②（投資信託と運用）	対面講義
第11回	消費者トラブルと多重債務問題を考える	対面講義
第12回	貯めた資産を安全に守る	対面講義
第13回	授業内試験、振り返り	対面講義

事前・事後学修	講義で学んだ知識をさらに広げる学修活動を行ってください。目安となる時間は1時間程度です。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業内提出物 60点 ②授業内試験 40点
テキスト	テキストは使用しませんが、適宜、プリントを配布します。
参考文献	『マネートラブルにかつ!』ろうきん 『金融と経済を学ぶ』『お金を借りる』『トラブルを避ける』金融広報中央委員会 『お金の超基本』坂本 綾子 著 朝日新聞出版 『お金の大学 改訂版』両@リベ大学長 朝日新聞出版 『みんなが欲しかった!FPの教科書3級』滝澤 ななみ 著 TAC出版

年度	2025
講義名称	企業の戦略
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81511
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河田 真清	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none">・ビジネスの社会では、行き当たりばったりの経営ではなく、戦略的思考に基づき経営課題の解決を図るとともに、経営資源（人、物、金、情報）を有効に使い、リスクを管理しながら経営を展開することが重要です。・そのために必要な基礎理論（経営学）や手法について身近な事例により皆さんと一緒に考えていきます。
到達目標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・ビジネスを進めるうえでの考え方を自分の言葉で語れ、他の教員や企業関係者とも共通の言葉で会話ができるようになることを目標とします。・自分の身近なアルバイトや部活、ゼミ活動の中や、これから社会に出てからも、経営学的手法で体系的に組織を見て、課題解決に使えるようにすることを目標とします。 <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】</p> <ul style="list-style-type: none">・社会に出たとき、会社に入ったとき、創業するときなど、多様な場で自立した職業人として活躍できる実務能力を身につけるために、基礎的な経営学の知識を基に戦略的思考を進めることを習得します。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none">・通常は講義方式で授業を行います。・テーマに応じてグループ討議やプレゼンテーションも取り入れます。・毎回、講義の最後に課題を出しますので取り組んでもらいます。・途中で数回、ミニテストを実施します。皆さんの理解度を確認する意味もありますので、予告なしに不定期で実施します。・授業の後半には、モデルとなる企業の情報に基づき、経営課題を抽出し、その解決策を検討し、経営戦略を策定してレポートにまとめる実習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・提出して頂いた課題により講義の理解度をチェックし、次の講義に反映させていただきます。課題は次回の講義で、講師から総評させていただきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	ビジネスを進めるうえで重要なこと、企業の戦略とは何か～ガイダンス～
第2回	企業とは何か、企業はどのように成長していくか
第3回	経営を数字から見てみよう（1）経営数字の基礎
第4回	経営を数字から見てみよう（2）資金を集めるには
第5回	企業の中で人の管理（1）人事労務管理とは
第6回	企業の中で人の管理（2）人から組織へ
第7回	ものづくりの基本と仕事のカイゼン
第8回	売れる仕組みをつくろう（1）マーケティングの基本
第9回	売れる仕組みをつくろう（2）マーケティング戦略のいろいろ
第10回	経営戦略を考えよう～企業の課題解決の方向性は？

第11回	経営戦略から経営計画へ～戦略をどうやって実現する？
第12回	ケーススタディ～企業の課題を抽出、課題解決を進める戦略を提案してください
第13回	プレゼンテーションとまとめ

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容につき指名して質問しますので、必ず前回の授業内容を復習しておいて下さい。 ・日常生活の中でも最近の企業の動き、情報をニュースや新聞、ネット等から授業に関する言葉や情報などを調べる習慣をつけるよう心掛けてください。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>毎回授業時の出席＋課題提出 20%</p> <p>ミニテスト（不定期に実施） 30%</p> <p>課題レポート 50%</p> <p>※期末にケーススタディによる企業の課題解決に資する経営戦略をレポートとして作成します。</p>
テキスト	毎回、プリントを配布します。
参考文献	周佐喜和 他『経営学Ⅰ企業の本質』（実教出版）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>・中小企業診断士として、数多くの企業の経営課題解決に当たった実務経験のある教員による実践的な授業として、企業支援の事例や経験を授業に反映させながら進めています。</p>
-------------------	---

年度	2025
講義名称	医療事務
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 薄井 智也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>●理由 それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンをリンクさせつつ想像力を働かせながら関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。</p> <p>●目的 基礎編では病院のしくみや医療保険制度について理解することをねらいとする。実務編では医科診療報酬点数の算定について、診療行為それぞれの特性を掴むとともに、外来分の裏点作成※1と診療報酬明細書※2の記載要領※3について理解することをねらいとする。 ※1.診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。 ※2.月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの、レセプトと言う。 ※3.レセプト記載に際するルールを示す。</p> <p>●概要 ・医療事務基礎編 第1章) 病院のしくみ 第2章) 医療保険 第3章) 公費負担医療制度 ・医療事務実務編 診察料の算定(初診料・再診料・外来管理加算等)、医学管理料の算定、投薬料の算定、注射料の算定、処置料の算定、手術・麻酔料の算定、検査料の算定、画像診断料の算定。カルテ上の表記と診療報酬明細書への記載について特性を掴む。</p>
到達目標	<p>●到達目標 基礎編では医療機関の仕組みや医療保険制度の仕組みについて理解する。実務編では医科診療報酬点数の算定について、診療行為それぞれの特性を掴み、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の記載要領を理解する。カルテの情報(診療記録や疾病、医療用語)を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の算定ができ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書(レセプト)の作成習得を到達目標とし、全国医療技能検定協議会医療事務検定の100%受験とともに、再受験を含めた最終的な検定合格率は80%以上の合格率を目指す。</p> <p>●卒業認定・学位授与の方針との関連 自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基づき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人材を養成する。</p>
授業の進め方	<p>●方法 テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。 主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と知識の定着を図る。</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	<p>●フィードバックの方法 授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と知識の定着を図る。</p>
-----------------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	受講意思確認等、シラバス説明、検定、授業の進め方、課題取り組み、講師紹介等 医療事務基礎編 - 第1章) 病院のしくみ

第2回	医療事務基礎編－第2章）医療保険 医療事務基礎編－第3章）公費負担医療制度、医療事務実務編確認
第3回	医療事務実務編－初診料の算定
第4回	医療事務実務編－再診料、外来管理加算の算定
第5回	医療事務実務編－医学管理料の算定
第6回	医療事務実務編－投薬料の算定
第7回	医療事務実務編－注射料の算定
第8回	医療事務実務編－処置料の算定
第9回	医療事務実務編－手術、麻酔料の算定
第10回	医療事務実務編－検査料の算定
第11回	医療事務実務編－画像診断料の算定
第12回	医療事務実務編－頭書き（氏名や健康保険）、傷病名、カルテ2号紙の理解 医療事務実務編－外来分の裏点整理と診療報酬明細書記載要領の理解
第13回	授業内テストならび解説

事前・事後学修	理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しようとする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行いましょう。繰り返し行うことで理解の充実や知識の整頓、正しい知識の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がります。大変だと思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内テストにより60%を決定し、授業内課題40%による。
テキスト	全国医療技能検定協議会出版) 医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、耳鼻咽喉科麻生病院での長年のキャリアを通じて医事課で要職を歴任し、現在は事務部門の次長を務めています。保有資格は診療情報管理士、医療安全管理者、病院管理士と多岐にわたり、豊富な経験を積んできました。非常勤講師としての指導経験に加え、長年の医療事務経験を活かし、医療現場の管理と実践に関する具体的な知識を提供する講義を行います。
--------------------------	---

年度	2025
講義名称	調剤薬局事務
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 時野 香里	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>医療機関から発行される処方箋を読み取り、処方箋から調剤報酬（調剤料）を正しく算定する方法を理解する。</p> <p>保険者に調剤にかかった費用を請求するための調剤録、レセプトの作成の知識と技術を修得することを目的とする。</p> <p>同時に各種保険や医薬品、医療に関する知識についても幅広く学習し、専門家として医療機関などで活躍できるスキルを身につける。</p> <p>また、本講義で得た知識を生かして調剤事務管理士の資格を取得する検定を受験することができる。</p> <p>調剤事務管理士の有資格者は、全国の保険調剤薬局で高く評価され、就職の際に、大きなPRポイントとなる。</p>
到達目標	<p>調剤報酬制度とは何かを理解すること。</p> <p>具体的には処方箋の見方を理解し調剤報酬算定ができるようになること。</p> <p>各種保険や医療に関する知識を理解できるようになることを目標とする。</p> <p>また、これらの知識を生かして 調剤事務管理士の資格取得検定を受験し合格を目指すことが最終目標である。</p>
授業の進め方	<p>テキストやスライドを用いた講義形式で行う。</p> <p>基本的に一斉形式で行うが、実技的な課題では各自で取り組む時間を設け能動的な学習方法を行う。</p> <p>講義は保険制度や医薬品などの基礎知識の習得分野とテキストと処方箋問題集を用いた調剤録、調剤報酬レセプト作成といった実技的な分野の2つで構成されている。</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>授業の単元毎に課題を提示する。講義内で課題の解説、質問対応を行う。</p> <p>課題の内容や提出状況で学生の理解度を知る。</p> <p>課題を通して学習の到達度の確認と定着を図る</p>

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	医療保険の概要 保険診療の仕組み 処方せん、医療マナー	対面
第2回	医薬品販売について レセプトの上書きについて	対面
第3回	レセプトの上書きの復習、課題解説 調剤基本料と薬学管理料 加算について レセプト記入	対面
第4回	調剤基本料と薬学管理料の復習、課題解説 薬剤調製料 調剤管理料 レセプト記入	対面
第5回	薬剤調製料、調剤管理料の復習、課題解説 様々な加算について レセプト記入	対面

第6回	様々な加算についての復習、課題解説 薬剤料 レセプト記入	対面
第7回	ここまでの復習、模擬試験	対面

事前・事後学修	復習を欠かさず行うこと。毎回、講義後には課題を課すので出された課題に取り組み提出期限内に提出すること。 必要と思う箇所は積極的に自習し何度も繰り返し学習することで、正しい知識が定着する。 予習・復習を行うことで学力の定着及び向上に繋がる
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	この教科では試験は行わない。 単元ごとの確認テスト30% 課題提出物等70%
テキスト	ひとりで学べる調剤報酬事務&レセプト作成集 青山美智子著 ナツメ社 配布プリント

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、薬剤師としての実務経験を基に、薬学博士やスポーツファーマシストの資格を取得し、医療事務や調剤薬局事務の検定合格、さらに応急講習指導員資格取得予定など、幅広い専門スキルを持っています。この豊かな経験を基に、医療と薬学の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	この講義はメディカル秘書実務とセットで受講すること。 必要に応じてオンデマンドを使用する。（3から4回は行う予定である）

年度	2025
講義名称	[夏集]医療事務特別演習
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81612
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 薄井 智也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>●理由 それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンをリンクさせつつ想像力を働かせながら関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。</p> <p>●目的 受付（接遇、健康保険の確認・情報登録など）～診療行為発生～会計（接遇、診療費計算や精算など）～診療報酬請求事務に至るまでの過程を想像しながら、カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を元に、診療ストーリーを読み取る能力とともに外来分の裏点作成※1と診療報酬明細書※2（レセプト）作成の習得をねらいとする。 ※1.診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。 ※2.月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの、レセプトと言う。</p> <p>●概要 全国医療技能検定協議会医療事務検定の受験を踏まえ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の作成をより多く、徹底し、集中的に行う。</p>
到達目標	<p>●到達目標 カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の算定ができ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書（レセプト）の作成習得を到達目標とし、全国医療技能検定協議会医療事務検定の100%受験とともに、再受験を含めた最終的な検定合格率は80%以上の合格率を目指す。</p> <p>●卒業認定・学位授与の方針との関連 自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基づき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人財を養成する。</p>
授業の進め方	<p>●方法 テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。 主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と知識の定着を図る。</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>●フィードバックの方法 授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と知識の定着を図る。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	医療事務検定過去問題
第2回	医療事務検定過去問題
第3回	医療事務検定過去問題
第4回	医療事務検定過去問題
第5回	医療事務検定過去問題

第6回	医療事務検定過去問題
第7回	医療事務検定過去問題
第8回	医療事務検定過去問題
第9回	医療事務検定過去問題
第10回	医療事務検定過去問題
第11回	医療事務検定過去問題
第12回	医療事務検定過去問題
第13回	授業内テストならび解説

事前・事後学修	理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しようとする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行いましょう。繰り返し行うことで理解の充実や知識の整頓、正しい知識の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がし、相乗効果が期待されます。大変だと思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内テストにより60%を決定し、授業内課題40%による。
テキスト	全国医療技能検定協議会出版) 医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、耳鼻咽喉科麻生病院での長年のキャリアを通じて医事課で要職を歴任し、現在は事務部門の次長を務めています。保有資格は診療情報管理士、医療安全管理者、病院管理士と多岐にわたり、豊富な経験を積んできました。非常勤講師としての指導経験に加え、長年の医療事務経験を活かし、医療現場の管理と実践に関する具体的な知識を提供する講義を行います。
--------------------------	---

年度	2025
講義名称	メディカル秘書実務
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81612
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 時野 香里	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	診察を控え不安な患者様に対して、安心して診察や治療を行えるようにサポートするための知識を身につける。 病院などの医療機関組織の仕組みやそこで働く人たちの業務、医療に関する専門用語について学ぶ。 患者様に寄り添うスキルとして接客対応、電話対応などのマナー、それに加え簡単な手話や英会話を学習する。 これにより医療秘書に必要な事柄を理解し専門的な知識を得ることを目的とする。
到達目標	医療秘書の立場から医療機関の仕組み、業務、接遇、疾病や薬、関係法規などの幅広い知識を学習し理解すること。 それらの知識を生かし、患者様に対して、不安を取り除き安心して診察や治療を行えるようにサポートする技術を身につけることを目標とする。
授業の進め方	配布プリントとスライドを用いた講義形式で授業を行う。 患者様に寄り添うためのスキルを学ぶ際には実際に接客などを行なってもらう参加型の授業を行う予定である。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の単元毎に 課題を提示する。課題に取り組み期限内に提出する。 提出内容や提出状況で学生の理解度を確認する。 課題については講義内で解答解説を行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション 日本の医学の歩み 貢献した人物	対面
第2回	医療機関とは 病院で働く人 チーム医療とは 次回講義のグループ分け、打ち合わせ	対面
第3回	医療秘書として必要な接遇対応① 病院の受付をやってみよう	対面
第4回	医療秘書として必要な接遇対応② 電話接遇をやってみよう	対面
第5回	医療秘書として必要な接遇対応③ 手話をやってみよう 病院に来院した時に役立つ手話を学ぶ	対面
第6回	医療秘書として必要な接遇対応④ 英語で応対してみよう 海外で病院に行きたい時の会話を学ぶ	対面
第7回	日本人の死因について 医薬品の知識、薬学の歴史について学ぶ	対面

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	この講義では試験は行わない。 課題提出物等70% 講義内小テスト・実務演習など30%
テキスト	講義内配布プリント

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、薬剤師としての実務経験を基に、薬学博士やスポーツファーマシストの資格を取得し、医療事務や調剤薬局事務の検定合格、さらに応急講習指導員資格取得予定など、幅広い専門スキルを持っています。この豊かな経験を基に、医療と薬学の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	必要に応じてオンデマンドの講義を行う。（3回は行う予定である） オンデマンドの場合は試聴期間は1週間、予定日の1週間以上前に告知する。 こちらの講義は調剤薬局事務とセットで受講すること。

年度	2025
講義名称	医薬・販売【ブレB】
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81631
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 時野 香里	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>平均寿命が長くなり生活習慣病などが問題となってきた現代、日々をいかに健康に生きるかが問われ「自分自身の健康に責任を持ち軽度の身体の不調は自分で手当てしていこう」というセルフメディケーションの意識が高まっている。このような時代の中で注目されるのが登録販売者である。</p> <p>登録販売者はドラッグストアやコンビニエンスストアなどで薬剤師が不在でも一般用医薬品（第2類・3類）の販売ができる専門家のことである。</p> <p>また、被災地の避難所での一般医薬品の使用における指導などの活躍も注目されている。</p> <p>本講義では一般医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律などを学ぶことによりセルフメディケーションの理解を深める。</p> <p>また、薬の副作用が起きた場合の専門家としての義務、国からの保障などの仕組みについても学ぶ。これらの知識は登録販売者資格試験の試験範囲を網羅するものとなっている。</p>
到達目標	<p>①セルフメディケーションについて説明できる。</p> <p>登録販売者資格試験にも対応できる知識(医薬品に共通する特性と基本的な知識、人体の構造と働き、医薬品の適正使用安全対策、一般用医薬品の成分や薬効、薬事関連法規)の知識を見につけることができる。</p> <p>②希望者は登録販売者試験を受験し合格を目指すようになる。</p>
授業の進め方	<p>スライドを用いた講義形式で行う。教科書のほか、要点をまとめたプリントを配布するので講義を聞きながらプリントの穴埋め埋めをすることで講義内容の定着を図る。</p> <p>アプリ教材の活用、単元ごとのまとめとして確認チェック問題を行う。</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>講義後に学習した内容に関する課題を提示する。取り組み、期限内に提出する。</p> <p>次回の講義で解答と示し疑問点について解説を行う。</p> <p>提出内容や提出状況で学生の理解度を確認する。</p>
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション・医薬品に共通する特性と基本的な知識① 医薬品概論	対面
第2回	②医薬品に共通する特性と基本的な知識② 医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因	オンデマンド
第3回	医薬品に共通する特性と基本的な知識③ 適切な医薬品選択と受診勧奨	対面
第4回	医薬品に共通する特性と基本的な知識④とここまでの確認テスト 薬害の歴史	オンデマンド
第5回	人体の構造と働き① 胃・腸・肝臓・肺・心臓・腎臓などの内臓器官 消化器系 呼吸器系	対面

第6回	<p>人体の構造と働き②</p> <p>胃・腸・肝臓・肺・心臓・腎臓などの内臓器官</p> <p>循環器系</p> <p>泌尿器系</p>	オンデマンド
第7回	<p>人体の構造と働き③</p> <p>目鼻耳などの感覚器官</p> <p>皮膚骨関節筋肉などの運動器系</p> <p>脳や神経系の働き</p>	対面
第8回	<p>人体の構造と働き④</p> <p>薬が働く仕組み</p> <p>症状から見た主な副作用</p> <p>全身的に現れる副作用</p> <p>精神神経系に現れる副作用</p>	オンデマンド
第9回	<p>人体の構造と働き⑤とここまでの確認テスト</p> <p>症状から見た主な副作用</p> <p>体の局所に現れる副作用</p>	対面
第10回	<p>医薬品の適正使用安全対策①</p> <p>医薬品の適正使用情報</p> <p>添付文書の読み方</p> <p>製品表示の読み方</p> <p>安全性情報の提供と活用</p>	オンデマンド
第11回	<p>医薬品の適正使用安全対策②</p> <p>医薬品の安全対策</p> <p>医薬品の副作用情報の収集、評価、措置</p>	対面
第12回	<p>医薬品の適正使用安全対策③</p> <p>医薬品の副作用による健康被害の救済</p>	オンデマンド
第13回	<p>医薬品の適正使用安全対策④とここまでの確認テスト</p> <p>一般用医薬品に関する主な安全対策</p> <p>医薬品の適正使用のための啓発活動</p>	対面
第14回	<p>薬事関係法規、制度①</p> <p>医薬品医療機器等法</p> <p>医薬品等の分類と取り扱い</p> <p>医薬品の定義と範囲</p> <p>法定表示と法定記載</p>	オンデマンド
第15回	<p>薬事関係法規、制度②</p> <p>医薬品等の分類と取り扱い</p> <p>医薬部外品、化粧品と食品</p> <p>薬局と医薬品の販売業</p> <p>許可の種類と許可行為の範囲</p>	対面
第16回	<p>薬事関係法規、制度③</p> <p>薬局と医薬品の販売業</p> <p>医薬品の販売方法</p> <p>医薬品の情報提供の方法</p> <p>薬品の陳列と掲示</p>	オンデマンド
第17回	<p>薬事関係法規、制度④</p> <p>薬局と医薬品の販売業</p> <p>医薬品の特定販売</p> <p>偽造医薬品の流通防止</p> <p>薬局解説者と医薬品販売業者の遵守事項</p>	対面
第18回	<p>薬事関係法規、制度⑤とここまでの確認テスト</p> <p>医薬品販売に関する法令遵守</p> <p>適正な販売広告</p> <p>不適正な販売方法</p> <p>行政庁の監視指導と処分</p> <p>苦情相談窓口</p>	オンデマンド
第19回	<p>主な医薬品とその作用①</p> <p>精神神経に作用する薬</p> <p>風邪薬、解熱鎮痛薬など</p>	対面対面

第20回	主な医薬品とその作用② 呼吸器官に作用する薬 鎮咳去痰薬とうがい薬 胃腸に作用する薬 胃の薬	オンデマンド
第21回	主な医薬品とその作用③ 胃腸に作用する薬 腸の薬 心臓などの機関や血液に作用する薬 強心薬 高コレステロール改善薬 貧血用薬	対面
第22回	主な医薬品とその作用④ 排泄に関わる部位に作用する薬 痔の薬 アレルギー用薬 鼻に用いる薬 眼科用薬	オンデマンド
第23回	主な医薬品とその作用⑤ 皮膚に用いる薬 歯や口の中に用いる薬 禁煙補助剤 滋養強壮保健薬	対面
第24回	主な医薬品とその作用⑥ 漢方処方製剤と生薬製剤 公衆衛生用薬 一般用検査薬	オンデマンド
第25回	模擬試験①と解説	対面
第26回	模擬試験②と解説	対面

事前・事後学修	事前学習は分野によっては初めて聞く用語なども多いと思うので事前にわからない単語などを調べておくことが望ましい。 事後学習として講義終了時に課題を提示するので取り組み、期限内に提出する。 暗記することが多いので必要に応じて医薬品成分単語帳やまとめを作るようにする。 時間の許す限り予習復習を行うことが望ましい。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	本講義では試験は行わない。 講義内確認テスト30% 課題提出物等70%
テキスト	登録販売者試験テキスト、要点ブック付 薬事日報社
参考文献	登録販売者試験対策ズルい！合格法

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、薬剤師としての実務経験を基に、薬学博士やスポーツファーマシストの資格を取得し、医療事務や調剤薬局事務の検定合格、さらに応急講習指導員資格取得予定など、幅広い専門スキルを持っています。この豊かな経験を基に、医療と薬学の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	本講義は半分は対面、半分はオンデマンドで行う オンデマンドの割り振り、夏季集中講習の詳細なスケジュールは開講後に決定する

年度	2025
講義名称	健康・医学
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81641
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 時野 香里	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	人々の健康は個々が暮らしている環境から大きな影響を受けている。社会、自然、職場、学習などの我々を取り巻く状況が影響因子として考えられる。本講義ではストレスの多い現代において健康を維持するために重要な要素である栄養、運動、保養等について日常生活に即した身近な話題を取り上げ、必要な基礎知識の習得を目標とする。栄養については薬膳について学び、調理実習を行う。保養については学生自身が主体となりリラックス方法を考え、実践する。効果についてはリラクスの指標は関係の深い因子としていられているアマラーゼ活性の測定値を用いて検討する。また、講義内で応急講習を行い緊急時の人命救助について学び、技術を習得する。
到達目標	健康の維持・増進のために必要な栄養・運動・保養の重要性について理解できる。 薬膳の考えを知り自分の体質に合った献立を考えることができる。 日常生活における病気における予防の方策について知り理解できる。 身近な疾患について理解することができる。
授業の進め方	教室内での講義は、パワーポイントやプリントを用いて資料を視覚的に提示する。講義の前半は講師による講義、後半はそれぞれが提示された課題に取り組む。 そのテーマについて必要な場合はディスカッションを行う。 体験的な講義は与えられた課題を自身やグループで取り組み結論を導き出す。 オンデマンドも併用することもあり、その際は1週間以上前に講義内キャンパスプランないで告知する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義後にはレポートを課す。課題には毎回の講義の感想を記載することとし、学生の理解度を確認する。次回の講義でレポートに関する講評や記載された質問に関して回答し、必要があればディスカッションを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 授業の説明 講義の内容、講義方法についての説明をおこなう。 健康寿命や身近な疾患について①生活習慣病について学ぶ。	オンデマンド
第2回	保健機能食品・サプリメントビタミンについて 日焼け アンチエイジングに有効な成分について学ぶ。 保健機能食品と一般の食品の違いについて 効果的なサプリメントの活用法について学ぶ。	オンデマンド
第3回	応急講習について 応急講習の動画による学習し学習後修了証書を提出する。	オンデマンド

第4回	<p>応急講習について 第4回、第5回連続で行う。</p> <p>応急講習用モデル人形を用いて胸部圧迫の方法を実践する。</p> <p>助けを呼ぶ、消防署への救急車要請の電話のかけ方などを学ぶ。</p> <p>また異物除去のハイムリック法などのについても学ぶ。</p> <p>リラククス実験の計画を立てる。</p>	対面 土曜日
第5回	<p>応急講習について 第4回、第5回連続で行う。</p> <p>応急講習用モデル人形を用いて胸部圧迫の方法を実践する。</p> <p>助けを呼ぶ、消防署への救急車要請の電話のかけ方などを学ぶ。</p> <p>また異物除去のハイムリック法などのについても学ぶ。</p> <p>リラククス実験の計画を立てる。</p>	対面 土曜日
第6回	<p>薬膳について</p> <p>薬膳の考え方、陰陽論、五行説、気血について学ぶ。</p> <p>薬膳での自分の体質を知る。</p>	オンデマンド
第7回	<p>身近なものに含まれるビタミンCの測定実験</p> <p>普段飲んでいる飲料の中に含まれるビタミンCを測定する。</p> <p>手洗いチェッカーを用いた手洗いの重要性</p> <p>模擬汚れを手に塗り、普段通りの手洗いをを行い、手洗いチェッカーを用いて自身の行う手洗いが適切であるかを調べる。</p> <p>どちらも、実験的な内容となる。</p>	対面
第8回	<p>リラククスの実験 第8回、第9回連続で行う。</p> <p>健康における保養の重要性を明らかにする。</p> <p>各班で考えたリラククス方法が体に与える効果をアミラーゼ活性を測定することで明らかとする。</p>	対面 土曜日
第9回	<p>リラククスの実験 第8回、第9回連続で行う。</p> <p>健康における保養の重要性を明らかにする。</p> <p>各班で考えたリラククス方法が体に与える効果をアミラーゼ活性を測定することで明らかとする。</p> <p>実験結果をまとめ、考察する。</p>	対面 土曜日
第10回	<p>薬膳について</p> <p>食材の四気、献立作成</p> <p>ここまでの薬膳の知識を用いて、自分の体質にあった献立を考える。</p> <p>調理実習の説明</p> <p>身近な疾患について②</p> <p>自身が興味のある疾患について学ぶ。</p>	オンデマンド
第11回	<p>薬膳調理実習 第10回、第11回連続で行う</p> <p>作成した献立、食材を用いて調理実習を行う。</p> <p>それぞれの食材の薬膳としての効果を学ぶ。</p>	対面 土曜日
第12回	<p>薬膳調理実習 第10回、第11回連続で行う</p> <p>作成した献立、食材を用いて調理実習を行う。</p> <p>それぞれの食材の薬膳としての効果を学ぶ。</p>	対面 土曜日
第13回	<p>研究発表会</p> <p>第8回、9回で行ったリラククスの実験について、方法、結果や考察をスライドにまとめグループごとに発表を行う。</p> <p>結果、考察に関してディスカッションを行う。</p>	対面

事前・事後学修	<p>講義内容に関して必要な参考資料等を自ら調べ読んで予習しておくこと。</p> <p>各回の授業に対し 事後課題を出すのでそれに回答すること。</p> <p>また授業後の必要があれば復習を行うこと。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>この講義では試験は行わない</p> <p>講義内（事後）課題 40%</p> <p>ディスカッション力 10%</p> <p>体験講義課題 40%</p>
------------------	--

実務経験のある 教員の経歴と授 業内容	担当教員は、薬剤師としての実務経験を基に、薬学博士やスポーツファーマシストの資格を取得し、医療事務や調剤薬局事務の検定合格、さらに応急講習指導員資格取得予定など、幅広い専門スキルを持っています。この豊かな経験を基に、医療と薬学の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	実習に関しては実費がかかる場合もあり。（昨年度は徴収なし） 講義予定13コマ中、対面講義5回で（8コマ）、他はオンデマンド5回で（5コマ） 対面講義には土曜日の講義（3回登校 6コマ分）が含まれる予定。 オンデマンドも併用（今年度は5コマを予定）、試聴期間は1週間で講義内キャンパスプラン内で告知（1週間以上前に告知する）。

年度	2025
講義名称	情報処理演習【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82211

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	代表的な表計算ソフトであるMicrosoft Excelを使い、ビジネス社会で求められる帳票作成、表計算の技能を習得することを目的としています。目標として、日商PC検定（データ活用）の実技試験の受験体制を整えます。
到達目標	① 情報処理に関する基礎的な事柄を理解し、活用する知識と態度を身につける。 ② コンピュータ関連検定に対応できる、基礎的な知識と技術を身につける。
授業の進め方	毎回の課題の説明を行った後、実際に課題の作成を行ってもらい、提出します。 なお、本講はオンデマンド授業ですので、質問などはWebClassや授業外時間にて対応します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の完成度等について、個別にWebClass等を通じて評価・コメントを行います。 また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	「ガイダンス」「日商PC検定」について 基本的な問題について	オンデマンド
第2回	基本となるExcel操作練習① ピボットテーブル、割合などの計算式	オンデマンド
第3回	基本となるExcel操作練習② 関数、グラフの作成	オンデマンド
第4回	演習問題① 売上の集計	オンデマンド
第5回	演習問題② アンケートの集計	オンデマンド
第6回	演習問題③ 請求書の作成	オンデマンド
第7回	まとめ問題と模擬試験	オンデマンド

事前・事後学修	課題の提出の有無が評価を左右します。必ず完成させて提出するようにしましょう。 1時間程度の家庭学習時間が目安となります。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題の提出と完成度 80% まとめ問題 20%
テキスト	テキストは用いません。随時プリント資料を配布します。
備考	日商PC検定（データ活用）の実技問題に対応しています。 知識問題に関しては「情報特別演習」で対応しています。

年度	2025
講義名称	情報特別演習【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82212

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	コンピュータやネットワークに関する知識を学び、例題を解いていくことで、ビジネスにおいてITを活用する実践的な知識を学びます。目標として、日商PC検定（データ活用）の受験体制を整えます。
到達目標	① 情報処理に関する基礎的な事柄を理解し、活用する知識と態度を身につける。 ② コンピュータ関連検定に対応できる、基礎的な知識を身につける。
授業の進め方	Webサイトで配布されているテキストを読み進めながら、模擬試験問題にチャレンジします。この授業はオンデマンド授業となるため、WebClassを通じた出題と説明が中心となります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で出題された問題や質問は、WebClassを通じて回答します。また授業の冒頭で、全体的な回答を行います。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンスと「ネット社会」とは	オンデマンド
第2回	デジタル情報を活用した仕事①	オンデマンド
第3回	デジタル情報を活用した仕事②	オンデマンド
第4回	デジタル情報の活用①	オンデマンド
第5回	デジタル情報の活用②	オンデマンド
第6回	デジタルデータの活用と企業での活用	オンデマンド
第7回	情報セキュリティとコンプライアンス	オンデマンド

事前・事後学修	授業はオンデマンド授業となるため、動画による学修となります。動画内では小テストも実施しますので、確実に回答するようにしましょう。また、質問は随時メールやWebClassなどで受け付けますが、授業内でも紹介することがあります。授業時間外でも研究室などで随時質問は受け付けています。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の課題提出 80% まとめ問題 20%
-----------	--------------------------

テキスト	「ネット社会のデジタル仕事術 日商PC検定試験 知識科目公式テキスト」 日本商工会議所 IT活用能力検定試験制度研究会
参考文献	この分野については多くの参考になる書籍があります。 それらも活用することで効果的に理解を進めることができます。

年度	2025
講義名称	英語検定Ⅱ【遠隔A】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(A)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82221

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	主に実用英語技能検定などの資格取得を目指す。同時に、英語の語彙、リスニング、英作文などの総合的な運用能力の伸長を目指す。
到達目標	実用英語技能検定試験 1月の受験に向けて、現在の実力、取得級よりも一つ上位級を取得する力を身に付ける。主に1次試験の突破を目指す。 *希望者はTOEIC BridgeやTOEICに挑戦する場合は自身で立てた目標スコアのクリアをめざす。
授業の進め方	中学～高校までの英語で学習した内容を復習しながら、実際の検定試験で問われる形式の中で、文法、リーディング、リスニング、英作文を総合的に演習形式で学ぶ。特に英作文については、重点的に学習する。適宜、目指す級の過去問などでの演習も行う。

アクティブ・ラーニング

反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	単語課題は授業外で個別練習したものの記録を画像提出、状況確認したうえでコメントを行う。作文課題は提出され次第フィードバックを記入して返却する。その他の問題等については、事前学習したものに對し、オンライン授業でフィードバックを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 実力診断 ・目標級の確認と現時点までの学習方法、進捗状況を確認 ・アプリの準備、学習計画の提出	同時双方向
第2回	作文のコツ ・初回課題から補足説明の必要な部分について学習 ・各級で課される作文課題について、標準目標時間内にポイントを押さえて作文できるように学習	同時双方向
第3回	リスニングのコツ ・初回課題から補足説明の必要な部分について学習 ・リスニングの得点方法についてコツ、それぞれに合った練習方法を見つける	同時双方向
第4回	長文のコツ ・初回課題から補足説明の必要な部分について学習 ・長文の解き方について、コツをつかむ	同時双方向
第5回	苦手な部分をなくす、または得意な部分を極める① これまでの学習から必要だと判明した部分についての攻略法を考えます	同時双方向
第6回	苦手な部分をなくす、または得意な部分を極める② これまでの学習から必要だと判明した部分についての攻略法を考えます	同時双方向
第7回	直前指導 最も苦手なパートを中心に学習	同時双方向

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業前課題 30% 授業中課題 20% 単語学習課題 30% 模擬試験または本試験受験結果 20%
テキスト	準1級までを目指す方には、旺文社の公式英検アプリ「英検カコモン」（1か月1800円）を、9月の1か月分指示します。 *長期にわたり学習を継続したい方には、12か月プラン年払い18000円もあります。 プリントをLMSを利用して配布します。（印刷物でほしい場合は申し出ること）
参考文献	直前対策とし英検公式HPの3回分の過去問（準2プラスをのぞく） 長期にわたり自主学習、事前準備を行いたい方には「英語漬けアプリ」で学習を進めておくといいかもかもしれません。

備考	英語検定Ⅱは主に、2026年1月25日（日曜）本会場実施の検定に合わせて学習します。（2次試験は3月1日） 2次試験対策を希望する場合は、授業外で対応しますので申し出て下さい。 学内団体申し込みは2025年12月15日までです。ポータルサイトに掲載される方法で申し込んでください。 * 2026年度は5月末か6月最初（2次7月最初） 申し込み5月2日ごろまでと、2026年10月10日ごろ（2次11月始め） 申し込み9月5日ごろまで、2027年1月末（2次3月始め）申し込み12月中旬までの3回の実施があると思います。 * 2026年6月受験希望者で対策を希望する場合は、個別にご相談下さい。
----	---

年度	2025
講義名称	簿記演習①②【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82241

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本授業では、「全経簿記3級」の検定合格に向けて、検定試験の過去問題や対策問題を解いて実力養成を図ります。問題演習を行う中で、要点解説や問題の考え方を理解し、全経簿記検定3級合格のための実力をつけることを目的としています。資格取得を目指した学修をとおして、株式会社社会計に関する基本的な知識を習得し、実社会で役立つ会計処理能力を身につけることを目指します。
到達目標	①小規模な株式会社の企業活動や会計実務を踏まえて、会計処理で必要となる基礎知識と記帳技術を習得する。 ②全経簿記検定3級合格レベルおよび日商簿記検定3級の基本レベルに必要な知識、計算等を理解できる。
授業の進め方	全経簿記3級レベルの問題の解き方の解説を行う演習形式にて実施します。問題演習の繰り返しにより、習得した知識の理解と記帳技術の定着を確認しながら授業を展開します。また、授業内容によっては、授業効果を考慮してZOOMによる遠隔授業を実施することがあります。また、単元によって、授業内容の順番を入れ替えたり、オンデマンドによる主体的な学修活動も行うこともあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	集めた課題は添削して返却することを基本とし、授業の中で補足解説をします。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明、出題傾向の分析、簿記一巡の確認	対面講義
第2回	仕訳総合演習①：取引の種類ごとに仕訳処理の方法を確認します。	対面講義
第3回	仕訳総合演習②：取引の種類ごとに仕訳処理の方法を確認します。	対面講義
第4回	仕訳総合演習③	オンデマンド講義
第5回	各種帳簿の記帳演習①：小口現金出納帳、仕入帳・売上帳と買掛金・売掛金元帳	対面講義
第6回	各種帳簿の記帳演習②：商品有高帳、売上原価と売上総利益の計算方法	対面講義
第7回	精算表の基本構造、決算整理仕訳の考え方と転記、集計と作表	対面講義
第8回	精算表の作成演習	オンデマンド講義
第9回	計算問題の解き方と演習	対面講義
第10回	総合問題演習①	対面講義
第11回	総合問題演習②	オンデマンド講義
第12回	総合問題演習③	対面講義
第13回	授業内考査、解答と解説ならびに振り返り	対面講義

事前・事後学修	○事前学習：テキストをよく読んで、取引や処理の仕方を理解した上で授業に臨んでください。 ○事後学習：授業で学んだ内容を反復練習して、各回の講義ごとの知識の定着を図ってください。 ※ 1～2時間程度 ※自分の理解度や定着度に応じて、学修時間は変化します。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01
--------------------	--------------

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①定期試験 60% ②提出物 40%
テキスト	春学期に使用したテキストを継続して使用します。 ※ 配付資料保管用の2穴リングファイルをご用意ください。
参考文献	全経令和6年度版 簿記能力検定試験過去問題集3級商業簿記 全国経理教育協会

備考	<p>◆全経簿記3級検定試験：令和8年2月15日（日）9:00～10:30 本学会場 受験料2,900円</p> <p>※1 この科目を履修する条件として、基本的に簿記入門を修得している学生を対象とします。</p> <p>※2 講義内容については、上記のとおり検定の受験対策が中心となります。</p> <p>※3 簿記の習熟状況や履修計画によって、授業日の振り分けをすることがあります。</p>
----	---

年度	2025
講義名称	簿記演習【②/2】【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82241

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	本授業では、「全経簿記3級」の検定合格に向けて、検定試験の過去問題や対策問題を解いて実力養成を図ります。問題演習を行う中で、要点解説や問題の考え方を理解し、全経簿記検定3級合格のための実力をつけることを目的としています。資格取得を目指した学修をとおして、株式会社社会計に関する基本的な知識を習得し、実社会で役立つ会計処理能力を身につけることを目指します。
到達目標	①小規模な株式会社の企業活動や会計実務を踏まえて、会計処理で必要となる基礎知識と記帳技術を習得する。 ②全経簿記検定3級合格レベルおよび日商簿記検定3級の基本レベルに必要な知識、計算等を理解できる。
授業の進め方	全経簿記3級レベルの問題の解き方の解説を行う演習形式にて実施します。問題演習の繰り返しにより、習得した知識の理解と記帳技術の定着を確認しながら授業を展開します。また、授業内容によっては、授業効果を考慮してZOOMによる遠隔授業を実施することがあります。また、単元によって、授業内容の順番を入れ替えたり、オンデマンドによる主体的な学修活動も行うこともあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	集めた課題は添削して返却することを基本とし、授業の中で補足解説をします。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明、出題傾向の分析、簿記一巡の確認	対面講義
第2回	仕訳総合演習①：取引の種類ごとに仕訳処理の方法を確認します。	対面講義
第3回	仕訳総合演習②：取引の種類ごとに仕訳処理の方法を確認します。	対面講義
第4回	仕訳総合演習③	オンデマンド講義
第5回	各種帳簿の記帳演習①：小口現金出納帳、仕入帳・売上帳と買掛金・売掛金元帳	対面講義
第6回	各種帳簿の記帳演習②：商品有高帳、売上原価と売上総利益の計算方法	対面講義
第7回	精算表の基本構造、決算整理仕訳の考え方と転記、集計と作表	対面講義
第8回	精算表の作成演習	オンデマンド講義
第9回	計算問題の解き方と演習	対面講義
第10回	総合問題演習①	対面講義
第11回	総合問題演習②	オンデマンド講義
第12回	総合問題演習③	対面講義
第13回	授業内考査、解答と解説ならびに振り返り	対面講義

事前・事後学修	○事前学習：テキストをよく読んで、取引や処理の仕方を理解した上で授業に臨んでください。 ○事後学習：授業で学んだ内容を反復練習して、各回の講義ごとの知識の定着を図ってください。 ※ 1～2時間程度 ※自分の理解度や定着度に応じて、学修時間は変化します。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01
--------------------	--------------

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①定期試験 60% ②提出物 40%
テキスト	春学期に使用したテキストを継続して使用します。 ※ 配付資料保管用の2穴リングファイルをご用意ください。
参考文献	全経令和6年度版 簿記能力検定試験過去問題集3級商業簿記 全国経理教育協会

備考	<p>◆全経簿記3級検定試験：令和8年2月15日（日）9:00～10:30 本学会場 受験料2,900円</p> <p>※1 この科目を履修する条件として、基本的に簿記入門を修得している学生を対象とします。</p> <p>※2 講義内容については、上記のとおり検定の受験対策が中心となります。</p> <p>※3 簿記の習熟状況や履修計画によって、授業日の振り分けをすることがあります。</p>
----	---

年度	2025
講義名称	色彩演習
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82261

担当教員

氏名	所属
◎ 恩村 比呂子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	公式テキストを使って講義を行い、文部科学省後援「色彩検定3級」合格を目指します。 色のはたらきを理解し、実際に配色カードを使って目的にふさわしい配色を行える能力を身につけます。
到達目標	色彩に関する基本的な事柄を理解し、色彩検定3級に合格する。 配色の基本を理解し、意図するイメージを的確に色で表現できるようになる。
授業の進め方	色彩検定受検日までは、公式テキストを使用して講義形式で授業を行います。 練習問題を繰り返し解き、色彩理論の理解を深めます。 検定受検以降は、配色理論に基づいた配色イメージの表現を配色カードを使って実際に行なう授業です。 演習形式で行い、色彩感覚の向上を目指します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	練習問題の正解と講評はWebClassで公開するか、授業内で解説を行います。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 色彩検定について 色のはたらき
第2回	色はなぜ見えるのか
第3回	眼のしくみ 照明と色の見え方
第4回	混色
第5回	色の分類と三属性 表色系
第6回	色の心理効果 色の視覚効果
第7回	色相を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色 配色の基本的な技法
第8回	配色イメージ
第9回	ファッションと色彩 インテリアと色彩
第10回	配色イメージ①「色相と関係するイメージ」 課題提出あり
第11回	配色イメージ②「明度と彩度と関係するイメージ」 課題提出あり
第12回	配色イメージ③「トーンと関係するイメージ」 課題提出あり

第13回	期末試験 課題作品の講評とまとめ
------	---------------------

事前・事後学修	<p>検定対策用のプリントは毎回授業の冒頭に配布しますが、授業の終わりに次回授業で進めるテキストの範囲を発表するので、事前学習としてその内容の要旨を「まとめレポート」として次回授業までに作成し提出してもらいます。</p> <p>検定対策用の練習問題は毎回配布します。授業内で解答しきれなかった部分は、事後学習として復習を兼ねて自宅で必ず解いてもらいます。事前学習、事後学習ともそれぞれ2時間程度必要です。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>色彩に関する基本的な事柄を理解しているかを期末試験を実施し評価基準①とします。</p> <p>3回の提出課題の仕上がり状況を評価基準②とします。</p> <p>授業前に提出する「まとめレポート」の仕上がり状況を評価基準③とします。</p> <p>各評価のうち①を50%、②を30%、③を20%の割合で合計し総合評価にします。</p>
テキスト	<p>①文部科学省後援 色彩検定公式テキスト3級編 公益社団法人色彩検定協会発行 2420円税込み</p> <p>②新配色カード199a 日本色研事業株式会社発行 1375円税込み</p>

備考	<p>2025年度の夏期色彩検定は6月22日（日）に大学内で実施します。</p> <p>5月初旬に検定料7000円（税込み）の支払いが必要になります。</p> <p>履修する学生は実費になりますから予め用意してください。</p> <p>検定日が近いので、第2回目授業からテキストを使って行います。</p> <p>テキストはできるだけ早く注文して授業に持参できるようにしてください。</p> <p>第7回、第10回、第11回、第12回の授業では配色カードを使って切り貼りしますので、はさみと糊が必要です。</p>
----	---

年度	2025
講義名称	[夏集]販売士演習【ブレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82311

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 智寛	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	販売業に関わる資格としては、唯一の公的な資格である日商販売士検定3級（リテールマーケティング検定3級）の合格を目指して学修を進めます。この検定は、小売店などにおける販売員として必要となる業務内容をはじめとして、顧客や市場のニーズに応えるためのリテールマーケティングの基本的な知識を中心に学びます。具体的には、スーパーや百貨店など店舗形態別小売店の商品戦略の違い、消費者ニーズの掘り起こし（顕在的需要と潜在的な需要）のための工夫などから、販売員として必要な基礎的な知識と技術について理解を深めます。
到達目標	①販売員に必要な基本的な知識と技術を身につけ、実務で活用できる力を養う。 ②顧客の視点からのマーケティングの発想、提案ができるようになる。 ③リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる実力をつける。
授業の進め方	対面講義とオンデマンド型講義・同時双方向型講義を組み合わせます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、過去問題や対策問題ならびに小テストの実施となります。演習後に解説を行ってフィードバックします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション、第1章 小売業の類型①	対面講義
第2回	第1章 小売業の類型②	対面講義
第3回	第2章 マーチャンダイジング①	対面講義
第4回	第2章 マーチャンダイジング②	対面講義
第5回	第3章 ストアオペレーション①	対面講義
第6回	第3章 ストアオペレーション②	対面講義
第7回	第4章 マーケティング①	対面講義
第8回	第4章 マーケティング②	対面講義
第9回	第5章 販売・経営管理①	対面講義
第10回	第5章 販売・経営管理②	対面講義
第11回	模擬試験対策①	オンデマンド講義
第12回	模擬試験対策②	オンデマンド講義
第13回	授業内考査、解答解説と振り返り	同時双方向型講義

事前・事後学修	事前学習：テキストをよく読んで、用語や仕組みで疑問となるところを整理して授業に臨んでください。 事後学習：授業で学んだ内容を問題演習で理解度を確認して、各回の講義ごとの知識の定着を図ってください。 1～2時間程度 ※自分の理解度や定着度に応じて、学修時間は変化します。
---------	--

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業内試験 30点 ②提出物等 70点 ※ 検定結果については、マイナス評価とはしません。
テキスト	『これ1冊で最短合格 リテールマーケティング（販売士）検定試験3級テキスト&問題集』 神奈川販売士協会 著 秀和システム
参考文献	『販売士ハンドブック<基礎編>リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応 上・下巻』 日本商工会議所・全国商工会連合会 編 『販売士ハンドブック（基礎編）模擬試験問題集』 日本商工会議所 編集 『季刊 販売士』 一般社団法人 日本販売士協会 発行

備考	販売・経営管理の単元等の一部で、電卓を使用します。
----	---------------------------

年度	2025
講義名称	ブライダル演習
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82431
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	ウェディングプランナーとして、披露宴をプランニング・プロデュースするために必要な知識・技能を学びます。 そして、学生がプロデュースした模擬披露宴を行うことにより、ブライダルに関する経験や興味を深めます。 また、本授業を通して発想力とプレゼンテーション能力、発信力などの向上と併せ結婚式のシーンに必要なマナーなども習得します。 授業の中で、教員からの説明や動画を視聴し基本を学ぶため、結婚式に参列経験がない学生でも、問題なく履修が出来ます。
到達目標	1.プランニングの基本知識を習得する事。 2.履修生全員が協力し合って、細部にまでこだわり抜いた模擬披露宴を創り上げる事により、人を感動させるポイントや結婚披露宴の意義や楽しさなどを理解する事。
授業の進め方	1.プリントや関連資料を配布し、基礎学習を行います。 2.実際の披露宴の動画を視聴し、プログラムの組立てや必要なアイテムなどの理解を深めます。 3.グループワークにより、グループごとにテーマを決め実現可能な模擬披露宴のプランニングを行います。 4.各グループごとにプレゼンテーションを行い、グランプリを決定します。 5.グランプリを獲得したプランに基づいて、模擬披露宴に必要な製作物などを各グループに割振り、作業を行います。 6.札幌市内ホテルのパーティ会場を貸切り、模擬披露宴を行います。新郎新婦役は学生がモデルになります。他の履修生はゲストとして、料理・飲み物を楽しみながら本格的な披露宴を実習・体験できます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や実習内容については授業内で随時、解説します。
----------------------------	---------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・プランニングの基本
第2回	・演出やコーディネートの考え方
第3回	・実際の披露宴動画を視聴
第4回	・グループ結成 ・プランニング1
第5回	・プランニング2
第6回	・プランニング3 ・プレゼンテーション
第7回	・プレゼンテーションの結果発表と作業分担 ・グループごとに製作作業1
第8回	・グループごとに製作作業2
第9回	・グループごとに製作作業3

第10回	・グループごとに製作作業4
第11回	・フィールドワーク（市内ホテルの会場を貸切り、模擬披露宴の実施）
第12回	・フィールドワーク（市内ホテルの会場を貸切り、模擬披露宴の実施）
第13回	・振り返りとまとめ

事前・事後学修	SNSやテレビ、雑誌などからウェディングシーンに触れ、イメージを膨らませ、参考になりそうな材料を収集しておいてください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	グループワークでの取り組みや発言状況 70% 期末レポート 30%
テキスト	適宜、プリントを提示・配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ホテル業界やプライダル業界において、ウェディングプランナーや人材育成、ウェディングプロデュース等の実務経験のある教員が担当します。
備考	フィールドワーク（模擬披露宴）の実施は、2025年7月の日曜日または祝日を予定しています。 披露宴は本来、高額な費用が掛かりますが、そのほとんどは大学が負担します。 履修生は披露宴での飲食代として、お一人5,000円～6,000円程度の自己負担金があります。

年度	2025
講義名称	[+夏集中]登録販売者演習【ブレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82631
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 時野 香里	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	<p>平均寿命の延伸により高齢化が進む現代日本。しかし、日々をいかに健康で過ごすかという健康寿命の延伸こそが目指すべき課題である。そのためには「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てしていこう」というセルフメディケーションへの取り組みが重要となっている。</p> <p>この担い手として注目されてきたのが登録販売者である。登録販売者は病気やくすりについての正しい知識を持ち、一般医薬品（第2類・3類）を薬剤師が不在でも販売ができる専門家のことである。</p> <p>また、被災地の避難所での一般医薬品の使用における指導などの活躍も注目されている。</p> <p>登録販売者の資格は各都道府県で実施されている試験を受験、合格することで取得することができる公的資格である。</p> <p>本講義では医薬・販売の講義で学習した知識を生かして登録販売者の資格取得試験受験対策を行うことを目的とするが、本講義においても再度解説を行うため、本講義からの履修も可能である。</p>
到達目標	<p>登録販売者資格試験にも対応できる知識（一般用医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律等）を取得する。</p> <p>希望者は登録販売者資格試験に挑戦し合格を目指す。</p>
授業の進め方	<p>対面、オンデマンド、夏季集中で行う。</p> <p>スライドを用いた講義形式（主にオンデマンド）。穴埋めプリントも使用。</p> <p>対面講義に先立ってオンデマンド講義を試聴する。</p> <p>対面講義では前年度の各都道府県の登録販売者資格試験過去問題を使用し、講義内で解答解説を行う。</p> <p>また学習の効果を上げるために、グループで解答を作成する方法も取り入れる。</p> <p>講義の後半では模擬試験を行い、試験合格に重点をおいた取り組みを行う。</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>課題は講義内で行った各都道府県の登録販売者資格試験過去問題で誤答した箇所を次回の講義までに解き直し、提出する。</p> <p>また、他年度の過去問題を提示するので次回までに取り組む（20から40問）。</p> <p>正解については正解のプリントを配布し、解説希望があれば解説を行う。</p> <p>教員は課題の正解率で各自の理解度を確認する。</p> <p>授業内に疑問点について解説を行う。</p>
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	6月7日（土） オリエンテーション 第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識に関するオンデマンド講義 医薬品概論 医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因 適正な医薬品選択と受診勧奨 薬害の歴史	オンデマンド

第2回	6月13日(金) 第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識に関する過去問演習	対面
第3回	6月14日(土) 第2章 人体の働きと医薬品に関するオンデマンド講義① 人体の構造と働き 消化器系 呼吸器系 循環器系	オンデマンド
第4回	6月20日(金) 第2章 人体の働きと医薬品に関する過去問演習①	対面
第5回	6月21日(土) 第2章 人体の働きと医薬品に関するオンデマンド講義② 泌尿器系 目、鼻、耳などにの感覚器官 皮膚、骨、関節筋肉などの運動器官 脳や神経系の動き 薬が働く仕組み 症状から見た主な副作用	オンデマンド
第6回	6月27日(金) 第2章 人体の働きと医薬品に関する過去問演習②	対面
第7回	6月28日(土) 第3章 主な医薬品とその作用に関するオンデマンド講義① 精神神経に作用する薬 かぜ薬、解熱鎮痛薬、眠気を促す薬、眠気を防ぐ薬、乗り物酔い防止薬、小児鎮静薬 呼吸器官に作用する薬 鎮咳去痰薬、うがい薬	オンデマンド
第8回	7月4日(金) 第3章 主な医薬品とその作用に関する過去問演習①	対面
第9回	7月5日(土) 第3章 主な医薬品とその作用に関するオンデマンド講義② 胃腸に作用する薬 胃の薬、腸の薬、胃腸鎮痛鎮痙薬、その他の消化器官用薬 心臓などの器官や血液に作用する薬 強心薬	オンデマンド
第10回	7月11日(金) 第3章 主な医薬品とその作用に関する過去問演習②	対面
第11回	7月12日(土) 第3章 主な医薬品とその作用に関するオンデマンド講義③ 高コレステロール改善薬 貧血用薬その他循環器用薬 歯や口中に使用する薬 禁煙補助薬 滋養強壮保健薬 漢方処方製剤・生薬製剤 公衆衛生用薬 一般検査薬	オンデマンド
第12回	7月18日(金) 第3章 主な医薬品とその作用に関する過去問演習③	対面
第13回	7月19日(土) 第4章 薬事に関する法規と制度に関するオンデマンド講義① 法律の目的等 登録販売者に関する法律 医薬品の分類取り扱い等 医薬品の定義 毒薬劇薬の定義 一般用医薬品の分類 添付文書に関する法律 医薬部外品、化粧品、保健機能食品に関する法律 医薬品販売業の許可について 薬局、店舗販売業、配置販売業	オンデマンド

第14回	7月25日(金) 第4章 薬事に関する法規と制度に関する過去問①	対面
第15回	7月26日(土) 第4章 薬事に関する法規と制度に関するオンデマンド講義② 医薬品販売時の情報提供について 医薬品の陳列掲示に関する法律 医薬品の購入に関する法律 医薬品販売に関する法令遵守	オンデマンド
第16回	7月26日(土) 第5章 医薬品の適正使用情報に関するオンデマンド講義 添付文書の読み方 製品表示の読み方 医薬品医療機器に関する安全性情報 医薬品の安全対策 副作用情報の収集、評価及び措置 医薬品の副作用などによる健康被害の救済 一般医薬品に関する主な安全対策 医薬品の適正使用のための啓発活動	オンデマンド
第17回	8月1日(金) 第4章 薬事に関する法規と制度に関する過去問②	対面
第18回	8月1日(金) 第5章 医薬品の適正使用情報に関する過去問	対面
第19回	8月1日(金) 第1回模試①	対面
第20回	8月1日(金) 第1回模試②	対面
第21回	8月2日(土) 第1回模試解説①	対面
第22回	8月2日(土) 第1回模試解説②	対面
第23回	8月20日(水) 第2回模試①	対面
第24回	8月20日(水) 第2回模試②	対面
第25回	8月22日(金) 第2回模試解説①	対面
第26回	8月22日(金) 第2回模試埋設②	対面

事前・事後学修	講義内で取り組んだ問題、課題、模擬試験などで間違えた箇所は解き直しを行い、必要に応じてノートにまとめる。 暗記を必要とすることが多いので予習復習はできる限り時間を見つけて取り組むようにする。 公的資格の試験合格を目指す講座である。合格に向けて学習時間をできるだけ確保することが望ましい。 授業の理解、模擬テストに向けては1から2時間程度の学習時間は必要。
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義内模擬テスト 3回 30% 課題提出物など70%
	令和6年版 全国登録販売者試験 過去問正解

テキスト	株式会社ドーモ 薬事日報社
参考文献	厚生労働省 「登録販売者 試験問題作成に関する手引き」

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、薬剤師としての実務経験を基に、薬学博士やスポーツファーマシストの資格を取得し、医療事務や調剤薬局事務の検定合格、さらに応急講習指導員資格取得予定など、幅広い専門スキルを持っています。この豊かな経験を基に、医療と薬学の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う（講義予定の半分はオンデマンドとする） オンデマンド先行で講義が開始するので注意すること オンデマンドは試験期間は1週間とする。開始の1週間以上前に告知する。

年度	2025
講義名称	TOEIC
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：83221

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では、リスニング、リーディング、文法、語彙を総合的に学習することにより、TOEIC Testスコアの向上を目指す。また、単なるスコアの向上だけではなく、英語の学習習慣を確立して、自律的な英語学習者を育成することを狙いとする。
到達目標	TOEIC L&R Testスコア5000点に相当する英語力を身に付ける。
授業の進め方	TOEIC L&R Testの7パートの出題形式に対応した問題演習を行う。リスニング、リーディングどちらの活動も、ペアワークによる会話、ディクテーション、シャドーイングなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。 また、語彙については市販の単語帳を活用し自主学習を進めるとともに、学習の成果を確認するため毎時間確認テストを行う。(毎回の範囲100語)

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については確認テスト等の実施により毎回確認するとともに、授業内でポイントとなる事項の解説を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation, Listening Practice Unit 2 (Dining Out)	対面
第2回	Unit 2 (Dining Out) Vocabulary (1-100)	対面
第3回	Unit 2 (Dining Out) Vocabulary (101-200)	対面
第4回	Unit 3 (Media) Vocabulary (201-300)	対面
第5回	Unit 3 (Media) Vocabulary (301-400)	対面
第6回	Unit 6 (Clients) Vocabulary (1-400)	対面
第7回	確認テスト、テスト問題の解説 Unit 6 (Clients)	対面
第8回	Unit 7 (Recruiting) Vocabulary (401-500)	対面
第9回	Unit 7 (Recruiting) Vocabulary (501-600)	対面
第10回	Unit 9 (Advertising) Vocabulary (601-700)	対面

第11回	Unit 9 (Advertising) Vocabulary (701-800)	対面
第12回	Unit 11 (Finance) Vocabulary (401-800)	対面
第13回	確認テスト、テスト問題の解説 Unit 11 (Finance)	対面

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前 ①語彙テストの範囲の学習 ・事後 ②テキストのリスニング問題スクリプトのリスニング&シャドーイング <li style="padding-left: 20px;">③参考文献を活用したリスニング及びリーディング 予習・復の時間はそれぞれ2時間を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト 40% ・語彙テスト 30% ・課題、授業中の言語活動 30%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE=INTERMEDIATE (KINSEIDO) ・TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版)
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・本学図書館の多読用の英語教材 ・自学用サイト <li style="padding-left: 20px;">News On Japan <li style="padding-left: 20px;">NHK NEWSLINE - NHK World

備考	実際のTOEIC受験を自分の学習計画に組み入れて、自分の英語力の定点観測をするとともに、常に明確な目標を持って学習を継続してください。
----	---

年度	2025
講義名称	基本演習[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：70111

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	講義やグループワークを通して大学生生活を送るために必要な知識について学ぶとともに、自己の能力や個性を發揮するための方法や主体的、能動的な学びの態度を身につけていくことを目的とする。
到達目標	大学生生活に必要な基本的な知識を身につける。グループワークを通して、考え方の異なる人とも意見を交換し調整しながら進めることができる。
授業の進め方	内容に応じて、講義形式や演習形式（グループワーク、プレゼンテーション）で授業を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説し、他者からの意見や考えを聞いたり、成果を全体で共有したりすることを通して学びを深める。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（田村） 建学の礎・教育の基本的な考え方、学び方について（学長講話）
第2回	学生生活と社会とのつながり（田村）/学内施設の活用（学内探検）（小岩）
第3回	安全な学生生活のために/インターネット、SNS、悪質商法、勧誘等について（田村） 地域とのかかわり①『子どもの広場』企画の構想・立案（小岩）
第4回	地域とのかかわり②『子どもの広場』企画の発表・準備（小岩）
第5回	グループワーク『チーム力向上のために』情報の整理、意見の集約、発表、意見交換（田村）
第6回	試験に向けて（学び方、試験の受け方、追試・再試・再履修等）、主体的、能動的な学び①『子どもの広場』に向けて（田村）
第7回	主体的、能動的な学び②『子どもの広場』に向けて、キャリアパスノート・履修カルテについて、まとめレポート（小岩）

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】 配布される資料をよく読み、授業範囲のポイントについて予習し、ノートにまとめてください。グループワーク等実施時の課題となります。</p> <p>【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の取り組み（振り返りシート）：30% 「大学生活に必要な基本的な知識を身に付ける」ことを評価基準とする。 ・グループワーク等の課題・提出物：50% 「グループワークを通して、考え方の異なる人とも意見交換し、調整することができる」「自己の能力や個性を発揮するための方法や主体的、能動的な学びの態度を身に付ける」ことを評価基準とする。 ・まとめレポート：20% 「大学生活を送るために必要な知識について学ぶ」「主体的、能動的に学ぶ態度を身に付ける」ことを評価基準とする。
テキスト	なし
参考文献	プリントなどを適宜配布する。

備考	スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。
----	----------------------------------

年度	2025
講義名称	学びの技法[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：70112

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	2年間の短期大学での学習方法を学び、一人ひとりが短期大学での学びの意味と方法、目標を考え理解すること。また、大学で課せられるレポートや実習日誌、指導案、専門職に就いてからの便利や報告書など、様々な文書を作成できるようになるための基礎を身につけること。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学び方を身に付けることができる。 ・文章を書く上での基礎的な力を身に付けることができる。 ・自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。
授業の進め方	演習を中心として行う。提出された課題（提出物等）は点検した上で返却し、必要に応じて解説を加え修正を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題についてチェックした上で返却し、講義内で解説を加える。
----------------------------	------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・学びのバリエーションについて
第2回	正しい文章の書き方・敬語の使い方について
第3回	著作権について・図書館ガイダンス
第4回	「入学前課題」振り返り① 読解の方法について
第5回	「入学前課題」振り返り② 算数・数学・論理系Ⅰ
第6回	「入学前課題」振り返り③ 算数・数学・論理系Ⅱ
第7回	レポートの書き方について・まとめ

事前・事後学修	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前課題について振り返りしておくこと。 ・授業内容について予習を行うこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について確実に振り返りを行うこと。 <p>【必要な時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修、事後学修ともに、2～3時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

2025/04/01

成績評価基準と方法	・各回の課題、提出物等：80% 「大学での学び方を身に付ける」「文章を書く上での基礎的な力を身に付ける」「自分の考えを論理的に他者に伝える」ことができることを評価基準とする。 ・最終レポート：20% 「文章を書く上での基礎的な力を身に付ける」「自分の考えを論理的に他者に伝える」ことができることを評価基準とする。
テキスト	「入学前課題」
参考文献	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
備考	授業での配付物を整理するため、ファイル（A4版）を用意すること。

年度	2025
講義名称	日本国憲法[幼教]
講義開講時期	春学期第2Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：70411
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 大鹿 祐太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	<p>【目的】</p> <p>皆さんは、憲法と法律が全く違うものであることは知っていますか？ 憲法を学ぶということは何だか難しくてとっつきにくいことのように感じますが、なるべく難しい言葉は使わず、みなさんにとって憲法が身近なものと思っていただけるような授業にしていければと思います。そして、この授業を受けた学生の皆さまに、多数派に流されるのではなく、少数派の立場も考えて、バランスよく考えることができるようになっていただければと思います。</p> <p>【概要】</p> <p>まず憲法の意義について理解していただき、その後テーマごとに検討していただきます。それぞれのテーマでは様々な考え方を紹介するので、学生の皆様には何が正解かということではなく、自分なりに考えてもらえるような授業にしていきたいと思います。</p>
到達目標	<p>【到達目標】</p> <p>①憲法の意義や基本的事項を知っていただきます。 ②どの考え方にもメリットとデメリットがあり、対立する意見を両方考えてはじめてバランスがよい考え方に到達することを知っていただきます。 ③憲法の考え方を知ってもらうことで、最近のニュースについても関心をもってもらえるようになります。 ④憲法の考え方を知ってもらうことで、マスコミなどに流されず自分の考えをもってもらえるようになります。</p>
授業の進め方	講義が基本ですが、受講人数によっては適宜ディベートの機会を設ける場合もあります。 対面授業と遠隔授業を組み合わせで行います。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①授業の中で解説、講評いたします ②授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評いたします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	憲法と法律の違い（その1）	対面
第2回	憲法と法律の違い（その2）	対面
第3回	表現の自由はどうして大事なのか？	遠隔（同時双方向）
第4回	男女格差について	対面
第5回	教育を受ける権利と子どもの権利について	遠隔（同時双方向）
第6回	適正手続の保障と被害者参加制度について	対面
第7回	生存権と生活保護減額について	遠隔（同時双方向）
第8回	三権分立について	対面
第9回	地方自治について	遠隔（同時双方向）

第10回	憲法改正について	対面
第11回	その他の人権 1	遠隔（同時双方向）
第12回	その他の人権 2	遠隔（同時双方向）
第13回	まとめ+期末試験	対面

事前・事後学修	授業の後に、関連するニュースなどをチェックしたりするなどして復習してください。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	小テスト 50% 定期試験 50%
テキスト	特にありません。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義を担当する教員は、弁護士として法務に携わった実務経験を有しています。その経験を活かし、法律の知識を基盤に、論理的思考、コミュニケーションスキル、および社会問題をおり混ぜながら講義を展開します
-------------------------------	--

年度	2025
講義名称	プレゼンテーション演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：70521

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科
小林 純	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	今まで行ってきたプレゼンテーションに関する技術・知識を整理し、それを活用し、発表のクオリティを高め、「よりよい実践的プレゼンテーション」を重視して、コミュニケーション力をアップすることを目指します。発表時の振る舞いや、環境・TPOに合わせたプレゼンテーションの実施、聞き手としてのスキルを鍛えることを目的に授業を進めます。
到達目標	① プレゼンテーションによる表現、伝達の効果、目的を学び、実践に活かすことができる。 ② 場面に応じたプレゼンテーションの効果的な方法を選択できると同時に、聞き手としても十分なスキルを持つ。
授業の進め方	講義説明+演習（プレゼンテーション）の組合せです。コンピュータによるスライドショーソフトウェアを利用して資料を作成することや、チームでのプレゼンテーションを行います。テーマや目的に応じた方式の選択や、他者のプレゼンテーションの聞き方、プレゼンテーションが届いたかどうかを確認し、振り返って、ブラッシュアップするための方法も同時に身に付くように演習を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	動画を使ったプレゼンテーション① 特徴や実例について学び、テーマに従って作成計画を立てる
第2回	動画を使ったプレゼンテーション② 実際に作成する。
第3回	作品提出と視聴コメントの作成、フィードバック
第4回	グループプレゼンテーションに向けて チームで行うPBLタイプのプレゼンを行う準備。テーマやスケジュールを考慮し、可能な限りで最も効果的な表現形式を考える。
第5回	チームプレゼンテーションの準備
第6回	チームプレゼンテーションの作成、練習
第7回	チームプレゼンテーションの実施と、総合的な振り返り

事前・事後学修	プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）には少なくとも1時間程度の準備が必要となるでしょう。プレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。また、プレゼンテーション後の提出物の作成は、1時間程度が目安となります。その他 毎回の授業の資料をまとめて復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題が授業中に終わらない場合は、次回までに達成しておくようにしてください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>発表の様子・技術 40%</p> <p>発表内容 40% (視覚資料・原稿など)</p> <p>授業内における提出物 20%</p> <p>以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。</p>
テキスト	プリントを配布しますので、各自紛失ないようにファイルなどで保管しましょう。
参考文献	授業中適宜指示します

年度	2025
講義名称	人間の心理【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：70611

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 美恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学の入門の授業です。 心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指しています。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の全体について基礎知識を獲得する。 ・心理学的研究方法について理解し応用できる。 ・日常の中に心理学的視点を持ち、社会や他者、自分自身について心理学的理解を深める。
授業の進め方	授業は全てオンデマンドです。 パワーポイントを使用しながら授業を展開します。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用します。 心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>確認のためのワークを毎回行う予定です。 小テストを5回行う予定です。 最終テストを1回行います（授業内に行うか、試験期間中に行うかは未定です）。</p> <p>*今年度からオンデマンド授業となりました。 授業進度によってテスト等の回数が変わる場合がありますので、授業内の案内に留意してください。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 心理学とは 心理学の歴史	オンデマンド
第2回	感覚、知覚、認知について 人間の記憶	オンデマンド
第3回	学習とはなにか 刷込み 連合学習（1）	オンデマンド
第4回	連合学習（2） オペラント条件付け（1）	オンデマンド
第5回	オペラント条件付け（2） 観察学習	オンデマンド
第6回	人間の発達	オンデマンド
第7回	愛着の発達	オンデマンド
第8回	パーソナリティとは（1）	オンデマンド
第9回	パーソナリティとは（2）	オンデマンド
第10回	知能とは	オンデマンド
第11回	ストレスとストレス対処	オンデマンド

第12回	社会の中の人 (1)	オンデマンド
第13回	社会の中の人 (2)	オンデマンド

事前・事後学修	<p>図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習してください。</p> <p>授業中に得た知識を定着させるため復習を行ってください。</p> <p>予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とします。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	未定です。
テキスト	毎回プリントを事前配布します。各自ダウンロードし、オンデマンド視聴前に用意してください。
参考文献	授業中に適宜紹介します。

年度	2025
講義名称	現代社会論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：70613

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講は、現代社会の様々な課題について、文献・資料を読み込んでいくことで理解を深め、広く教養を身につけるとともに、読解力を高めていくことを目的とする。また、フィールドワークを通して社会問題の実際に触れ、私たちが生きる社会の複雑さについて考えることが出来るようになることも本講義の目的である。
到達目標	現代社会で課題とされていることについて理解を深める。 ある程度の分量の文章を限られた時間で読み込める読解力を身につける。 他者の考えを聴き、批判し、自分の意見に取り込むことでこれまでよりも広い知見を身につける。
授業の進め方	本講義は2つの形態で進める。一つはゼミ形式を基本として行い、受講者が自身の問題意識や関心から文献・資料を自ら選び、全員で議論をしながら読み進めていく。受講者はそれぞれの分野で必ず1回以上、レジュメを作成し発表する。もう一つはフィールドワークによって社会問題を解決する実践の現場に身を置き、理論と実践の選流について認識を深めてディスカッションの糧とすることである。原則として週1回のペースで文献購読を行い、3～4時間程度のフィールドワークを3回ほど実施する予定である。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中に出てきた質問や提出された課題については、講義中に適宜取り上げ、解説を加える。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（この授業の進め方）
第2回	フィールドワーク①第4回分と合算）
第3回	文献購読①
第4回	フィールドワーク①（第2回分と合算）
第5回	文献購読②
第6回	フィールドワーク②（第8回分と合算）
第7回	文献購読③
第8回	フィールドワーク②（第6回分と合算）
第9回	文献購読④
第10回	フィールドワーク③（第12回分と合算）
第11回	文献購読⑤
第12回	フィールドワーク③（第10回分と合算）
第13回	文献購読⑥

【具体的な内容】	2025/04/01
----------	------------

事前・事後学修

テキストには事前に必ず目を通しておくこと。
また、自分が担当する回ではレジュメを作成し、わからない語句等は必ず調べておくこと。

【必要な時間】

3時間程度の事前学習、1～2時間程度の事後学習を必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	文献購読担当回の報告：40% フィールドワークへの取り組み：40% まとめのレポート：20%
テキスト	購読する文献は受講者と担当教員が協議して決定する予定である。
参考文献	講義中に適宜指示する

年度	2025
講義名称	健康とスポーツⅠ[幼教]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71113
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科
石川 みゆき	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学ぶとともに、実技を通して積極性、協調性などを養い保育者としての資質の向上を目指す。また計画的に運動をする習慣を育てるとともに、健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。現代社会における様々な健康問題について認識することで、自らの健康に関心を持つことの重要性を理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。・実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。・チームあるいはコンビのコミュニケーションを通じて集団行動の役割および責任分担、連帯感やマナーを理解できる。・実技種目における基本および応用技術を高め、自分の習得した技術を実感しながら練習や試合を実践できる。・実技種目におけるルールを十分に理解し、試合の運営ならびに審判をすることができる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none">・2名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。・2つのグループに分かれて「健康とスポーツⅡ」の実技種目とローテーションし行う。・実技種目(担当教員)は、バレーボール(石川)・卓球(林)となる。・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。・第一体育館、第二体育館で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	・課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 履修方法の説明 担当教員の紹介 種目A・B 基本技術 個人技術の習得①
第2回	種目A・B 基礎技術 個人技術の習得②
第3回	種目A・B 基本技術 コンビ・チームプレイ①
第4回	種目A・B 応用技術 コンビ・チームプレイ②
第5回	種目A・B 基礎技術 試合のルールの理解と審判
第6回	種目A・B 応用技術 習得した技術を試合で実践する①
第7回	種目A・B 応用技術 習得した技術を試合で実践する②

事前・事後学修	<p>【事前学修】(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none">・自らの健康づくりに興味を持ち、日常生活の中で体を動かすことを心がける。・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。 <p>【事後学修】(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none">・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。 <p>2025/04/01</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「チームあるいはコンビのコミュニケーションを通じて集団行動の役割および責任分担、連帯感やマナーを理解できる」について、授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナーなどから評価する（40%） ・「実技種目における基本および応用技術を高め、自分の習得した技術を実感しながら練習や試合を实践できる」 ・「実技種目におけるルールを十分に理解し、試合の運営ならびに審判をすることができる」について各種目の基礎技能の個人的到達度などから評価する（35%） ・「身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を实践できるようにする」 ・「実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る」についてレポート課題により評価する（25%）
テキスト	・適宜資料を配布する。
参考文献	・適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	実技種目を専門に指導してきた講師や、大学教育にて「体育実技」を指導してきた実務経験がある教員により、楽しく身体を動かしながら体力の維持向上や、健康の保持増進を図る授業を展開する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。 ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることもある。 ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

年度	2025
講義名称	外国語コミュニケーション（基礎）[①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71121

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。
到達目標	基本的な英会話力を身に付け、日常生活の様々な場面において対応できるようにする。
授業の進め方	日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション Unit 1 Introductions	対面
第2回	Unit 1 Introductions	対面
第3回	FT Session 1 (Zoom) Unit 2 Daily Life	遠隔（同時双方向）
第4回	Unit 2 Daily Life	対面
第5回	FT session② (Zoom)	遠隔（同時双方向）
第6回	Unit 4 Small Talk	対面
第7回	Unit 4 Small Talk 確認テスト、フィードバック	対面

事前・事後学修	<p>[具体的な内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。 ・学んだ英語表現はその日のうちにしっかり覚えましょう。 ・演習等に取り組む際は、何回も練習して臨みましょう。 <p>→予習・復習にの時間はそれぞれ1時間を目安とします。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題 30% ・毎回の課題等 30% ・小テスト・確認テスト 40%
テキスト	Free Talking (Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldevist, Yuki Hasegawa) 出版社 Cengage Learning
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃべる英文法 監修・著 白井泰弘 (コスモビア) ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers) By Raymond Murphy (Cambridge University Press)

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2025
講義名称	外国語コミュニケーション（基礎）[②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71121

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。
到達目標	基本的な英会話力を身に付け、日常生活の様々な場面において対応できるようにする。
授業の進め方	日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション Unit 1 Introductions	対面
第2回	Unit 1 Introductions	対面
第3回	FT Session 1 (Zoom) Unit 2 Daily Life	遠隔（同時双方向）
第4回	Unit 2 Daily Life	対面
第5回	FT session② (Zoom)	遠隔（同時双方向）
第6回	Unit 4 Small Talk	対面
第7回	Unit 4 Small Talk 確認テスト、フィードバック	対面

事前・事後学修	<p>[具体的な内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。 ・学んだ英語表現はその日のうちにしっかり覚えましょう。 ・演習等に取り組む際は、何回も練習して臨みましょう。 <p>→予習・復習にの時間はそれぞれ1時間を目安とします。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題 30% ・毎回の課題等 30% ・小テスト・確認テスト 40%
テキスト	Free Talking (Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldevist, Yuki Hasegawa) 出版社 Cengage Learning
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃべる英文法 監修・著 白井泰弘 (コスモビア) ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers) By Raymond Murphy (Cambridge University Press)

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2025
講義名称	外国語コミュニケーション（基礎）[保育総合2年]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71121

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。
到達目標	保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。また、発音とリズムに留意しながら英語の歌やゲーム等の活動ができる。
授業の進め方	実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション Unit 1 What's your name?	対面
第2回	Unit 2 Where are you from? 関連した英語の活動	対面
第3回	Unit 3 Good morning!① 関連した英語の活動	対面
第4回	Unit 3 Good morning!② 確認テスト①	対面
第5回	Unit 4 Are you OK?① 関連した英語の活動	対面
第6回	Unit 4 Are you OK?② 関連した英語の活動	対面
第7回	Unit 5 What are you doing? 確認テスト②	対面

事前・事後学修	[具体的な内容] ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。 ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。 ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。 → 予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	2025/04/01
--------------------	------------

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス等の言語活動 30% ・毎回の課題等 30% ・小テスト、確認テスト 40%
テキスト	Speaking of Childcare (Peter Vincent & Naoko Nakazono) NAN'UN-DO
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃべる英文法 監修・著 白井泰弘 (コスモピア) ・Essential Grammar in Use by Raymond Murphy (Cambridge University Press)

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2025
講義名称	保育英語Ⅰ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71122

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。 また、英語の歌などの学習を通して、積極的に保育活動に英語を取り入れ、英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な英語表現を身に付ける。
到達目標	・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。 ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。 ・「海外研修」に備えて、自分の町や北海道を英語でプレゼンテーションすることができる。
授業の進め方	・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。 ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動に取り組むなどの演習をする。 ・英語のプレゼンテーションについて基本的なスキルを学ぶ。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・オリエンテーション ・Unit 1 What's your name?	対面
第2回	・Unit 2 Where are you from? ・Unit 3 Good morning! ・英語プレゼンテーションの基本 (1)	対面
第3回	・Unit 4 Are you OK? ・英語プレゼンテーションの基本 (2)	対面
第4回	・Unit 5 What are you doing? ・英語プレゼンテーションのスクリプト作成 (1)	対面
第5回	・Unit 6 How are you feeling? ・英語プレゼンテーションのスクリプト作成 (2)	対面
第6回	・Unit 7 What's she like? ・英語プレゼンテーションのスライド作成、リハーサル	対面
第7回	・英語プレゼンテーション (Our town, Hokkaido) ・Unit 8 Do's and don'ts	対面

事前・事後学修	[具体的な内容] ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。 ・学んだ英語表現はその日のうちにしっかり覚えましょう。
---------	--

・ 演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。
→ 予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①プレゼンテーション、パフォーマンス課題 40% ②毎回の課題等 30% ③小テスト、確認テスト 30%
テキスト	・ Speaking of Childcare (NAN'UN-DO)
参考文献	・ 幼保英語検定3級テキスト ・ 本学図書館の英語多読教材

備考	・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2025
講義名称	情報処理演習(文書処理)[①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71131
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	<p>ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。</p> <p>そのために、情報セキュリティーや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。</p> <p>実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。</p>
到達目標	<p>【到達目標】</p> <p>情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティー等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。</p> <p>実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをすることを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】</p> <p>(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティーや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。</p> <p>(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。</p> <p>(DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。</p> <p>(DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキュリティーの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。</p> <p>(DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。</p> <p>(DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。</p>
授業の進め方	<p>アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。</p> <p>一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。プレゼンテーション演習により双方向性のある授業も実施します。</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。</p> <p>また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル
第2回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・Word基礎
第3回	Word基礎
第4回	Excel基礎・実データを用いた分析
第5回	Excel基礎・実データを用いた分析
第6回	powerpoint基礎・実データを用いた分析と課題解決
第7回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 <p>【必要な時間】</p> <p>毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>以下のABCDについて総合的に評価します。</p> <p>A (60%)授業内での課題（10点x6回=60点）1～6回目</p> <p>B (10%)タイピングテスト(10点X1回=10点) 7回目</p> <p>C (30%)毎回の授業内レポート(3点X7回=21点) 毎回</p> <p>D (9%) プレゼン発表会（9点×1）7回目</p>
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Officeソフトの各種書籍 ・ 情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>小学校において20年間の実務経験を有する。文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地の幼稚園や子ども園を含む学校での指導助言の経験を活かし、本科目を展開する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・ Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・ 本科目は、AIデータサイエンスプログラムを構成する科目です。

年度	2025
講義名称	情報処理演習(文書処理)[②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71131
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	<p>ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。</p> <p>そのために、情報セキュリティーや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。</p> <p>実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。</p>
到達目標	<p>【到達目標】</p> <p>情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティー等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。</p> <p>実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをすることを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】</p> <p>(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティーや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。</p> <p>(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。</p> <p>(DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。</p> <p>(DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキュリティーの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。</p> <p>(DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。</p> <p>(DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。</p>
授業の進め方	<p>アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。</p> <p>一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。プレゼンテーション演習により双方向性のある授業も実施します。</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル
第2回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・Word基礎
第3回	Word基礎
第4回	Excel基礎・実データを用いた分析
第5回	Excel基礎・実データを用いた分析
第6回	powerpoint基礎・実データを用いた分析と課題解決
第7回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 <p>【必要な時間】</p> <p>毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>以下のABCDについて総合的に評価します。</p> <p>A (60%)授業内での課題（10点x6回=60点）1～6回目</p> <p>B (10%)タイピングテスト(10点X1回=10点) 7回目</p> <p>C (30%)毎回の授業内レポート(3点X7回=21点) 毎回</p> <p>D (9%) プレゼン発表会（9点×1）7回目</p>
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Officeソフトの各種書籍 ・ 情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	小学校において20年間の実務経験を有する。文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地の幼稚園や子ども園を含む学校での指導助言の経験を活かし、本科目を展開する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・本科目は、AIデータサイエンスプログラムを構成する科目です。

年度	2025
講義名称	健康とスポーツII[幼教]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72114
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科
石川 みゆき	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学ぶとともに、各スポーツの技能・戦術・審判法などを体験することで学びを深める。また計画的に運動をする習慣を育てるとともに、健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。様々な世代における健康課題について知るとともに、その解決策として身体を積極的に動かすにはどうすればよいかを学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。・実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。・チームあるいはコンビのコミュニケーションを通じて集団行動の役割および責任分担、連帯感やマナーを理解できる。・実技種目における基本および応用技術を高め、自分の習得した技術を実感しながら練習や試合を実践できる。・実技種目におけるルールを十分に理解し、試合の運営ならびに審判をすることができる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none">・2名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。・2つのグループに分かれて「健康とスポーツI」の実技種目とローテーションし行う。・実技種目（担当教員）は、バレーボール（石川）・卓球（林）となる。・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。・第一体育館、第二体育館で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 履修方法の説明 担当教員の紹介 種目A・B 種目の特徴と基礎技能① 個人技術の習得
第2回	種目A・B 種目の特徴と基礎技能② コンビ・チームプレイ
第3回	種目A・B 種目のルールと基礎技能 ルールの確認と理解
第4回	種目A・B 応用技能と審判法① 審判（ルールを活かす）
第5回	種目A・B 応用技能と審判法② 審判（ゲームをコントロールする）
第6回	種目A・B 応用技能とゲーム① 試合（これまで習得した技能を活かす）
第7回	種目A・B 応用技能とゲーム② 試合（これまで習得した戦術を活かす）

事前・事後学修	<p>【事前学修】（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none">・自らの健康づくりに興味を持ち、日常生活の中で体を動かすことを心がける。・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。 <p>【事後学修】（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none">・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。 <p>2025/04/01</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「チームあるいはコンビのコミュニケーションを通じて集団行動の役割および責任分担、連帯感やマナーを理解できる」について、授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナーなどから評価する（40%） ・「実技種目における基本および応用技術を高め、自分の習得した技術を実感しながら練習や試合を实践できる」 ・「実技種目におけるルールを十分に理解し、試合の運営ならびに審判をすることができる」について各種目の基礎技能の個人的到達度などから評価する（35%） ・「身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を实践できるようにする」 ・「実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る」についてレポート課題により評価する（25%）
テキスト	・適宜資料を配布する。
参考文献	・適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	実技種目を専門に指導してきた講師や、大学教育にて「体育実技」を指導してきた実務経験がある教員により、楽しく身体を動かしながら体力の維持向上や、健康の保持増進を図る授業を展開する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。 ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることもある。 ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

年度	2025
講義名称	外国語コミュニケーション（応用）[①/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72123

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。
到達目標	基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。また、Zoom を使用して、40 分×2 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、期末テストは授業内で実施し、解説を行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	Unit 10: Restaurants
第2回	FT Session ①: Restaurants
第3回	Unit 16: Opinions
第4回	FT Session ②: Opinions
第5回	Unit 18: The Future
第6回	In-class Conversation: The Future
第7回	Final Exam + Feedback

事前・事後学修	前回の授業の復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	2025/04/01

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 30% 宿題: 20% 期末テスト: 50%
テキスト	Free Talking 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldevist, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning
備考	Let's learn to embrace our mistakes as opportunities to improve! 会話のミスを上達のチャンスとして認識しましょう！

年度	2025
講義名称	外国語コミュニケーション（応用）[②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72123

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。
到達目標	基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。また、Zoom を使用して、40 分×2 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、期末テストは授業内で実施し、解説を行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	Unit 10: Restaurants
第2回	FT Session ①: Restaurants
第3回	Unit 16: Opinions
第4回	FT Session ②: Opinions
第5回	Unit 18: The Future
第6回	In-class Conversation: The Future
第7回	Final Exam + Feedback

事前・事後学修	前回の授業の復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	2025/04/01

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 30% 宿題: 20% 期末テスト: 50%
テキスト	Free Talking 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldevist, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning
備考	Let's learn to embrace our mistakes as opportunities to improve! 会話のミスを上達のチャンスとして認識しましょう！

年度	2025
講義名称	外国語コミュニケーション（応用）[保育総合2年]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72123
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。
到達目標	基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。
授業の進め方	日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリント等にまとめて提供する。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	Unit 9: Let's eat lunch
第2回	Unit 9: Let's eat lunch - Conversation Practice
第3回	Unit 10: What do you want to do?
第4回	Unit 10: What do you want to do? - Conversation Practice
第5回	Unit 13: Good job
第6回	Unit 13: Good job - Conversation Practice
第7回	Final Exam + Feedback

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none">・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 30% 宿題: 20% 期末テスト: 50%
テキスト	Speaking of Childcare 著者: Peter Vincent、中里 菜穂子 出版社: 南雲堂

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、保育園での英語活動、児童館でのコミュニケーション指導、小学校での英語教育に計4年間携わり、子どもの発達に合わせた指導方法を実践してきました。この経験を基に、教育現場の視点を活かした具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	Let's learn to embrace our mistakes as opportunities to improve! 会話のミスを上達のチャンスとして認識しましょう！

年度	2025
講義名称	保育英語Ⅱ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72124

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅰを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。また、英語の歌などの英語学習における留意点を学び、積極的に保育活動に英語を取り入れて、英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な指導力を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。 ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。 ・「海外研修」に備えて、日本文化を紹介するプレゼンテーションを英語で行うことができる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。 ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動に取り組むなどの演習をする。 ・英語のプレゼンテーションについて基本的なスキルを学ぶ。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 9 Let's eat lunch! ・ 英語プレゼンテーションのスキル（応用）(1) 	対面
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 10 What do you want to do? ・ 英語プレゼンテーションのスキル（応用）(2) 	対面
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 11 What do you have to do? ・ 英語プレゼンテーションのスクリプト作成（日本文化紹介）(1) 	対面
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 12 I need to go potty. ・ 英語プレゼンテーションのスクリプト作成（日本文化紹介）(2) 	対面
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 13 Good job! ・ 英語プレゼンテーションのスライド作成（日本文化紹介） 	対面
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 14 Injuries and emergencies ・ 英語プレゼンテーションのリハーサル 	対面
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語プレゼンテーション（日本文化紹介） ・ Unit 15 We're going to go outside. 	対面

事前・事後学修	<p>[具体的な内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。 ・ 学んだ英語表現はその日のうちにしっかり覚えましょう。 ・ 演習等に取り組む際は、何回も練習して臨みましょう。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①プレゼンテーション、パフォーマンス課題 40% ②毎回の課題等 30% ③小テスト、確認テスト 30%
テキスト	・ Speaking of Childcare (NAN'UN-DO)
参考文献	・ 幼保英語検定3級テキスト ・ 本学図書館の英語多読教材

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2025
講義名称	情報処理演習(データ活用)[①/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必修区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72132
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	<p>春学期の情報処理演習に引き続き、ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。</p> <p>そのために、情報セキュリティーや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。</p> <p>実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。</p>
到達目標	<p>【到達目標】</p> <p>情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティー等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等ができるようになる。</p> <p>実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】</p> <p>(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティーや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。</p> <p>(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。</p> <p>(DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。</p> <p>(DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキュリティーの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。</p> <p>(DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。</p> <p>(DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。</p>
授業の進め方	<p>アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。</p> <p>一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。プレゼンテーション演習により双方向性のある授業も実施します</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<p>授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。</p> <p>また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。</p>
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・生成AI倫理
第2回	CANVAを活用した文書作成
第3回	実データの収集と分析

第4回	生成AI活用とExcel操作
第5回	課題解決演習
第6回	プレゼン作成とプレゼンスキル

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 <p>【必要な時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>以下のABCDについて総合的に評価します。</p> <p>A (60%)授業内での課題 (10点x6回=60点) 1~6回目</p> <p>B (10%)タイピングテスト(10点X1回=10点) 7回目</p> <p>C (30%)毎回の授業内レポート(3点X7回=21点) 毎回</p> <p>D (9%) プレゼン発表会 (9点×1) 7回目</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Officeソフトの各種書籍 ・ 情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>小学校において20年間の実務経験を有する。</p> <p>文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地の幼稚園や子ども園を含む学校での指導助言の経験を活かし、本科目を展開する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・CANVAやChatGPTを登録しておきましょう。 <p>・本科目は、AIデータサイエンスプログラムを構成する科目です。</p>

年度	2025
講義名称	情報処理演習(データ活用)[②/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72132
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	<p>春学期の情報処理演習に引き続き、ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。</p> <p>そのために、情報セキュリティーや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。</p> <p>実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。</p>
到達目標	<p>【到達目標】</p> <p>情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティー等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等ができるようになる。</p> <p>実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】</p> <p>(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティーや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。</p> <p>(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。</p> <p>(DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。</p> <p>(DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキュリティーの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。</p> <p>(DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。</p> <p>(DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。</p>
授業の進め方	<p>アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。</p> <p>一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。プレゼンテーション演習により双方向性のある授業も実施します</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・生成AI倫理
第2回	CANVAを活用した文書作成
第3回	実データの収集と分析

第4回	生成AI活用とExcel操作
第5回	課題解決演習
第6回	プレゼン作成とプレゼンスキル

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 <p>【必要な時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>以下のABCDについて総合的に評価します。</p> <p>A (60%)授業内での課題 (10点x6回=60点) 1~6回目</p> <p>B (10%)タイピングテスト(10点X1回=10点) 7回目</p> <p>C (30%)毎回の授業内レポート(3点X7回=21点) 毎回</p> <p>D (9%) プレゼン発表会 (9点×1) 7回目</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Officeソフトの各種書籍 ・ 情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>小学校において20年間の実務経験を有する。</p> <p>文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地の幼稚園や子ども園を含む学校での指導助言の経験を活かし、本科目を展開する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・CANVAやChatGPTを登録しておきましょう。 <p>・本科目は、AIデータサイエンスプログラムを構成する科目です。</p>

年度	2025
講義名称	キャリア基礎演習[幼教]
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72142
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	社会人として必要な常識、態度などについて学びます。就職することについてや専門職についてを考察することにより、就職に対して具体的な理解を深めます。
到達目標	社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解を深めるとともに、保育者としての専門性について理解を深めることを目標とします。
授業の進め方	グループワークやディスカッション、資料作成等の演習を中心としながら、講義や外部講師講話を通して、課題の明確化等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説します。グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指しています。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、進路調査アンケート
第2回	就職活動について（キャリア支援センターより）、社会人に求められるマナーについて
第3回	進路調査票について
第4回	外部講師講話①：就職すること、職業選択について
第5回	就職試験について（実技編）
第6回	就職試験について（一般常識編・専門知識編）
第7回	履歴書の書き方①(書き方のポイントについて・ワークシート)
第8回	履歴書の書き方②(履歴書作成)
第9回	求人票の見方
第10回	外部講師講話②：保育者として
第11回	就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）、面接について①
第12回	面接について②
第13回	まとめ及び就職ガイダンス、就職活動についてレポート

<p>事前・事後学修</p>	<p>【具体的な内容】 日頃から新聞やニュースなどで、最近の社会や企業の動き、世の中の動向を意識することを心掛けてください。 必ず前回の授業内容を復習し、自分の将来について具体的にイメージして出席してください。</p> <p>【必要な時間】 予習・復習の時間は合わせて、3.5時間を目安とします。</p>
-----------------------	---

<p>成績評価基準と方法</p>	<p>毎時のワークシート等の提出物60%「社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解し身につけることができる」「保育者としての専門性について理解を深める」ことを提出物の評価基準とする。 授業内レポート40%「社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解し身につけることができる」「保育者としての専門性について理解を深める」ことをレポートの評価基準とする。</p>
<p>テキスト</p>	<p>必要に応じてプリントを配布</p>

実務経験のある教員の有無

<p>有り</p>

<p>実務経験のある教員の経歴と授業内容</p>	<p>本講義は認定こども園園長・幼稚園教諭の実務経験のある教員が、就職や専門職にかかわる知識・技術を活かして、働くことの意義や習得すべき専門的な知識・技能について、理解できる講義を実施します。</p>
---------------------------------	--

年度	2025
講義名称	保育英語Ⅲ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：73126

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科
富田 敏明	

授業の目的と概要	近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅱを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、海外研修の事後学習の位置づけで、研修中学んだこと、体験したことを英語でプレゼンテーションする機会を設け、英語で効果的、的確に相手にメッセージを伝える能力を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。 ・自分の伝えたいメッセージを英語プレゼンテーションの形で伝えることができる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。 ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動に取り組むなどの演習をする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で伝えるとともに、特にパフォーマンス課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション	対面
第2回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 英語プレゼンテーションのスキル (1)	対面
第3回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 FTセッション 英語プレゼンテーションのスキル (2)	遠隔（同時双方向）
第4回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 英語プレゼンテーションのスクリプト作成	対面
第5回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 FTセッション 英語プレゼンテーションのスクリプト作成	遠隔（同時双方向）
第6回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 英語プレゼンテーションのスライド作成、リハーサル	対面
第7回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 英語プレゼンテーション（海外研修報告）	対面
第8回	保護者や子どもとの会話関連表現等 英語の歌の指導	対面

第9回	保護者や子どもとの会話関連表現等 FTセッション	遠隔（同時双方向）
第10回	保護者や子どもとの会話関連表現等 英語の歌の指導、英語の絵本の読み聞かせ	対面
第11回	保護者や子どもとの会話関連表現等 FTセッション	遠隔（同時双方向）
第12回	保護者や子どもとの会話の関連表現等 英語の歌の指導、英語の絵本の読み聞かせ	対面
第13回	確認テスト、これまでのまとめ	対面

事前・事後学修	<p>[具体的な内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。 ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。 ・プレゼンテーション等に取り組む際は、何回も練習して臨みましょう。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>①プレゼンテーション、パフォーマンス課題 40%</p> <p>②毎回の課題等 30%</p> <p>③小テスト、確認テスト 30%</p>
テキスト	適宜、授業で配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「実践家からの児童英語教育法 - 実践編 AB」 中本幹子著（アプリコット出版） ・「英語の歌&アクティビティ集」 アルクキッズ英語編集部編（アルク） ・「保育英語の練習帳②」 宮田学編、高橋妙子著（萌文書林）

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2025
講義名称	保育英語IV
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：74128

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育英語Ⅰ～Ⅲを踏まえて、本講義では、英語圏の人々の生活感覚、言語感覚に大きな影響を与えているマザーグース（英語圏の伝承童謡）を教材に、英語のリズム、韻など音声上の特徴に親しみ、英語の楽しさを子どもたちに伝えるためのスキル、姿勢を育成する。また、児童文学、絵本、映画等におけるマザーグースの活用についての学習を通して、異文化理解の深化を図る。
到達目標	・英語のリズム、韻の繰り返しに触れて、英語の音声の心地よさを味わい、英語の楽しさを子どもたちに伝える能力を身に付ける。 ・英語圏の生活感覚、言語感覚、ユーモア感覚等についての理解を深め、卒業後も英語を学び続ける積極的な態度を身に付ける。
授業の進め方	・テーマ毎（ナンセンス唄、遊戯唄、奇妙な人物、子どもの唄等）にマザーグースをリズム、押韻、頭韻等の音声面の観点から学ぶ。 ・遊戯唄などを保育現場で活用する方法、技術についてグループで研究を深める。 ・代表的な訳詞について鑑賞し、特に関心のある唄については「自分だけの訳詞」を作ってみる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション～マザーグースの世界	対面
第2回	不思議な唄、ナンセンスな唄	対面
第3回	遊戯唄、子守唄	対面
第4回	男の子、女の子の唄	対面
第5回	積み上げ唄、早口言葉唄	対面
第6回	奇妙な人物の唄	対面
第7回	動物、鳥の唄 これまでのまとめ	対面

事前・事後学修	[具体的な内容] ・授業中に扱うマザーグースについては、リズム、押韻、頭韻等に配慮してすらすら読めるようにしましょう。 ・メロディーが付いている唄は、歌う練習を楽しんで行ってください。 ・それぞれのマザーグースが様々な絵本でどのように描かれているかを調べてみましょう。 →予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 50% ・パフォーマンス課題 30% ・小テスト、確認テスト 20%
テキスト	適宜、授業で配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・よりぬきマザーグース 谷川俊太郎訳、鷲頭名都江編 (岩波少年文庫) ・マザーグースのうた 蜂飼耳訳、高島郁生絵 (ポプラ社) ・マザーグース1～4 谷川俊太郎訳、和田誠絵 (講談社文庫)

備考	<ul style="list-style-type: none"> Be helpful. Be friendly. Be active. Be creative. Be ambitious.
----	--

年度	2025
講義名称	子どもの遊び演習[①/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80071
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	学生自身が遊びを体験し、楽しむことで保育者としての基礎をつくることを目的とする。幼児教育における遊びの重要性を理解し、子どもにとってより楽しく、意義のある遊びについて考えていく。
到達目標	子どもの遊びを自分自身が体験し、その楽しさ、難しさを実感する。 子どもが楽しめる遊びを考え、実践できる。
授業の進め方	実践を重視し、学生自身が授業構築に直接関わり、遊びについて検討していく。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生から提示された疑問等には講義内で対応していく。
----------------------------	---------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（小岩） カブラ（小岩）
第2回	伝統遊び：コマ・けん玉（林）
第3回	伝統遊び：竹馬（小岩）
第4回	ネイチャーゲーム（小岩）
第5回	公園遊び（林）
第6回	運動遊び（林）
第7回	まとめ・ボードゲーム（林・小岩）

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どもの頃に体験した遊びを思い出しておく。また、保護者や身近な大人に、子どもの頃の遊び経験を聞いておくと良い。 また、授業で体験して終わるのではなく、継続的に実践し続けることを望む。 【必要な時間】 授業後、1時間以上の振り返りを求める。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>授業各回の実践レポート 70%</p> <p>まとめのレポート 30%</p> <p>「到達目標」に明示している、『子どもの遊びを自分自身が体験した楽しさや難しさを実感しているか』、『子どもが楽しめる遊びを考え実践できるか』について、実践内容を踏まえて論述できることを授業各回の実践レポート・まとめのレポートの評価基準とする。</p>
テキスト	『新版遊びの指導 乳・幼児編』幼少年教育研究所編、同文書院
参考文献	必要に応じて紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場において子ども園園長、幼稚園教諭の実務経験を有する教員により、乳幼児期の遊びの具体的な場面や姿について説明する。
備考	※実際に身体を動かすことが多いため、原則として動きやすい服装で参加すること。その他、必要な準備は授業内で指示する。

年度	2025
講義名称	子どもの遊び演習[②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80071
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	学生自身が遊びを体験し、楽しむことで保育者としての基礎をつくることを目的とする。幼児教育における遊びの重要性を理解し、子どもにとってより楽しく、意義のある遊びについて考えていく。
到達目標	子どもの遊びを自分自身が体験し、その楽しさ、難しさを実感する。 子どもが楽しめる遊びを考え、実践できる。
授業の進め方	実践を重視し、学生自身が授業構築に直接関わり、遊びについて検討していく。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生から提示された疑問等には講義内で対応していく。
----------------------------	---------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（小岩） カブラ（小岩）
第2回	伝統遊び：コマ・けん玉（林）
第3回	伝統遊び：竹馬（小岩）
第4回	ネイチャーゲーム（小岩）
第5回	公園遊び（林）
第6回	運動遊び（林）
第7回	まとめ・ボードゲーム（林・小岩）

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どもの頃に体験した遊びを思い出しておく。また、保護者や身近な大人に、子どもの頃の遊び経験を聞いておくと良い。 また、授業で体験して終わるのではなく、継続的に実践し続けることを望む。 【必要な時間】 授業後、1時間以上の振り返りを求める。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>授業各回の実践レポート 70%</p> <p>まとめのレポート 30%</p> <p>「到達目標」に明示している、『子どもの遊びを自分自身が体験した楽しさや難しさを実感しているか』、『子どもが楽しめる遊びを考え実践できるか』について、実践内容を踏まえて論述できることを授業各回の実践レポート・まとめのレポートの評価基準とする。</p>
テキスト	『新版遊びの指導 乳・幼児編』幼少年教育研究所編、同文書院
参考文献	必要に応じて紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場において子ども園園長、幼稚園教諭の実務経験を有する教員により、乳幼児期の遊びの具体的な場面や姿について説明する。
備考	※実際に身体を動かすことが多いため、原則として動きやすい服装で参加すること。その他、必要な準備は授業内で指示する。

年度	2025
講義名称	教育原理[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80151

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼児教育についての基礎的な知識について学ぶ。 幼児教育の理念や意義を制度や歴史、社会的な役割を踏まえて理解する。 また現代社会における教員の役割についても広く学んでいく。
到達目標	幼稚園教員のしごとを理解し、幼児教育現場で働きたいという意識を定着させる。 また、幼児教育についての基本的な知識を理解する。
授業の進め方	講義を中心に、適宜調べ学習やグループワークをおこなう。 レジュメにそって学習を進め、必要に応じて資料や視覚的教材も使用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生からの質問には適宜講義内で回答するので、積極的な質問を期待する。 提出した課題については、返却後解説を加える。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス / 教育の意義と理念
第2回	教育制度と法令①幼児教育制度の概略
第3回	教育制度と法令②幼児教育に関する法令
第4回	教育制度と法令③子どもの権利
第5回	幼児教育の思想と歴史①コメニウス、ルソー、オーエン他
第6回	幼児教育の思想と歴史②フレーベル、モンテッソーリ他
第7回	幼児教育の思想と歴史③東京女子師範学校附属幼稚園と守孤扶独幼稚児保護会、二葉幼稚園
第8回	幼児教育の思想と歴史④倉橋惣三、戦争
第9回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領の概要
第10回	教育に関する経営的事項：地域連携、学校と安全
第11回	諸外国の幼児教育システム
第12回	幼児教育の現状と課題
第13回	まとめと確認テスト、履修カルテの記入

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業内で、次の回までの事前学習について指示する。 不明な点、理解が難しい点は必ず質問し、疑問を解消すること。 質問は授業中、授業外のほか、コメントシートやメール等でも随時受け付ける。
---------	---

【必要な時間】

事前、事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	日々の確認テスト30% 最終テスト50% コメントシート20%
テキスト	『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針』 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』
参考文献	講義内で適宜紹介する。

年度	2025
講義名称	保育原理[幼教]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80152
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では保育についての基礎的な知識について学びます。保育の理念や意義を制度や歴史を踏まえながら理解します。また保育の現状と課題や保育者の役割について理解することを目的とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・保育の意義や目的、原理を理解し、説明できる。・保育における計画と実践の重要性について理解し、作成できる。・保育者の役割、資質・能力について理解し、自身の目標・課題を設定する。
授業の進め方	基本的に講義形式で行いながら、授業の中ではテキストの要点を捉える、学習したことに基づき自らの経験に重ねて思考する、考えたことを発言する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、保育の理念と概念、子どもの最善の利益と保育
第2回	子ども理解と発達を捉える視点
第3回	環境を通して行う保育とは
第4回	保育の基本と保育内容・方法
第5回	保育における計画
第6回	保育の実践の原理
第7回	保育における健康・安全の原理
第8回	多様性を認める保育の在り方
第9回	保育の思想と歴史的変遷
第10回	保育者に求められるもの
第11回	子育て支援の必要性、子育て支援の具体的展開
第12回	保育の現状と課題
第13回	期末試験及び解説、保育原理の原理を問う

【具体的な内容】 ・次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習しノートにまとめてください。

事前・事後学修

・授業内で前回の授業内容の復習をしますので、授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は合わせて5時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験・・・30%「保育の意義や目的、原理を理解し、説明できる」ことを期末に行う試験の評価基準とする。 ・授業の振り返り(コメントシート等)・・・20%「各回の授業内容を理解し、説明できる」ことをコメントシートの評価基準とする。 ・提出課題・・・20%「保育における計画と実践の重要性について理解し、作成できる」ことを課題の評価基準とする。 ・成果物(レポート)・・・30%「保育者の役割、資質・能力について理解し、自身の目標・課題を設定できる」ことを、レポートの評価基準とする。
テキスト	【テキスト】 『新しい保育講座①保育原理』 渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀編著 ミネルヴァ書房
参考文献	【参考文献】 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が事例を盛り込みながら、具体的にイメージを広げ理解できる講義を実施します。
--------------------------	---

年度	2025
講義名称	保育者論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80153
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけを理解し、保育者の専門性について考察することを目的とする。 また、保育者の協働及び専門的成長について理解する。
到達目標	・保育者の役割や意義、制度、歴史等に関する基本的知識について、理解することができる。 ・自分が目指す保育者像を具体的に描くことができる。 ・保育者として求められるモラル、考え方、マナー、所作について理解している。
授業の進め方	基本的に講義形式で行いながら、授業の中では、テキストの要点を捉える、学習したに基づき、自らの考えに重ねて施行する、考えたことを発現する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説をする。またグループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指す。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 保育者の仕事と役割
第2回	保育者の制度的位置づけ
第3回	保育者になるための学び
第4回	保育者に求められる資質とは
第5回	職場で学び合う専門家として
第6回	保育者の資質向上とキャリア
第7回	子どもの育ちの危機と子育て支援① 子どもの育ちの危機／多様なニーズをもつ子どものとのかわり
第8回	子どもの育ちの危機と子育て支援② 子育て支援と保育者の役割／子育て支援を考える視点
第9回	現代社会の変化と保育者の仕事や課題
第10回	保育環境の意義と保育者の役割
第11回	家庭との連携・協働する保育者
第12回	地域の中で子どもが育つために
第13回	保育者になる人へ 期末試験

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期で学んだ「保育原理」や「教育原理」などを参考に、保育者の役割や保育・幼児教育の制度などのポイント、また、次回の授業範囲について専門用語の意味などを予習し、ノートにまとめてください。 ・授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。 ・付属認定こども園実習や学外保育実習を通して、保育者の子どもや保護者への対応、保育者同士のかかわり、保育時間外の仕事などを観察するように心がけてください。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習時間はそれぞれ2時間、計4時間を目安とします。</p>
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験 50% 「保育者の役割や意義、制度等に関する基本的知識について理解する」「保育者として求められるモラル、考え方、マナー、所作について理解し、説明できる」ことを評価基準とする。 ・レポート 30% 「自分が目指す保育者像について具体的に描き、説明できる」ことを評価基準とする ・授業内提出物 20% 「保育者の役割や意義などの基本的知識について理解する」ことを評価基準とする
テキスト	秋田喜代美編集代表『今に生きる保育者論』株式会社みらい
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭の実務経験のある教員等が、保育者の役割や倫理、制度的な位置づけ等にかかわる視点・知識などを活かして、保育者の専門性とは何かを保育者の視点から理解できる講義を実施する。
備考	講義内では、PCを使用する場合があります。

年度	2025
講義名称	保育内容総論[幼教①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80171
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では保育において育みたい資質・能力を理解し、各領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを目的とします。
到達目標	保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容を理解する。
授業の進め方	基本的に講義形式で行いながら、授業の中ではテキストの要点を捉える、学習したことに基づき自らの経験に重ねて思考する、考えたことを発言する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、保育内容の総合的把握 各領域のねらい及び内容並びに全体構造の理解（保育内容5領域のとらえ方）
第2回	幼稚園・保育所・認定こども園の一日の流れと保育内容 子どもの発達特性と保育内容 0・1歳児
第3回	子どもの発達特性と保育内容 2・3歳児 子どもの発達特性と保育内容 4・5歳児
第4回	保育内容の展開(養護と教育、環境、遊び) 保育内容の展開(生活や発達の連続性、家庭・地域・小学校との連携)
第5回	保育内容と保育の計画・観察・記録・評価／授業内試験及び解説
第6回	模擬保育①各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法 模擬保育②幼児の認識や思考、動きを考慮した指導案作成
第7回	模擬保育③模擬保育実践 模擬保育④模擬保育と振り返り

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習しノートにまとめてください。・授業内で前回の授業内容の復習をしますので、授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。・付属認定こども園実習や身近な子どもとのかかわりなどを通して、子どもの発達段階や保育者の対応を観察するように心がけてください。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間はそれぞれ3時間、計6時間を目安とする。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験・・・30%「保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容を説明できる」ことを授業内試験の評価基準とする。 ・授業の振り返り(コメントシート等)・・・20%「各回の授業内容を理解し、課題を提出できる」ことを評価基準とする。 ・模擬保育・・・20%「5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容に沿って保育を計画・実践できる」ことを模擬保育の評価基準とする。 ・成果物(レポート)・・・30%「保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容を反映させて論述できる」ことをレポートの評価基準とする。
テキスト	<p>【テキスト】</p> <p>編著 咲間まり子 『コンパス 保育内容総論 第2版』 建帛社</p>
参考文献	<p>【参考文献】</p> <p>『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。</p>
-------------------	---

年度	2025
講義名称	保育内容総論[幼教②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80171
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では保育において育みたい資質・能力を理解し、各領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを目的とします。
到達目標	保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容を理解する。
授業の進め方	基本的に講義形式で行いながら、授業の中ではテキストの要点を捉える、学習したことに基づき自らの経験に重ねて思考する、考えたことを発言する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、保育内容の総合的把握 各領域のねらい及び内容並びに全体構造の理解（保育内容5領域のとらえ方）
第2回	幼稚園・保育所・認定こども園の一日の流れと保育内容 子どもの発達特性と保育内容 0・1歳児
第3回	子どもの発達特性と保育内容 2・3歳児 子どもの発達特性と保育内容 4・5歳児
第4回	保育内容の展開(養護と教育、環境、遊び) 保育内容の展開(生活や発達の連続性、家庭・地域・小学校との連携)
第5回	保育内容と保育の計画・観察・記録・評価／授業内試験及び解説
第6回	模擬保育①各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法 模擬保育②幼児の認識や思考、動きを考慮した指導案作成
第7回	模擬保育③模擬保育実践 模擬保育④模擬保育と振り返り

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習しノートにまとめてください。・ 授業内で前回の授業内容の復習をしますので、授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。・ 付属認定こども園実習や身近な子どもとのかかわりなどを通して、子どもの発達段階や保育者の対応を観察するように心がけてください。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間はそれぞれ3時間、計6時間を目安とする。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験・・・30%「保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容を説明できる」ことを授業内試験の評価基準とする。 ・授業の振り返り(コメントシート等)・・・20%「各回の授業内容を理解し、課題を提出できる」ことを評価基準とする。 ・模擬保育・・・20%「5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容に沿って保育を計画・実践できる」ことを模擬保育の評価基準とする。 ・成果物(レポート)・・・30%「保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容を反映させて論述できる」ことをレポートの評価基準とする。
テキスト	<p>【テキスト】</p> <p>編著 咲間まり子 『コンパス 保育内容総論 第2版』 建帛社</p>
参考文献	<p>【参考文献】</p> <p>『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。</p>
-------------------	---

年度	2025
講義名称	子どもの図画工作
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80183
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 朝地 信介	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	作品制作を通してつくってあそぶ楽しさを感じると共に、保育者として必要な図画工作の基礎的技術と実践法を学ぶ。また幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された図画工作の学習内容の理解を深める。
到達目標	①作品制作を通して自分なりに感じたことや考えたことを表現することができる。 ②制作した作品や発表を互いに鑑賞することで様々な感性や表現を知り、理解することができる。 ③造形の基本を学び、作品制作に必要な技術を身に付けることができる。 ④作品制作を振り返り、自らの表現や制作方法の課題を見つけ把握することができる。
授業の進め方	資料・参考作品を基に課題の説明を行い、主に制作実習室と学内、大学敷地内をフィールドとして作品を制作・鑑賞する。また作品や配布物を綴じてポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りと学生個人の資料とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	制作した作品を鑑賞し、学生同士の相互評価や教員からのアドバイスをを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション／子どもの表現、自分の表現	対面
第2回	素材を見る、感じる（いろいろな紙とあそび）	対面
第3回	子どもとつながる作品（実習に向けて・名札制作）①	対面
第4回	子どもとつながる作品（実習に向けて・名札制作）②	対面
第5回	基礎技法の造形あそび（絵具）	対面
第6回	基礎技法の造形あそび（クレヨン）	対面
第7回	基礎技法の造形あそび（鉛筆・色鉛筆）	対面
第8回	基礎技法の造形あそび（色紙）	対面
第9回	造形のための素材活用（自然素材）	対面
第10回	造形のための素材活用（折り紙・装飾）	対面
第11回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）① 下絵・材料準備・制作	対面
第12回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）② 制作	対面
第13回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）③ 制作・作品発表	対面

	・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。 ・配布される材料以外に必要なものは各自で用意する。	2025/04/01
--	--	------------

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・制作方法、手順などのレポーターを調べる。 ・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。 ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70点 ②毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30点
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	日本画家、高等学校教諭（美術）としての実務経験を元にした内容を行う。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・図画工作、造形表現、その他演習や実習で使用するための教材を受講年度初めに全員購入する。（絵具、筆、はさみ、カッター、クレヨン、テープ、のり、折り紙等 5,000円） ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。

年度	2025
講義名称	子どもの図画工作[未修得]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80183
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 朝地 信介	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	作品制作を通してつくってあそぶ楽しさを感じると共に、保育者として必要な図画工作の基礎的技術と実践法を学ぶ。また幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された図画工作の学習内容の理解を深める。
到達目標	①作品制作を通して自分なりに感じたことや考えたことを表現することができる。 ②制作した作品や発表を互いに鑑賞することで様々な感性や表現を知り、理解することができる。 ③造形の基本を学び、作品制作に必要な技術を身に付けることができる。 ④作品制作を振り返り、自らの表現や制作方法の課題を見つけ把握することができる。
授業の進め方	資料・参考作品を基に課題の説明を行い、主に制作実習室と学内、大学敷地内をフィールドとして作品を制作・鑑賞する。また作品や配布物を綴じてポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りと学生個人の資料とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	制作した作品を鑑賞し、学生同士の相互評価や教員からのアドバイスをを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション／子どもの表現、自分の表現	対面
第2回	素材を見る、感じる（いろいろな紙とあそび）	対面
第3回	子どもとつながる作品（実習に向けて・名札制作）①	対面
第4回	子どもとつながる作品（実習に向けて・名札制作）②	対面
第5回	基礎技法の造形あそび（絵具）	対面
第6回	基礎技法の造形あそび（クレヨン）	対面
第7回	基礎技法の造形あそび（鉛筆・色鉛筆）	対面
第8回	基礎技法の造形あそび（色紙）	対面
第9回	造形のための素材活用（自然素材）	対面
第10回	造形のための素材活用（折り紙・装飾）	対面
第11回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）① 下絵・材料準備・制作	対面
第12回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）② 制作	対面
第13回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）③ 制作・作品発表	対面

	・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。 ・配布される材料以外に必要なものは各自で用意する。	2025/04/01
--	--	------------

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・制作方法、手順などのレパトリーを調べる。 ・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。 ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70点 ②毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30点
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	日本画家、高等学校教諭（美術）としての実務経験を元にした内容を行う。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・図画工作、造形表現、その他演習や実習で使用するための教材を受講年度初めに全員購入する。（絵具、筆、はさみ、カッター、クレヨン、テープ、のり、折り紙等 5,000円） ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。

年度	2025
講義名称	体育実技
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8018c
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	様々な運動や運動遊びを通じて、体を動かす楽しさを体験し、幼児期の身体活動や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。 また、実技を通して保育者として求められる基礎体力や運動能力、運動の基礎知識を身につけるとともに、生涯にわたる健康づくりの資質や能力を育むことを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。・自らの健康づくりに必要な知識や態度を学び、行動できるようにする。・乳幼児期の運動の発達を理解し、運動遊びの基礎知識や指導技術を学ぶ。・チームプレイやグループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none">・実技を中心に理論を交えて演習を行う。・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 授業の進め方 ・アイスブレイク
第2回	乳児期の運動発達と遊び ・0歳から2歳の動きの発達過程を体験し理解する ・微細運動、粗大運動 ・感触・感覚遊び
第3回	3歳児の動きの発達と運動遊び ・移動遊び ・まねっこ遊び
第4回	4歳児の動きの発達と運動遊び ・移動遊び ・体幹・バランス遊び
第5回	5歳児の動きの発達と運動遊び ・移動遊び ・操作遊び
第6回	様々な運動遊び① ・集団ゲーム
第7回	様々な運動遊び② ・道具使った遊び

事前・事後学修	【事前学修】 （2時間） ・基礎体力の向上を意識し、日常生活の中で体を動かすこと（階段での移動、徒歩での移動など）や、運動やスポーツすることを心がける。 ・日頃より生活習慣を意識し、食事・睡眠などをしっかり取り体調管理を心がけ授業に参加する。
	【事後学修】 （2時間） ・授業で学んだストレッチ、動きや技術など復習する。 ・授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す」 ・「自らの健康づくりに必要な知識や態度を学び、行動できるようにする」 ・「グループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める」 ことについて、授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナーなどから評価する（40%） ・「乳幼児期の運動の発達を理解し、運動遊びの基礎知識や指導技術を学ぶ」 ことについて、振り返りシートや提出物による指導技術の読み取りなどから評価する（30%） ・「授業全体を通じた総合的な学び」について、期末レポート課題から評価する（20%）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ACPガイドブック（日本スポーツ協会） ・幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省） ・小学校学習指導要領・体育編（文部科学省）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼児の体育指導や親子体操教室の講師、NPO法人にて知的・発達障害児の運動訓練教室を主宰、地域活動における子どもの健康づくりの講師、認定こども園園長等の実務経験をもとに、保育現場における具体的な子どもの姿について解説し、幼児期の身体活動や遊びを豊かに展開するための知識や技術を実践的に学ぶ。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。 ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。 ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。 ・幼児や児童と関わる場所（教室やボランティアなど）に積極的に参加し、子どもと触れ合う体験をしてください。

年度	2025
講義名称	海外研修(事前・事後指導を含む)
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80191

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科
深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	国際的視野を持つ保育者を育成するために、海外研修をオーストリアのサザンクロス大学(Southern Cross University)において行う。(予定)。この研修の目的は、グローバルな視点で保育に係る様々な事象を捉えて思考すること、サザンクロス大学の英語教師等との交流を通して英語でのコミュニケーションの幅を広げること、ホームステイで異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことなどである。
到達目標	サザンクロス大学の英語教師等、ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通して、自分自身を見つめ直すとともに、他者理解を深めながら、英語でコミュニケーションを図ることができる。
授業の進め方	海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習を通して、自分自身の研究課題を設定し、研修後には研究課題の発表をする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、研究課題については研究発表の際にフィードバックする。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション	対面
第2回	②研修先について学ぶ(1)	対面
第3回	③研修先について学ぶ(2)	対面
第4回	④研修先について学ぶ(3)	対面
第5回	⑤旅行の手続き、諸注意等について(1)	対面
第6回	⑥Goshu.infoの方との質疑応答(予定)・しおりの確認	対面及び同時双方向
第7回	⑦旅行の手続き、諸注意等について(2)	対面
第8回	⑧オーストラリア研修(1) 研修の日々の振り返り	
第9回	⑨オーストラリア研修(2) 研修の日々の振り返り	
第10回	⑩オーストラリア研修(3) 研修の日々の振り返り	
第11回	⑪オーストラリア研修(4) 研修の日々の振り返り	
第12回	⑫オーストラリア研修(5) 研修の日々の振り返り	
第13回	⑬オーストラリア研修(6) 研修の日々の振り返り	

事前・事後学習	・海外の大学での講義、ホームステイ先での場面や状況を想定し、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しましょう。 ・日本、北海道、札幌、自分自身等について、英語で紹介できるようまとめておきましょう。	2025/04/01
---------	--	------------

→予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

成績評価基準と方法	・海外の大学における取組 60% ・帰国前後の研究課題への取組 40%
テキスト	適宜、配布する。
参考文献	・『改訂版 英語で日本紹介ハンドブック』 松本美枝（著）（アルク） ・『日本のことを1分間英語で話してみる』 広瀬直子（著）（中経出版）

備考	・海外研修の実施の判断は8月末になります。研修参加人数によっては実施時期の変更もあります。変更がある場合は授業内及びWebClassにおいてお知らせしますので、連絡には十分注意してください。
----	---

年度	2025
講義名称	保育の心理学[幼教]
講義開講時期	春学期第2Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80262
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育実践にかかわる心理学の知識の習得を目的とする。その際に、子どもが人のかかわりを通して発達することを理解する。また、発達子どもだけではなく、生涯発達という観点から発達のプロセスについて保育との関連で理解し考える。
到達目標	人の発達を多様な側面から学ぶことで、子どもの発達の特徴を理解し、保育をすすめる際の子どもの理解ができるようになる。
授業の進め方	講義形式で行うが、必要に応じてグループディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での課題は、授業内でフィードバックを行う。レポートなどは、コメントをつけて後日返却する。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	発達とは 発達と環境 発達の定義と発達に及ぼす環境の影響について講義する。
第2回	発達の理論 エリクソン、ピアジェ、ヴィゴツキーなど子どもの育ちに参考になる発達の理論について講義する。
第3回	認知の発達 ピアジェの発達理論により認知の発達について講義する。また対照的な理論としてヴィゴツキーの発達理論についても講義する。
第4回	言語の発達 乳児期からの言語発達について講義する。その際に認知発達と関連付けても説明する。
第5回	社会性・情動の発達 社会性の発達と情動の発達が密接に関連しながら発達することを講義する。
第6回	学びとは 学ぶということがどのような発達が必要でどのような現象なのかを講義する。授業内で中間レポートを作成する。
第7回	主体的学びと意欲 乳幼児期における主体的な学びとはどのようなことなのか、それに影響する意欲とはどのように育まれるかを講義する。
第8回	生活・学び・遊び 乳幼児期は、生活・学び・遊びは一体化していることについて詳しく説明する。
第9回	学びの過程と支援 乳幼児期の学びとはどのようなことなのかを、教科教育とは異なる学び方やその後どのように教科教育に結び付いていくのかを講義する。
第10回	集団・仲間関係 幼児期における集団づくり、仲間関係はどのように作られていくのかを講義する。仲間関係の良い面、仲間関係の弊害なども皆で考える。

第11回	学びの評価 幼児教育の学びの評価は学校における評価と違い、どのような視点で行われるのかを講義する。
第12回	発達や学びに困難を抱える子どもたち 支援が必要な子どもの特性やどのような支援を行うのかについて講義する
第13回	まとめと授業内テスト 本講義のまとめを行い、授業内でのテストをする。

事前・事後学修	事前・事後学習は各5時間くらい必要である。内容としては、事前では、教科書の予習、事後は講義の復習を行う必要がある。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業コミュニケーションシート20% 中間レポート 40% 授業内テスト 40%
テキスト	「子どもの姿から考える 保育の心理学」 編 結城孝治 遠藤順子 請川滋大 アイ・ケイコーポレーション
参考文献	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
-------------------------------	--

年度	2025
講義名称	幼児理解
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80265
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものです。 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考 ることができる力を身に付けます。
到達目標	1.幼児理解の意義と原理・・・幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎態度を理解する 2.幼児理解の方法・・・幼児理解の方法を具体的に理解する
授業の進め方	演習形式で行う。グループワークを取り入れる。また、ワークシートに必要事項を記入、提出を求めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、授業中に行い、提出し、コメントをつけて返却します
----------------------------	------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	子ども理解の意義と原理と保育における子ども理解の意義 子ども理解とは何かについて学びます。
第2回	子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開と子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 子ども理解に基づいた保育の展開とそこで重要な共感的理解について学びます。
第3回	子どもの生活と遊びと人的環境としての保育者と子どもの発達 子どもにとっての生活と学びの意義とそこでの保育者の振る舞い、それが子どもの発達にどのように影響するかを学びます。
第4回	集団における経験と育ちと保育環境の理解とその構成 集団を通して子どもはどのように育つのか、子どもにとっての良い環境構成とはを学びます。
第5回	子どもを理解する方法と職員間の対話・保護者との情報の共有 子どもを理解する方法にどのようなものがあるのか、その中で職員間の対話や保護者との情報の共有がどのよう幼児理解につながるのかを学びます。
第6回	発達の課題に応じた援助と関わりと特別な配慮を要する子どもの理解と援助 子どもに応じた発達課題についての関りについて、学修します。
第7回	発達の連続性と就学への支援と授業内テスト 幼保小連携についてと、本科目のまとめを行い、授業内でテストを行う。

事前・事後学修	テキストを読むなどの予習、復習が必要です。約2時間程度必要となります。
---------	-------------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ワークシート50% 授業内テスト50%
テキスト	「子ども理解 個と集団の育ちを支える理論と方法」請川滋大 萌文書林
参考文献	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
-----------------------	--

年度	2025
講義名称	諸外国の保育【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80352

担当教員

氏名	所属
◎ 品川 ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	<p>この講義では多文化保育について日本や諸外国の保育事例を用いながら学修をすすめる。</p> <p>日本において今後の保育を考えるとき、外国人児童と日本人児童とともに保育することは不可欠である。</p> <p>日本と外国の児童への保育は単に言葉が通じればよいわけではない。</p> <p>日本人児童にも外国人児童にも望ましい保育のためには、保育者が多文化保育の理論を基礎に、保育で扱う内容や保育の環境に留意しなければならない。</p>
到達目標	<p>諸外国の保育を学ぶことで多文化保育とは何か説明することができる。</p> <p>保育の中で多様性を大切にするにはどのようなことが必要か考えることができる。</p> <p>日本や諸外国における多文化保育の現状をわかり説明することができる。</p>
授業の進め方	<p>本授業は基礎的な知識を学修する場合にはオンデマンドで行い、それについて深め考える授業は対面で行う。</p> <p>オンデマンドは内容の修得とその確認の小テストで構成する。</p> <p>対面授業では講義とグループワーク、あるいは発言という構成で行う。</p>

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回のリフレクションシートの提出に対し、個別の質問ではLMSを通して返信をする。 全体で共有すべき内容については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業の進め方 多文化保育とは何か	対面
第2回	外国につながる子どもの状況	オンデマンド
第3回	外国につながる子どもの具体的課題	対面
第4回	多文化保育の現状と施策	オンデマンド
第5回	多文化保育の現状に対する議論 グループでの取り組みと発表	対面
第6回	諸外国の保育（ブラジル）	オンデマンド
第7回	ブラジルと日本の保育の違いについて	対面
第8回	諸外国の保育（北欧：スウェーデン、ノルウェー）	オンデマンド
第9回	北欧と日本の保育との違いについて	対面
第10回	多様性を大切にするためには グループ発表準備	オンデマンド
第11回	多文化保育の対応 グループ発表準備	対面

第12回	グループ発表 グループ発表はオンデマンドで行う	オンデマンド
第13回	ディスカッションと最終試験 授業の前半では本授業で学修した内容について議論します。 後半では試験を行います。	対面

事前・事後学修	事前学習、事後学習共に授業内に提示する。また同時にLMSにも掲示する。 必要な時間数は事前事後ともに2時間を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価の基準は以下の通りである。 毎回のリフレクションシート（30%） グループ発表（20%） 授業内試験（50%）
テキスト	テキストは特に指定しない。
参考文献	必要な参考文献については、LMSを通じて提示する。

年度	2025
講義名称	子どもの保健[幼教]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80362
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河崎 和子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	<p>【授業の目的】 本科目の目的は、子どもの心身の健康増進を図る保健活動、子どもの身体発育や生理機能及び精神機能の発達と保健、保育における環境・衛生管理および安全管理にかかわる基本的な知識を理解し、子どもの疾病予防や保健管理における保育者の役割を理解する。</p> <p>【授業の概要】 参加型講義により、子どもの発育・発達に応じた健康増進と疾病予防、安全管理の基礎知識を学ぶ。 また、指定したテーマについてグループワーク等を取り入れ、現代社会の子どもの取り巻く健康問題や課題を理解し、保育者としての役割を学ぶ。一部、技術演習も行う。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの保健の意義について説明できる 2. 少子化社会における子どもを取り巻く環境について説明できる 3. 共働き世帯が増加することによる子どもへの影響について考え、プラス面及びマイナス面について記述することができる 3. 子どもの発育・発達について説明できる 4. 子どもの健康状態の観察点について説明できる 5. 子どものかかりやすい病気について説明できる 6. 子どもの発育の評価基準を用いて発育評価できる 7. 保育所におけるアレルギー対応ガイドラインをもとに、アレルギーをもつ子どもの事例についての対応を検討することができる 8. エピペンの使用方法を理解し、模擬実践できる 9. 災害時の備えについて検討し、必要な物を記述できる 10. 防災対策に関する物品について、市場調査（リサーチ）を行い、参考となるリストを作成できる 11. 保育園における災害対策教育を検討し、子ども向けの計画を立案することができる 12. 虐待の定義と種類について理解し、保育士として子どもとの望ましいかわり方や虐待予防のための対策を考え、記述することができる 13. 子どもに起こりやすい事故や保育園における感染対策について説明することができる
授業の進め方	<p>講義は、参加型の講義が中心である。</p> <p>各回の講義目標を提示し、テーマに沿って、講義後、グループワークやペアワーク、リサーチ学習を行う。</p> <p>提示課題について資料をまとめ、発表後、ディスカッションを行い、情報を共有する。</p> <p>また、一部、市場調査としてフィールドワークを行い、その内容を資料にまとめ、次の講義時に発表する。</p> <p>テーマにより、グループワーク後、ポスターを作成し、ポスターツアーを行い、学生間でディスカッションを通して、学びを深める。</p> <p>講義終了後は、講義内容の理解度を確認するために、ワークシートへ記入をして、各自が目標達成度を振り返る。</p> <p>フィードバックは次の講義時に行う。</p> <p>オンデマンド・オンラインの場合は、各自PC、イヤホンを準備し、指定の教室または自宅で受講する。出席確認のため画面オンにし、ディスカッションの際には音声オンにして積極的に発言をする。（WiFi環境の整備された場所で受講し、基本的なルールを遵守することを原則とする）</p>

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題やワークに関するフィードバックは、次の講義内で講評・解説する。
----------------------------	-----------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
---	------	------

第1回	<ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. レクチャー <ul style="list-style-type: none"> 1) 子どもの健康とは 2) 少子化社会における子育て 3. リサーチ学習 <p>提示課題①「現代の子どもを取り巻く環境にはどのような課題があるのか」</p> <p>提示課題②「共働き世帯が増加することによる子どもへの影響（プラス面、マイナス面）について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 4. 個人ワーク <p>提示課題③「共働き世帯の家族へ配慮すべき点とかかわり方」について保育士の立場としてできることを考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> 5. ワークシートの入力 	対面
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 1. レクチャー「子どもの発育と発達」 2. 提示課題について個人ワーク <p>提示課題1) 子どもの生理的特徴</p> <p>提示課題2) 乳児期の発育・発達の特性と必要な養護（食事、睡眠、排泄）</p> <p>提示課題3) 幼児期の発育・発達の特性と必要な養護（食事、睡眠、排泄）</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. ワークシート入力 	オンデマンド
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 1. フィードバック 2. グループワーク <p>提示課題1)～3)の中から1つ選定し、グループで模造紙に資料を作成する（グループ番号、学生メンバー名、テーマを記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. ポスターツアー（前半組、後半組に分かれて、グループメンバーが模造紙前に立ち、説明をする。説明者は順番に交代する。） 4. ワークシート入力 	対面
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 1. フィードバック 2. レクチャー「子どもの健康状態の観察とかかりやすい病気」 3. ワーク（個人）※指定課題後日提示 4. ミニレクチャー「子どもの発育の評価と評価基準」 5. ワーク（個人）※指定課題後日提示 6. ワークシートの入力 	オンデマンド
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 1. フィードバック 2. レクチャー「予防接種」 3. DVD視聴 4. グループワーク ※指定課題は後日提示 5. 発表 6. ワークシート入力 	対面
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 1. フィードバック 2. レクチャー <ul style="list-style-type: none"> 1) 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」 2) エビペンの使用方法について 3. ワーク（個人） 4. ワークシート入力 	オンデマンド
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 1. フィードバック 2. DVD視聴 3. エビペンの模擬実践（演習）※フェスタオルを1枚各自持参してください 4. グループワーク・発表 5. ワークシート入力 	対面
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 1. フィードバック 2. ミニレクチャー「東日本大震災のメール相談対応から考える平時の備え」 3. フィールドワークおよびワーク（個人） <ul style="list-style-type: none"> 1) 子どもの視点から見た防災に必要な物品の市場調査（フィールドワーク）を行い、リストを作成する（A4 1枚程度） 2) 災害時に必要な備えについて自分なりの考えを記述する（ワークシート） 4. ワークシート入力 <p>※1) 2) をもとに、第10回の事前学習として、保育園における災害対策教育（子どもむけ）について考え記載する媒体に必要な物は各自で準備し、第10回に持参する</p>	オンデマンド
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 1. フィードバック 2. グループワーク「保育園における災害対策教育（子どもむけ）」について使用する媒体を考え、作製する（各自必要な物は自分で持参する） 3. 発表 4. ワークシート入力 	対面

第10回	1. フィードバック 2. レクチャー 1) 子どもの権利 2) 虐待の定義と種類 3. ワーク（個人） 1) 提示事例について検討（後日提示） 2) 指定課題について検討 4. ワークシート入力	オンデマンド
第11回	1. フィードバック 2. ミニレクチャー「札幌市の児童虐待予防について」 3. グループワーク 4. グループツアー 5. ワークシート入力	対面
第12回	1. フィードバック 2. ミニレクチャー「子どもに起こりやすい事故について」 3. 個人ワーク ※提示資料について検討する 4. ミニレクチャー「保育園におけるコロナ下の感染対策の実際」 5. ペアワーク（2～3名で検討する。ペアは自由、ペアの学生名は、ワークシートに入力する） 1) 園児に手洗いを教える方法について検討する 2) 媒体の検討・準備（次回発表） 6. ワークシート入力	オンデマンド
第13回	1. 園児の手洗い指導の媒体作成（ペアワーク） 2. 発表各5分：2～3名1組（80分） 3. 意見交換 4. ワークシート入力 5. まとめ	対面

事前・事後学修	提示された課題に関して事前に学習をする（2時間） 講義終了後は、講義内容の振り返りや次回の課題に関する学習を行う（2時間）
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	成績評価は下記の通り行う。 ①平常点：毎回の講義後のワークシート65点（各5点×13回） ②発表資料及び発表：30点（第3・5・9・11・13回：各5点×6回） ③成果物：アレルギーの個人ワーク提出物（5点） 上記①②③の合計し、60点以上を合格とする。
テキスト	子どもの保健テキスト（診断と治療社、2024）
参考文献	厚生労働省ホームページより ①保育所における感染症対策ガイドライン ②保育所におけるアレルギー対応ガイドライン

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	看護師・助産師・保健師（養護教諭2種）、介護支援専門員免許資格を有し、臨床経験および看護大学での勤務経験がある。臨床では、胎内に生命を宿す女性と携わる産婦人科外来からNICUを含む周産期センターや小児科外来・救急病棟での経験があり、子育て支援をテーマに研究を行い、地域における母子保健活動を実践している。東日本大震災では実際に子育て中の方のメール相談対応の実施、コロナ下では、札幌市内の保育園の感染対策状況の調査実施やオンラインによるママカフェ、育児相談外来を開設した経験がある。子どもの発育・発達に応じた健康増進と疾病予防、安全管理の基礎知識について、また、現代社会の子どもを取り巻く健康問題や課題を見出し、保育者としての役割を学べるようにこれまでの経験を含めて講じる。
-------------------	--

2025/04/01

年度	2025
講義名称	教育と保育の方法
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80371
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育は、目の前にいる子どもの一人ひとりの発達や育ちにに応じたかかわりが必要である。 その実現に向け、幼児期に育みたい資質・能力を理解するとともに、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示されている各領域のねらい及び内容について、理解を深めていく。 また、具体的な保育場面や子どもとのかかわりを想定して、保育を構想する方法を身に付ける。
到達目標	・子ども理解の意義を理解している。 ・子ども理解にもとづいた保育を構想することの重要性について理解している。 ・各領域の特性や子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材等の活用法を理解し、保育の構想に活動することができる。
授業の進め方	講義形式で行う。事例検討や視聴覚教材などにも触れながら、具体的な保育場面について、自分の考えをまとめたり、グループワークや模擬保育の実践を通すなどして、体験的に学ぶ。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義へのコメントや質問等については、次回講義の際に回答する 指導案・記録・評価について、全体で共有し、改善の視点について検討する。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 保育とは何か
第2回	子ども理解に基づいた保育方法と評価
第3回	子どもにふさわしい園生活と保育形態
第4回	養護と教育が一体となった保育の方法
第5回	環境を通じた保育の方法 遊びを通じた保育の方法
第6回	個と集団を活かした保育の方法 0・1・2歳児の発達に応じた保育方法
第7回	3・4・5歳児の発達に応じた保育方法
第8回	配慮を要する子どもへの保育方法
第9回	教材や情報機器を活かした保育方法 家庭・地域・小学校と連携した保育
第10回	保育の計画・実践・評価①
第11回	保育の計画・実践・評価②

第12回	保育の計画・実践・評価③
第13回	全体のまとめと振り返り・履修カルテの記載 定期試験

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業内容と各解説書を参照し、3法令に対応した理解を進める。 図書館等を利用し、広い範囲からの情報を収集し、指導案作成等に取り組んでほしい。
	【必要な時間】 事前事後それぞれ2時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	○定期試験 30% 「子ども理解の意義を理解している」「子ども理解にもとづいた保育を構想することの重要性について理解している」ことを評価基準とする。 ○授業内レポート 30% 「子ども理解の意義を理解している」「各領域の特性や子どもの体験との関連を考慮することができる」ことを評価基準とする。 ○授業内提出物 30% 「子ども理解に基づいた保育の構想をすることができる」「子ども理解に基づき、情報機器や教材等の活用法を理解し、保育を構想することができる」ことを評価基準とする。 ○模擬保育 10% 「専門知識・技能を活用することができる」「保育の構想や模擬保育を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける」ことを評価基準とする。
テキスト	必要に応じてプリントを配布
参考文献	「保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡邊英則編著 ミネルヴァ書房 「幼児理解からはじまる 保育・幼児教育法【第2版】」小田豊・中坪史典編・著建帛社 「保育方法の実践的理解」久富陽子・梅田優子 萌文書林 「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園・認定こども園での実務経験のある教員が子どもとかかわる視点や保育の計画の重要性等について理解を深める講義を実施する。
備考	これまでの保育原理や教育原理で学んだ、保育・幼児教育の基本を復習しておくこと。子どもの発達の道筋を理解しておくこと。これまでに経験をした各実習の日誌や、実践した指導案を振り返ったり、省察しておくこと。

年度	2025
講義名称	保育内容(健康)[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80372
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「健康」における、乳幼児期の健康の考え方や、ねらいと内容について学ぶとともに、幼児の健康づくりに関わる専門事項（心身の発達、運動の発達、生活習慣、安全な生活など）について学ぶ。 子どもの健康（づくり）に関して幅広い視点で捉えられるようになることが目的である。
到達目標	・領域「健康」のねらい及び内容について理解する。 ・幼児の健康づくりに関わる専門事項について、理解し説明できる。 ・子どもの健康（づくり）に関して幅広い視点で捉えられる。
授業の進め方	・専門事項については講義形式、その他は演習、グループワークを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題やレポートの解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 授業の進め方 健康とは ・健康の概念 ・健康の定義 ・ヘルスプロモーションの理解
第2回	乳幼児期の健康をめぐる現状と課題 ・保育内容〈領域〉健康のねらいと内容
第3回	健康づくりを目指したリーダーシップ
第4回	乳幼児期の健康とからだの発達 ・身体の発育と発達 ・運動の発達 ・運動の意義
第5回	乳幼児期の健康とこころの発達 ・心の発達 ・情緒の発達 ・社会性の発達 ・自己概念の発達
第6回	乳幼児期の健康と生活習慣 ・生活習慣の発達や援助
第7回	乳幼児期の健康と安全 ・安全の指導と安全の配慮

事前・事後学修	【事前学習】（2時間） ・ 次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめる。 【事後学習】（2時間） ・ 講義や演習後はテキストや配布資料を振り返り小テストに備える。
---------	--

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらい及び内容について理解できているについて、小テスト・振り返りシート（30％）にて評価する ・幼児の健康づくりに関わる専門事項について、理解し説明できるについて、期末試験（40％）にて評価する ・子どもの健康（づくり）に関して幅広い視点で捉えられるについて、レポート課題・提出物（30％）にて評価する
テキスト	・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ACP（アクティブチャイルドプログラム）ガイドブック（日本スポーツ協会） ・幼児期運動指針実践ガイドブック（文部科学省） ・幼稚園教育要領解説（文部科学省） ・保育所保育指針解説（厚生労働省） ・幼稚園教育要領解説（文部科学省） ・保育所保育指針解説（厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼児体育、親子教室などの運動遊びの講師、NPO法人にて知的・発達障害児の運動訓練教室を主宰、複数の大学にて「健康社会学」の講師、地域連携事業にて子どもの健康づくりの講師、認定こども園園長等の実務経験をもとに、幅広い観点から子どもの健康づくりについて講義します。
備考	日ごろから「子ども（幼児）の健康」に関する出来事や情報に興味関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」「どうしたいか」などの意見を持つ習慣をつけましょう。

年度	2025
講義名称	保育内容(健康)[幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80372
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「健康」における、乳幼児期の健康の考え方や、ねらいと内容について学ぶとともに、幼児の健康づくりに関わる専門事項（心身の発達、運動の発達、生活習慣、安全な生活など）について学ぶ。 子どもの健康（づくり）に関して幅広い視点で捉えられるようになることが目的である。
到達目標	・領域「健康」のねらい及び内容について理解する。 ・幼児の健康づくりに関わる専門事項について、理解し説明できる。 ・子どもの健康（づくり）に関して幅広い視点で捉えられる。
授業の進め方	・専門事項については講義形式、その他は演習、グループワークを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題やレポートの解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 授業の進め方 健康とは ・健康の概念 ・健康の定義 ・ヘルスプロモーションの理解
第2回	乳幼児期の健康をめぐる現状と課題 ・保育内容〈領域〉健康のねらいと内容
第3回	健康づくりを目指したリーダーシップ
第4回	乳幼児期の健康とからだの発達 ・身体の発達と発達 ・運動の発達 ・運動の意義
第5回	乳幼児期の健康とこころの発達 ・心の発達 ・情緒の発達 ・社会性の発達 ・自己概念の発達
第6回	乳幼児期の健康と生活習慣 ・生活習慣の発達や援助
第7回	乳幼児期の健康と安全 ・安全の指導と安全の配慮

事前・事後学修	【事前学習】（2時間） ・ 次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめる。 【事後学習】（2時間） ・ 講義や演習後はテキストや配布資料を振り返り小テストに備える。
---------	--

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらい及び内容について理解できているについて、小テスト・振り返りシート（30％）にて評価する ・幼児の健康づくりに関わる専門事項について、理解し説明できるについて、期末試験（40％）にて評価する ・子どもの健康（づくり）に関して幅広い視点で捉えられるについて、レポート課題・提出物（30％）にて評価する
テキスト	・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ACP（アクティブチャイルドプログラム）ガイドブック（日本スポーツ協会） ・幼児期運動指針実践ガイドブック（文部科学省） ・幼稚園教育要領解説（文部科学省） ・保育所保育指針解説（厚生労働省） ・幼稚園教育要領解説（文部科学省） ・保育所保育指針解説（厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼児体育、親子教室などの運動遊びの講師、NPO法人にて知的・発達障害児の運動訓練教室を主宰、複数の大学にて「健康社会学」の講師、地域連携事業にて子どもの健康づくりの講師、認定こども園園長等の実務経験をもとに、幅広い観点から子どもの健康づくりについて講義します。
備考	日ごろから「子ども（幼児）の健康」に関する出来事や情報に興味関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」「どうしたいか」などの意見を持つ習慣をつけましょう。

年度	2025
講義名称	保育内容(人間関係)[幼教①/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80373
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	乳幼児の保育・教育において育みたい資質・能力を理解し、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等に示された当該領域の及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育者の視点を身に付ける。
到達目標	・幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定したうえで領域「人間関係」の視点と意義を身に付ける。
授業の進め方	講義形式とグループワークを織り交ぜながら行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説する。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指す。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	幼児教育の目的と領域人間関係、幼児教育の基本と保育者の役割、領域人間関係と他領域の関係 幼児教育の目的に領域人間関係はどの位置付けられているのか、そこでの保育者の役割、他領域との関係について学ぶ。
第2回	乳幼児期の発達を踏まえた人間関係、子どもと保育者の関わり 発達を踏まえて人間関係にどのような変化があるのか、そこに子どもと保育者はどのように関わっているのかについて学ぶ。
第3回	保育内容の理解指導法 ①遊びの中の人との関わり、②生活を通して育つ人との関わり 乳幼児が遊びや生活を通してどのように人との関わりを構築していくのかを学ぶ。
第4回	保育内容の理解指導法 ③個と集団の育ち、人との関わりを見る視点 個と集団の育ちをどのように捉えるかということ、人との関わりを見る視点について学ぶ
第5回	指導案の構成と指導案作成のポイント、遊びを豊かにする教材の活用法 指導案の作成にあたっての留意する点や実際に遊びを豊かにする教材についてグループで考える。
第6回	領域人間関係を育む保育、保育の評価と改善 人間関係を豊かにする保育とはどのようなことか、その保育の評価はどのように観点でするのか、その改善はどうしたらよいかを考える。
第7回	幼児教育の現代的課題と領域人間関係 授業内レポート 幼児教育の現代的課題に領域人間関係がどのように寄与できるのかについて学ぶ

事前・事後学修	事前・事後学修はそれぞれ1時間、計2時間を目安とする。内容としては、教科書の予習、演習の復習である。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01
--------------------	-----------------

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	グループワーク (30%) ワークシート (30%) 授業内レポート (40%)
テキスト	事例で学ぶ保育内容「領域 人間関係」 萌文書林 無藤 隆：監修 岩立 京子：編者代表
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
-----------------------	--

年度	2025
講義名称	保育内容(人間関係)[幼教②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80373
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	乳幼児の保育・教育において育みたい資質・能力を理解し、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等に示された当該領域の及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育者の視点を身に付ける。
到達目標	・幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定したうえで領域「人間関係」の視点と意義を身に付ける。
授業の進め方	講義形式とグループワークを織り交ぜながら行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説する。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指す。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	幼児教育の目的と領域人間関係、幼児教育の基本と保育者の役割、領域人間関係と他領域の関係 幼児教育の目的に領域人間関係はどの位置付けられているのか、そこでの保育者の役割、他領域との関係について学ぶ。
第2回	乳幼児期の発達を踏まえた人間関係、子どもと保育者の関わり 発達を踏まえて人間関係にどのような変化があるのか、そこに子どもと保育者はどのように関わっているのかについて学ぶ。
第3回	保育内容の理解指導法 ①遊びの中の人との関わり、②生活を通して育つ人との関わり 乳幼児が遊びや生活を通してどのように人との関わりを構築していくのかを学ぶ。
第4回	保育内容の理解指導法 ③個と集団の育ち、人との関わりを見る視点 個と集団の育ちをどのように捉えるかということ、人との関わりを見る視点について学ぶ
第5回	指導案の構成と指導案作成のポイント、遊びを豊かにする教材の活用法 指導案の作成にあたっての留意する点や実際に遊びを豊かにする教材についてグループで考える。
第6回	領域人間関係を育む保育、保育の評価と改善 人間関係を豊かにする保育とはどのようなことか、その保育の評価はどのように観点でするのか、その改善はどうしたらよいかを考える。
第7回	幼児教育の現代的課題と領域人間関係 授業内レポート 幼児教育の現代的課題に領域人間関係がどのように寄与できるのかについて学ぶ

事前・事後学修	事前・事後学修はそれぞれ1時間、計2時間を目安とする。内容としては、教科書の予習、演習の復習である。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	グループワーク (30%) ワークシート (30%) 授業内レポート (40%)
テキスト	事例で学ぶ保育内容「領域 人間関係」 萌文書林 無藤 隆：監修 岩立 京子：編者代表
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
-----------------------	--

年度	2025
講義名称	保育内容(環境)[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80374
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容「環境」のねらい及び内容について学び、乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解します。また乳幼児を取り巻く「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付けることを目的とします。 学生自らが身近な自然・社会環境について興味・関心を持ち、それらを保育の環境づくりに活用できることを目指し、要領・指針の確認や実践事例の紹介、体験活動などを取り入れながら講義をすすめます。
到達目標	・領域「環境」のねらい及び内容について理解し、説明できる。 ・乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解し、説明できる。 ・乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を実践できる。
授業の進め方	専門事項については講義形式、その他演習、グループワーク、環境づくりの体験などを行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：教育・保育における「環境」とは、子どもの育ちと領域「環境」 乳児、1～2歳児の世界と環境
第2回	自然に親しみ、植物や生き物に触れる
第3回	ものや道具に関わって遊ぶ
第4回	文字や標識、数量や図形に関心を持つ
第5回	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ①（遊びの空間、道具や場所の空間、季節感のある素材・活動）
第6回	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ②（地域に親しむ、日本文化）
第7回	現代の保育の課題と領域「環境」のまとめ 「小テスト及び解説」

事前・事後学習	【具体的な内容】 ・（事前学習）次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればアイデアを考えておきましょう。 ・（事後学習）テキストや配布資料を振り返り、学修の内容をまとめ整理しておきましょう。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ3時間、計6時間を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・レポート（40%）「領域（環境）のねらい及び内容について理解し、説明できる」ことを小テストの評価基準とする。また「乳幼児期における【環境を通して行う教育・保育】の意義を理解し、説明できる」ことをレポートの評価基準とする。 ・グループワークへの取り組み・まとめ（30%）「乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を実践できる」ことを取り組み・まとめの評価基準とする。 ・授業毎の課題レポート・提出物（30%）「各回の授業内容を理解し、課題を提出できる」ことを評価基準とする。
テキスト	<p>【テキスト】</p> <p>『事例で学ぶ保育内容 領域環境』 無藤隆監修 萌文書林</p>
参考文献	<p>【参考文献】</p> <p>『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。
備考	・日ごろから身近な自然・社会環境に興味・関心をもち、自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣を付けましょう。

年度	2025
講義名称	保育内容(環境)[幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80374
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容「環境」のねらい及び内容について学び、乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解します。また乳幼児を取り巻く「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付けることを目的とします。 学生自らが身近な自然・社会環境について興味・関心を持ち、それらを保育の環境づくりに活用できることを目指し、要領・指針の確認や実践事例の紹介、体験活動などを取り入れながら講義をすすめます。
到達目標	・領域「環境」のねらい及び内容について理解し、説明できる。 ・乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解し、説明できる。 ・乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を実践できる。
授業の進め方	専門事項については講義形式、その他演習、グループワーク、環境づくりの体験などを行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：教育・保育における「環境」とは、子どもの育ちと領域「環境」乳児、1～2歳児の世界と環境
第2回	自然に親しみ、植物や生き物に触れる
第3回	ものや道具に関わって遊ぶ
第4回	文字や標識、数量や図形に関心を持つ
第5回	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ①（遊びの空間、道具や場所の空間、季節感のある素材・活動）
第6回	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ②（地域に親しむ、日本文化）
第7回	現代の保育の課題と領域「環境」のまとめ 「小テスト及び解説」

事前・事後学習	【具体的な内容】 ・（事前学習）次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればアイデアを考えておきましょう。 ・（事後学習）テキストや配布資料を振り返り、学修の内容をまとめ整理しておきましょう。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ3時間、計6時間を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・レポート（40%）「領域（環境）のねらい及び内容について理解し、説明できる」ことを小テストの評価基準とする。また「乳幼児期における【環境を通して行う教育・保育】の意義を理解し、説明できる」ことをレポートの評価基準とする。 ・グループワークへの取り組み・まとめ（30%）「乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を実践できる」ことを取り組み・まとめの評価基準とする。 ・授業毎の課題レポート・提出物（30%）「各回の授業内容を理解し、課題を提出できる」ことを評価基準とする。
テキスト	<p>【テキスト】</p> <p>『事例で学ぶ保育内容 領域環境』 無藤隆監修 萌文書林</p>
参考文献	<p>【参考文献】</p> <p>『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。
備考	・日ごろから身近な自然・社会環境に興味・関心をもち、自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣を付けましょう。

年度	2025
講義名称	保育内容(言葉)[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80375

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型の認定こども園・保育要領に示された保育内容（言葉）のねらい及び内容について学ぶとともに、幼児の「言葉」の発達過程に即した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、具体的な指導場面を想定し実践する力を身につける。
到達目標	・乳幼児の言葉の発達を理解し、整理できること。 ・ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について適切な方法を具体的に考えることができること。
授業の進め方	テキストやプリントなどを用いて、理論的な説明を中心に基礎知識を深める講義を行い、適宜小テストを実施する。また、指導場面を想定した演習（グループワーク等）を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストや課題などについて、次時の授業などで適宜解説を行う。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・幼稚園教育要領における領域「言葉」
第2回	保育所保育指針における領域「言葉」
第3回	領域「言葉」と他の領域との関係
第4回	ことばの発達
第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり
第6回	保育の実際①（うたやふれあい遊び1）
第7回	保育の実際②（うたやふれあい遊び2）・まとめ

事前・事後学修	【事前学修】 毎時の学修内容に関して事前にテキスト等を読み込んでおくこと。 【事後学修】 授業内容について振り返りを確実にを行うこと。 【必要な時間】 ・事前学修、事後学修ともに、2～3時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・提出物の評価：40% 「ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について適切な方法を具体的に考えることができる」ことを評価基準とする。 ・小テスト等の評価：40% 「乳幼児の言葉の発達を理解し、整理できる」ことを評価基準とする。 ・振り返りの評価：20% 「乳幼児のことばの発達」や「指導と援助の適切な方法」について理解し、考えることができることを評価基準とする。
テキスト	保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』（太田光洋編著 同文書院）
参考文献	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

備考	授業での配布物を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。
----	----------------------------------

年度	2025
講義名称	保育内容(言葉)[幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80375

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型の認定こども園・保育要領に示された保育内容（言葉）のねらい及び内容について学ぶとともに、幼児の「言葉」の発達過程に即した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、具体的な指導場면을想定し実践する力を身につける。
到達目標	・乳幼児の言葉の発達を理解し、整理できること。 ・ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について適切な方法を具体的に考えることができること。
授業の進め方	テキストやプリントなどを用いて、理論的な説明を中心に基礎知識を深める講義を行い、適宜小テストを実施する。また、指導場면을想定した演習（グループワーク等）を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストや課題などについて、次時の授業などで適宜解説を行う。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・幼稚園教育要領における領域「言葉」
第2回	保育所保育指針における領域「言葉」
第3回	領域「言葉」と他の領域との関係
第4回	ことばの発達
第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり
第6回	保育の実際①（うたやふれあい遊び1）
第7回	保育の実際②（うたやふれあい遊び2）・まとめ

事前・事後学修	【事前学修】 毎時の学修内容に関して事前にテキスト等を読み込んでおくこと。 【事後学修】 授業内容について振り返りを確実にを行うこと。 【必要な時間】 ・事前学修、事後学修ともに、2～3時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・提出物の評価：40% 「ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について適切な方法を具体的に考えることができる」ことを評価基準とする。 ・小テスト等の評価：40% 「乳幼児の言葉の発達を理解し、整理できる」ことを評価基準とする。 ・振り返りの評価：20% 「乳幼児のことばの発達」や「指導と援助の適切な方法」について理解し、考えることができることを評価基準とする。
テキスト	保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』（太田光洋編著 同文書院）
参考文献	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

備考	授業での配布物を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。
----	----------------------------------

年度	2025
講義名称	保育内容(表現)[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80376
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。また子どもの表現を引き出す知識・技術を身に付ける。
到達目標	①幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。 ②表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる。 ③実践の内容を学生が相互に評価し合うことで、各自の保育技術の課題を見つけ、領域「表現」の理解を実践的に深めることができる。
授業の進め方	子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、音楽・身体等の表現活動に関わる演習（および講義）をオムニバス形式で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については学生の実践に合わせて都度助言を行う。また、各回の振り返り（授業感想や質問等）をもとに、次回授業時に課題に対する具体的な助言を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション：保育内容（表現）の目的 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の意味 ・授業内レポート／第1回課題「表現について」 ：林・田村
第2回	保育技術の基本（音楽表現）：田村
第3回	保育技術の基本（身体表現）：林
第4回	「表現」の指導の実際（音楽表現・保育現場での取り組み）：田村
第5回	「表現」の指導の実際（身体表現）：林
第6回	領域「表現」の実践的理解(身体表現)：林
第7回	・領域「表現」の実践的理解（音楽表現）：田村 ・授業内レポート（最終レポート）、履修カルテの記入：林・田村

事前・事後学修	【具体的な内容】 音楽・身体表現に必要な資料や歌、楽譜、手遊び、絵本、遊びのレポーター等を準備する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。
---------	---

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>①授業内レポート+授業記録：60点（第1回課題「表現について」10点、最終レポート30点、授業記録20点） 「領域（表現）のねらいや内容について、学修を通して実践的に理解を深める」ことを評価基準とする。</p> <p>②表現活動の実践・成果物：40点 身体表現（林）／音楽表現（田村）各20点 「表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる」「学生が実践を評価し合い、各自の保育技術の課題を見つけることができる」ことを評価基準とする。</p>
テキスト	新版 遊びの指導 乳・幼児編（財団法人幼少年教育研究所／同文書院／2009）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・ 保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・ 授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭・保育教諭の実務経験のある教員が、保育内容「表現」にかかわる知識や技術を活かし、保育の場で実践される表現活動の構成と指導法について、保育者の視点から理解できる学修を実施する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習授業であることから意欲的に参加し、活動することを必要とします。 ・ 動きやすい服装で授業に臨むこと。 ・ スマートフォンおよびタブレット、パソコンなどを使用する場合がありますので、持参する。

年度	2025
講義名称	保育内容(表現)[幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80376
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。また子どもの表現を引き出す知識・技術を身に付ける。
到達目標	①幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。 ②表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる。 ③実践の内容を学生が相互に評価し合うことで、各自の保育技術の課題を見つけ、領域「表現」の理解を実践的に深めることができる。
授業の進め方	子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、音楽・身体等の表現活動に関わる演習（および講義）をオムニバス形式で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については学生の実践に合わせて都度助言を行う。また、各回の振り返り（授業感想や質問等）をもとに、次回授業時に課題に対する具体的な助言を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション：保育内容（表現）の目的 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の意味 ・授業内レポート／第1回課題「表現について」 ：林・田村
第2回	保育技術の基本（音楽表現）：田村
第3回	保育技術の基本（身体表現）：林
第4回	「表現」の指導の実際（音楽表現・保育現場での取り組み）：田村
第5回	「表現」の指導の実際（身体表現）：林
第6回	領域「表現」の実践的理解(身体表現)：林
第7回	・領域「表現」の実践的理解（音楽表現）：田村 ・授業内レポート（最終レポート）、履修カルテの記入：林・田村

事前・事後学修	【具体的な内容】 音楽・身体表現に必要な資料や歌、楽譜、手遊び、絵本、遊びのレポーター等を準備する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。
---------	---

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>①授業内レポート+授業記録：60点（第1回課題「表現について」10点、最終レポート30点、授業記録20点） 「領域（表現）のねらいや内容について、学修を通して実践的に理解を深める」ことを評価基準とする。</p> <p>②表現活動の実践・成果物：40点 身体表現（林）／音楽表現（田村）各20点 「表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる」「学生が実践を評価し合い、各自の保育技術の課題を見つけることができる」ことを評価基準とする。</p>
テキスト	新版 遊びの指導 乳・幼児編（財団法人幼少年教育研究所／同文書院／2009）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・ 保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・ 授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭・保育教諭の実務経験のある教員が、保育内容「表現」にかかわる知識や技術を活かし、保育の場で実践される表現活動の構成と指導法について、保育者の視点から理解できる学修を実施する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習授業であることから意欲的に参加し、活動することを必要とします。 ・ 動きやすい服装で授業に臨むこと。 ・ スマートフォンおよびタブレット、パソコンなどを使用する場合がありますので、持参する。

年度	2025
講義名称	保育指導法(人間関係)[①/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80378
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では、領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めます。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることを目的とします。
到達目標	・領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。
授業の進め方	多様な事例についてグループワーク、ディスカッションやロールプレイを通して考え、総合的に保育を捉える学びを深めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッション、ロールプレイを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	領域「人間関係」のねらい及び内容について 乳幼児の活動の姿と人間関係の発達の過程
第2回	領域「人間関係」の実践①自立心を育む 領域「人間関係」の実践②個と集団の育ち
第3回	領域「人間関係」の実践③協同性を育む 領域「人間関係」の実践④道徳性、規範意識の芽生えを育む
第4回	領域「人間関係」の実践⑤社会生活との関わり 領域「人間関係」の実践⑥幼児期と就学以降の学びの連続性
第5回	保育指導計画の立案と検討①協同的な遊び 保育指導計画の立案と検討②ルールのある遊び
第6回	領域「人間関係」を育む保育実践①3歳未満児
第7回	領域「人間関係」を育む保育実践②3歳以上児 保育実践の振り返り、まとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればアイデアを考えておきましょう。 ・指導案等については授業で学習したことをもとに、個人・グループで検討するため、アイデアを考えておきましょう。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ3時間、計6時間を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	グループワークレポート（20%）「模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける」ことをグループワークまたレポートの評価基準とする。 指導案（20%）「指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する」ことを指導案の評価基準とする。 模擬保育・ワークシート（30%）「領域（人間関係）の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用する」ことを評価基準とする。 まとめレポート（30%）「領域（人間関係）のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解し論述する」ことをレポートの評価基準とする。
テキスト	【テキスト】 保育内容「人間関係」（アクティベート保育学8） 汐見稔幸監修、大豆生田啓友著 ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。
-------------------	--

年度	2025
講義名称	保育指導法(人間関係)[②/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80378
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では、領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めます。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることを目的とします。
到達目標	・領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。
授業の進め方	多様な事例についてグループワーク、ディスカッションやロールプレイを通して考え、総合的に保育を捉える学びを深めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッション、ロールプレイを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	領域「人間関係」のねらい及び内容について 乳幼児の活動の姿と人間関係の発達の過程
第2回	領域「人間関係」の実践①自立心を育む 領域「人間関係」の実践②個と集団の育ち
第3回	領域「人間関係」の実践③協同性を育む 領域「人間関係」の実践④道徳性、規範意識の芽生えを育む
第4回	領域「人間関係」の実践⑤社会生活との関わり 領域「人間関係」の実践⑥幼児期と就学以降の学びの連続性
第5回	保育指導計画の立案と検討①協同的な遊び 保育指導計画の立案と検討②ルールのある遊び
第6回	領域「人間関係」を育む保育実践①3歳未満児
第7回	領域「人間関係」を育む保育実践②3歳以上児 保育実践の振り返り、まとめ

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればアイデアを考えておきましょう。・指導案等については授業で学習したことをもとに、個人・グループで検討するため、アイデアを考えておきましょう。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間はそれぞれ3時間、計6時間を目安とする。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	グループワークレポート（20%）「模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける」ことをグループワークまたレポートの評価基準とする。 指導案（20%）「指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する」ことを指導案の評価基準とする。 模擬保育・ワークシート（30%）「領域（人間関係）の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用する」ことを評価基準とする。 まとめレポート（30%）「領域（人間関係）のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解し論述する」ことをレポートの評価基準とする。
テキスト	【テキスト】 保育内容「人間関係」（アクティベート保育学8） 汐見稔幸監修、大豆生田啓友著 ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。
-------------------	--

年度	2025
講義名称	保育指導法(環境)[①/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80379

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育内容（環境）での学修を踏まえ、幼児が様々な環境に関わりながら遊びを展開し、物事の法則に気づき、自分なりに考えていく過程を理解する。その上で幼児が身近な環境や自然と関わっていくための指導法を体得する。
到達目標	・保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる。 ・幼児が周囲に関心を持ち、理解を深めていく過程を考察した上で、各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる。
授業の進め方	講義、演習、グループワーク等の中で専門的知識や指導方法などの実践力を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で説明し、グループワークや発表を通して他者の考えや学びを知ることから、自分の考えや学びを深めていくことを目指す。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	幼児教育の基本と領域「環境」の概要
第2回	子どもの成長を促す保育環境①（環境構成の重要性）
第3回	子どもの成長を促す保育環境②（保育環境の構想）
第4回	子どもの成長を促す保育環境③（保育環境の構想・発表）
第5回	自然環境を生かした保育①（保育指導に関する個人案・グループ案作成）
第6回	自然環境を生かした保育②（保育指導に関するグループ案作成・発表）
第7回	保育指導法（環境）のまとめ、レポート

事前・事後学修	【事前学修】 ・次回の学修内容を確認し、準備しておくこと。 【事後学修】 ・授業内容について振り返り、確実に自分のものにしておくこと。 【必要な時間】 ・事前学修・事後学修ともに、2～3時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物：30% 「保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる」「各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる」ことを評価基準とする。 ・グループワーク等への取組・発表：40% 「保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる」「各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる」ことを評価基準とする。 ・振り返り、レポート：30% 授業内容について「指導実践を構想」し、「実践につなげていく」ことを考えることができることを評価基準とする。
テキスト	授業内で資料を配布
参考文献	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境』 ※ 1年次、保育内容（言葉）で使用したもの

備考	授業での配付資料を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。
----	-----------------------------------

年度	2025
講義名称	保育指導法(環境)[②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80379

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育内容（環境）での学修を踏まえ、幼児が様々な環境に関わりながら遊びを展開し、物事の法則に気付き、自分なりに考えていく過程を理解する。その上で幼児が身近な環境や自然と関わっていくための指導法を体得する。
到達目標	・保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる。 ・幼児が周囲に関心を持ち、理解を深めていく過程を考察した上で、各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる。
授業の進め方	講義、演習、グループワーク等の中で専門的知識や指導方法などの実践力を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で説明し、グループワークや発表を通して他者の考えや学びを知ることから、自分の考えや学びを深めていくことを目指す。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	幼児教育の基本と領域「環境」の概要
第2回	子どもの成長を促す保育環境①（環境構成の重要性）
第3回	子どもの成長を促す保育環境②（保育環境の構想）
第4回	子どもの成長を促す保育環境③（保育環境の構想・発表）
第5回	自然環境を生かした保育①（保育指導に関する個人案・グループ案作成）
第6回	自然環境を生かした保育②（保育指導に関するグループ案作成・発表）
第7回	保育指導法（環境）のまとめ、レポート

事前・事後学修	【事前学修】 ・次回の学修内容を確認し、準備しておくこと。 【事後学修】 ・授業内容について振り返り、確実に自分のものにしておくこと。 【必要な時間】 ・事前学修・事後学修ともに、2～3時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

2025/04/01

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物：30% 「保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる」「各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる」ことを評価基準とする。 ・グループワーク等への取組・発表：40% 「保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる」「各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる」ことを評価基準とする。 ・振り返り、レポート：30% 授業内容について「指導実践を構想」し、「実践につなげていく」ことを考えることができることを評価基準とする。
テキスト	授業内で資料を配布
参考文献	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境』 ※ 1年次、保育内容（言葉）で使用したもの

備考	授業での配付資料を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。
----	-----------------------------------

年度	2025
講義名称	保育指導法(言葉)[①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037a

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育内容「言葉」との関連を図りながら、子どもの発達過程を踏まえた具体的な指導方法を個人及びグループで構想するとともに、実践場面を想定した発表を行う中で指導力を高める。
到達目標	保育内容「言葉」に関わり、ねらい及び内容、発達過程を踏まえ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けることができる。
授業の進め方	テキストやプリント等を用いて言葉に関わる活動の概要を説明するとともに、個人やグループで活動内容を構想し、発表を行うなどしながら指導力を高める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について授業内で適宜解説し、グループワークや発表での自己評価、相互評価を通して、自己の学びを深めていく。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・小学校との連携
第2回	保育指導の実際1 うたやふれあい遊び① 特徴の理解・実践の構想
第3回	保育指導の実際2 うたやふれあい遊び② 発表
第4回	保育指導の実際3 想像やことばのリズム①（特徴の理解・個人案構想）
第5回	保育指導の実際4 想像やことばのリズム②（グループ案構想）
第6回	保育指導の実際5 想像やことばのリズム③（発表）
第7回	保育指導法（言葉）のまとめ・レポート

事前・事後学修	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none">次回授業内容について自分の考えをまとめ、次回の活動について構想する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none">授業内容を振り返り、ポイントをノートやファイルにまとめる。 <p>【必要な時間】</p> <ul style="list-style-type: none">事前、事後学修ともに、2～3時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●

2025/04/01

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物：40% 「到達目標」に明示してある「具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付ける」ことができることを評価基準とする。 ・グループでの貢献度、発表：40% 「具体的な指導場面を想定した保育を構想」し、実践できることを評価基準とする。 ・振り返り、レポート等：20% 授業内容について「指導場面を想定」して考えることができることを評価基準とする。
テキスト	<p>保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』（太田光洋編著 同文書院） ※1年次「保育内容（言葉）」「ことばの力」で購入したものを使用する。</p>
参考文献	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説』

備考	授業での配付資料を保管するためのファイル（A4版）を用意しておくこと。
----	-------------------------------------

年度	2025
講義名称	保育指導法(言葉)[②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037a

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育内容「言葉」との関連を図りながら、子どもの発達過程を踏まえた具体的な指導方法を個人及びグループで構想するとともに、実践場面を想定した発表を行う中で指導力を高める。
到達目標	保育内容「言葉」に関わり、ねらい及び内容、発達過程を踏まえ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けることができる。
授業の進め方	テキストやプリント等を用いて言葉に関わる活動の概要を説明するとともに、個人やグループで活動内容を構想し、発表を行うなどしながら指導力を高める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について授業内で適宜解説し、グループワークや発表での自己評価、相互評価を通して、自己の学びを深めていく。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・小学校との連携
第2回	保育指導の実際1 うたやふれあい遊び① 特徴の理解・実践の構想
第3回	保育指導の実際2 うたやふれあい遊び② 発表
第4回	保育指導の実際3 想像やことばのリズム①（特徴の理解・個人案構想）
第5回	保育指導の実際4 想像やことばのリズム②（グループ案構想）
第6回	保育指導の実際5 想像やことばのリズム③（発表）
第7回	保育指導法（言葉）のまとめ・レポート

事前・事後学修	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none">次回授業内容について自分の考えをまとめ、次回の活動について構想する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none">授業内容を振り返り、ポイントをノートやファイルにまとめる。 <p>【必要な時間】</p> <ul style="list-style-type: none">事前、事後学修ともに、2～3時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●

2025/04/01

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物：40% 「到達目標」に明示してある「具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付ける」ことができることを評価基準とする。 ・グループでの貢献度、発表：40% 「具体的な指導場面を想定した保育を構想」し、実践できることを評価基準とする。 ・振り返り、レポート等：20% 授業内容について「指導場面を想定」して考えることができることを評価基準とする。
テキスト	<p>保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』（太田光洋編著 同文書院） ※1年次「保育内容（言葉）」「ことばの力」で購入したものを使用する。</p>
参考文献	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説』

備考	授業での配付資料を保管するためのファイル（A4版）を用意しておくこと。
----	-------------------------------------

年度	2025
講義名称	保育指導法(造形表現)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037b
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 梅田 真紀	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。また保育現場で使用することを想定した課題制作を通して、保育者としての実践的な保育、造形表現の指導力を身に付ける。
到達目標	①幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。 ②表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる。 ③実践の内容を学生が相互に評価し合うことで、各自の保育技術の課題を見つけ、領域「表現」の理解を実践的に深めることができる。
授業の進め方	子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、主に作品制作と作品を使った実践を行う。また作品や配布物を綴じてポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りと学生個人の資料とする。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	造形表現の作品（成果物）の鑑賞、実践の学生同士の相互評価や教員からのアドバイスをを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／子どもの表現・自分の表現
第2回	「表現」の指導の実際（変身あそび）
第3回	「表現」の指導の実際（元永定正の絵本を題材に）
第4回	「表現」の実践的理解（紙飛行機）
第5回	保育での作品活用（パネルシアター／制作①）
第6回	保育での作品活用（パネルシアター／制作②）
第7回	保育での作品活用（パネルシアター／制作③・作品発表）

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。・配布される材料以外に必要なものは各自で用意する。・制作方法、手順などのレポトリーを調べる。・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01
--------------------	--------------

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①造形表現実践・成果物：70点 ②毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30点
テキスト	・新版 遊びの指導 乳・幼児編（財団法人幼少年教育研究所／同文書院／2009）
参考文献	・幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で美術教諭として実務経験のある教員が実践的教育を行う。
備考	・制作に関わる費用は、教員と相談の上可能な限り学科で用意する。 ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。 ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。

年度	2025
講義名称	保育指導法(音楽表現)[①/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037c
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	様々な音楽的表現方法を学び、実践することを通して、自身の感性や表現を豊かにするとともに、保育者としてのかかわりの方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	①領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ②子どもの感性や表現を豊かに育むための方法を考え、発達に応じた遊びを考えることができる。 ③他者の表現を柔軟に受け入れることにより、自分なりの表現をすることができる。
授業の進め方	豊かな感性や表現はどのように育まれているか考え、保育者自身の感性や表現を豊かにするために、自分なりに表現することを通してその方法を学ぶ。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については学生の実践に合わせて助言を行います。また、授業終了時に提出するリアクションシート（感想や質問）をもとに、次回の授業時に課題に対する具体的な助言を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／領域「表現」のねらい・内容について考える
第2回	子どもの発達と表現
第3回	表現活動（1）うたうことを中心とした表現
第4回	表現活動（2）楽器あそびを中心とした表現
第5回	表現活動（3）様々な動きを実践して表現を学ぶ
第6回	表現活動（4）素材を見つけ、他者と意見交換して表現を学ぶ（グループワーク）
第7回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	表現遊びに必要な資料や歌、楽譜、手遊び、絵本、遊びのレポーター等を各自準備する。 予習・復習の時間は各1時間、合計2時間を目安とするが、技術を身につけるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験（レポート）30%（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする） ・課題提出 30%（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする） ・グループワーク取り組み 20%（授業内で扱った課題について、到達目標③を評価基準とする） ・リアクションシートの提出 20%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新版 遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）※1年次に購入済 ・こどものうた200（チャイルド本社）※1年次に購入済
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>ピアニスト、演奏家としての実務経験（演奏活動）や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。</p>
-------------------	--

年度	2025
講義名称	保育指導法(音楽表現)[②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037c
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	様々な音楽的表現方法を学び、実践することを通して、自身の感性や表現を豊かにするとともに、保育者としてのかかわりの方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	①領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ②子どもの感性や表現を豊かに育むための方法を考え、発達に応じた遊びを考えることができる。 ③他者の表現を柔軟に受け入れることにより、自分なりの表現をすることができる。
授業の進め方	豊かな感性や表現はどのように育まれているか考え、保育者自身の感性や表現を豊かにするために、自分なりに表現することを通してその方法を学ぶ。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については学生の実践に合わせて助言を行います。また、授業終了時に提出するリアクションシート（感想や質問）をもとに、次回の授業時に課題に対する具体的な助言を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／領域「表現」のねらい・内容について考える
第2回	子どもの発達と表現
第3回	表現活動（1）うたうことを中心とした表現
第4回	表現活動（2）楽器あそびを中心とした表現
第5回	表現活動（3）様々な動きを実践して表現を学ぶ
第6回	表現活動（4）素材を見つけ、他者と意見交換して表現を学ぶ（グループワーク）
第7回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	表現遊びに必要な資料や歌、楽譜、手遊び、絵本、遊びのレポーター等を各自準備する。 予習・復習の時間は各1時間、合計2時間を目安とするが、技術を身につけるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験（レポート）30%（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする） ・課題提出 30%（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする） ・グループワーク取り組み 20%（授業内で扱った課題について、到達目標③を評価基準とする） ・リアクションシートの提出 20%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新版 遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）※1年次に購入済 ・こどものうた200（チャイルド本社）※1年次に購入済
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>ピアニスト、演奏家としての実務経験（演奏活動）や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。</p>
-------------------	--

年度	2025
講義名称	子ども音楽療育実習[幼教]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80395
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では音楽活動の多様性を知り、関連領域の理論と音楽活動の関係を体験的に理解することから実践力を広げることを目的とします。また、子どもの多様な発達についての理解を深めながら、音楽活動時に見られる子どもの姿を理解することを目指します。
到達目標	・ワークショップにおいて子どもや保護者・支援者とかかわることから、多様な発達についての理解や子ども理解について深めることができる。 ・概論と演習を繋ぎ、自身の療育プログラムを実習の場で実践することができる。
授業の進め方	音楽療育ワークショップにおける療育実践に向け、音楽療育ワークショップ実習や現場実践者の講義、またグループワークや療育プログラムの検討・作成等の演習を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：実習の心構え、マナー 音楽療育実習の活動計画：ワークショップの構成とねらい
第2回	実習事前指導：観察視点と日誌の書き方
第3回	ワークショップ観察実習：流れを知る ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する
第4回	ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する ワークショップ観察実習：音楽活動時におけるかかわり方を学ぶ
第5回	観察実習事後指導：日誌を使用した省察
第6回	ワークショップ参加実習：指導者と子どものかかわりを学ぶ
第7回	ワークショップ参加実習：音楽活動の関与について学ぶ
第8回	ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画 グループワーク
第9回	ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・打ち合わせ グループワーク
第10回	ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の実践
第11回	ワークショップ部分実習：療育の計画・実践に対する省察
第12回	特別講座：関連領域から障がいの特性や支援方法を理解する
第13回	実習事後指導：まとめ グループワーク、レポート

【具体的な内容】	2025/04/01
----------	------------

事前・事後
学修

『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障がいの特性やかかわりのポイントなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。

毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートや実習日誌にまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は計3.5時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と 方法	<ul style="list-style-type: none">・実習日誌などの提出物：50%「子どもや保護者・支援者とかかわることから、多様な発達についての理解や子ども理解について深める」ことを日誌の評価基準とする。・部分実習の立案、実践(発表)など：50%「概論と演習を繋ぎ、自身の療育プログラムを実習の場で実践する」ことを評価基準とする。
テキスト	【テキスト】 <ul style="list-style-type: none">・『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林
参考文献	【参考文献】 授業時、配布資料

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経 歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽活動の多様性や音楽療育の実践について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。
-----------------------	--

年度	2025
講義名称	子ども家庭福祉[幼教]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80451

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育に関心のある皆さんがなぜ福祉のことを学ばなければならないのか。それは保育の目的は子どもの「幸せ」を達成することにあるからです。このときに言われている「幸せ」とは具体的にどのようなことなのでしょう？福祉を学ぶとは幸せとは何かを学ぶことです。子どもの幸せを達成するためにどのような手立てが講じられているのかを学ぶのがこの講義の目的になります。
到達目標	保育者が子どもの幸せを実現するために存在していることを理解し、その実現のためにどのような取り組みがなされていて、どのような課題が生じているのかを述べるができるようになれば本講義の目標は達成されたこととなります。
授業の進め方	基本的に対面の講義形式で行うことを想定していますが、必要に応じて視聴覚資料を用いたり、グループに分かれた演習を行うことがあります。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義の最後に講義に対するコメントや質問を募ります。質問に対しては次の講義の冒頭で回答することを予定しています。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	子ども家庭福祉の歴史①【戦前日本の社会的養護の歴史】
第3回	子ども家庭福祉の歴史②【戦前日本の保育所の歴史】
第4回	子ども家庭福祉の歴史③【前後日本の児童福祉の歴史】
第5回	人口問題としての少子化問題
第6回	少子化問題と子育て支援サービス/子どもの健全育成
第7回	現代社会における保育問題①【調べ学習】
第8回	現代社会における保育問題②【プレゼンテーション】
第9回	障害と子ども・家族
第10回	社会的養護の動向
第11回	ひとり親家庭の福祉
第12回	非行少年の背景と支援
第13回	定期試験と解説

【具体的な内容】 事前学習としてはテレビや新聞などで子ども家庭福祉に関わる報道をチェックすると授業の理解が進みます。事後学習として配布プリント等を読み返してより	2025/04/01
---	------------

事前・事後学修

関心を深めるために各自で情報収集をすることを求めます。

【必要な時間】
それぞれ2～3時間程度

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の小レポート30% 調べ学習・プレゼンテーションへの取り組み20% 定期試験50%
テキスト	特になし
参考文献	講義中に適宜提示します。

年度	2025
講義名称	子ども家庭支援論[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80453
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	子ども家庭支援の意義や役割をはじめとして、子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、具体的に実践するための技術や方法について学修します。
到達目標	子ども家庭支援の意義や役割を説明することができ、それを実践するための具体的な方法や技術を使うことができることを目的とします。
授業の進め方	授業は講義形式で進めるが、内容によってグループワークなどを取り入れて行う。テキストだけに頼らず、北海道や札幌市の具体的な事例も取り入れながら学修を進める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業においてリアクションシートに感想や質問などを記入し提出。次回の講義の冒頭で質問に対する回答を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 子ども家庭支援とは
第2回	子ども家庭支援の意義と必要性
第3回	子ども家庭支援の目的と機能 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
第4回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
第5回	子どもの育ちの喜びの共有
第6回	保護者及び地域が有する子育て支援を自ら実践する力の向上に資する支援と保育士の態度 小テスト
第7回	家庭の状況に応じた支援
第8回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
第9回	子ども家庭支援の内容と対象
第10回	地域の子育て家庭への支援
第11回	子ども家庭支援に必要な理論のまとめ 小テスト
第12回	要保護児童及びその家庭に対する支援
第13回	子育て支援に関する課題と展望・履修カルテの記載 定期試験

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>毎回授業の単元について読んでくること。またホームページなどで居住地の子育て支援について調べておくこと。授業後にはノートに内容を整理すること。</p>
	<p>【必要な時間】</p> <p>毎回の授業の事前・事後の学習時間として、それぞれ2時間を目安とします。</p>

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>○小テスト 30%</p> <p>「子ども家庭支援の意義や役割を理解し、説明することができる」ことを評価基準とする。</p> <p>○授業内での取り組み 20%</p> <p>「子ども家庭支援の意義や役割を理解している」ことを評価基準とする。</p> <p>○定期試験 50%</p> <p>「子ども家庭支援について理解を深め、実践するための方法や技術を身に付ける」ことを評価基準とする。</p>
テキスト	松原康雄・村田典子・南野奈津子編集「子ども家庭支援論」2023 第2版 中央法規
参考文献	参考文献は必要に応じて周知します。 各自治体のHP（子育てに関するページ）

実務経験のある教員の有無

有り	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、子育て支援施策に携わっていた実務経験を持つ教員が担当し、分かりやすく実践的な講義を行う。
備考	「子育て支援」という科目の理論編となるものです。積極的な姿勢で臨み保育士としてのスキルを身につけてください。保育士資格取得における必修科目です。

年度	2025
講義名称	子育て支援[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80456
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「子ども家庭支援論」の学びを基礎として、子育て支援についてより深く学び、保護者からの相談に対応することができるようなスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">子育て支援は子どもの最善の利益に基づいて行うことを理解し、その必要性を説明することができる。保護者支援のために必要な知識と技術を獲得し、実践的な支援ができるようになる。
授業の進め方	授業は講義を中心として理論を学修する。実際の事例について、どのように理解し、支援を行うのがよいのかを実践形式で学習する。グループワークを行い、自分自身の考えだけではなく、他者の考え方を知り、支援の在り方について幅広い観点をもてるようにする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	リアクションシートで授業感想や質問等を集約し、共通する疑問点については、次回講義時に回答・解説をする。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	子育て支援とは何か 保育者の行う子育て支援の特性
第2回	子育て支援の展開 支援のための連携と協働
第3回	保育者に求められる子育て支援の基本 保育所等における子育て支援
第4回	地域の子育て家庭に対する支援 乳児をもつ保護者の支援
第5回	保護者の自己肯定感を下げない具体的支援 多様なニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援／気になる子どもや発達障がいのある子どもおよび家庭、特別な配慮を要する子どもおよび家庭等
第6回	児童虐待の予防と対応の実際 要保護児童等の家庭に対する支援
第7回	子育て支援を巡る今後の課題 最終試験

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】 授業前に学習範囲のテキストを読んでおくこと。</p> <p>【必要な時間】 事前・事後ともにそれぞれ2時間程度を目安とする。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>○毎回提出するワークシート 30%</p> <p>「子どもの最善の利益に基づいた支援が基本であることを理解する」「子育て支援の必要性について理解する」ことを評価基準とする。</p> <p>○グループワークや課題への取り組み 20%</p> <p>「保護者支援のために必要な知識と技術を実践的な学びを通して身に付ける」ことを評価基準とする。</p> <p>○最終試験 50%</p> <p>「保護者支援のために必要な知識と技術を身に付け、実践的な支援ができるようになる」ことを評価基準とする。</p>
テキスト	太田光洋編著 『子育て支援-保育者に求められる新たな専門的実践-』2022 同文書院
参考文献	<p>菊池篤子・金瑛珠編『ワークで学ぶ 子育て支援』2024 (株)みらい</p> <p>倉石哲也編集代表『人口減少時代に向けた 保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援』2023 中央法規</p> <p>「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館</p> <p>「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭・保育教諭の実務経験のある教員が、子育て支援に関わる知識・技術を活かして、子育て支援の意義や習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できるように学びをサポートします。
-----------------------	---

年度	2025
講義名称	子育て支援[幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80456
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「子ども家庭支援論」の学びを基礎として、子育て支援についてより深く学び、保護者からの相談に対応することができるようなスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">子育て支援は子どもの最善の利益に基づいて行うことを理解し、その必要性を説明することができる。保護者支援のために必要な知識と技術を獲得し、実践的な支援ができるようになる。
授業の進め方	授業は講義を中心として理論を学修する。実際の事例について、どのように理解し、支援を行うのがよいのかを実践形式で学習する。グループワークを行い、自分自身の考えだけではなく、他者の考え方を知り、支援の在り方について幅広い観点をもてるようにする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	リアクションシートで授業感想や質問等を集約し、共通する疑問点については、次回講義時に回答・解説をする。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	子育て支援とは何か 保育者の行う子育て支援の特性
第2回	子育て支援の展開 支援のための連携と協働
第3回	保育者に求められる子育て支援の基本 保育所等における子育て支援
第4回	地域の子育て家庭に対する支援 乳児をもつ保護者の支援
第5回	保護者の自己肯定感を下げない具体的支援 多様なニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援／気になる子どもや発達障がいのある子どもおよび家庭、特別な配慮を要する子どもおよび家庭等
第6回	児童虐待の予防と対応の実際 要保護児童等の家庭に対する支援
第7回	子育て支援を巡る今後の課題 最終試験

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】 授業前に学習範囲のテキストを読んでおくこと。</p> <p>【必要な時間】 事前・事後ともにそれぞれ2時間程度を目安とする。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>○毎回提出するワークシート 30%</p> <p>「子どもの最善の利益に基づいた支援が基本であることを理解する」「子育て支援の必要性について理解する」ことを評価基準とする。</p> <p>○グループワークや課題への取り組み 20%</p> <p>「保護者支援のために必要な知識と技術を実践的な学びを通して身に付ける」ことを評価基準とする。</p> <p>○最終試験 50%</p> <p>「保護者支援のために必要な知識と技術を身に付け、実践的な支援ができるようになる」ことを評価基準とする。</p>
テキスト	太田光洋編著 『子育て支援-保育者に求められる新たな専門的実践-』2022 同文書院
参考文献	<p>菊池篤子・金瑛珠編『ワークで学ぶ 子育て支援』2024 (株)みらい</p> <p>倉石哲也編集代表『人口減少時代に向けた 保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援』2023 中央法規</p> <p>「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館</p> <p>「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭・保育教諭の実務経験のある教員が、子育て支援に関わる知識・技術を活かして、子育て支援の意義や習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できるように学びをサポートします。
-----------------------	---

年度	2025
講義名称	子ども・家族と社会
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80457

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義は、現代社会における子ども・家族にかかわる諸問題について取り上げて、その全体像を把握するとともに、それぞれのトピックに関する現時点での最新の論争点について考えることを目的とする。
到達目標	家族のあり様は非常に多様であることを理解すること、支援の必要な家庭に対してどのようなかかわりができるかを考えることができる。
授業の進め方	視聴覚資料を用いながらテーマを設定し、4～5名程度のグループで学習する形式が多くなる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	例年履修者が少数であるため、講義中に必要に応じて質疑応答がなされる。
----------------------------	------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（この授業の進め方）
第2回	医療的ケア児を産み育てるということ
第3回	出生前診断に揺れる家族の現実
第4回	赤ちゃんポストから内密出産へ
第5回	出自を知る権利について～特別養子縁組の課題
第6回	児童発達支援センターの家族支援
第7回	夜間保育園の役割とは
第8回	貧困家庭の現実
第9回	障害ときょうだい児
第10回	非行少年の更正と大人の役割
第11回	8050問題と家族
第12回	家族は家族の死をどう見つめるのか～安楽死について
第13回	まとめ（これまでを振り返ってのグループディスカッションおよびレポート作成）

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。</p> <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間は、それぞれ2時間ずつが目安となる。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	提出物及びレポート 60% グループワーク発表会の内容 40%
テキスト	特になし
参考文献	講義中に適宜提示する。

年度	2025
講義名称	社会福祉
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80461

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義は、自分や家族の生活にはあまり関係がないと思っていた社会福祉の話が、実は普段の生活やこれからの人生に大きくかかわっていることを理解し、そのうえで保護者支援にかかわる専門職として本講義で学んだ知識を活かすことができるようになることを目的とする。そのためにテキストや視聴覚資料等を用いて具体的な事例を学び、自分の身近な出来事に引き付けて社会福祉の法制度を理解する。
到達目標	社会福祉の基本的な法制度を理解し、子育て支援の専門職として社会福祉の問題をとらえることができる。
授業の進め方	テキストを用いて講義形式で行うことを基本とするが、必要に応じて視聴覚資料も利用する。講義中にディスカッションやグループワーク、小レポートの提出を行う場合もある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義終盤に行う小レポートに対し、内容に応じて次回に応答する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	子どもと家族の福祉 妊娠出産にかかわる制度、児童虐待や子どもの貧困といった社会問題について学びます。
第3回	社会保障 社会保険制度が私たちの暮らしにどのように関係しているのかを学びます。
第4回	障害児・者福祉① 障害児者福祉の法制度がどのように整備され、どんな課題があるのかを学びます
第5回	障害児・者福祉② 障害者施設の実際の支援について学びます（外部講師）。
第6回	障害児・者福祉③ 社会問題としての障害者差別について学びます。
第7回	地域福祉 福祉事務所や社会福祉協議会、NPOやボランティアといった地域に根差した福祉事業体について学びます。
第8回	ソーシャルワーク 保育士として協働的な保育や保護者支援のあり方について学びます。
第9回	女性と社会福祉 DV問題の背景とその対策について学びます。
第10回	低所得者の福祉① 生活保護制度の現状と課題について学びます。

第11回	低所得者の福祉② ホームレス・生活困窮者支援の現状について学びます。
第12回	高齢者福祉 高齢者の生活課題や介護問題の現状について学びます。
第13回	期末試験 期末試験の実施、および解説を行います。

事前・事後 学修	【具体的な内容】 授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布又は提示された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。
	【必要な時間】 予習・復習は、それぞれ2～3時間程度が目安となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	到達目標に明示している社会福祉の法制度の内容や意義について問う期末試験を行う。また、グループワークを行った内容に対するレポートや各授業の終盤に本時の内容をまとめる小レポートを作成する時間を設けて評価の基準とする。 授業内試験50% レポート課題20% 毎時間後の小レポート30%
テキスト	『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田旬哉編著 萌文書林
参考文献	講義中に適宜提示する。

備考	NHK番組「ハートネットTV」は社会福祉にかかわる良質な情報を提供しているので視聴して授業に臨むと理解が進む。
----	---

年度	2025
講義名称	子ども家庭支援の心理学[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80471
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	子どもとその家庭を、発達の視点でとらえ、現代の子育て家庭の社会状況と課題について理解することを目的とする。家族・家庭の機能、子育て家庭の現状、課題について学ぶ。また、子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。
到達目標	生涯発達を踏まえ、親子関係、家族を発達的な視点で理解する。また、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題の理解、子どもの精神保健とその課題を理解する。
授業の進め方	講義形式で行うが、グループワークなどを取り入れ、ワークシートの作成など能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説を行う。
----------------------------	--------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	乳児期の発達と幼児期の発達 乳児期の発達と幼児期の発達について講義する。
第2回	学童期の発達と青年期の発達 学童期の発達と青年期の発達を講義する。
第3回	青年期の発達 青年期の発達について講義する。
第4回	成人期・中年期の発達と高齢期の発達 生涯発達という視点から成人期・中年期、高齢期の発達について講義する。
第5回	家族・家庭の意義と機能 戦後から現代までの家族・家庭の意義と機能の変化について講義する。
第6回	家族関係・親子関係の理解 家族関係と親子関係が戦後から現代までどのような変化をしてきたか、その中で何が問題なのかということを講義する。
第7回	子育て経験と親としての育ち 子育て経験は、親の育ちとしてどのように寄与しているのかを講義する。
第8回	子育てを取り巻く社会状況 子育てを取り巻く社会状況の変化とその影響が子どもにどのように影響するのかを講義する。
第9回	ライフコースと仕事・子育て 女性と男性のライフコースの変化や子育ての変化を講義する。
第10回	多様な家庭とその理解、授業内レポート 現代社会における多様な家庭があることや多様な家庭に影響される子どもについて講義する。授業内でレポート作成する

第11回	特別な配慮を要する家庭 特別配慮が必要な家庭はどのような家庭でどのような配慮が必要なのかということについて講義する。
第12回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの生活・生育環境が子どもの心身の発達にどのような影響を及ぼすのかについて講義する。
第13回	子どものこころの健康にかかわる問題 授業内テスト 子どもの心の健康に家庭がどのように影響するのかについて講義する。

事前・事後学修	事前・事後学修については、各5時間程度が必要である。具体的な内容としては、事前は教科書の予習、事後は講義の復習が必要である。
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	コミュニケーションシート20% 中間レポート30% 授業内試験50%
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」新基本シリーズ9 編 白川佳子、福丸由佳 中央法
参考文献	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
-------------------------------	--

年度	2025
講義名称	教育課程総論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80551

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	学習指導要領・幼稚園教育要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。
到達目標	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。 教育課程編成の基本原則を理解している。 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。
授業の進め方	【講義方法】 講義形式を中心に、適宜グループワークをおこなう。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中提示された質問等については、講義内で回答し、問題意識の共有を図る。 授業内課題についても、返却の際に解説を加える。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	教育課程とはなにか① 幼稚園教育要領
第2回	教育課程とはなにか② 教育課程の役割と機能
第3回	幼稚園教育要領の歴史① 保育要領
第4回	幼稚園教育要領の歴史② 幼稚園教育要領の制定
第5回	幼稚園教育要領の歴史③ 保育所保育指針
第6回	幼稚園教育要領の歴史④ 五領域と教科化
第7回	幼稚園教育要領の歴史⑤ 現行教育要領
第8回	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
第9回	現行幼稚園教育要領の特色
第10回	教育課程の編成① 基本的な考え方
第11回	教育課程の編成② 地域の特色を活かした教育課程
第12回	小テスト カリキュラム・マネジメント

第13回	まとめと最終試験、履修カルテの記入
------	-------------------

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>2回目以降は次回の予告をするため、『幼稚園教育要領解説』等の該当する箇所を読んでおくこと。 新聞、ニュースなどを日頃からみて、社会でどのようなことが問題とされているのかを把握しておくこと。 実習経験を思い返し、実習園の教育課程について考えておくこと。</p> <p>【必要な時間】</p> <p>復習に重さを置く。1時間程度の予習と3時間程度の復習を必要とする。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>小レポート・グループワーク提出物…40%</p> <p>12回目におこなう小テスト…20%</p> <p>最終試験…40%</p>
テキスト	<p>『幼稚園教育要領解説』：毎回持参すること</p> <p>『保育所保育指針解説』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
参考文献	<p>民秋言編集代表『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林</p>

年度	2025
講義名称	子どもの健康と安全[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80561
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場において、子どもの健康と安全を守るために、保育の専門職として必要な知識と技術の習得を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none">1. 子どもが安全で健康に生活できる保育環境や援助について説明できる。2. 保育の場における感染症の予防対策が説明できる。3. 保育の場におけるアレルギー対応が説明できる。4. 子どもの体調不良時の対応が説明できる。5. 保育における保健的対応の考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に適した対応について考えることができる。6. 保育における衛生管理、事故防止と安全対策、危機管理、災害対策について説明できる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none">・保育士や幼稚園教諭に必要な基礎知識を各テーマにて講義・演習形式で行う。・現場で起こる（起きた）具体的な事例をもとに、内容によってはデモンストレーション等も取り入れ展開していく。・「より良い保育を自ら考え、創意工夫する力」を育むため、学生が主体的に学べる演習課題やグループワークを取り入れ、実践的に学びを深める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・口頭発表には、その場で助言する。・講義内容の振り返りや課題については授業内で解説する
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	保健的観点を踏まえた保育環境と援助 ・子どもの健康と保育環境 ・子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
第2回	保育における健康と安全の管理 ・衛生管理 ・事故防止と安全対策 ・危機管理 ・災害への備え
第3回	子どもの体調不良等に対する適切な対応 ・体調不良や傷害が発生した場合の対応 ・応急処置 ・救急処置及び救急蘇生法
第4回	感染症対策 ・感染症の集団発生の予防 ・感染症発生時と罹患後の対応

第5回	<p>保育における保健的対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における保健的対応の基本的考え方 ・3歳未満児への対応 ・個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 ・障害のある子どもへの対応
第6回	<p>健康及び安全管理の実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携・協働と組織的取り組み ・保育における保健活動の計画及び評価 ・母子保健・地域保健における自治体との連携 ・家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携
第7回	<p>これからの「子どもの健康と安全」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末テストとその解説

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修(2時間) 幼稚園、保育園実習に行ってみて健康と安全について困ったこと、疑問に思ったこと、学びを深めてみたいと思うことをまとめておく。 次回の講義内容についてテキストをよく読み、質問などをまとめておく。 ・事後学修(2時間) 授業内容を必ず復習し、重要なポイントをまとめておく。 現場の状況を、頭の中でシミュレーションしながら自分なりの事故対応マニュアルを描き、自身の資質を高めていく。 就職に向け、実際に保育や健康・安全・危機管理を進められるよう準備の意識をもつようにする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場における事故や安全管理の知識や対応の理解について以下で評価する。 小テスト・小レポート（35%） 期末テスト（35%） ・演習や実技などの授業における取り組みや意欲態度について以下で評価する。 口頭発表・課題（振り返りも含む）の提出（30%）
テキスト	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と安全 監修：公益財団法人 児童育成協会 中央法規 ・これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」 創成社
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所における感染症対策ガイドライン 厚生労働省 ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン 厚生労働省 ・保育所における食事の提供ガイドライン 厚生労働省 ・教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン 厚生労働省 ・保育の安全と管理 同文書院

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	認定こども園園長の実務経験をもとに、現場での健康管理や安全管理の事例を示し具体的に講義する。
備考	日ごろから、ニュース・新聞などで「子どもの健康」や「保育の事故や安全」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」「どう行動するか」などの意見を持つように心掛けてください。

年度	2025
講義名称	子どもの健康と安全[幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80561
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場において、子どもの健康と安全を守るために、保育の専門職として必要な知識と技術の習得を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none">1. 子どもが安全で健康に生活できる保育環境や援助について説明できる。2. 保育の場における感染症の予防対策が説明できる。3. 保育の場におけるアレルギー対応が説明できる。4. 子どもの体調不良時の対応が説明できる。5. 保育における保健的対応の考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に適した対応について考えることができる。6. 保育における衛生管理、事故防止と安全対策、危機管理、災害対策について説明できる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none">・保育士や幼稚園教諭に必要な基礎知識を各テーマにて講義・演習形式で行う。・現場で起こる（起きた）具体的な事例をもとに、内容によってはデモンストレーション等も取り入れ展開していく。・「より良い保育を自ら考え、創意工夫する力」を育むため、学生が主体的に学べる演習課題やグループワークを取り入れ、実践的に学びを深める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・口頭発表には、その場で助言する。・講義内容の振り返りや課題については授業内で解説する
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	保健的観点を踏まえた保育環境と援助 ・子どもの健康と保育環境 ・子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
第2回	保育における健康と安全の管理 ・衛生管理 ・事故防止と安全対策 ・危機管理 ・災害への備え
第3回	子どもの体調不良等に対する適切な対応 ・体調不良や傷害が発生した場合の対応 ・応急処置 ・救急処置及び救急蘇生法
第4回	感染症対策 ・感染症の集団発生の予防 ・感染症発生時と罹患後の対応

第5回	<p>保育における保健的対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における保健的対応の基本的考え方 ・3歳未満児への対応 ・個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 ・障害のある子どもへの対応
第6回	<p>健康及び安全管理の実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携・協働と組織的取り組み ・保育における保健活動の計画及び評価 ・母子保健・地域保健における自治体との連携 ・家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携
第7回	<p>これからの「子どもの健康と安全」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末テストとその解説

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修(2時間) 幼稚園、保育園実習に行ってみて健康と安全について困ったこと、疑問に思ったこと、学びを深めてみたいと思うことをまとめておく。 次回の講義内容についてテキストをよく読み、質問などをまとめておく。 ・事後学修(2時間) 授業内容を必ず復習し、重要なポイントをまとめておく。 現場の状況を、頭の中でシミュレーションしながら自分なりの事故対応マニュアルを描き、自身の資質を高めていく。 就職に向け、実際に保育や健康・安全・危機管理を進められるよう準備の意識をもつようにする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場における事故や安全管理の知識や対応の理解について以下で評価する。 小テスト・小レポート（35%） 期末テスト（35%） ・演習や実技などの授業における取り組みや意欲態度について以下で評価する。 口頭発表・課題（振り返りも含む）の提出（30%）
テキスト	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と安全 監修：公益財団法人 児童育成協会 中央法規 ・これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」 創成社
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所における感染症対策ガイドライン 厚生労働省 ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン 厚生労働省 ・保育所における食事の提供ガイドライン 厚生労働省 ・教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン 厚生労働省 ・保育の安全と管理 同文書院

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	認定こども園園長の実務経験をもとに、現場での健康管理や安全管理の事例を示し具体的に講義する。
備考	日ごろから、ニュース・新聞などで「子どもの健康」や「保育の事故や安全」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」「どう行動するか」などの意見を持つように心掛けてください。

年度	2025
講義名称	保育・教職実践演習（幼稚園）[幼教]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80571
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科
小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では、これまで学修してきた実習を含む全ての科目を通して、幼児理解のための理論及び方法が形成されてきたかを振り返ります。それらを踏まえ、保育者になる上での自己課題を明確化し、改善に取り組む中で、保育者に必要な資質・能力を高めます。
到達目標	幼稚園、保育所、認定こども園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び、過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。
授業の進め方	グループワークやディスカッション、模擬保育等の演習を中心にしながら、記録からの省察や課題分析等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して他者の考えや学びを知り、自分の考えや学びにつなげていくことを目指します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（履修カルテから自己課題を設定）
第2回	自己課題の設定① 幼稚園実習の振り返り
第3回	自己課題の設定② 自己課題の設定（教員を目指すものとして）Ⅰ
第4回	自己課題の設定③ 自己課題の設定（教員を目指すものとして）Ⅱ
第5回	模擬保育に向けての準備① 望ましい教員のあり方を考察（グループ分け）
第6回	模擬保育に向けての準備② 環境（物的環境・人的環境）（個人案作成）
第7回	模擬保育に向けての準備③ 子どもの理解と保育内容を踏まえた指導案作成（グループ案作成）
第8回	模擬保育に向けての準備④ 子どもの発達を保育内容を踏まえた指導案作成（グループ案作成・保育準備）
第9回	模擬保育に向けての準備⑤ 個と集団の発達と保育内容を踏まえた指導案作成（リハーサル）
第10回	模擬保育（保育実践）① 保育方法の展開・発展
第11回	模擬保育（保育実践）② 保育方法の展開・発展
第12回	模擬保育の振り返り 保育方法の実践への反省・評価・改善・計画
第13回	自己の学びの振り返り（まとめ）・履修カルテ

【事前学修】 ・子どもの発達過程の特徴と保育のポイントなどを予習しノートにまとめる。	2025/04/01
---	------------

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学修や実習を通して明確になった自己課題をノートにまとめておく。自己課題の設定や指導案作成時に課題を出題する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめる。 <p>【必要な時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修、事後学修の時間はそれぞれ2～3時間、合計5時間程度を目安とする。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物、レポート、発表：70% 「幼児の発達や学び、過程で生じるつまずき、その要因を把握する」こと及び「そのための原理や対応の方法を考える」ことを提出物、レポート、発表の評価基準とする。 ・まとめのレポート：30% 「到達目標」に明示してある「原理や対応方法」を考え、論述できることをまとめのレポートの評価基準とする。
参考文献	<p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>本講義は幼稚園教諭や学校教員として実務経験のある教員が、保育・教育の計画・実践に関わる視点・知識・技術を活かして、指導方法や振り返りを通して自己課題を改善する方法を身に付けられる内容を行います。</p>
--------------------------	--

年度	2025
講義名称	保育プロジェクト演習[林(二)]
講義開講時期	通年
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	自らの興味・関心に基づき、保育者として必要な基礎知識をさらに深めていく授業となる。 指導教員の専門分野に基づいたテーマを選択し、学生が決めたテーマをもとに具体的な学習課題を設定し、専門的な知識や学びを深めながら実践していく。 学生が積極的に意見を出し合い、活発なコミュニケーションのもとで進められていく授業となる。
到達目標	・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになる。 ・保育者の専門性の幅を広げる
授業の進め方	・各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 ・春学期での保育プロジェクト演習での学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の目標を設定し、学習を積み上げ、必要に応じてフィールドワークや調査、実技の発表等を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習 4
第8回	専門学習の振り返り：中間レポート
第9回	フィールドワーク 1 （実践 1）
第10回	フィールドワーク 2 （実践 2）
第11回	調査のまとめ（資料のまとめ）（実践 3）
第12回	調査のまとめ（活動のまとめ）（実践 4）
第13回	ディスカッション（発表） 授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。	2025/04/01
---------	---	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになることについて以下で評価する。 中間レポート（40％）：課題の設定、調査、実践の進行状況の報告などを評価する 期末レポート（40％）：課題への取り組みをまとめた報告などのレポートや発表を評価する・保育者としての専門性の幅を広げるとともに、他者と協働する経験から学びを深めることについて以下で評価する。 提出物・振り返りシート（20％）：各授業での理解度、取り組みや態度などを評価する
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2025
講義名称	保育プロジェクト演習[伊藤]
講義開講時期	通年
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	自らの興味・関心に基づき、保育者として必要な基礎知識をさらに深めていく授業となる。 指導教員の専門分野に基づいたテーマを選択し、学生が決めたテーマをもとに具体的な学習課題を設定し、専門的な知識や学びを深めながら実践していく。 学生が積極的に意見を出し合い、活発なコミュニケーションのもとで進められていく授業となる。
到達目標	・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになる。 ・保育者の専門性の幅を広げる
授業の進め方	・各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 ・春学期での保育プロジェクト演習での学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の目標を設定し、学習を積み上げ、必要に応じてフィールドワークや調査、実技の発表等を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習 4
第8回	専門学習の振り返り：中間レポート
第9回	フィールドワーク 1 （実践 1）
第10回	フィールドワーク 2 （実践 2）
第11回	調査のまとめ（資料のまとめ）（実践 3）
第12回	調査のまとめ（活動のまとめ）（実践 4）
第13回	ディスカッション（発表） 授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。	2025/04/01
---------	---	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになることについて以下で評価する。 中間レポート（40％）：課題の設定、調査、実践の進行状況の報告などを評価する 期末レポート（40％）：課題への取り組みをまとめた報告などのレポートや発表を評価する・保育者としての専門性の幅を広げるとともに、他者と協働する経験から学びを深めることについて以下で評価する。 提出物・振り返りシート（20％）：各授業での理解度、取り組みや態度などを評価する
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2025
講義名称	保育プロジェクト演習[小岩]
講義開講時期	通年
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	自らの興味・関心に基づき、保育者として必要な基礎知識をさらに深めていく授業となる。 指導教員の専門分野に基づいたテーマを選択し、学生が決めたテーマをもとに具体的な学習課題を設定し、専門的な知識や学びを深めながら実践していく。 学生が積極的に意見を出し合い、活発なコミュニケーションのもとで進められていく授業となる。
到達目標	・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになる。 ・保育者の専門性の幅を広げる
授業の進め方	・各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 ・春学期での保育プロジェクト演習での学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の目標を設定し、学習を積み上げ、必要に応じてフィールドワークや調査、実技の発表等を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習 4
第8回	専門学習の振り返り：中間レポート
第9回	フィールドワーク 1 （実践 1）
第10回	フィールドワーク 2 （実践 2）
第11回	調査のまとめ（資料のまとめ）（実践 3）
第12回	調査のまとめ（活動のまとめ）（実践 4）
第13回	ディスカッション（発表） 授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。	2025/04/01
---------	---	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになることについて以下で評価する。 中間レポート（40％）：課題の設定、調査、実践の進行状況の報告などを評価する 期末レポート（40％）：課題への取り組みをまとめた報告などのレポートや発表を評価する・保育者としての専門性の幅を広げるとともに、他者と協働する経験から学びを深めることについて以下で評価する。 提出物・振り返りシート（20％）：各授業での理解度、取り組みや態度などを評価する
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2025
講義名称	保育プロジェクト演習[田村]
講義開講時期	通年
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	自らの興味・関心に基づき、保育者として必要な基礎知識をさらに深めていく授業となる。 指導教員の専門分野に基づいたテーマを選択し、学生が決めたテーマをもとに具体的な学習課題を設定し、専門的な知識や学びを深めながら実践していく。 学生が積極的に意見を出し合い、活発なコミュニケーションのもとで進められていく授業となる。
到達目標	・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになる。 ・保育者の専門性の幅を広げる
授業の進め方	・各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 ・春学期での保育プロジェクト演習での学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の目標を設定し、学習を積み上げ、必要に応じてフィールドワークや調査、実技の発表等を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習 4
第8回	専門学習の振り返り：中間レポート
第9回	フィールドワーク 1 （実践 1）
第10回	フィールドワーク 2 （実践 2）
第11回	調査のまとめ（資料のまとめ）（実践 3）
第12回	調査のまとめ（活動のまとめ）（実践 4）
第13回	ディスカッション（発表） 授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。	2025/04/01
---------	---	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・学生自身が課題を設定し、調べ、実践し、省察することができるようになることについて以下で評価する。 中間レポート（40％）：課題の設定、調査、実践の進行状況の報告などを評価する 期末レポート（40％）：課題への取り組みをまとめた報告などのレポートや発表を評価する・保育者としての専門性の幅を広げるとともに、他者と協働する経験から学びを深めることについて以下で評価する。 提出物・振り返りシート（20％）：各授業での理解度、取り組みや態度などを評価する
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2025
講義名称	幼稚園実習（基礎）
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81091
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では付属認定こども園での実習を通して、保育者としての在り方や子どものかかわり方について課題意識を持って取り組み、保育者に求められる態度・姿勢、資質・能力について知ることを目的とします。
到達目標	・子どもとかかわることへの関心や意欲をもつことができる。 ・仲間と意見交換したり、協働で作業したりすることを大切にする態度を身につけることができる。
授業の進め方	付属認定こども園での実習と、学内研修をローテーションで行います。学内研修では保育技術や指導案作成等のグループワーク、また、弾き歌いや模擬保育等の演習、発表を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークや演習、発表等を通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・授業計画と学内研修説明、個人票・日誌などの配布
第2回	学内研修（名札作成）①
第3回	学内研修（名札作成）②
第4回	学内研修(手遊び)①
第5回	学内研修(弾き歌い)①
第6回	学内研修(日誌の書き方)①
第7回	学内研修(読み聞かせ)①
第8回	学内研修(制作)①
第9回	学内研修(手遊び・指導案のローテーション)①
第10回	学内研修(弾き歌い・制作のローテーション)①
第11回	学内研修(手遊び・指導案のローテーション)②
第12回	学内研修(弾き歌い・制作のローテーション)②
第13回	付属認定こども園実習事前指導
第14回	付属認定こども園実習①(観察実習)
第15回	学内研修(読み聞かせ・指導案のローテーション)①

第16回	学内研修(弾き歌い・制作のローテーション)③
第17回	付属認定こども園実習②(参加実習)
第18回	学内研修(読み聞かせ・指導案のローテーション)②
第19回	学内研修(弾き歌い・制作のローテーション)④
第20回	学内研修(保育準備・部分実習リハーサルのローテーション)①
第21回	付属認定こども園実習③(参加・部分実習)
第22回	学内研修(保育準備・部分実習リハーサルのローテーション)②
第23回	付属認定こども園実習④(参加・部分実習)
第24回	付属認定こども園実習⑤(発表会観察)
第25回	付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答
第26回	振り返りとまとめ

事前・事後 学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>『幼稚園実習(基礎)付属認定こども園実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。実習目標の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。</p> <p>また、学内研修の内容を振り返り、付属認定こども園での実習に向けて知識・技能の向上を目指して復習に取り組んでください。</p> <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。</p>
-------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・付属認定こども園の実習評価（日誌を含む）30%「子どもとかわるこへの関心や意欲をもつことができる」ことを実習評価の評価基準とする。 ・学内研修(各活動)における提出物・発表等 70%「仲間と意見交換したり、協働で作業したりすることを大切にできる態度が身につく」ことを提出物・発表の評価基準とする。
テキスト	『幼稚園実習（基礎）付属認定こども園実習ハンドブック』 『実習ハンドブック』
参考文献	『こどものうた200』（チャイルド社）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経 歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭・認定こども園保育教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。
-----------------------	--

年度	2025
講義名称	子どもの音楽(基礎)[①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81182
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と表現を知り、これらを自ら学び続けるための方法を身につけることを目指します。
到達目標	①子どもの発達を踏まえた音楽表現のための基礎的な知識について理解している。 ②子どもの音楽表現の支援に必要な基礎的な音楽知識について理解している。 ③子どもの音楽表現に必要なピアノの使い方や歌唱についての基本的な技術が身についている。 ④保育に必要なピアノや歌唱の技能を向上させるための基本的な方法が身についている。
授業の進め方	毎回の冒頭20分程度を使い、「スキルアップ（発声、読譜、リズム等）」をおこないます。 歌唱、ピアノ演奏法について、基礎から丁寧に進めていきます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次回の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／音と音楽の基礎について
第2回	音と音楽の基礎について～楽譜の読み方などの基本
第3回	コードの仕組み
第4回	楽しく弾き歌いをしよう
第5回	声の重要性について
第6回	子どもの発達と音楽
第7回	子どものうたの表現
第8回	子どもに聴かせるうた（グループワーク）
第9回	高い声と低い声、どう出すか
第10回	ピアノを聴きながら歌おう
第11回	わらべうた、うたあそび
第12回	豊かな表現を目指そう
第13回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	授業内で扱った課題について、演奏や演習の復習が必要です。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、 ピアノと同様に、技術を身につけるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。	2025/04/01
---------	--	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・実技試験 50%（授業内で扱った曲について、到達目標①②③④を評価基準とする）・レポート 20%（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする）・毎時の取り組み 30%（課題への取り組みについて、到達目標③④を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none">・こどものうた200（チャイルド本社） ※複数科目共用・ゆびトレ（本学オリジナル教材）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	ピアニスト、演奏家としての実務経験（演奏活動）や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	子どもの音楽(基礎)[②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81182
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と表現を知り、これらを自ら学び続けるための方法を身につけることを目指します。
到達目標	①子どもの発達を踏まえた音楽表現のための基礎的な知識について理解している。 ②子どもの音楽表現の支援に必要な基礎的な音楽知識について理解している。 ③子どもの音楽表現に必要なピアノの使い方や歌唱についての基本的な技術が身についている。 ④保育に必要なピアノや歌唱の技能を向上させるための基本的な方法が身についている。
授業の進め方	毎回の冒頭20分程度を使い、「スキルアップ（発声、読譜、リズム等）」をおこないます。 歌唱、ピアノ演奏法について、基礎から丁寧に進めていきます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次回の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／音と音楽の基礎について
第2回	音と音楽の基礎について～楽譜の読み方などの基本
第3回	コードの仕組み
第4回	楽しく弾き歌いをしよう
第5回	声の重要性について
第6回	子どもの発達と音楽
第7回	子どものうたの表現
第8回	子どもに聴かせるうた（グループワーク）
第9回	高い声と低い声、どう出すか
第10回	ピアノを聴きながら歌おう
第11回	わらべうた、うたあそび
第12回	豊かな表現を目指そう
第13回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	授業内で扱った課題について、演奏や演習の復習が必要です。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、 ピアノと同様に、技術を身につけるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。	2025/04/01
---------	--	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・実技試験 50%（授業内で扱った曲について、到達目標①②③④を評価基準とする）・レポート 20%（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする）・毎時の取り組み 30%（課題への取り組みについて、到達目標③④を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none">・こどものうた200（チャイルド本社） ※複数科目共用・ゆびトレ（本学オリジナル教材）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	ピアニスト、演奏家としての実務経験（演奏活動）や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	子どもの音楽(基礎)[未修得]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81182
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と表現を知り、これらを自ら学び続けるための方法を身につけることを目指します。
到達目標	①子どもの発達を踏まえた音楽表現のための基礎的な知識について理解している。 ②子どもの音楽表現の支援に必要な基礎的な音楽知識について理解している。 ③子どもの音楽表現に必要なピアノの使い方や歌唱についての基本的な技術が身についている。 ④保育に必要なピアノや歌唱の技能を向上させるための基本的な方法が身についている。
授業の進め方	毎回の冒頭20分程度を使い、「スキルアップ（発声、読譜、リズム等）」をおこないます。 歌唱、ピアノ演奏法について、基礎から丁寧に進めていきます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次回の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／音と音楽の基礎について
第2回	音と音楽の基礎について～楽譜の読み方などの基本
第3回	コードの仕組み
第4回	楽しく弾き歌いをしよう
第5回	声の重要性について
第6回	子どもの発達と音楽
第7回	子どものうたの表現
第8回	子どもに聴かせるうた（グループワーク）
第9回	高い声と低い声、どう出すか
第10回	ピアノを聴きながら歌おう
第11回	わらべうた、うたあそび
第12回	豊かな表現を目指そう
第13回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	授業内で扱った課題について、演奏や演習の復習が必要です。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、 ピアノと同様に、技術を身につけるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。	2025/04/01
---------	--	------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・実技試験 50%（授業内で扱った曲について、到達目標①②③④を評価基準とする）・レポート 20%（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする）・毎時の取り組み 30%（課題への取り組みについて、到達目標③④を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none">・こどものうた200（チャイルド本社） ※複数科目共用・ゆびトレ（本学オリジナル教材）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	ピアニスト、演奏家としての実務経験（演奏活動）や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	体育実技（基礎）[幼教]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81184
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	様々な運動や運動遊びを通じて、体を動かす楽しさを体験し、幼児期の身体活動や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。 また、実技を通して保育者として求められる基礎体力や運動能力、運動の基礎知識を身につけるとともに、生涯にわたる健康づくりの資質や能力を育むことを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。・自らの健康づくりに必要な知識や態度を学び、行動できるようにする。・乳幼児期の運動の発達を理解し、運動遊びの基礎知識や指導技術を学ぶ。・チームプレイやグループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none">・実技を中心に理論を交えて演習を行う。・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 授業の進め方 ・アイスブレイク
第2回	乳児期の運動発達と遊び ・0歳から2歳の動きの発達過程を体験し理解する ・微細運動、粗大運動 ・感触・感覚遊び
第3回	3歳児の動きの発達と運動遊び ・移動遊び ・まねっこ遊び
第4回	4歳児の動きの発達と運動遊び ・移動遊び ・体幹・バランス遊び
第5回	5歳児の動きの発達と運動遊び ・移動遊び ・操作遊び
第6回	様々な運動遊び① ・集団ゲーム
第7回	様々な運動遊び② ・道具使った遊び

事前・事後学修	【事前学修】 （2時間） ・基礎体力の向上を意識し、日常生活の中で体を動かすこと（階段での移動、徒歩での移動など）や、運動やスポーツすることを心がける。 ・日頃より生活習慣を意識し、食事・睡眠などをしっかり取り体調管理を心がけ授業に参加する。
	【事後学修】 （2時間） ・授業で学んだストレッチ、動きや技術など復習する。 ・授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す」 ・「自らの健康づくりに必要な知識や態度を学び、行動できるようにする」 ・「グループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める」 ことについて、授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナーなどから評価する（40%） ・「乳幼児期の運動の発達を理解し、運動遊びの基礎知識や指導技術を学ぶ」 ことについて、振り返りシートや提出物による指導技術の読み取りなどから評価する（30%） ・「授業全体を通じた総合的な学び」について、期末レポート課題から評価する（20%）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ACPガイドブック（日本スポーツ協会） ・幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省） ・小学校学習指導要領・体育編（文部科学省）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼児の体育指導や親子体操教室の講師、NPO法人にて知的・発達障害児の運動訓練教室を主宰、地域活動における子どもの健康づくりの講師、認定こども園園長等の実務経験をもとに、保育現場における具体的な子どもの姿について解説し、幼児期の身体活動や遊びを豊かに展開するための知識や技術を実践的に学ぶ。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。 ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。 ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。 ・幼児や児童と関わる場所（教室やボランティアなど）に積極的に参加し、子どもと触れ合う体験をしてください。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[A][伊藤]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[A][小杉]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小杉 恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[A][佐々木]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 沙織	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第6回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第7回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第8回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第9回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第10回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第11回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第12回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第13回	<p>以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。</p> <p>①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現</p>
第14回	<p>期末試験</p>

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[A][竹田]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 有希	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[A][長谷部]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 長谷部 祥子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[A][二口]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 二口 英恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[B][伊藤]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[B][小杉]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小杉 恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[B][佐々木]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 沙織	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[B][竹田]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 有希	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[B][長谷部]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 長谷部 祥子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[B][二口]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 二口 英恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[未修得A]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅰ[未修得B]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81185
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育現場に必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。 楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／グループ分け
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現

第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①読譜（拍子、リズム、ト音譜表、ヘ音譜表） ②和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ③こどものうたの弾き歌い ④初見視奏、伴奏付け ⑤ピアノ曲の演奏表現
第14回	期末試験

事前・事後学修

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50% (レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う) ・実技試験② 20% (初見視奏、伴奏付けの演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う) ・毎時の課題 30% (毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本 (教育芸術社)』 ・『こどものうた200 (チャイルド本社)』 ・『ゆびトレ (本学オリジナル教材)』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験 (演奏活動) と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	乳児保育Ⅰ〔幼教〕
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81261

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 由子	短大・幼児教育保育学科

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

授業計画表

回	授業内容
第1回	テキスト 第1章 乳児保育の基礎 第6章 乳児保育の一日 ・ガイダンス、乳児保育の目的と意義について学びます。 ・乳児が保育所で1日をどう過ごしているのか、また入所までの手続きについて話します。
第2回	テキスト 第2章 乳児保育の現状 ・制度で制定されている乳児保育の位置づけを学びます。 ・歴史の変遷から見える乳児保育の変化と乳児保育を取り巻く環境を歴史的背景について話します。
第3回	テキスト 第3章 3歳未満児の保育・発達をふまえた保育 0歳児の発育・発達をふまえ、適切な保育者の関わりについて学びます。
第4回	テキスト 第3章 3歳未満児の保育・発達をふまえた保育 ・0歳児の生活と遊びの環境について考えます。 ・安全に配慮した室内環境についても話します。
第5回	テキスト 第3章 3歳未満児の保育・発達をふまえた保育 1歳児の発達をふまえ、適切な保育者の関わりについて学びます。
第6回	テキスト 第3章 3歳未満児の保育・発達をふまえた保育 ・1歳児の生活と遊びの環境について考えます。 ・安全に配慮した室内環境についても話します。
第7回	テキスト 第3章 3歳未満児の保育・発達をふまえた保育 2歳児の発達をふまえ、適切な保育者の関わりについて学びます。
第8回	テキスト 第3章 3歳未満児の保育・発達をふまえた保育 ・2歳児の生活と遊びの環境について考えます。 ・安全に配慮した室内環境についても話します。
第9回	テキスト 第3章 3歳未満児の保育・発達をふまえた保育 ・3歳以上児の保育に移行する時期の配慮について学びます。 ・自己肯定感を高める関わり方について考えます。

第10回	<p>テキスト</p> <p>第9章 乳児保育における配慮の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども特有の病気の特徴や、配慮すべき事項について考えます。薬の預かりが増えてきています。間違いを起こさないためにも基本的な知識を学びます。 ・集団で生活するためには、安全に対する配慮も必要です。併せて危機管理についても考えます。
第11回	<p>テキスト</p> <p>第4章 乳児保育における計画・記録・評価とその意義</p> <p>乳児保育における計画・記録・評価とその意義について考えます。</p>
第12回	<p>テキスト</p> <p>第5章 乳児保育における連携・協働</p> <p>職員間の連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ごろ保育園内での連携を密にすることで、保育者は安心して保育ができます。職員間の連携について考えます。 ・保護者との連携・自治体の関係機関や地域との連携の必要性について考えます。
第13回	授業内試験と解説

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	特別支援教育・保育(基礎)[①/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81263
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	特別支援教育・保育に関する知見と今日的な課題を知り、特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の理解と実践、具体的な支援方法について学び、基礎的な理解を深め、保育における合理的配慮や支援の在り方について学ぶ。
到達目標	1.特別支援教育・保育に関する制度の理解や仕組みを理解している。 2.特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、援助・支援の具体的な方法について述べる ことができる。 3.家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明ができる。 4.特別支援教育・保育に関する現状と課題について述べる ことができる。
授業の進め方	講義を基本とし、必要に応じて視聴覚教材で理解を深め、グループワーク等で能動的な学習を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは授業内で行い、場合に応じて次回授業にて補足や情報共有を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション ・「障害」とは何か ・「障害」の概念（1）ICFの概念枠組み
第2回	・「障害」の概念（2）インクルーシブ教育システムと合理的配慮 ・「特別支援」を必要とする子どもたち
第3回	・発達障害の理解と支援 ・知的障害の理解と支援
第4回	・言語障害の理解と支援 ・聴覚障害の理解と支援
第5回	・肢体不自由の理解と支援 ・視覚障害の理解と支援
第6回	・重症心身障害・重複障害の理解と支援 ・病弱の理解と支援
第7回	・小学校との接続 発達を目指した様々な連携（地域、専門職） ・まとめ ・履修カルテの記入
第8回	・期末試験

【具体的な内容】	2025/04/01
----------	------------

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害」に関する現状について情報収集を行い、特別支援教育・保育に関連付けながら学習を深めること。 ・授業内で用いた資料を復習し、疑問点がある際には情報収集や次の授業で質問をする等をして疑問を残さないようにすること。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間は各1時間以上を目安とする。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>中間レポート：30%</p> <p>期末試験：50%</p> <p>提出物：20%</p> <p>「到達目標」に明示している『特別支援教育・保育に関する制度の理解や仕組みを理解している』『特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、援助・支援の具体的な方法について述べることができる』『家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明ができる』『特別支援教育・保育に関する現状と課題について述べるができる』から、特別支援教育・保育に関する基本的な知識の習得や援助・支援の具体的な方法及び家庭や関係機関との連携・協働に関する理解を踏まえ、特別支援教育・保育の現状と課題について論述することができることを中間レポート・期末試験・提出物の評価基準とする。</p>
テキスト	『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』小林徹・栗林宣夫編 みらい
参考文献	講義中に適宜提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場における幼稚園教諭・特別支援コーディネーター補佐の実務経験を有する教員により、特別支援教育・保育に関する基本的知識と保育現場における実践を関連づけて説明する。
備考	必要に応じてスマートフォン・タブレット・パソコンを使用するため、持参すること。

年度	2025
講義名称	特別支援教育・保育(基礎)[②/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81263
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	特別支援教育・保育に関する知見と今日的な課題を知り、特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の理解と実践、具体的な支援方法について学び、基礎的な理解を深め、保育における合理的配慮や支援の在り方について学ぶ。
到達目標	1.特別支援教育・保育に関する制度の理解や仕組みを理解している。 2.特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、援助・支援の具体的な方法について述べる ことができる。 3.家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明ができる。 4.特別支援教育・保育に関する現状と課題について述べる ことができる。
授業の進め方	講義を基本とし、必要に応じて視聴覚教材で理解を深め、グループワーク等で能動的な学習を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは授業内で行い、場合に応じて次回授業にて補足や情報共有を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション ・「障害」とは何か ・「障害」の概念（1）ICFの概念枠組み
第2回	・「障害」の概念（2）インクルーシブ教育システムと合理的配慮 ・「特別支援」を必要とする子どもたち
第3回	・発達障害の理解と支援 ・知的障害の理解と支援
第4回	・言語障害の理解と支援 ・聴覚障害の理解と支援
第5回	・肢体不自由の理解と支援 ・視覚障害の理解と支援
第6回	・重症心身障害・重複障害の理解と支援 ・病弱の理解と支援
第7回	・小学校との接続 発達を目指した様々な連携（地域、専門職） ・まとめ ・履修カルテの記入
第8回	・期末試験

【具体的な内容】	2025/04/01
----------	------------

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害」に関する現状について情報収集を行い、特別支援教育・保育に関連付けながら学習を深めること。 ・授業内で用いた資料を復習し、疑問点がある際には情報収集や次の授業で質問をする等をして疑問を残さないようにすること。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間は各1時間以上を目安とする。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>中間レポート：30%</p> <p>期末試験：50%</p> <p>提出物：20%</p> <p>「到達目標」に明示している『特別支援教育・保育に関する制度の理解や仕組みを理解している』『特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、援助・支援の具体的な方法について述べることができる』『家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明ができる』『特別支援教育・保育に関する現状と課題について述べるができる』から、特別支援教育・保育に関する基本的な知識の習得や援助・支援の具体的な方法及び家庭や関係機関との連携・協働に関する理解を踏まえ、特別支援教育・保育の現状と課題について論述することができることを中間レポート・期末試験・提出物の評価基準とする。</p>
テキスト	『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』小林徹・栗林宣夫編 みらい
参考文献	講義中に適宜提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場における幼稚園教諭・特別支援コーディネーター補佐の実務経験を有する教員により、特別支援教育・保育に関する基本的知識と保育現場における実践を関連づけて説明する。
備考	必要に応じてスマートフォン・タブレット・パソコンを使用するため、持参すること。

年度	2025
講義名称	子どもの食と栄養(基礎)[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81361

担当教員

氏名	所属
◎ 加藤 聖子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	乳児期、幼児期、学童期の各ライフステージにおける心身の発達と食生活、および生涯発達と食生活の関連についての基本的な知識の習得を目指す。また、学んだ知識や理論をふまえて演習を行い、実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 学んだ知識や理論をふまえてライフステージごとに演習を行うことで、実践力を養う。
授業の進め方	対面で講義形式中心で進める。 オンデマンド講義も2～3回行う。 数回グループワークを行う。 テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料を配布する。 毎回ミニテストの実施、またはミニレポートの提出を求める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ミニテストの採点結果の返却、またミニレポート返却時にコメントすることでフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	子どもの心身の健康と食生活の現状と課題
第2回	栄養の基本的知識（1）炭水化物・脂質・たんぱく質について
第3回	栄養の基本的知識（2）ミネラル・ビタミンについて
第4回	乳児期の心身の特徴と食生活
第5回	幼児期の心身の発達と食生活（1）幼児期の食生活の特徴とその実践
第6回	幼児期の心身の発達と食生活（2）偏食児への対応・間食の意義
第7回	子どもの食と栄養（基礎）のまとめ

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none">事前学修課題については、授業前に教科書の該当箇所を読んでおくことを求めます毎週講義の前までにテキストを熟読しておくこと。事後学修課題については、講義中に配布された補足資料や解説された内容を踏まえて、再度プリント、資料、テキストなどを基に振り返りを行うこと。目安となる時間数は、合計で45分程度。
---------	---

成績評価基準と方法	筆記試験（50％）・ミニテスト（30％）・ミニレポート（20％）
テキスト	『最新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』最新保育士養成講座総括編集委員会編、全国社会福祉協議会、2019 ISBN9784793513114
参考文献	必要に応じて授業中に紹介します

年度	2025
講義名称	子どもの食と栄養(基礎)[幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81361

担当教員

氏名	所属
◎ 加藤 聖子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	乳児期、幼児期、学童期の各ライフステージにおける心身の発達と食生活、および生涯発達と食生活の関連についての基本的な知識の習得を目指す。また、学んだ知識や理論をふまえて演習を行い、実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 学んだ知識や理論をふまえてライフステージごとに演習を行うことで、実践力を養う。
授業の進め方	対面で講義形式中心で進める。 オンデマンド講義も2～3回行う。 数回グループワークを行う。 テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料を配布する。 毎回ミニテストの実施、またはミニレポートの提出を求める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ミニテストの採点結果の返却、またミニレポート返却時にコメントすることでフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	子どもの心身の健康と食生活の現状と課題
第2回	栄養の基本的知識（1）炭水化物・脂質・たんぱく質について
第3回	栄養の基本的知識（2）ミネラル・ビタミンについて
第4回	乳児期の心身の特徴と食生活
第5回	幼児期の心身の発達と食生活（1）幼児期の食生活の特徴とその実践
第6回	幼児期の心身の発達と食生活（2）偏食児への対応・間食の意義
第7回	子どもの食と栄養（基礎）のまとめ

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none">事前学修課題については、授業前に教科書の該当箇所を読んでおくことを求めます毎週講義の前までにテキストを熟読しておくこと。事後学修課題については、講義中に配布された補足資料や解説された内容を踏まえて、再度プリント、資料、テキストなどを基に振り返りを行うこと。目安となる時間数は、合計で45分程度。
---------	---

成績評価基準と方法	筆記試験（50％）・ミニテスト（30％）・ミニレポート（20％）
テキスト	『最新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』最新保育士養成講座総括編集委員会編、全国社会福祉協議会、2019 ISBN9784793513114
参考文献	必要に応じて授業中に紹介します

年度	2025
講義名称	子ども音楽療育概論[幼教]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81363

担当教員

氏名	所属
◎ 下出 理恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	音楽教育、保育、発達臨床、音楽療法などの様々な関連分野から保育音楽療育の専門性を論理的に学習する。また音楽を構成している要素と療育における音楽活動の関係性を学び、音楽療育における音楽の役割を理解する。
到達目標	・対象者理解のために知識を備える・保育音楽療育における音・音楽の役割を理解する・保育音楽療育の意義と目的を理解する。
授業の進め方	関連領域の文献、臨床のDVDを使用し、必要に応じて演習を交えながら講義を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については理解度を確認し返却し講義の中で評価等を行う。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・保育音楽療育とは
第2回	対象者理解(成人、高齢者)
第3回	対象者の会(乳幼児、児童、WSの子どもたち)
第4回	音楽の特性
第5回	歌唱(声)の活動の目的とデザイン
第6回	器楽(既成曲を使用して)活動の目的とデザイン
第7回	動きを伴う活動の目的とデザイン
第8回	器楽(即興的な)活動の目的とデザイン
第9回	音楽のコミュニケーション性
第10回	音楽活動のサポートとは
第11回	アセスメント・プログラム・評価について大切なこと
第12回	保育者として大切なこと、音楽療育の有効性
第13回	講義のまとめ・テスト

事前・事後学修	関係する領域は多岐にわたるため、参考文献や講義内で紹介された著書は手に取り読み、自ら学ぶ姿勢を身につけ、興味を拡げていくことが大切である。
---------	---

成績評価基準と方法	講義での提示された課題、レポート、出席等を総合して50% テスト 50%
テキスト	適宜資料配布
参考文献	音楽療法の手引き 松井紀和 音楽療法 特別支援教育の発達の視点を踏まえて 加藤博之

年度	2025
講義名称	保育実習Ⅰ〔幼教〕
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81391

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育所・各種児童福祉施設での実習を通して保育士として必要な知識・技能を身につけ、学内における学習と関連付けて学ぶ。また具体的な実践を経験することで保育士を職業として選択する動機づけにすることも本科目の目的である。
到達目標	保育所・施設での実習が終了することで単位の認定が行われる。それぞれの実習先で充実した実習を行うことが最大の目標であるが、さらに2年次での発展学習への課題を明確にすることが求められる。
授業の進め方	学外の児童福祉施設の現場に身を置き、職員に準じる業務を体験する。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	現場の職員からの助言に加え、実習就業後に関連する実習指導科目において振り返りを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	保育所10日間、施設10日間の実習を行う。 保育所、施設理解から始まり、子どもや施設の利用者とのかかわりを通して、参加、部分的な責任実習を行う。実習の内容については実習先によって多少異なる。 ・事前訪問（オリエンテーション）・・・スケジュールの確認、実習のための諸注意 ・観察参加実習・・・子どもたち、利用者とともに生活しながら観察・援助をする。 ・部分実習・・・絵本の読み聞かせ、ゲーム、制作など保育のなかの一部分を責任をもって担う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 健康管理をしっかりとる。 挨拶など基本的な対人関係のマナーをしっかりと身につけて、実習終了後は実習先に礼状を送付する。 【必要な時間】 上記の内容は時間で示せるものではなく、普段から心がけておくべき事柄である。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

授業への取り組み 20%	2025/04/01
--------------	------------

成績評価基準と方法	提出物 30% 評価表 50%
テキスト	特になし。実習指導の授業で使用する「実習ハンドブック」を随時参照すること。
参考文献	実習先において提示される。

年度	2025
講義名称	保育実習指導Ⅰ[幼教]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81392

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科
田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育所・各種福祉施設での実習を有意義なものにするために、事前及び事後の指導として必要な知識、技術を習得するとともに、必要な諸手続きについて理解する。
到達目標	実習を円滑に行うために、必要な知識・技術を身につける。 実習を開始するための諸手続きと実習終了後の諸手続きの必要性を理解する
授業の進め方	基本的に講義形式でおこなう。また、重要事項等の確認や演習等で必要な場合はグループにわかれて演習形式でおこなう。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回授業の終了時に質問を募り、次回授業の冒頭で回答を伝える。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	保育実習とはなにか
第3回	免疫・実習生としての心得
第4回	施設実習の意義・目的・形態について
第5回	実習施設種別ごとの理解①（発達支援センター）
第6回	実習施設種別ごとの理解②（障害者支援施設）
第7回	実習で扱う書類について（個人表作成等）
第8回	実習における記録について①言葉の使い方
第9回	実習における記録について②文章の書き方
第10回	実習報告会
第11回	実習に向けた準備②実習前事後の流れ確認/評価表の観点について/報告書の書き方①
第12回	実習課題の検討
第13回	実習直前Q&A/電話のかけ方・礼状の書き方/報告書の書き方②
第14回	施設実習振り返り/実習に向けた準備③（実習先発表）
第15回	活動研究①/指導案の作成
第16回	活動研究②/指導案を用いた実践
第17回	場面を想定した実践練習①（0・1・2歳児）

第18回	場面を想定した実践練習②（3歳児以降）
第19回	活動研究③/指導案の作成（学生の制作物を使って）
第20回	活動研究④/指導案を用いた実践
第21回	実習課題の検討
第22回	実習における記録について①保育所実習日誌の書き方/オリエンテーション確認
第23回	実習置ける記録について②文章の書き方（日誌の様式で）
第24回	実習に向けた準備④（事前事後の流れ）/電話のかけ方おさらい/保育所の一日
第25回	実習直前Q&A/実習報告書の書き方/評価表の観点について/次年度実習科目の選択について/礼状の書き方
第26回	実習の振り返り・お礼状確認/次年度の実習科目選択について

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>事前学習として実習ハンドブックの毎回のテーマに該当する箇所を目を通しておくこと 事後学習として配布資料等を読み返しておくこと</p> <p>【必要な時間】</p> <p>事前・事後、それぞれ1時間程度で合計2時間を目安とする。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>実習指導は実習事前指導の部分だけではなく事後指導も含んでいるため、実習が終了していることが評価の前提となる。それを踏まえて下記の内容で評価される。</p> <p>提出物：50% 課題：20% 小テスト：30%</p>
テキスト	<p>『実習ハンドブック』</p> <p>『これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ』 大豆生田啓友ほか編著 中央法規</p>
参考文献	<p>『保育所保育指針』</p>

年度	2025
講義名称	社会的養護Ⅰ[幼教]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81452

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義の目的は大きく二つある。一つは社会的養護が必要な子どもの存在について理解することである。もう一つは保育所以外の児童福祉施設職員として保育士がどのような役割を果たしているのか理解することである。また、こうした取り組みが必要となる社会的背景や家族が置かれた状況についても解説する
到達目標	児童福祉施設の機能について知識として理解できるとともに施設保育士として子どもとどのように向き合うべきか考えることができる。
授業の進め方	テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料や視聴覚資料を使って内容を補っていく。 また、必要に応じて発言を求めたり、グループ討議を行う場合がある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の終盤に小レポートを課し、内容に応じて適宜次回の授業の冒頭で回答する。
----------------------------	---------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	子どもの人権擁護と社会的養護
第3回	家庭の機能と社会的養護
第4回	社会的養護の基本原則①【養育】 子どもの日常生活を保障する施設保育士の役割について学びます。
第5回	社会的養護の基本原則②【保護】 子どもの安全基地としての児童福祉施設の機能と保育士の役割について学びます。
第6回	社会的養護の基本原則③【子どもであることの回復】 子どもが子どもらしく過ごせるための環境整備のあり方について学びます。
第7回	社会的養護の基本原則④【生活文化と生活力の習得】 子どもが社会で自分らしく生きていけるようになるために保育士が子どもに伝えるべきことについて学びます。
第8回	社会的養護の基本原則⑤【生命倫理観の醸成】 子どもたちにいのちの大切さを伝えるために保育士としてどのような「構え」が必要なのかを考えます。
第9回	社会的養護の制度と実施体系
第10回	施設養護の対象・形態・専門職①【乳児院】
第11回	施設養護の対象・形態・専門職②【障害児の入所施設】
第12回	施設養護の対象・形態・専門職③【児童自立支援施設】
第13回	期末試験と解説

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>事前学習として該当する箇所についてはテキストを読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料等を読み返して、ポイントや重要事項等を復習すること。</p>
	<p>【必要な時間】</p> <p>それぞれ2～3時間程度が目安である。</p>

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	<p>定期試験による評価50%</p> <p>レポート課題20%</p> <p>毎時間後の小レポート提出30%</p>
テキスト	『児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ』吉田眞理編著 萌文書林
参考文献	講義中に適宜提示する。

年度	2025
講義名称	表現課題演習(基礎)
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81581
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科
田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	学科行事『わくわくフェスティバル』に向けてミュージカルを中心とした表現活動のテーマを設定し、計画・目標を立てて取り組む過程を通して、自ら課題を発見して解決する手段や方法を実践的に学ぶ。
到達目標	①保育者となる学生としての視点を持って、子どもから大人までが楽しめる表現活動のテーマや内容を設定することができる。 ②テーマの具現化に向けて課題を発見し、解決に向けた手段や方法を探り、計画・目標を立てることができる。 ③自らの取り組みについて省察することができる。
授業の進め方	提示された表現活動の基礎的な知識や方法、活動の見通しに基づいて、学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で行う。授業内容としてはディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどの能動的学修、実践が中心となる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図る。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業の目的、わくわくフェスティバルの概要、表現活動の基礎知識・方法、表現形態の紹介、活動の見通し
第2回	表現活動のテーマ決定、表現形態・演目の検討
第3回	表現形態・演目の決定、作業役割分担班の検討・希望調査・調整
第4回	作業役割分担班の決定、各班リーダー選出
第5回	全体のスケジュール検討（舞台監督など）、脚本作成（演出など）
第6回	全体のスケジュール決定、作業役割分担班ごとの活動内容・スケジュール検討（各班リーダーなど）
第7回	全体活動（キャスト検討・希望調査など）、作業役割分担班ごとの活動・作業計画決定
第8回	全体活動（オーディションなど）、作業役割分担班ごとの活動
第9回	全体活動（キャスト調整など）、作業役割分担班ごとの活動
第10回	全体活動（キャスト発表など）、作業役割分担班ごとの活動、個人の課題・計画・目標設定
第11回	全体活動（脚本配布、脚本読み合わせ、練習）、作業役割分担班ごとの活動
第12回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第13回	作業分担ごとの取り組み経過の発表、授業内レポート、履修カルテ記入

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み、成果物などの記録を作成する。 ・表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集める。 ・制作や練習などの準備は個人、グループでも進める。 <p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み：50%（毎時間の授業記録提出について、到達目標①②③を評価基準とする） ・レポート①・②：50%（成果物等についての内容において、到達目標①②③を評価基準とする）
参考文献	必要に応じてその都度提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	舞台製作や表現活動の実務経験のある教員が、学生の表現活動における取り組みをサポートします。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てる。 ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。 ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ [A][伊藤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ [A][小杉]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小杉 恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	毎時、次の授業までの課題が提示されます。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。 各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ [A][佐々木]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 沙織	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ [A][竹田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 有希	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ [A][長谷部]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 長谷部 祥子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	毎時、次の授業までの課題が提示されます。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。 各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ [A][二口]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 二口 英恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[B][伊藤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[B][小杉]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小杉 恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	毎時、次の授業までの課題が提示されます。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。 各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[B][佐々木]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 沙織	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[B][竹田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 有希	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[B][長谷部]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 長谷部 祥子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	毎時、次の授業までの課題が提示されます。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。 各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[B][二口]
講義開講時期	秋学期
必修区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 二口 英恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[未修得A]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	ピアノ基礎演習Ⅱ[未修得B]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82180
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身につけます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。
到達目標	①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。 ②子どもの歌に伴奏をつけたり、移調したり、アレンジすることができる。 ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。
授業の進め方	学生個々のピアノ経験や習熟度に応じて、それぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で細やかに指導を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／習熟度と秋学期の目標の確認
第2回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第3回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第4回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第5回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせ、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

第6回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第7回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第8回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第9回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第10回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第11回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第12回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現
第13回	以下の項目について、学生個々の進度に合わせて、テキストに関連させて進めます。 ①和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調）、分散和音などの様々な伴奏型 ②こどものうたの弾き歌い ③初見視奏、伴奏付け、移調 ④ピアノ曲の演奏表現

事前・事後学修	<p>毎時、次の授業までの課題が提示されます。</p> <p>事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験① 50%（レッスンからの選択曲の演奏について、到達目標①を評価基準として実技試験を行う） ・実技試験② 20%（伴奏付け、移調演奏について、到達目標②③を評価基準として実技試験を行う） ・毎時の課題 30%（毎時提示される課題の取り組みについて、「専門知識・技能を活用する力」を評価基準とする）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』 ・『こどものうた200（チャイルド本社）』 ・『ゆびトレ（本学オリジナル教材）』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	担当教員は全員ピアニストとしての実務経験（演奏活動）と、ピアノ指導者としての経験があり、これを活かして、習得すべきピアノ技術について学生個々の経験に合わせて授業を行う。
備考	「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。 幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

年度	2025
講義名称	子どもの音楽(応用)
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82187
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と技能を発展させ、身につけた知識と技能をより実践的に使うことを目指します。
到達目標	①子どもの発達を踏まえた音楽表現のための実践的な知識について理解している。 ②子どもの音楽表現に必要な実践的な音楽理論について理解している。 ③子どもの音楽表現に必要なピアノや楽器の使い方、歌唱についての発展的な方法が身についている。
授業の進め方	音楽の基礎的な知識、技術を確認した上で、学生自身が音楽の技術を活用していけるように、実技を多く交えながら丁寧に進めていきます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次回の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／子どものうたの新譜に挑戦
第2回	コード奏のバリエーション
第3回	コード奏のバリエーション～伴奏のアレンジ
第4回	定番の子どものうたの楽曲分析
第5回	簡単な作曲の実践
第6回	簡単な作曲の実践～コード進行を考えて
第7回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	授業内で扱った課題について、演奏や演習の復習が必要です。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、ピアノと同様に、技術を身につけるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●

成績評価基準と方法	・実技試験 50% (授業内で扱った課題について、到達目標①②③を評価基準とする) ・レポート 30% (授業内で扱った課題について、到達目標①②③を評価基準とする) ・毎時の取り組み 20% (課題への取り組みについて、到達目標①②③を評価基準とする)
テキスト	・こどものうた200 (チャイルド本社) ※複数科目共用 ・ゆびトレ (本学オリジナル教材)

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	ピアニスト、演奏家としての実務経験 (演奏活動) や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	体育実技（応用）
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82189
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	体育実技（基礎）で身に付けた基礎知識・技能・体力をもとに、さらに保育者として活躍するための体力の維持向上を目指し、生涯にわたる健康づくりの資質や能力を育むことを目的とする。 また運動遊びの教材研究を通して、乳幼児期の身体活動や遊びを豊かに展開するために必要な指導方法や指導技術を実践的に習得することを目指す。
到達目標	・体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。 ・自らの健康づくりに必要な知識や態度をもとに行動できるようにする。 ・乳幼児期の運動遊びの基本的な指導方法や指導技術を習得する。 ・グループワークなど主体的・協働的な集団の活動を通して、集団行動の役割および責任、連帯感やマナーを理解できる
授業の進め方	・実技を中心に理論を交えて演習を行う。 ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 授業の進め方 「多様な動き」を導き出す運動遊び
第2回	「ボール」を使った運動遊び
第3回	「縄・フープ」を使った運動遊び
第4回	「マット」を使った運動遊び
第5回	「跳び箱」を使った運動遊び
第6回	「鉄棒」を使った運動遊び
第7回	「遊具や用具」を工夫した運動遊び

事前・事後学修	【事前学修】（2時間） ・基礎体力の向上を意識し、日常生活の中で体を動かすこと（階段での移動、徒歩での移動など）や、運動やスポーツすることを心がける。 ・日頃より生活習慣を意識し、食事・睡眠などをしっかり取り体調管理を心がけ授業に参加する。 【事後学修】（2時間） ・授業で学んだ指導法や導技術などを復習し、指導実践の授業などで活用する。 ・授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す」 ・「自らの健康づくりに必要な知識や態度をもとに行動できるようにする」 ・「グループワークなど主体的・協働的な集団的活動を通して、集団行動の役割および責任、連帯感やマナーを理解できる」ことについて、授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナーなどから評価する（40%） ・「乳幼児期の運動遊びの基本的な指導方法と指導技術を習得する」ことについて、振り返りシートや提出物により指導方法や指導技術の読み取りなどから評価する（30%） ・「授業全体を通した総合的な学び」について、期末レポート課題から評価する（20%）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ACPガイドブック（日本スポーツ協会） ・幼児期運動指針 ガイドブック（文部科学省） ・小学校学習指導要領・体育編（文部科学省）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>幼児の体育指導や親子体操教室の講師、NPO法人にて知的・発達障害児の運動訓練教室を主宰、地域活動における子どもの健康づくりの講師、認定こども園園長等の実務経験をもとに、保育現場における具体的な子どもの姿について解説し、乳幼児期の身体活動や遊びを豊かに展開するための指導方法や指導技術を実践的に指導する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。 ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。 ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。 ・幼児や児童と関わる場所（教室やボランティアなど）に積極的に参加し、子どもと触れ合う体験を重ねてください。

年度	2025
講義名称	乳児保育Ⅱ[幼教①/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82264
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 由子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	乳児保育Ⅰで学んだ乳児期の（0・1・2歳児）の発達や特性を踏まえ、子どもへの生活や遊びの具体的な援助の方法について学び、乳児保育の実践力を高めることを目指します。
到達目標	・実技や演習を通して、乳児期の子どもや保護者に対する具体的な援助や配慮ができるようになる。 ・習得した知識や技術、理解した内容を、保育の場でどのように活用し展開するかを主体的に考えることができる。
授業の進め方	・講義と演習を主体とし、グループワークやディスカッションを交えて行います。資料や映像などを参考に具体的な援助の方法を実技を通して学んだり、遊びや制作を取り入れたりしながら、乳児保育がより身近に感じられるよう に進めます。 ・授業後は、授業内容の感想を共有したり、小テストに取組んだりすることで学びの振り返りを行っていきます。 ・本授業は、保育所等の実技経験のある教員が乳児保育に携わった経験を活かし、保育士（保育者）として専門的な視点から乳児保育の理解が深められるようにします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	全体で確認が必要なことに関しては授業内で解説します。また、必要に応じて個別に対応します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	テキスト 第7章 乳児保育における援助の基本 乳児保育Ⅰを振り返りながら援助の基本について確認します。 演習：保育に役立つ手作り玩具の制作
第2回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 基本的な生活習慣の獲得 食事・睡眠 離乳食の進め方と睡眠について説明します。 演習：赤ちゃん人形でミルクの飲ませ方と、抱っことおんぶを体験します
第3回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 基本的な生活習慣の獲得 排泄・着脱・清潔 演習：赤ちゃん人形でおむつ交換の方法を体験します。また、着脱や清潔に関する説明もします。
第4回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 良好な対人関係を築くために必要な援助の仕方について説明します。 演習：グループワーク ネガポジ変換 誕生会の立案。
第5回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 乳児の発育・発達をふまえた遊びと援助の実際 保育ではわらべ歌や手遊び、絵本の読み聞かせ等生活の節目で多用することが多くあります。 演習：グループワーク 絵本の読み聞かせ 誕生会発表に向けての準備

第6回	テキスト 第10章 乳児保育における計画の実践 乳児保育の全体計画と個別計画を確認します。 演習：誕生会発表 連絡帳記入
第7回	授業内試験と解説 演習：身近な生活用品で子どもの気持ちになって遊ぶ。

事前・事後学習	授業前には指定箇所を読み、分からない内容は授業の中で確認したり、授業後の感想に記入していただいたら解答します。授業後はテキストや授業資料（レジュメ）等で復習してください。感想で友達の学びや考えを知ったり、グループワークで得た知識も学びにつながりますので大切な要素となります。子どもや保護者に寄り添い、子どもの命を守り発達を援助し、楽しい保育」ができるよう、事前・事後の学習に取り組んでください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・授業内試験 40% ・授業への取り組みや意欲 30% ・小テスト 30%
テキスト	NEW 乳児保育Ⅰ・Ⅱ ななみ書房
参考文献	「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「やさしい乳児保育」 青踏社 「はじめて学ぶ乳児保育」 同文書院

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市公立保育園や認定こども園における勤務、開設準備室の活動、さらに子育て支援センターでの経験を通じ、保育や子育て支援に関する実務を積み重ねてきました。これらの経験を基に、具体的な現場例を取り入れた学びを提供する講義を展開します。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	乳児保育Ⅱ [幼教②/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82264
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 由子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	乳児保育Ⅰで学んだ乳児期の（0・1・2歳児）の発達や特性を踏まえ、子どもへの生活や遊びの具体的な援助の方法について学び、乳児保育の実践力を高めることを目指します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実技や演習を通して、乳児期の子どもや保護者に対する具体的な援助や配慮ができるようになる。 ・習得した知識や技術、理解した内容を、保育の場でどのように活用し展開するかを主体的に考えることができる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を主体とし、グループワークやディスカッションを交えて行います。資料や映像などを参考に具体的な援助の方法を実技を通して学んだり、遊びや制作を取り入れたりしながら、乳児保育がより身近に感じられるよう に進めます。 ・授業後は、授業内容の感想を共有したり、小テストに取組んだりすることで学びの振り返りを行っていきます。 ・本授業は、保育所等の実技経験のある教員が乳児保育に携わった経験を活かし、保育士（保育者）として専門的な視点から乳児保育の理解が深められるようにします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	全体で確認が必要なことに関しては授業内で解説します。また、必要に応じて個別に対応します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	テキスト 第7章 乳児保育における援助の基本 乳児保育Ⅰを振り返りながら援助の基本について確認します。 演習：保育に役立つ手作り遊具の制作
第2回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 基本的な生活習慣の獲得 食事・睡眠 離乳食の進め方と睡眠について説明します。 演習：赤ちゃん人形でミルクの飲ませ方と、抱っことおんぶを体験します
第3回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 基本的な生活習慣の獲得 排泄・着脱・清潔 演習：赤ちゃん人形でおむつ交換の方法を体験します。また、着脱や清潔に関する説明もします。
第4回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 良好な対人関係を築くために必要な援助の仕方について説明します。 演習：グループワーク ネガポジ変換 誕生会の立案。
第5回	テキスト 第8章 乳児保育における発育・発達をふまえた生活と遊びの実際 乳児の発育・発達をふまえた遊びと援助の実際 保育ではわらべ歌や手遊び、絵本の読み聞かせ等生活の節目で多用することが多くあります。 演習：グループワーク 絵本の読み聞かせ 誕生会発表に向けての準備

第6回	テキスト 第10章 乳児保育における計画の実践 乳児保育の全体計画と個別計画を確認します。 演習：誕生会発表 連絡帳記入
第7回	授業内試験と解説 演習：身近な生活用品で子どもの気持ちになって遊ぶ。

事前・事後学習	授業前には指定箇所を読み、分からない内容は授業の中で確認したり、授業後の感想に記入していただいたら解答します。授業後はテキストや授業資料（レジュメ）等で復習してください。感想で友達の学びや考えを知ったり、グループワークで得た知識も学びにつながりますので大切な要素となります。子どもや保護者に寄り添い、子どもの命を守り発達を援助し、楽しい保育」ができるよう、事前・事後の学習に取り組んでください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・授業内試験 40% ・授業への取り組みや意欲 30% ・小テスト 30%
テキスト	NEW 乳児保育Ⅰ・Ⅱ ななみ書房
参考文献	「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「やさしい乳児保育」 青踏社 「はじめて学ぶ乳児保育」 同文書院

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市公立保育園や認定こども園における勤務、開設準備室の活動、さらに子育て支援センターでの経験を通じ、保育や子育て支援に関する実務を積み重ねてきました。これらの経験を基に、具体的な現場例を取り入れた学びを提供する講義を展開します。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	特別支援教育・保育(応用)[①/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82266
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中島 そのみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	障害病理や発達特徴などの基礎的知識を確認するとともに、特別な支援を要する子どもの困難について背景を含めて理解を深める。共に育ちあう視座に立った保育における留意点・援助のあり方を、具体的場面を想定しながら検討する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児支援の枠組みや歴史の変遷について確認し障害児及びその保育について説明できる。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明できる。 3. 障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について具体的方法を説明できる。 4. 障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解し、多様な観点から特別支援保育・教育をイメージすることができる。
授業の進め方	基本的に講義形式で実施する。振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。講義資料を配布し、視聴覚教材を用いながら具体的な場面をイメージできるよう実施する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提示した課題については、講義中もしくは次回の講義の中でフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 障害について（ICIDHとICF） 障がい児保育の意義
第2回	知的障がい（ダウン症含む）の理解と支援
第3回	肢体不自由児の理解と支援
第4回	確認テスト 自閉症スペクトラムの理解と支援1
第5回	自閉症スペクトラムの理解と支援2 注意欠如・多動症の理解と支援
第6回	限局性学習症・他の発達障害の理解と支援 病弱・虚弱児の理解と支援
第7回	試験 視覚障がい・聴覚障がいの理解と支援

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な資料を、授業で配布します。資料を綴じるファイルを用意して下さい。 ・授業内容を振り返り、配布した資料を確認し復習を行うように心がけてください。 ・次回の授業内容に関連する特別支援教育・保育（基礎）の内容を復習をしてください。 <p>【必要な時間】</p> <p>事前・事後1時間以上の予習・復習を要する。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している内容を確認テスト、期末に行う試験の評価基準とする。 評価方法の割合は以下のようにする。 ・期末に行なう試験 60% ・確認テスト 20% ・毎回の提出物（振り返りシート） 20%
テキスト	特になし。適宜資料を配布する。
参考文献	特になし。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は統合保育を実践している幼稚園に作業療法士として勤務していた経験を有している。その経験を踏まえ必要に応じて実例を提示しながら保育現場における障害児やその他の特別な配慮を要する子どもへの支援のありかたについて授業を行う。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	特別支援教育・保育(応用)[②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82266
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中島 そのみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	障害病理や発達特徴などの基礎的知識を確認するとともに、特別な支援を要する子どもの困難について背景を含めて理解を深める。共に育ちあう視座に立った保育における留意点・援助のあり方を、具体的場面を想定しながら検討する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児支援の枠組みや歴史の変遷について確認し障害児及びその保育について説明できる。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明できる。 3. 障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について具体的方法を説明できる。 4. 障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解し、多様な観点から特別支援保育・教育をイメージすることができる。
授業の進め方	基本的に講義形式で実施する。振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。講義資料を配布し、視聴覚教材を用いながら具体的な場面をイメージできるよう実施する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提示した課題については、講義中もしくは次回の講義の中でフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 障害について（ICIDHとICF） 障がい児保育の意義
第2回	知的障がい（ダウン症含む）の理解と支援
第3回	肢体不自由児の理解と支援
第4回	確認テスト 自閉症スペクトラムの理解と支援1
第5回	自閉症スペクトラムの理解と支援2 注意欠如・多動症の理解と支援
第6回	限局性学習症・他の発達障害の理解と支援 病弱・虚弱児の理解と支援
第7回	試験 視覚障がい・聴覚障がいの理解と支援

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な資料を、授業で配布します。資料を綴じるファイルを用意して下さい。 ・授業内容を振り返り、配布した資料を確認し復習を行うように心がけてください。 ・次回の授業内容に関連する特別支援教育・保育（基礎）の内容を復習をしてください。 <p>【必要な時間】</p> <p>事前・事後1時間以上の予習・復習を要する。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している内容を確認テスト、期末に行う試験の評価基準とする。 評価方法の割合は以下のようにする。 ・期末に行なう試験 60% ・確認テスト 20% ・毎回の提出物（振り返りシート） 20%
テキスト	特になし。適宜資料を配布する。
参考文献	特になし。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は統合保育を実践している幼稚園に作業療法士として勤務していた経験を有している。その経験を踏まえ必要に応じて実例を提示しながら保育現場における障害児やその他の特別な配慮を要する子どもへの支援のありかたについて授業を行う。
-------------------	---

年度	2025
講義名称	子どもの食と栄養(応用)[幼教①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82364

担当教員

氏名	所属
◎ 加藤 聖子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育を通して食育をどのように進めていくのか、子どもに対してだけでなく保護者への支援も含め、食育の展開ができるようになることを目指す。また、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、体系的に理解することを目指し、学んだ知識や理論を実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。
到達目標	1. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 2. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 3. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
授業の進め方	講義形式中心で進める。 オンデマンド講義を2～3回実施する。 数回グループワークを行う。 テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料を配布する。 毎回ミニテストの実施、またはミニレポートの提出を求める。 調理実習を行う

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ミニテストの採点結果の返却、またミニレポート返却時にコメントすることでフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活
第2回	食育の基本と内容
第3回	食育の実践（1）保育所や地域における食にかかわる行事内容の考案・発表
第4回	食育の実践（2）食生活指導および食を通じた保護者への支援、食育便りの作成
第5回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
第6回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
第7回	子どもの食と栄養（応用）のまとめ

事前・事後学修	・事前学修課題については、授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・事後学修課題については、講義中に配布された補足資料や解説された内容を踏まえて、再度プリント、資料、テキストなどを基に振り返りを行うこと。 ・目安となる時間数は、合計で45分程度。
---------	---

成績評価基準と方法	筆記試験（50％）・食育教材作成・発表（30％）ミニレポート（20％）
テキスト	『最新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』最新保育士養成講座総括編集委員会編,全国社会福祉協議会,2019 ISBN9784793513114

参考文献

必要に応じて授業中に紹介します

備考

調理実習（1回）を行う際は実習費（400～500円程度）を徴収いたします。

年度	2025
講義名称	子どもの食と栄養(応用)[幼教②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82364

担当教員

氏名	所属
◎ 加藤 聖子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育を通して食育をどのように進めていくのか、子どもに対してだけでなく保護者への支援も含め、食育の展開ができるようになることを目指す。また、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、体系的に理解することを目指し、学んだ知識や理論を実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。
到達目標	1. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 2. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 3. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
授業の進め方	講義形式中心で進める。 オンデマンド講義を2～3回実施する。 数回グループワークを行う。 テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料を配布する。 毎回ミニテストの実施、またはミニレポートの提出を求める。 調理実習を行う

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ミニテストの採点結果の返却、またミニレポート返却時にコメントすることでフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活
第2回	食育の基本と内容
第3回	食育の実践（1）保育所や地域における食にかかわる行事内容の考案・発表
第4回	食育の実践（2）食生活指導および食を通じた保護者への支援、食育便りの作成
第5回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
第6回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
第7回	子どもの食と栄養（応用）のまとめ

事前・事後学修	・事前学修課題については、授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・事後学修課題については、講義中に配布された補足資料や解説された内容を踏まえて、再度プリント、資料、テキストなどを基に振り返りを行うこと。 ・目安となる時間数は、合計で45分程度。
---------	---

成績評価基準と方法	筆記試験（50％）・食育教材作成・発表（30％）ミニレポート（20％）
テキスト	『最新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』最新保育士養成講座総括編集委員会編,全国社会福祉協議会,2019 ISBN9784793513114

参考文献

必要に応じて授業中に紹介します

備考

調理実習（1回）を行う際は実習費（400～500円程度）を徴収いたします。

年度	2025
講義名称	子ども音楽療育演習[幼教]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82377
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義は発達が多様な子どもを対象とした音楽療育実践に必要な基礎知識と技術を獲得することを目的とします。 また、音楽療育実践のための音・音楽の使い方、対象に応じた展開やサポートの方法を習得することを目指します。
到達目標	・目的に応じた音楽療育を計画し、実践することができる。 ・音楽活動時に見られる子どもの姿を発達の視点で捉え、活動をサポートする方法を考えることができる。
授業の進め方	グループワークやディスカッション等の演習、発表などを通して療育プログラムの立案・模擬セッション・省察・セッション再構成を体験します。 また、講義を通して療育のための音楽活動の構成力、実践力を高めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／部分実習事前指導／部分実習（音楽付きミニシアター）の計画・練習 グループワーク
第2回	発達の多様性を知る、からだあそび・スキンシップあそび
第3回	身体の知覚、ボディイメージを高めるあそび
第4回	部分実習：音楽つきミニシアター準備・打ち合わせ グループワーク
第5回	部分実習：音楽つきミニシアター発表・振り返り グループワーク
第6回	子どもの観察ポイントを学ぶ、身体模倣あそび
第7回	環境構成について、うたあそび、ことばあそび
第8回	ほめて育てるコツを学ぶ、楽器あそび
第9回	社会性の発達、ことばとコミュニケーションを促すあそび
第10回	模擬セッション計画・練習 グループワーク
第11回	模擬セッション練習・打ち合わせ グループワーク
第12回	模擬セッション発表 グループワーク
第13回	模擬セッション振り返り グループワーク、まとめ

【具体的な内容】 『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障がいの特性やかかわりのポイント、音楽あそびなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラ
--

事前・事後学修	<p>ムの計画や実践時に課題を出題します。 毎回の授業を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。</p> <p>【必要な時間】 予習・復習の時間は計3.5時間を目安とします。</p>
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<p>・療育プログラムの立案・実践・省察レポート70%「音楽活動時に見られる子どもの姿を発達の視点で捉え、活動をサポートする方法を考える」また「目的に応じた音楽療育を計画し、実践する」ことを評価基準とする。</p> <p>・コメントシート(毎回授業後に提出する)30%「各回の授業内容を理解し、課題を提出できる」ことを評価基準とする。</p>
テキスト	<p>【テキスト】 『ユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林</p>
参考文献	<p>【参考文献】 授業時、配布資料</p>

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	<p>本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽療育実践に必要な知識と技術、実践方法について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。</p>
--------------------------	---

年度	2025
講義名称	幼稚園実習（応用）
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	3単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82393
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 久恵	短大・幼児教育保育学科
伊藤 桂子	短大・幼児教育保育学科
田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	教育実習（幼稚園実習）は、将来教員（幼稚園教諭）になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として行われます。実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育（幼稚園教育）の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的とします。
到達目標	・ 幼児の活動や環境等に対して適切な観察を行うとともに、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び教育活動の特色を理解するため、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる。 ・ 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育の実践を通して身に付けることができる。
授業の進め方	8月下旬から3週間、学外の幼稚園で実習を行います。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習終了後、実習日誌、レポート等を作成し、「幼稚園実習指導」の中で事後指導を行います。 また「学外幼稚園実習記録」の作成に取り組み、記録集として発行し、各自の課題を明らかにするとともに課題点の共有を図ります。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	着任式／観察実習 ※実習前に実習園を訪問し、オリエンテーションを行う
第2回	観察実習
第3回	観察実習、参加実習
第4回	観察実習、参加実習
第5回	観察実習、参加実習
第6回	参加実習
第7回	参加実習
第8回	参加実習
第9回	参加実習、部分実習
第10回	参加実習、部分実習

第11回	参加実習、部分実習
第12回	責任実習
第13回	参加実習／反省会／離任式

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>『実習ハンドブック』と『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』をよく読み、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノート等にまとめてください。</p> <p>また、幼稚園実習（基礎）や幼稚園実習指導での講義内容と、付属認定こども園実習で気付いたことや各幼稚園での事前オリエンテーションの内容、各自の研究課題に沿って、実習で必要となる指導案や実習グッズの作成、手遊びや読み聞かせ、楽器の練習等を行ってください。また一日ごとの日誌の作成や、課題点の整理などを行ってください。</p>
	<p>【必要な時間】</p> <p>予習・復習に必要な時間はそれぞれ3.5時間を目安とします。</p>

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園評価 70% 「幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる」「大学で学んだ専門的知識・技術を実践を通して身につける」ことを評価基準とする。 ・提出物（実習日誌など） 20% 「幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる」「大学で学んだ専門的知識・技術を実践を通して身につける」ことを評価基準とする。 ・事前事後指導 10% 「大学で学んだ専門的知識・理論・技術等を理解し説明できる」ことを評価基準とする。
テキスト	『実習ハンドブック』
参考文献	『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』 前年度『学外幼稚園実習記録』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭・認定こども園保育教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる学びのサポートをします。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園実習指導を合わせて履修すること。 ・実習費23,000円（2024年度参考）

年度	2025
講義名称	幼稚園実習指導[幼教]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82394
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	事前指導では教育実習生として学校（幼稚園）の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察すると共に、教員免許取得までに修得すべき知識や技能等について理解します。これらを通して教育実習の意識を理解します。
到達目標	・教育実習生として順守すべき義務等について理解すると共に、その責任を自覚したうえで、意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。
授業の進め方	学外幼稚園実習に向け、グループワークやディスカッション、保育計画の作成等の演習、発表、講義を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、ディスカッションやグループワークを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（幼稚園実習の意義と目的）
第2回	幼稚園実習記録の作成について（日誌の振り返り、日誌記載における課題の確認）
第3回	指導案作成① 保育実習における指導案の振り返りを踏まえた立案
第4回	指導案作成② 子ども理解・保育内容・指導法を踏まえた立案
第5回	幼稚園実習の研究課題の設定（実習園の概要、実習目標、実習内容）
第6回	幼稚園実習の振り返り（自己課題の振り返り、成果と自己課題の交流）
第7回	幼稚園実習のまとめ（自己課題の改善に向けて、実習記録の作成）、履修カルテの記入

事前・事後学修	【具体的な内容】 『幼稚園実習（基礎）付属認定こども園実習ハンドブック』と『実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習し、ノートにまとめてください。研究課題の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	● 2025/04/01

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物（指導案、実習報告レポートなど）：70％ 「教育実習生として順守すべき義務等について、理解する」「意欲的に教育実習に参加することができる」「教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、自身の成果と課題を省察する」ことを評価基準とする。 ・授業のまとめ、各授業の感想等：30％ 「教育実習生として教育活動に参画する意識を高める」「教育実習生としての責任を自覚する」「教員免許取得に必要な知識や技能等を理解する」ことを評価基準とする。
テキスト	実習ハンドブック
参考文献	幼稚園実習（基礎）付属認定こども園実習ハンドブック、実習記録

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、修得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園実習（応用）を合わせて履修すること。 ・実習準備で制作をするときは、「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。 ・講義の内容によって、PCを使用する場合があります。

年度	2025
講義名称	[夏集]保育実習Ⅱ(保育所)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82396

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	保育所での実習を通して、保育士として必要な知識・技能を身につける。この科目は1年次の保育所実習の発展版と位置付けられるので、学生には実際に現場に立つ卒業後の自分自身を想定しながら、より専門的に学ぼうとする姿勢が求められる。
到達目標	保育現場に立つ者としての自覚ある態度で取り組み、自分自身の課題を明確にする。有意義な実習を行い、保育者として必要な知識・技能をさらに高める。
授業の進め方	基本的には、1年次に実習した保育所で行う。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	職員からの助言に加えて、実習終了後に関連する実習指導科目で振り返りを行う。
----------------------------	---------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	<p>実習期間は10日間となる。</p> <p>講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解が既に習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得たことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。</p> <p>実習の内容については、実習先によって多少異なるが、大まかには以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none">・課題の設定・部分実習（時間をいただき、絵本の読み聞かせやゲーム、制作等の活動をする。）・完全実習（仕上げの段階で、クラスの保育を初めから終わりまで一通り任される。）・実習のまとめ、反省・実習終了後、レポート提出（実習前に設定した課題について、レポートにまとめる。） <p>実習期間中、3歳未満時（0・1・2歳）、3歳児、4歳児、5歳児の各クラスに入ったり、縦割りによる異年齢混合クラスに入って実習を行う。</p>

事前・事後学習	<p>【具体的な内容】</p> <p>事前学習として1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。</p> <p>事後学習として実習報告書の作成に取り組むこと。</p> <p>【必要な時間】</p> <p>実習科目のため事前学習は何時間必要かは学生によって異なるが、おおむね予習・復習にかかる時間はそれぞれ2時間を下回らない。</p>
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み20% 提出物30% 評価表50%
テキスト	特になし
参考文献	実習先で示される。

年度	2025
講義名称	[夏集]保育実習Ⅲ(施設)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82397

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本科目は、卒業後に施設保育士として働きたいと思っている学生が履修していることを想定している。したがって、保育実習Ⅰにおいて経験した施設実習を踏まえた、より専門的なかかわりの習得が目的となる。
到達目標	施設保育士としての仕事のおもしろさと難しさを体験的に語れるようになる。
授業の進め方	学外における保育所以外の児童福祉施設での実習を行う。実習先によっては宿泊を伴う場合がある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習先の職員からの助言に加えて、実習終了後は関連する実習指導科目において振り返りを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	<p>実習期間は10日間となる。</p> <p>講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解がすでに習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得られたことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。</p> <p>実習の内容については、実習先によって異なるが、大まかには以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">施設機能の理解（入所・通所児童の理解含む）保育実習指導において設定した実習課題への取り組み個別的なかかわりを深める（ケース研究的なかかわり）設定保育（行わない場合もある）実習のまとめ、反省実習終了後、レポート提出（実習課題についてレポートにまとめる） <p>実習先によっては関連する地域の諸機関での実習も含まれる。</p>

事前・事後学修	<p>【具体的な内容】</p> <p>1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。 実習終了後は実習報告書の作成する。</p> <p>【必要な時間】</p> <p>実習科目のため一律に必要な時間を設定することはできない。各自の自覚が必要。</p>
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習への取り組み20% 提出物30% 評価表50%
テキスト	特になし
参考文献	実習先より適宜提示される

年度	2025
講義名称	保育実習指導Ⅱ(保育所)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82398

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらに深めることを目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。 また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。
到達目標	実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解する。
授業の進め方	1年次実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、次の実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜質問を受け付けることでフィードバックを行う。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：保育実習Ⅱの目的
第2回	記録技法について①：指導案の基本的な考えから
第3回	記録技法について②：指導案の作成
第4回	実習課題の検討
第5回	記録技法について③：日案の基本的な考え方
第6回	実習報告会
第7回	実習事後指導（実習の振り返り）

事前・事後学修	【具体的な内容】 毎回の授業で提示された資料等を読み返して理解を深めること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ1時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none">・ 提出物(授業で課された課題など) : 50%・ 授業への取り組み、毎回のまとめ : 50%
テキスト	実習ハンドブック 大豆生田啓友他『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』（中央法規）：1年次購入済み
参考文献	授業中に適宜提示する。

年度	2025
講義名称	保育実習指導Ⅲ(施設)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82399

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科
林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらに深めることを目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。 また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。
到達目標	実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解している。
授業の進め方	1年次の実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、次の実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で随時質問を受け付けることでフィードバックを図る。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：保育実習Ⅲの目的
第2回	記録技法について①：指導案の基本的な考え方
第3回	実習先の施設種別について調べ学習
第4回	実習回台の検討
第5回	義六技法について②：日案の基本的な考え方
第6回	実習報告会
第7回	実習事後指導（実習の振り返り）

事前・事後学修	【具体的な内容】 毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。 【必要な時間】 2時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 提出物(授業で課された課題など)：50% ・ 授業への取り組み、毎回のまとめ：50%
テキスト	実習ハンドブック 大豆生田啓友他『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』（中央法規）：1年次購入済み
参考文献	授業中に適宜提示する

年度	2025
講義名称	社会的養護Ⅱ [幼教①/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82472

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では保育士としての倫理や責務をあらためて確認し、社会的養護の特性を踏まえた具体的ななかかわり技法について学ぶことを目的とする。
到達目標	事例検討を通して、社会的養護を必要とする子どもたちの現状を理解すること。様々な家庭のかたちがあり、保護者支援も保育士の重要な業務であると理解すること。以上の二点が到達目標となる。
授業の進め方	テキストを中心に進めつつ、各回の講義において個人あるいはグループに分かれた演習を行う予定である。主体的な受講姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の時間の中に適宜質疑応答の時間を設ける。
----------------------------	------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション/保育士の倫理と責務
第2回	子どもの健康と成長を守る取り組み
第3回	児童養護の体系と児童福祉施設の概要
第4回	里親制度の現状と課題
第5回	施設養護の実際①【アドミッションケア・インケア】
第6回	施設養護の実際②【リービングケア・アフターケア】
第7回	社会的養護の動向【施設養護と家庭養育】

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ1時間程度が目安である。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	2025/04/01

成績評価基準と方法	期末レポート50% 演習への取り組み35% 毎回の章レポート15%
テキスト	『児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ』吉田真理編著 萌文書林
参考文献	必要に応じて適宜提示する。

年度	2025
講義名称	社会的養護Ⅱ [幼教②/2]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82472

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では保育士としての倫理や責務をあらためて確認し、社会的養護の特性を踏まえた具体的ななかかわり技法について学ぶことを目的とする。
到達目標	事例検討を通して、社会的養護を必要とする子どもたちの現状を理解すること。様々な家庭のかたちがあり、保護者支援も保育士の重要な業務であると理解すること。以上の二点が到達目標となる。
授業の進め方	テキストを中心に進めつつ、各回の講義において個人あるいはグループに分かれた演習を行う予定である。主体的な受講姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の時間の中に適宜質疑応答の時間を設ける。
----------------------------	------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション/保育士の倫理と責務
第2回	子どもの健康と成長を守る取り組み
第3回	児童養護の体系と児童福祉施設の概要
第4回	里親制度の現状と課題
第5回	施設養護の実際①【アドミッションケア・インケア】
第6回	施設養護の実際②【リービングケア・アフターケア】
第7回	社会的養護の動向【施設養護と家庭養育】

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ1時間程度が目安である。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	2025/04/01

成績評価基準と方法	期末レポート50% 演習への取り組み35% 毎回の章レポート15%
テキスト	『児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ』吉田真理編著 萌文書林
参考文献	必要に応じて適宜提示する。

年度	2025
講義名称	表現課題演習(応用)
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82582
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 伊藤 柱子	短大・幼児教育保育学科
田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科
小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	学科行事『わくわくフェスティバル』でのミュージカル公演の準備と発表を通して、多様な表現形態や表現方法を実践し、協同して物事を進めるための方法を学ぶ。また、取り組みの中で発見した課題や、立てた計画・目標について振り返る。
到達目標	①保育者となる学生としての視点を持って表現活動に取り組み、表現を通して子どもや人と関わることができる。 ②個人同士やグループ、わくわくフェスティバル全体の中での役割や関わり方を考えながら取り組むことができる。 ③自らの取り組みについて省察することができる。
授業の進め方	学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で担当部署の作業や練習を行い、取り組みの成果発表として学科行事『わくわくフェスティバル』でのミュージカル公演を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図る。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	全体活動（脚本（最終）配布、稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第2回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第3回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第4回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第5回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第6回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第7回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第8回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第9回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第10回	全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
第11回	通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
第12回	通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
第13回	通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）

第14回	通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
第15回	通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
第16回	通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
第17回	ゲネプロ
第18回	わくわくフェスティバル公演本番
第19回	後片付け
第20回	授業内レポート（個人の課題・計画・目標設定の振り返り、作業分担ごとの成果物）、アンケート、履修カルテ記入

事前・事後学修	【具体的な内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み、成果物などの記録やワークシートを作成する。 ・表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集める。 ・制作や練習などの準備は個人、グループでも進める。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み：30%（毎時間の授業記録提出について、到達目標①②③を評価基準とする） ・レポート③、成果物レポート：70%（成果物とうについての内容において、到達目標①②③を評価基準とする）
参考文献	必要に応じてその都度提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	舞台製作や表現活動の実務経験のある教員が、学生の表現活動における取り組みをサポートします。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てる。 ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。 ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。